

2022 年度入試状況分析



私立大分析<最終> (志願者数 545 大学・合格者数 544 大学集計)

※本文中の()内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

Point of Data

①志願状況全体概況

- 延べ志願者数は前年度並
- 一般方式、共通テスト利用方式はともに前年度並

②系統別志願状況・合格状況

- 志願者数は工、法、国際関係、薬などがやや増加、外国語は大幅減少、生活科学、教員養成・教育が減少
- 合格者数は14系統で増加し、競争は緩和

③地区別志願状況・合格状況

- 3大都市圏では近畿は微増、首都圏は前年度並、東海はやや減少

④模試合格判定ライングループ別志願状況・合格状況

- 文理ともにD・Eグループは減少率が高く、一般選抜離れの傾向

⑤模試合格判定ライングループ別実質倍率

- 文系は全グループでダウン
- 理系はA～Dグループで競争緩和、Eグループは実質的には「全入状態」

⑥志願者数が多い大学

- 志願者数5万人以上の大学は13大学、前年度から1大学増加

⑦増減が目立った大学

- 学部新設や新入試方式拡大で目立つ増加

⑧主要私立22大学 入試結果概況

⑨大学別志願状況

⑩医学部医学科志願状況

- 微減だが4年連続減少

※本文中の()内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

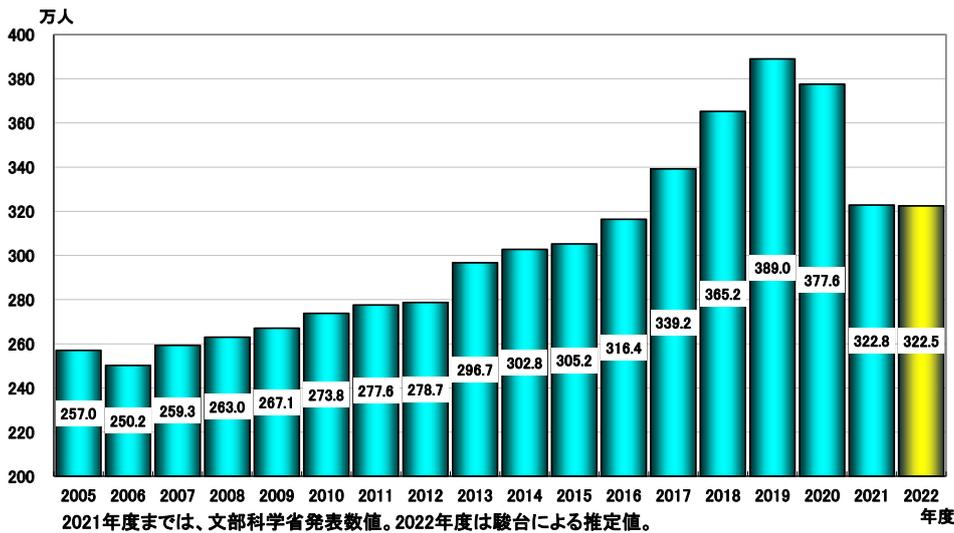
①志願状況全体概況

□延べ志願者数は前年度並

次ページのグラフは、私立大一般選抜の延べ志願者数の推移を表したものです。2021年度までは文部科学省の発表数値、2022年度は駿台で志願者数が確定した募集単位を集計した私立大545大学の一般選抜(学校推薦型選抜・総合型選抜等の特別選抜入試を除く)の延べ志願者数をもとに推定した志願者数です。

駿台が集計した私立大545大学の一般選抜の延べ志願者数は、約323万人(100)で前年度並となりました。この数値から推定される最終的な全私立大の延べ志願者数は、前年度14.5%減少した322.8万人との比較で、ほぼ変わらない323万人前後になると予想されます。志願者数の反動増が起きずに前年度並となる背景には、以下の4点が考えられます。

〔私立大志願者数推移〕



①2021年度入試における、コロナ禍の中での併願校数を絞り込み、長距離移動を避けるという極端な志望動向が継続。

②2022年度入試における共通テスト難化が、2021年度の共通テスト問題を見たことによる安心感を上回り、特に、「事後出願」での共通テスト利用方式への敬遠傾向が増加。

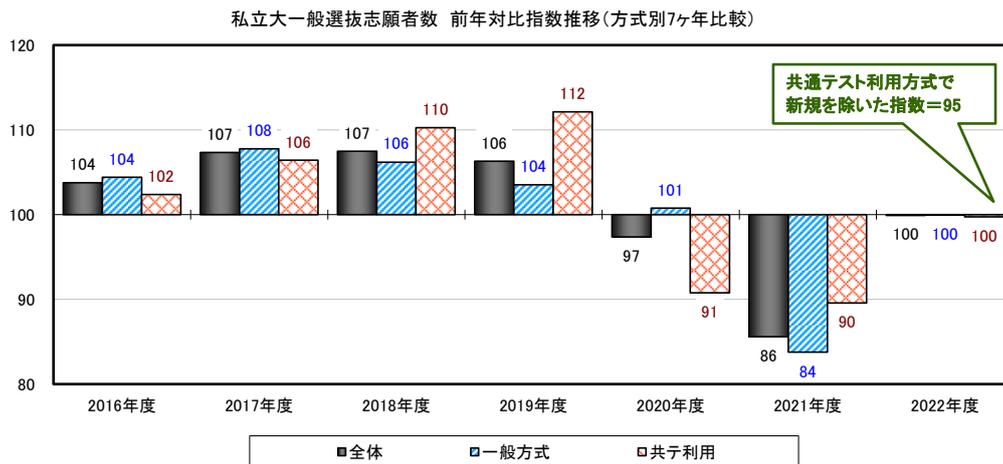
③2021年度入試で青山学院大、上智大、早稲田大の一部の学部等で導入された、新しい共通テスト併用方式が2年目となり

周知されたことで、この新方式への敬遠傾向が緩和されたが限定的。

④中下位大学での一般選抜から総合型選抜などの特別選抜へのシフトの強化。

□一般方式、共通テスト利用方式はともに前年度並

〔私立大一般選抜 方式別志願者数 前年度対比指数〕



左のグラフは、私立大一般選抜の入試方式別の延べ志願者数の前年度対比指数の推移を表したものです。

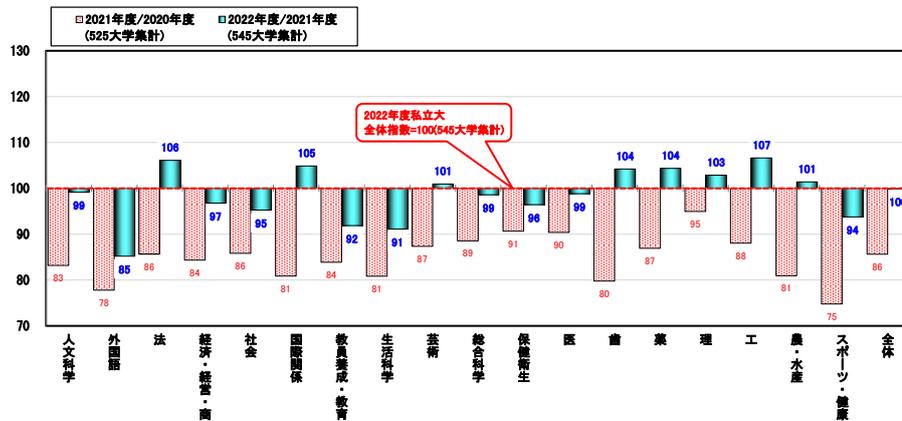
2022年度は、一般方式(100)、共通テスト利用方式(100)はともに前年度並で、大きな差は見られません。ただし、共通テスト利用方式は、グラフにはありませんが新規導入

の募集単位を除くと(95)とやや減少となりました。共通テストの平均点ダウンは「事後出願」に影響したものと思われます。

②系統別志願状況

□志願者数は工、法、国際関係、薬などがやや増加、
外国語は大幅減少、生活科学、教員養成・教育が減少

〔私立大一般選抜 系統別志願状況〕



左のグラフは、私立大一般選抜の系統別の延べ志願者数の前年度対比指数の過去2ヶ年を表したものです。

この系統別では、工(107)、法(106)、国際関係(105)、薬(104)、歯(104)、理(103)がやや増加しました。一方で、外国語(85)は大幅減少、生活科学(91)、教員養成・教育(92)が減少、スポーツ・健康(94)、社会(95)、保健衛生(96)、

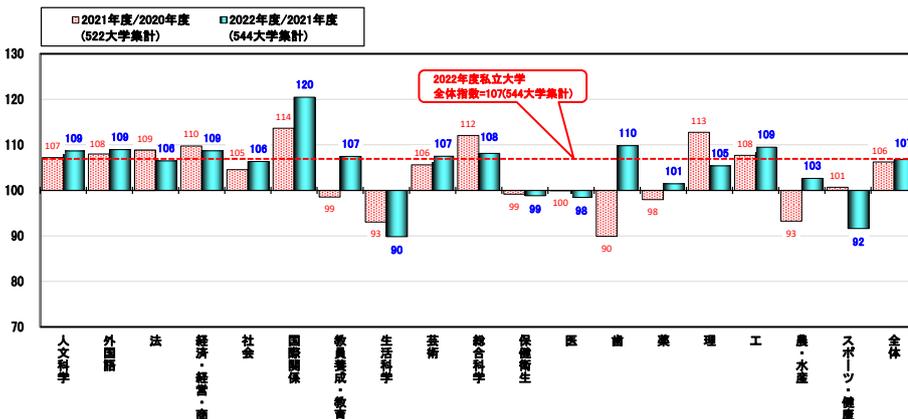
経済・経営・商(97)がやや減少でした。

それぞれの要因は、工は情報系への人気の高まりと実学志向が影響しました。法は青山学院大・法(ヒューマンライツ)の新設に加えて、コロナ禍で経済環境が悪化する中での公務員志向の高まりの影響が想定されます。国際関係はコロナ禍で敬遠される系統ですが、学習院大・国際社会科学<プラス>、武蔵大・国際教養の新設、摂南大・外国語の国際への改組などが要因です。薬はコロナ禍におけるワクチンや治療薬開発の話題が多く報道されたことでこの系統への興味を持つ受験生の増加が影響しました。また、歯や理は前年度の反動の影響です。

一方で、外国語は先に述べた摂南大・外国語の改組に加えて、コロナ禍の影響による海外との交流制限等による勉学や将来への不安、生活科学はこの系統の学部・学科を持つ女子大の志願者数減少、教員養成・教育は教育を取り巻く厳しい環境の影響が見られます。

□合格者数は14系統で増加し、競争は緩和

〔私立大一般選抜 系統別合格状況〕



左のグラフは、私立大一般選抜の系統別の延べ合格者数の前年度対比指数の過去2ヶ年を表したものです。

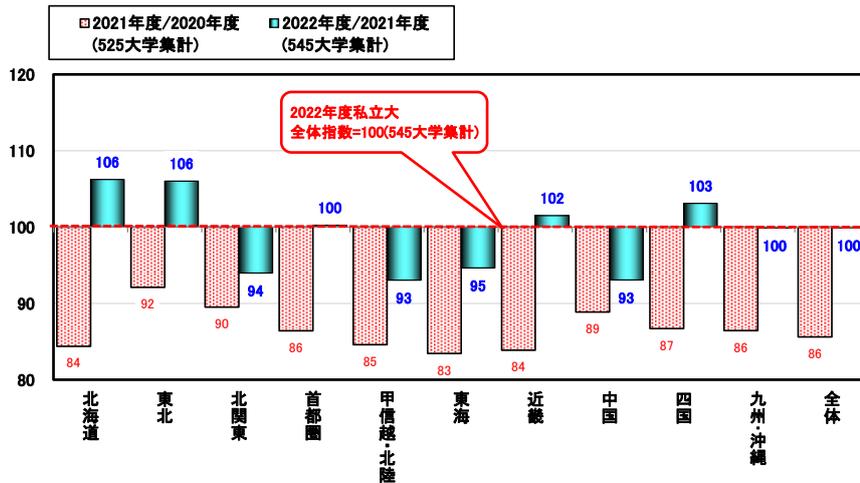
駿台が集計した私立大544大学の合格者数(107)はやや増加しました。系統別でみると、国際関係(120)は大幅増加、工(110)などは増加。国際関係は新設・改組により志願者数が増加しましたが合格者数の増加はそれを上回っており、また外国語はコロナ禍の影響や改組などが要因で志願者数が減少したにもかかわらず合格者数は増加で、いずれも大幅に競争が緩和されました。私立大の中で最も募集人員の多い経済・経営・商(109)、次いで多い工(109)をはじめ、全18系統中14系統で増加しました。

志願者数と合格者数の指数の比較では、まだ発表がない大学のある医学系(志願者指数99、合格者指数98)を除くと、13系統で合格者指数が志願者指数を上回っており、競争の緩和が見られました。「合格者指数-志願者指数」の値が大きいのは、外国語(+23.7)、国際関係(+15.6)、教員養成・教育(+15.6)でこれらの3系統の競争の緩和が大きいといえます。

③地区別志願状況

□3大都市圏では近畿は微増、首都圏は前年度並、東海はやや減少

〔私立大一般選抜 地区別志願状況〕



大学の所在地別の志願状況では、北海道(106)、東北(106)、四国(103)がやや増加しました。一方で、中国(93)、甲信越・北陸(93)、北関東(94)、東海(95)はやや減少しました。

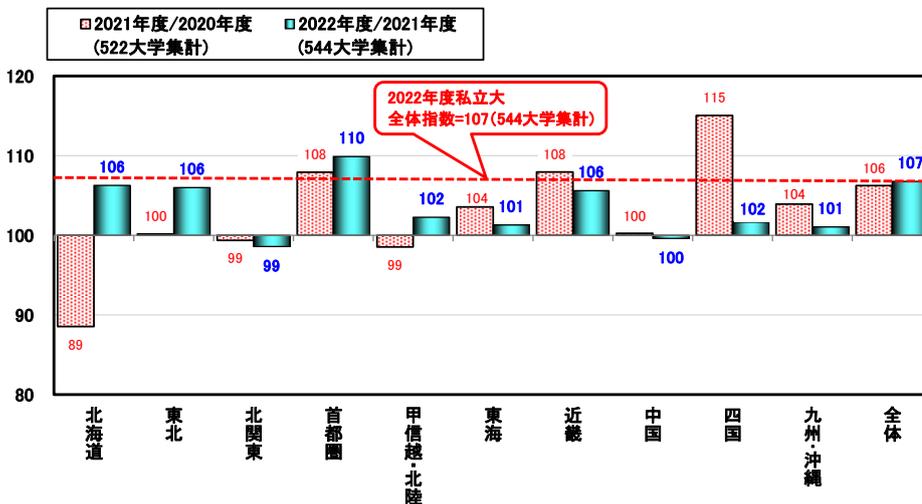
募集人員の多い大規模な総合大学が所在する3大都市圏の動向について見ていきます。近畿(102)は微増、首都圏(100)は前年度並でしたが、東海(95)は志願者数が確定

した中でそれぞれ2,000人を超える減少となっている愛知学院大、名古屋外国語大、常葉大、愛知淑徳大などが影響して地区全体でもやや減少となりました。コロナ禍の中ですが、前年度と比較して首都圏、関西圏の大学への流出が多くなったことが考えられます。

前年度は、コロナ禍で受験生の移動の流れが止まり、いずれの地区でも私立大志願者の減少傾向は同じように表れましたが、上記に述べた東海以外に北関東、甲信越・北陸、中国など新幹線沿線で首都圏や近畿の2大都市圏への交通の利便がいい地域の受験生の移動に復活の兆しが見えます。

□北関東、中国を除く地区で増加

〔私立大一般選抜 地区別合格状況〕



左のグラフは、私立大一般選抜の地区別の延べ合格者数の前年度対比指数の過去2ヶ年を表したものです。

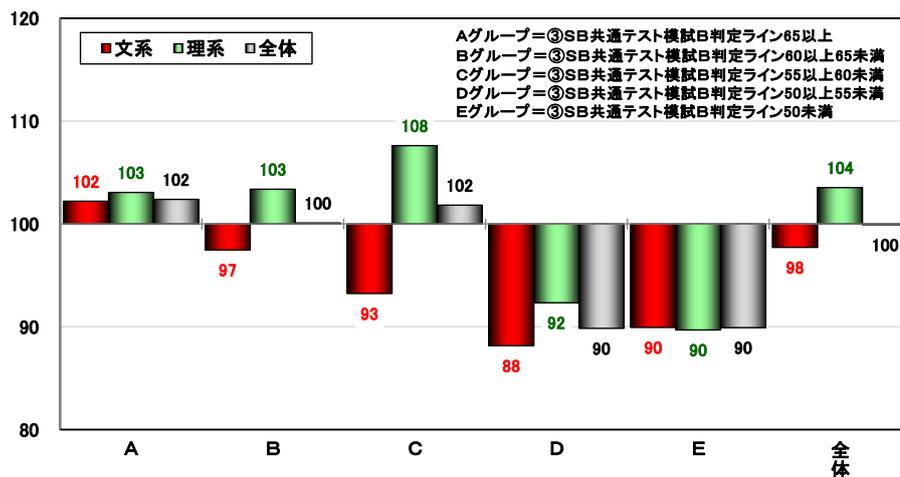
地区別の合格状況では、首都圏(110)のみが全国増加率を上回りました。その他の地区も北関東(99)、中国(100)を除き増加しました。

系統別と同じように、「合格者指数-志願者指数」の値を見ると、

首都圏(+9.7)、甲信越・北陸(+9.2)で大きく競争が緩和しました。一方で、四国(-1.4)は減少でわずかですが競争が厳しくなりました。

④模試合格判定ライングループ別志願状況

□文理ともにD・Eグループは減少率が高く、一般選抜離れの傾向



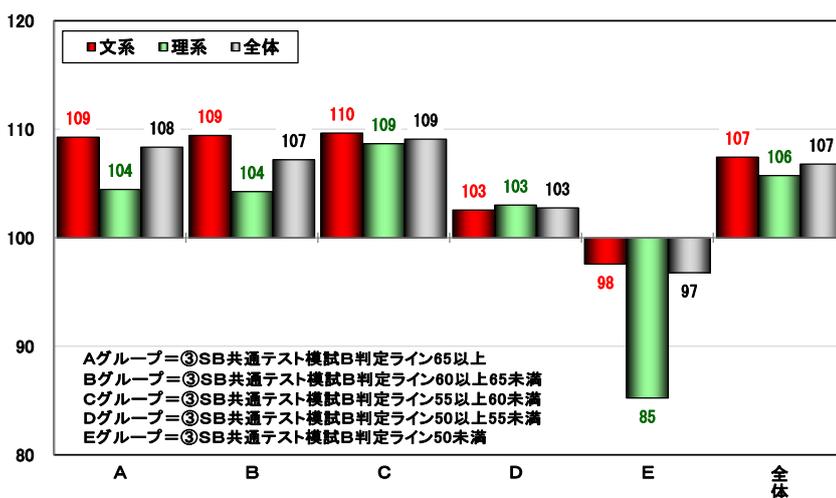
左のグラフは、私立大 545 大学の一般選抜入試の志願者数集計において、2021 年度第 3 回駿台・ベネッセ共通テスト模試の合格判定ライン(B判定ライン)を基にして、学部単位(医学科は別集計)で5つのグループ(上位Aグループ~下位Eグループ)に分類し、各グループの志願者数合計の前年度対比指数を示したものです。

文理別では、文系(98)は前年度並、理系(104)はやや増加でしたが、文理ともにB判定ラインが低いDグループ・Eグループの減少率が大きくなりました。

グループ別では、文系では、Aグループ(102)のみが微増でしたが、他の4つのグループはいずれも減少でBグループ(97)からDグループ(88)、Eグループ(90)に向かって減少率が大きくなりました。特に、Dグループ・Eグループに含まれる大学では入学定員全体に対する特別選抜(総合型選抜、学校推薦型選抜)の募集人員の割合が高く、一般選抜で入学をめざす受験生が減少していることが分かります。

一方で、理系では、Cグループ(108)は増加、Aグループ(103)、Bグループ(103)はやや増加でしたが、Dグループ(92)、Eグループ(90)は減少でした。共通テストの平均点ダウンの影響は理系の方が大きかったことから、国公立大併願者を中心に難関大を避けてCグループに出願先を求めた状況が見られます。また、文系同様にDグループ、Eグループでは特別選抜主体の学生募集となっていることから一般選抜で入学をめざす受験生が減少していることが分かります。

□合格者数は文理とも増加だが、Eグループでは文理とも減少、競争は緩和



左のグラフは、私立大 544 大学の一般選抜の合格者数集計において、2021 年度第 3 回駿台・ベネッセ共通テスト模試の合格判定ライン(B判定ライン)を基にして、学部単位(医学科は別集計)で5つのグループ(上位Aグループ~下位Eグループ)に分類し、各グループの合格者数合計の前年度対比指数を示したものです。

文理別では、文系(107)、理系(106)といずれもやや増加しました。

グループ別では、文理ともにA~Dグループで増加し、Eグループは文系が微減、理系が大幅減少でした。

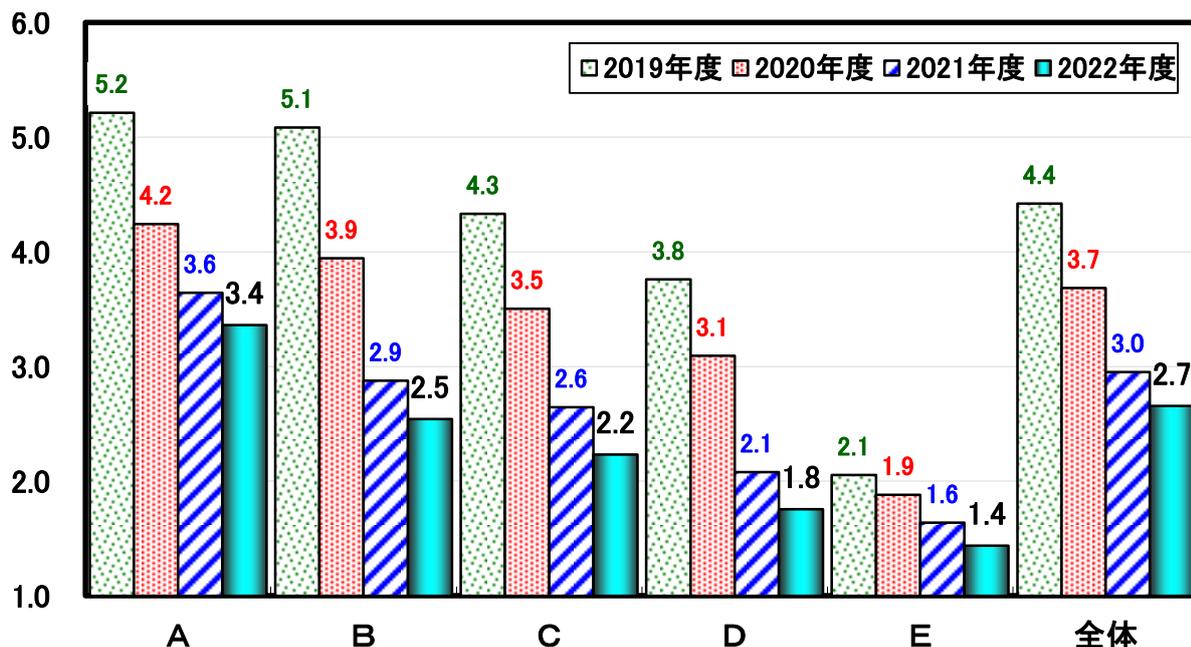
文系はA、Bの2つのグループでいずれも9%増加、Cグループで10%増加していて、逆に志願者数はAグループ以外で減少しているため、競争が緩和していることがわかります。一方で、微減のEグループ(98)も志願者数の減少が大きいため、競争が緩和しています。

理系は、A、Bの2つのグループはいずれも4%のやや増加、Cグループは9%増加でしたが、志願者数の増加とほぼ同じ割合で前年度並の競争となりました。Dグループ(103)はやや増加でしたが、志願者数は減少しているため競争が緩和しています。Eグループ(85)は大幅減少で志願者数の指数以上に減少しました。特別選抜主体の学生募集となっていることから、一般選抜での合格者数の割増しが少なく、競争が厳しくなっています。

なお、理系のAグループ(104)は、医で合格者数未発表の大学があるため、今後状況が変わる可能性があります。

⑤模試合格判定ライングループ別実質倍率

□文系は全グループでダウン



※2022年度基準で2022年度・2021年度を分類
2020年度は2021年度基準、2019年度は2020年度基準

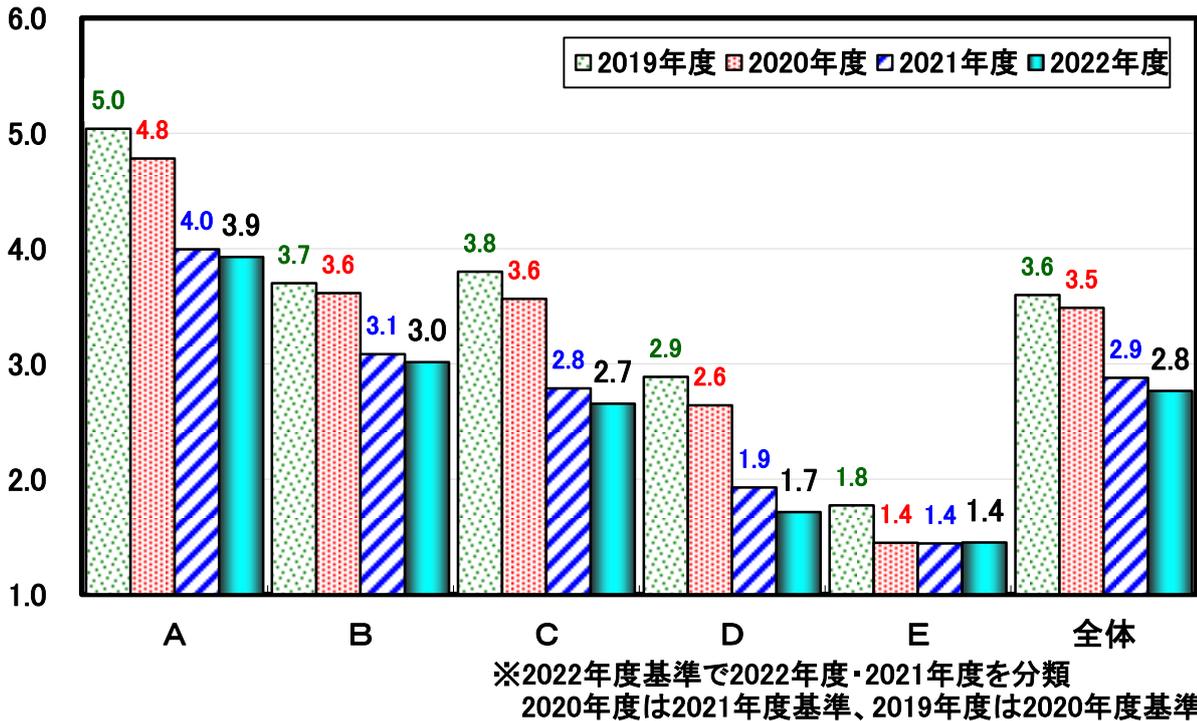
Aグループ=③SB共通テスト模試判定B判定ライン65以上
Bグループ=③SB共通テスト模試判定B判定ライン60以上65未満
Cグループ=③SB共通テスト模試判定B判定ライン55以上60未満
Dグループ=③SB共通テスト模試判定B判定ライン50以上55未満
Eグループ=③SB共通テスト模試判定B判定ライン50未満

受験者数、合格者数のいずれも判明している募集区分について、学部単位(一般方式と共通テスト利用方式は分ける)で算出した実質倍率を、第3回駿台・ベネッセ共通テスト模試の合格判定ライン(B判定ライン)を基にして、学部単位で5つのグループ(上位Aグループ~下位Eグループ)に分類して3か年分を示したのが上のグラフです。

文系は、全体では3.0倍から2.7倍と0.3ポイントダウンしており、競争ははっきりと緩和しました。グループ別では、A~Eグループ全てでダウンしており競争が緩和しています。特に難関レベルのBグループは、3年間で5.1倍から2.5倍と2.6ポイントダウンしており、文系で最も競争が緩和しているのがわかります。一方で、Eグループは2.1倍から1.4倍と0.7ポイントダウンに留まっていますが、Dグループ・Eグループとも2.0倍を下回りました。

2022年度入試では、コロナ禍での先行不安の継続、経済状況の悪化などから、受験生が自分の実力にあった学校を絞り込んで受験することによる全グループでの競争緩和がうかがえます。

□理系はA～Dグループで競争緩和、Eグループは実質的には「全入状態」



- Aグループ＝③SB共通テスト模試判定B判定ライン65以上
 Bグループ＝③SB共通テスト模試判定B判定ライン60以上65未満
 Cグループ＝③SB共通テスト模試判定B判定ライン55以上60未満
 Dグループ＝③SB共通テスト模試判定B判定ライン50以上55未満
 Eグループ＝③SB共通テスト模試判定B判定ライン50未満

理系は、全体では2.9倍から2.8倍と0.1ポイントダウンと、文系よりややダウン幅は小さいものの、競争は緩和しました。

グループ別では、A～Dグループがダウンしていますが、A～Cグループはいずれも前年度比0.1ポイントダウンと文系よりダウンは小さくなっています。一方で、Eグループのみ3年連続1.4倍という低い数値で、実質的には競争がほぼ無い「全入状態」だったことがわかります。

なお、Aグループは、医で補欠合格者数を発表していない大学があり、今後状況が変わる可能性があります。

⑥志願者数が多い大学

□志願者数5万人以上の大学は13大学、前年度から1大学増加

順位	大学	志願者数		増減数	志願者指数
		2022年度	2021年度		
1	近畿大	157,171	135,830	+21,341	116
2	千葉工業大	139,074	108,707	+30,367	128
3	法政大	108,343	90,956	+17,387	119
4	明治大	102,426	99,470	+2,956	103
5	東洋大	98,276	89,808	+8,468	109
6	早稲田大	93,843	91,659	+2,184	102
7	日本大	93,770	97,948	-4,178	96
8	立命館大	88,335	83,512	+4,823	106
9	関西大	79,394	79,510	-116	100
10	中央大	64,795	78,534	-13,739	83
11	立教大	62,646	65,475	-2,829	96
12	龍谷大	55,880	56,379	-499	99
13	東京理科大	53,752	49,301	+4,451	109
14	青山学院大	47,839	40,123	+7,716	119
15	専修大	46,547	47,381	-834	98
16	同志社大	45,854	44,481	+1,373	103
17	東海大	45,826	44,316	+1,510	103
18	福岡大	44,719	44,072	+647	101

左表は、私立大545大学の一般選抜の志願者数集計において、大学全体の志願者数が4万人以上の大学をまとめたものです。この中で2022年度の志願者数が5万人以上の大学は13大学で、前年度と比較すると1大学増加しました。13大学中8大学で志願者数が増加しましたが、千葉工業大を除く7大学は前年度志願者数が減少しており、その反動も影響しました。

10万人以上だった大学は4大学で、前年度の2大学から2大学増加しました。近畿大(116)は新設の情報が1万2千人以上の志願者数となったほか、工<共テ併用・後期>の新設などもあって既存学部のみでも約7%増加しており、志願者数は15万人を上回り、9年連続で全国最多となりました。千葉工業大(128)は、理・工系人気の上昇に加え、2021年度入試でコロナ禍における経済環境の悪化への対策として実施した共通テスト利用方式の受験料の全額免除を2022年度入試でも継続し、さらに新規実施の<一般・S A日

程>が約1万4千人の志願者数となったことで、大学全体の志願者数は3年連続で10万人を上回りました。法政大(119)は、前年度併願校数の絞り込みの影響で志願者数が減少しましたが、共通テストの平均点ダウンによって不安を持った受験生が一般方式への駆け込み出願をしたこともあって大幅増加しました。明治大(103)は、やや増加に留まりましたが4年ぶりに増加しました。青山学院大(119)は、2021年度入試では共通テスト併用方式導入を中心とした大きな入試改革が敬遠されたことで志願者数が大きく減少しましたが、今年度は受験生への周知が進み大幅増加しました。しかし、前年度31%減少の回復には至らず、志願者数は5万人に届きませんでした。中央大(83)は、入学検定料の特例措置を廃止したことで、特に影響を受けた共通テスト利用方式の志願者数が減少し、大学全体の志願者数も大幅減少しました。

⑦増減が目立った大学

□学部新設や新入試方式拡大で目立つ増加

私立大 545 大学の一般選抜の志願者数集計において、志願者数の増加数、減少数がそれぞれ 3,000 人以上の大学について見ていきます。

増加した大学では、増加数が最も多かったのは千葉工業大の 30,367 人(128)、次いで近畿大の 21,341 人(116)、法政大が 17,387 人(119)で、1 万人以上の増加は 3 大学でした。3,000 人以上の増加まで含めると 13 大学で前年度 3 大学から 10 大学に増えました。千葉工業大は、理・工系への堅調な人気に支えられる中で、前年度に引き続き 2022 年度入試でもコロナ禍による経済環境の悪化への対策として共通テスト利用方式の受験料を全額免除にし、共通テスト利用方式(149)は全ての学部で 2 年連続大幅増加しました。さらに新規実施の共通テスト併用の〈S A 日程〉が約 1 万 4 千人の志願者数となったことで、大学全体の志願者数は 3 万人以上の増加となりました。近畿大は新設の情報で志願者数が 1 万 2 千人以上となり、理系 9 学部合計(121)が大幅増加、法政大は共通テストの平均点ダウンで一般方式への駆け込み出願があったことで、一般方式(121)が大幅増加しました。東洋大(109)は英語外部試験の利用を拡大した共通テスト利用方式が 11,299 人(134)の大幅増加でした。麗澤大(244)はコロナ禍への対応として、一般方式は 2 出願目からの入学検定料を無料に、共通テスト利用方式はすべての入学検定料を無料にしたことで、一般方式、共通テスト利用方式いずれも大幅増加し、特に共通テスト利用方式(324)は 3 倍以上の激増となりました。大阪経済法科大(234)は、創立 50 周年事業の一環として入学検定料を一律 1 万円、併願検定料を無料としたことで倍増以上の大幅増加となりました。関西学院大(115)は、一般方式の全学部日程において 14 学部全てで 2 日間の入試実施や、共通テスト利用方式で新規方式を実施したことで大幅増加しました。また、東北学院大(132)も、全学部型 A 日程、B 日程でそれぞれ最大 3 学科まで併願可能になったこと、併願の入学検定料も 5 割近い減額をしたことで大幅増加しました。このように、2022 年度入試もコロナ禍への不安が長引く中、受験生目線で受験機会を増やしたり、検定料負担の軽減を図った大学での増加が目立ちました。神奈川大(124)は、前年度コロナ禍への対応として 2 月に実施した〈給費生〉を 12 月実施に戻した影響が大きく大幅増加しました。名城大(110)は新設の情報工で志願者数 4,000 人以上となったほか、一般方式の新規方式実施で増加しました。青山学院大(119)、立命館大(106)、東京理科大(109)は前年度減少の反動が見られました。

減少している大学では、減少数が最も多かったのは中央大の 13,739 人(83)、次いで明星大の 7,299 人(65)、摂南大の 5,217 人(79)で、5,000 人以上の減少は前年度の 26 大学からわずか 3 大学に減少し、3,000 人以上の減少まで含めても 11 大学に留まりました。中央大は共通テスト利用方式や英語外部試験利用方式で入学検定料を値上げしたことが、コロナ禍の中で景気回復が見通せない中では大きく影響し、この方式の志願者数は 13,334 人(60)の大幅減少となりました。明星大(65)は、入試方式が減ったことによる併願数の減少が影響し、一般方式(67)、共通テスト利用方式(63)ともに大幅減少となりました。摂南大は、共通テスト利用方式における併願時の入学検定料が、出願件数ごとに加算されることになった影響で、共通テスト利用方式は 3,924 人(58)の大幅減少となりました。

〔3,000人以上増加した大学〕

大学	志願者数増減		志願者数		コメント
	増減数	指数	2022年度	2021年度	
千葉工業大	+30,367	128	139,074	108,707	前年度に引き続きコロナ禍における経済環境悪化への対策として、受験料を全額免除にした共通テスト利用方式(149)が大幅増加。一般方式(107)はやや増加。志願者数は3年連続10万人を上回った。
近畿大	+21,341	116	157,171	135,830	大学全体(116)では4年ぶりの増加。新設の情報で志願者数1万2千人以上となり、理系9学部合計(121)の大幅増加、文系6学部(111)も増加で、志願者数は15万人を上回り、9年連続全国最多となった。
法政大	+17,387	119	108,343	90,956	共通テストの難化による平均点ダウンで一般方式への駆け込み出願があったことで一般方式(121)は大幅増加、共通テスト利用方式(114)も増加。学部別では、15学部中12学部で増加。
東洋大	+8,468	109	98,276	89,808	共通テスト利用方式(134)は、前期の全ての学部で英語外部試験の利用が可能になり、大幅増加。一般方式(95)はやや減少。出願締め切り近くに出願者数を伸ばしたが、10万人には届かなかった。
青山学院大	+7,716	119	47,839	40,123	前年度共通テスト併用方式導入を中心とした大きな入試変更への敬遠から志願者数は大きく減少したが、これに対する反動が見られた。一般方式(123)、共通テスト利用方式(116)といずれも大幅増加。
麗澤大	+6,579	244	11,150	4,571	前年度の大幅減少の反動に加え、コロナ禍への対応として一般方式(137)は2出願目からの入学検定料を無料としたことで大幅増加、共通テスト利用方式(324)はすべての入学検定料を無料にしたことで3倍以上の激増。
大阪経済法科大	+6,502	234	11,365	4,863	創立50周年事業の一環として、2022年度の全ての入試の入学検定料を一律1万円、併願検定料は無料とした影響で、一般方式(238)、共通テスト利用方式(226)ともに倍増以上の大幅増加。
神奈川大	+5,774	124	30,025	24,251	一般方式(140)が大幅増加、前年度コロナ化対策で2月に実施した〈給費生〉を元の12月実施に戻した影響が大きかった。新設の建築を除いた8学部中7学部で増加。学部改組で旧(建築)が学部へ移行した工(101)は、旧(建築)を除くと(124)の大幅増加。
関西学院大	+5,120	115	38,737	33,617	一般方式(114)は全学部日程で入試機会の増加により増加、共通テスト利用方式(118)は新規方式実施の影響で、大幅増加。国際(97)はやや減少で5年連続減少だが、その他の13学部は増加。
立命館大	+4,823	106	88,335	83,512	一般方式(107)、共通テスト利用方式(103)のいずれもやや増加だが、志願者数は2年連続で9万人を下回った。15学部中11学部で増加、特に薬(154)は5割以上の大幅増加。
東京理科大	+4,451	109	53,752	49,301	理工系への人気の高まりの中で、大学全体(109)では3年ぶりの増加。前年度唯一増加の先進工(79)は大幅減少だが、その他の6学部が増加、方式別でも4方式すべて増加と、前年度と対照的。
名城大	+3,669	110	39,496	35,827	新設の情報工が志願者数4,000人以上となり、大学全体(110)では増加だが、情報工を除くと(98)のやや減少。一般方式(115)は傾斜配点型K方式の新規実施で大幅増加。
東北学院大	+3,119	132	13,010	9,891	一般方式(145)は、2年連続減少の反動に加え全学部型A、B日程でそれぞれ最大3学科まで併願が可能になったことと併願の入学検定料減額の影響が大きく大幅増加。共通テスト利用方式(109)は増加で2年連続増加。

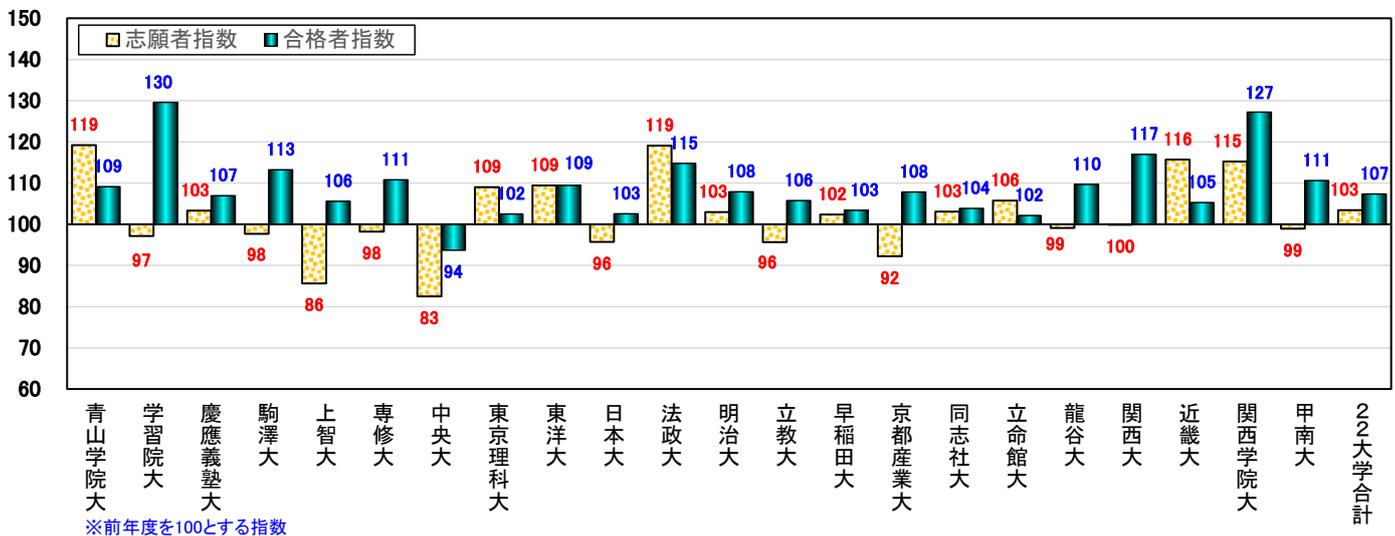
〔3,000人以上減少した大学〕

大学	志願者数増減		志願者数		コメント
	増減数	指数	2022年度	2021年度	
中央大	-13,739	83	64,795	78,534	入学検定料の特例措置を廃止したことで、特に影響を受けた共通テスト利用方式(60)が大幅減少、一般方式(99)は微減。
明星大	-7,299	65	13,719	21,018	一般方式(67)、共通テスト利用方式(63)のいずれも減少率30%以上の大幅減少。一般方式は入試方式削減の影響、共通テスト利用方式は共通テスト受験後の出願が可能なることから平均点ダウンの影響を受けた。
摂南大	-5,217	79	20,075	25,292	共通テスト利用方式における併願時の入学検定料が、出願件数ごとに加算されることになり、共通テスト利用方式(58)は大幅減少。農(66)は、30%以上の大幅減少で2020年度新設以降大幅減少が続いている。
武蔵野大	-4,423	87	30,136	34,559	一般方式(83)は大幅減少、共通テスト利用方式(94)はやや減少。文(111)のみ増加、その他の11学科は減少。特に新設2年目のアントレプレナーシップ(70)は大幅減少。
日本大	-4,178	96	93,770	97,948	大学全体(96)ではやや減少で、志願者数は2年連続10万人を下回った。松戸歯(145)、歯(130)は〈N2期〉方式の新規実施と、2年連続減少の反動で大幅増加。
東京都市大	-3,820	86	23,276	27,096	一般方式(104)はやや増加だが、共通テスト利用方式(67)の大幅減少が影響し、大学全体(86)は2年連続減少。
上智大	-3,767	86	22,503	26,270	前年度から一般方式を〈TEAP〉のみに変更したが、〈TEAP〉(95)で2年連続やや減少。実施2年目の共通テスト利用方式(83)は大幅減少。
大東文化大	-3,473	84	18,933	22,406	大学全体(84)では4年連続減少。一般方式(86)は減少、共通テスト利用方式(83)は大幅減少。〈共テ・前期〉(68)は大幅減少だが、入試区分変更で募集人員も103人(68)減少したため志願倍率は24.0→23.8倍で競争はほぼ同じ。
関東学院大	-3,287	80	12,862	16,149	共通テスト利用方式(77)、一般方式(81)のいずれも大幅減少。共通テストの難化で事後出願への敬遠傾向が影響。
京都産業大	-3,190	92	37,735	40,925	大学全体(92)では減少で、2年連続減少。志願者数は4万人を下回った。外国語(76)は、コロナ禍による系統への低人気が影響し2年連続大幅減少。
桜美林大	-3,032	81	12,651	15,683	大学全体(81)では大幅減少で3年連続減少。一般方式(77)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、共通テスト利用方式(91)は減少で3年連続減少。芸術文化(103)はやや増加で6学部中唯一の増加。

⑧主要私立22大学 志願状況概況

大学	2022年度		2021年度		増減数		志願者指数		合格者指数	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	2022年度/2021年度	2021年度/2020年度	2022年度/2021年度	2021年度/2020年度
青山学院大	47,839	10,787	40,123	9,884	+7,716	+903	119	69	109	120
学習院大	16,621	4,911	17,108	3,790	-487	+1,121	97	101	130	104
慶應義塾大	37,894	9,975	36,681	9,327	+1,213	+648	103	95	107	109
駒澤大	29,201	10,339	29,902	9,130	-701	+1,209	98	104	113	112
上智大	22,503	7,153	26,270	6,776	-3,767	+377	86	100	106	124
専修大	46,547	15,119	47,381	13,650	-834	+1,469	98	93	111	118
中央大	64,795	18,585	78,534	19,829	-13,739	-1,244	83	91	94	116
東京理科大	53,752	16,990	49,301	16,579	+4,451	+411	109	87	102	105
東洋大	98,276	30,341	89,808	27,731	+8,468	+2,610	109	88	109	103
日本大	93,770	36,648	97,948	35,737	-4,178	+911	96	86	103	105
法政大	108,343	22,986	90,956	20,033	+17,387	+2,953	119	88	115	108
明治大	102,426	26,688	99,470	24,732	+2,956	+1,956	103	97	108	111
立教大	62,646	15,501	65,475	14,659	-2,829	+842	96	107	106	121
早稲田大	93,843	15,021	91,659	14,532	+2,184	+489	102	88	103	100
京都産業大	37,735	12,227	40,925	11,340	-3,190	+887	92	73	108	115
同志社大	45,854	16,412	44,481	15,804	+1,373	+608	103	89	104	103
立命館大	88,335	32,627	83,512	31,943	+4,823	+684	106	81	102	103
龍谷大	55,880	19,553	56,379	17,835	-499	+1,718	99	106	110	141
関西大	79,394	22,011	79,510	18,815	-116	+3,196	100	91	117	116
近畿大	157,171	39,464	135,830	37,484	+21,341	+1,980	116	93	105	110
関西学院大	38,737	15,829	33,617	12,444	+5,120	+3,385	115	101	127	149
甲南大	14,662	5,711	14,823	5,163	-161	+548	99	78	111	114
22大学合計	1,396,224	404,878	1,349,693	377,217	+46,531	+27,661	103	90	107	111

◇指数は、いずれも前年度を100とする数値を表す。



上のグラフと表は、2022年度入試における主要私立22大学の大学別入試結果をまとめたものです。

□志願者数の増減は11大学ずつに分かれる

志願者数が、前年度より増加しているのは、青山学院大(119)、法政大(119)、近畿大(116)、関西学院大(115)が大幅増加、東洋大(109)、東京理科大(109)が増加、立命館大(106)、慶應義塾大(103)、明治大(103)、同志社大(103)がやや増加となりました。

一方で、中央大(83)は大幅減少、上智大(86)、京都産業大(92)は減少、立教大(96)、日本大(96)、学習院大(97)がやや減少となりました。なお、22大学中の増減は11大学ずつと同じ大学数となりました。

以下に、増減が目立った大学について、その要因を探ってみます。青山学院大は前年度に共通テスト併用方式導入を中心とした大きな入試改革を行いました。コロナ禍の中で受験生にあまり理解されずに敬遠され

たことで志願者数が大きく減少しましたが、今年度は受験生への周知が進んだことで大幅に増加しました。しかし、前年度の31%減少の回復には至らず、新しい入試方式が学力の低い層には敬遠されているようです。法政大は前年度併願校数の絞り込みの影響で志願者数が減少しましたが、共通テストの平均点ダウンによって不安を持った受験生が一般方式への駆け込み出願をしたこともあって増加し、志願者数は10万人を上回りました。近畿大は新設の情報が1万2千人以上の志願者数となったほか、既存学部のみでも7%増加で、特に3年連続減少していた一般方式の増加が目立ち、志願者数は15万人を上回り、9年連続で全国最多の志願者数となりました。

一方で、中央大は一般方式では前年度並でしたが、共通テスト利用方式や英語外部試験利用方式で入学検定料の値上げや併願に伴う特例措置の変更による負担増の影響で、志願者数が減少しました。上智大は実施2年目となった共通テスト利用方式が大幅減少しました。京都産業大は系統への人気が低い外国語の20%以上の大幅減少が影響しました。

方式別では、一般方式(105)のやや増加に対して、共通テスト利用方式(101)は前年度並です。私立大全体(545大学集計)では一般方式(100)、共通テスト利用方式(100)と前年度と変わらないので、主要私立22大学では一般方式の志願者数が多くなりました。これは、共通テストの平均点ダウンにより国公立大併願者が多い主要私立22大学の一般方式への出願が増加している影響です。

なお、主要私立22大学で志願者数が10万人を上回っているのは、近畿大、法政大、明治大の3大学のみでした。東洋大も出願締め切り近くに志願者数を伸ばしましたが、早稲田大を上回ったもののわずかに10万人に届きませんでした。

□合格者数は中央大を除く全ての大学で増加

合格者数は、中央大を除く全ての大学で増加し、主要私立22大学合計(107)で4年連続増加となりました。しかし、合格者数が2千人以上増加した大学が前年度の8大学から4大学に、15%以上の大幅増加だった大学は、前年度の9大学から4大学にそれぞれ減少しました。

大学別では、学習院大(130)が1,121人、関西学院大(127)が3,385人といずれも25%以上の大幅増加でした。前年度5千人を上回る合格者を発表した龍谷大(110)は、今年度も1,718人の増加でした。一方で、「入学検定料の特例措置」を廃止した中央大(94)は、主要私立22大学で唯一合格者数を絞り込み1,244人の減少でした。

「合格者指数-志願者指数」の数値で見ると、前年度+50ポイントと最も数値が大きかった青山学院大は-10ポイント、近畿大も-10ポイントでした。一方で、前年度+3ポイントで最も数値が小さかった学習院大が+32ポイントで最も数値が大きく、次いで上智大が+20ポイントと大きく、競争が緩和されました。

なお、今年度はコロナ禍対応として追試験等の実施が文部科学省から通達されたため、合格発表が遅くなる大学が多かったです。

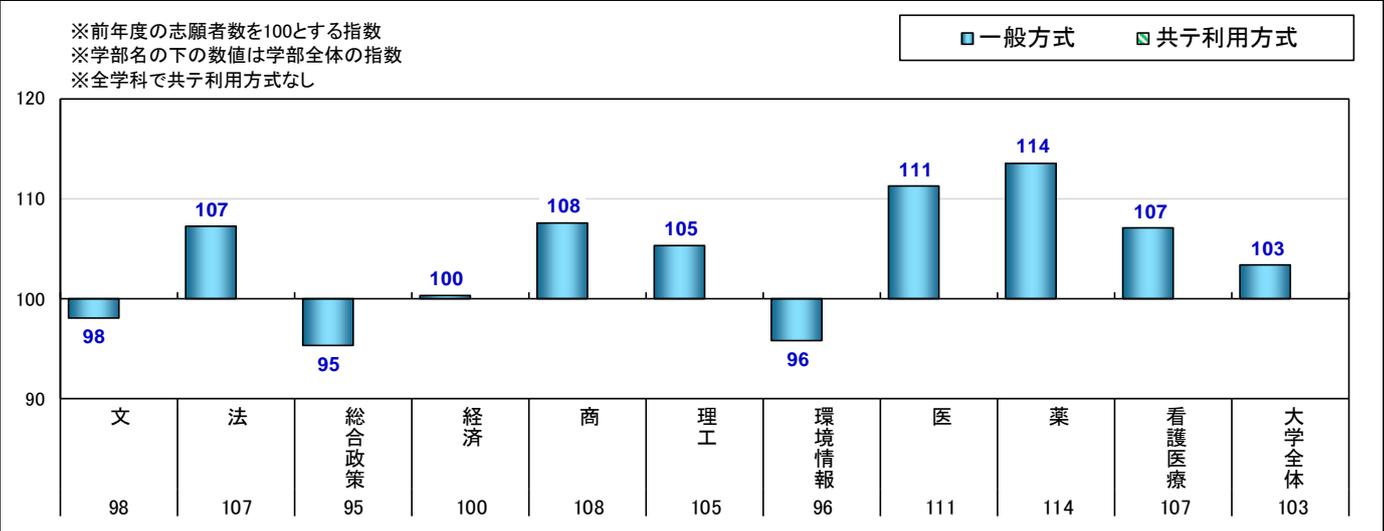
⑨大学別志願状況

※入試変更点があった学部・学科、増減が目立った学部・学科を中心に分析しています。

※各大学名の一番右にある人数は、一般方式、共通テスト利用方式の各合計での志願者増減数を表しています。

※〈 〉内は入試方式を表しています。〈共テ〉と表記されている方式は共通テスト利用方式を表しています。

慶應義塾大：大学全体ではやや増加で、5年ぶりの増加 一般：+1,213人



主な入試変更点 入試科目：法…外：英 or 独 or 仏→外：英 ※外の選択から独、仏を除外

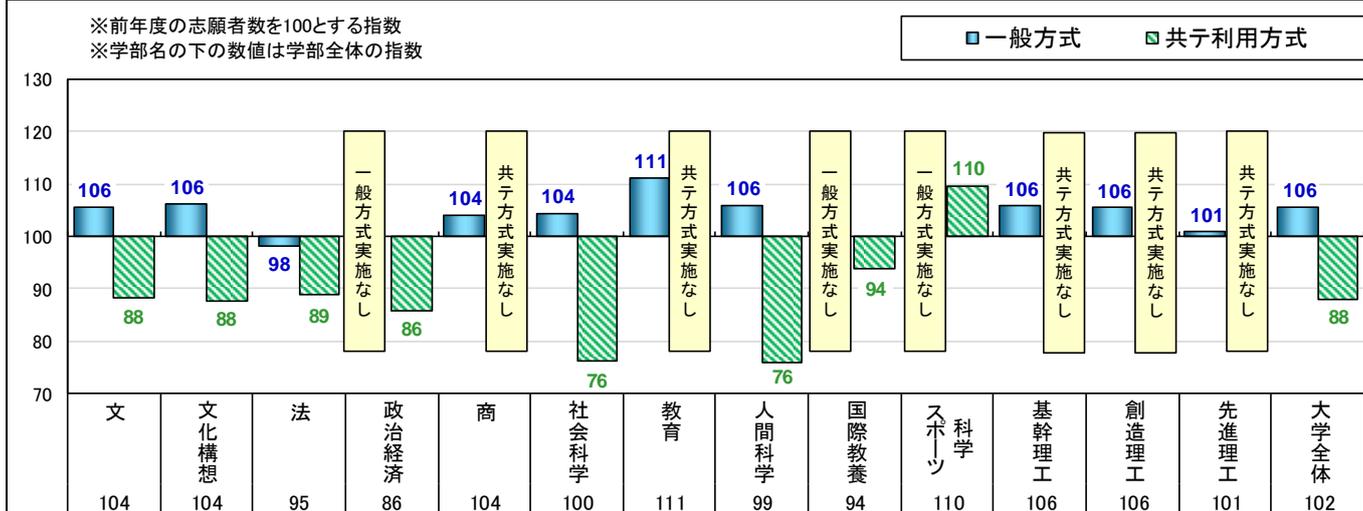
COMMENT ※〈 〉内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、1,213人(103)のやや増加で5年ぶりの増加。4年連続減少の反動と共通テスト難化による国公立大からの併願者の増加も影響。学部別では文、総合政策、環境情報を除く7学部で増加。

〈一般方式〉

- 文(98)は、微減だが5年連続減少。
- 法(107)は、やや増加で5年ぶりの増加。学科別では、(法律)(116)は系統への高い人気から大幅増加で2年連続増加、(政治)(97)はやや減少で2年連続減少。
- 総合政策(95)は、やや減少で5年連続減少。
- 経済(100)は、微増だが6年ぶりの増加。方式別では、〈A方式〉(100)は2年連続減少の反動はなく前年度並、〈B方式〉(100)も前年度並。
- 商(108)は、前年度の微増に引き続き2年連続増加。方式別では、〈A方式〉(110)は2年連続減少の反動で増加、一方で〈B方式〉(104)はやや増加で2年連続増加。
- 理工(105)は、やや増加で8年ぶりの増加。学門別では、全ての学門が増加で、学門A(101)は微増、学門E(104)、学門C(105)はやや増加、学門B(109)、学門D(109)は増加。
- 環境情報(95)は、やや減少で3年連続減少。
- 医(111)は、2年連続約1割前後の減少の反動で増加、志願者数は2年ぶりに1,300人を上回った。
- 薬(114)は、8年ぶりに増加。学科別では、6年制の(薬)(118)は大幅増加で8年ぶりの増加。4年制の(薬科学)(106)はやや増加で2年ぶりの増加。
- 看護医療(107)は、やや増加で2年連続増加。

早稲田大：大学全体では4年ぶりの増加も10万人に届かず 一般：4,227人 共テ：-2,043人



主な入試変更点 募集人員：文…〈一般〉390人→340人
文化構想…〈一般〉430人→370人
配点変更：人間科学〈共テ・数学選抜〉…〈2次〉数〈560〉→〈360〉

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、2,184人(102)の微増だが4年ぶりの増加、ただし志願者数は2年連続で10万人を下回った。方式別では、一般方式(106)は、前年度に政治経済、国際教養、スポーツ科学が共通テスト利用方式のみに変更したが、この3学部を除いた集計で3年連続減少だった反動でやや増加。これに加えて、共通テスト難化による国公立大からの併願者増加も影響。共通テスト利用方式(88)は、前年度に先に述べた3学部がすべての募集単位を共通テスト利用方式に変更したことで増加した反動と出願締切日が1/20(木)で事後出願可能なことから共通テスト難化の影響も加わって減少。スポーツ科学を除く7学部が減少、特に社会科学(76)、人間科学(75)の2学部が大幅減少。

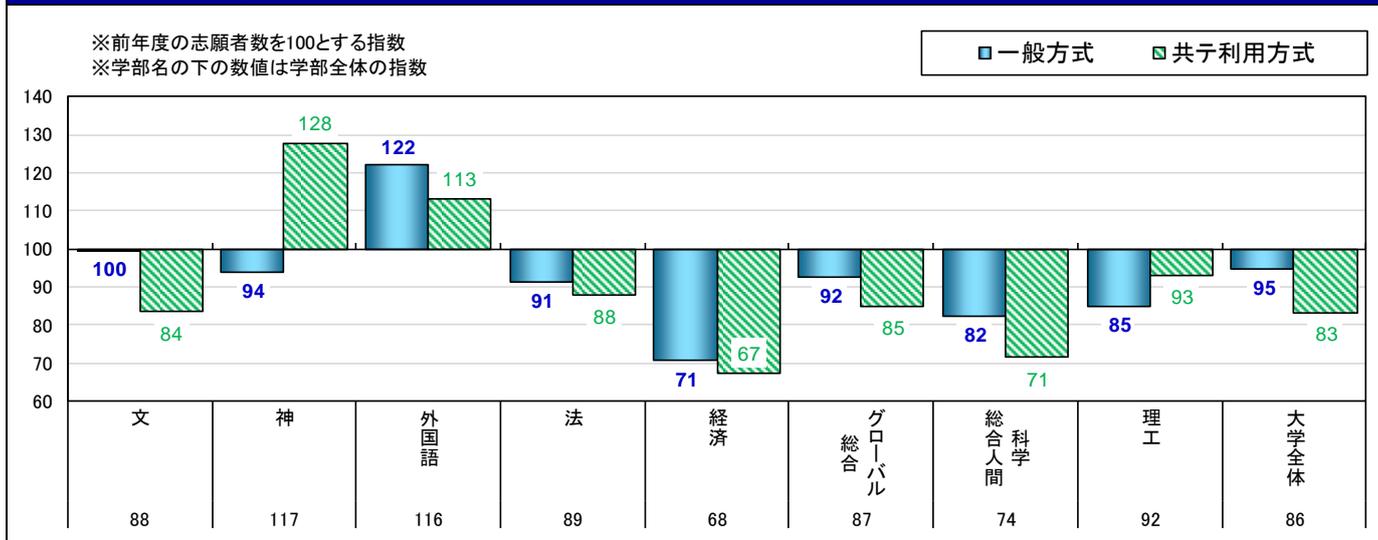
〈一般方式〉

- 文(106)は、やや増加で3年連続増加。方式別では、〈英語4技能〉(114)が5年連続増加。
- 文化構想(106)は、やや増加で2年連続増加。方式別では、〈英語4技能〉(116)が大幅増加で5年連続増加、〈一般〉(103)は4年連続減少の反動は小さくやや増加。
- 法(98)は、2年連続で前年度並。
- 商(104)は、4年連続減少の反動は小さくやや増加。
- 社会科学(104)は、3年連続減少の反動は小さくやや増加で、志願者数は1万人に届かなかった。
- 教育(111)は、3年連続減少の反動で増加。募集単位別では、前年度大幅増加の反動が見られた(教育/教育)(66)、(社会/地理歴史)(98)の2つの募集単位を除いて増加。特に、(複合文化)(153)、(教育/生涯教育)(147)、(教育/教育心理)(133)、(社会/公共市民学)(129)、(理/生物学)(122)、(教育/初等教育)(117)はいずれも大幅増加。
- 人間科学(106)は、3年連続減少の反動は小さくやや増加。学科別では、(人間情報科学)(137)が大幅増加、他の2学科はいずれもやや減少。
- 基幹理工(106)は、前年度減少の反動でやや増加。学系別では、(学系I)(139)が前年度大幅減少の反動で大幅増加、(学系III)(106)はやや増加。(学系II)(101)は前年度並。
- 創造理工(106)は4年連続減少の反動は小さくやや増加。学科別では、(社会環境工)(118)が大幅増加、(建築)(111)、(総合機械工)(111)が増加、一方で、(環境資源工)(88)は3年連続減少、(経営システム工)(95)はやや減少で2年連続減少。
- 先進理工(101)は、微増だが7年ぶりの増加。学科別では、(応用物理)(117)が大幅増加、一方で(生命医科)(84)は2年連続大幅減少。

〈共通テスト利用方式〉

- 文(88)は、2年連続減少。前年度〈共テのみ〉を廃止したが、現行の〈+一般〉(88)のみの比較では2年連続増加の反動で減少。
- 文化構想(88)は、4年連続減少。前年度〈共テのみ〉を廃止したが、現行の〈+一般〉(88)のみの比較では前年度増加の反動で減少。
- 法(89)は、前年度の大幅増加の反動で減少。2020年度以降前年度の反動による増減が継続。
- 政治経済(86)は、前年度に全ての募集単位を共通テスト利用方式に変更し、志願者数は2.5倍近く増加した反動と共通テスト難化の影響で減少。方式別では、従来からある〈共テのみ〉(91)は3年連続減少、学科別では(政治)(78)が大幅減少。前年度から導入された〈共テ併用〉(83)は大幅減少、学科別では(経済)(69)が大幅減少で、他の2学科はやや増加。
- 社会科学(76)は、前年度大幅増加の反動により大幅減少。前年度の増減による反動が継続。
- 人間科学(76)は、2年連続大幅減少。学科別では、(人間環境科学)(66)は大幅減少、(健康福祉化学)(71)は2年連続大幅減少、(人間情報科学)(90)は2年連続減少。
- 国際教養(94)は、前年度に全ての募集単位を共通テスト利用方式に変更したが、共通テスト難化の影響もあってやや減少。
- スポーツ科学(110)は、3年連続減少の反動で増加。方式別では、〈+小論文〉(117)が大幅増加、〈競技歴〉(105)は4年連続減少の反動は小さくやや増加。〈共テのみ〉(99)は前年度並。

上智大：大学全体では減少、特に共通テスト利用方式が大幅減少 一般：-289人 共テ：-3,478人



主な入試変更点 募集人員：経済(経済)…〈共テ併用〉73人→85人、〈TEAP 文系〉40人→30人、〈TEAP 理系〉12人→10人
入試科目：文(ドイツ文)…独自試験の内容変更
ドイツ語圏の文化・歴史に関するテキストの読解力および思考力・表現力を問う試験
→文化・思想・歴史に関するテキストの読解力および思考力・表現力を問う試験(日本語の文章の読解力および思考力・表現力を問う)
経済(経営)〈共テ併用〉…〈共テ〉国+外+(歴公 or 数①)、〈個〉数 or 外
→〈共テ〉国+外+(歴公 or 数① or 数②)、〈個〉数 or 外

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

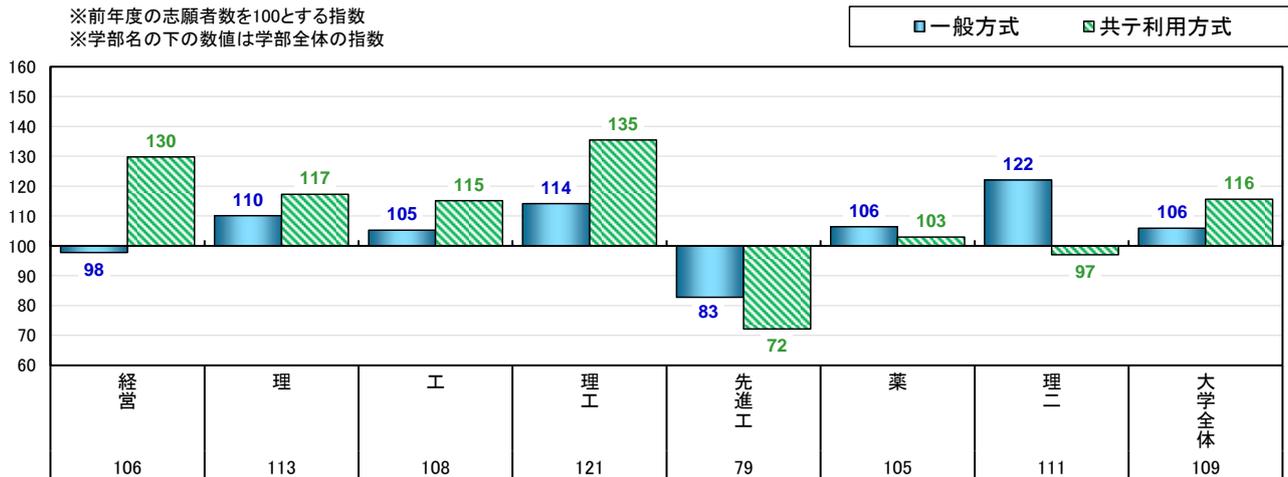
大学全体では、3,767人(86)の減少。一般方式を前年度から〈TEAP〉のみに変更したが、〈TEAP〉(95)は2年連続やや減少。実施2年目の共通テスト利用方式(83)は大幅減少、方式別でも〈共テ〉(82)、〈共テ併用〉(84)のいずれも大幅減少。

〈一般方式〉 ※前年度から〈TEAP〉のみとなったので、2020年度以前も〈TEAP〉のみとの比較による分析。

- 文(100)は、前年度大幅減少の反動はなく前年度並。学科別では、(ドイツ文)(118)、(フランス文)(116)が大幅増加、(新聞)(71)、国文(80)が大幅減少。
- 神(94)は、2年連続大幅減少の反動はなく、さらにやや減少。
- 外国語(122)は、2年連続20%以上の大幅増加。学科別では、(英語)(99)のみが前年度並で、他の5学科は増加。特に、(ロシア語)(158)、ポルトガル語(133)、フランス語(132)、スペイン語(130)は大幅増加。
- 法(91)は、3年連続減少。学科別では、(法律)(84)が大幅減少で4年連続減少。
- 経済(71)は、2年連続増加の反動で大幅減少。募集単位別では、全て大幅減少で、特に(経済)〈TEAP 文系〉(66)は募集人員の減少もあって大幅減少。
- 総合グローバル(92)は、2年連続増加の反動で減少。
- 総合人間科学(82)は、2年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、5学科全てで減少で、(心理)(93)を除いた4学科は大幅減少。特に、(社会福祉)(78)は20%以上の大幅減少で4年連続減少。
- 理工(85)は、2年連続大幅減少。学科別では、3学科全てが減少で、(物質生命理工)(81)、(機能創造理工)(85)の2学科は大幅減少。

〈共通テスト利用方式〉

- 文(84)は、大幅減少。方式別では、〈共テ〉(92)が減少、〈共テ併用〉(81)が大幅減少。学科別では、(ドイツ文)(106)のみやや増加で、他の6学科は減少。特に、(新聞)(69)、(哲)(70)、(国文)(85)は大幅減少。
- 神(128)は、大幅増加。方式別では、〈共テ〉(183)は激増、〈共テ併用〉(108)は増加。
- 外国語(113)は、増加。方式別では、〈共テ〉(152)が50%以上の大幅増加、〈共テ併用〉(105)やや増加。学科別では、(英語)(91)は減少だが、他の5学科はすべて増加。特に、(ポルトガル語)(189)は激増、(ロシア語)(119)、(スペイン語)(117)は大幅増加。
- 法(88)は、減少。方式別では、〈共テ〉(87)、〈共テ併用〉(88)のいずれも減少。学科別では、(地球環境法)(127)が大幅増加、一方で(法律)(75)は大幅減少。
- 経済(67)は、大幅減少。方式別では、〈共テ〉(61)が40%近い大幅減少、〈共テ併用〉(69)が30%以上の大幅減少。学科別では、(経営)(63)、(経済)(74)といずれも大幅減少。
- 総合グローバル(85)は、大幅減少。方式別では、〈共テ〉(65)が大幅減少、〈共テ併用〉(91)は減少。
- 総合人間科学(71)は、大幅減少。方式別では、〈共テ〉(82)、〈共テ併用〉(69)のいずれも大幅減少。学科別では、5学科全てが大幅減少、特に(社会)(66)は30%以上の大幅減少。
- 理工(93)は、やや減少。方式別では、〈共テ〉(81)は大幅減少だが、〈共テ併用〉(100)は前年度並。学科別では、3学科ともに減少で、特に(機能創造理工)(89)は10%以上の減少。

東京理科大：大学全体では3年ぶり増加。4方式全てが増加 一般：+1,981人 共テ：+2,470人


主な入試変更点 選抜方法：〈一般・グローバル方式〉…TEAP135点以上→TEAP101点以上、
TEAP CBT235点以上→TEAP CBT130点以上、GTEC検定版を追加
キャンパス移転：工(工業化学)…神楽坂キャンパス→葛飾キャンパス

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では4,451人(109)の増加で3年ぶりの増加。一般方式は1,981人(106)のやや増加。方式別では、〈グローバル〉は英語外部試験の対象試験拡大や基準点緩和も影響し、135人(107)のやや増加、〈B方式〉は1,846人(106)のやや増加で5年ぶりの増加。共通テスト利用方式は2,470人(116)の大幅増加。方式別では〈C方式〉は1,230人(138)の大幅増加、〈A方式〉は1,240人(110)の増加で、いずれも2年連続減少の反動による増加。

〈一般方式〉

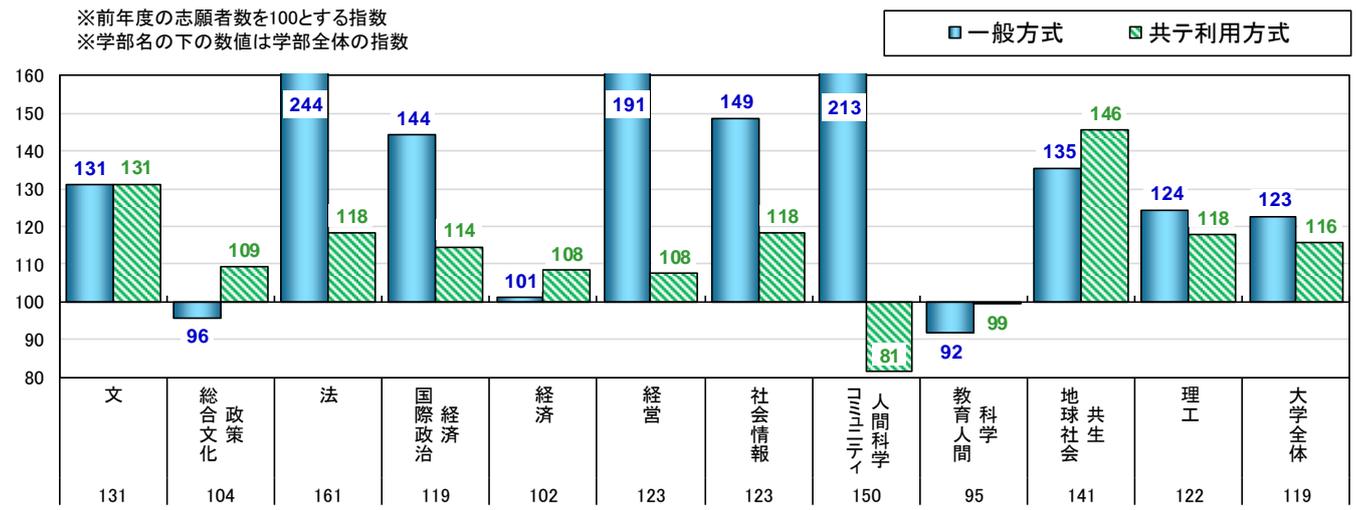
- 経営(98)は、微減だが3年連続減少。学科別では、(経営)(118)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加、(ビジネスエコノミクス)(102)は微増だが3年連続増加。新設2年目の(国際デザイン経営)(50)は半減。
- 理(110)は、前年度3年ぶりに減少した反動で、再び増加。全ての学科で増加し、(応用数学)(120)は大幅増加。
- 工(105)は、やや増加で4年ぶり増加。学科別では、(電気工)(122)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(機械工)(106)はやや増加、他の3学科はいずれも前年度並。
- 理工(114)は、2年連続減少の反動で増加。10学科中5学科が大幅増加で、特に、(先端科学)(140)、(土木工)(131)が目立った。
- 先進工(83)は、前年度基礎工から改組し大幅増加した反動で大幅減少。学科別では、(電子システム工)(77)、(マテリアル創成工)(84)は大幅減少、(生命システム工)(87)は減少。
- 薬(106)は、系統への人気の高まりもありやや増加。学科別では、(薬)(111)は4年ぶりの増加、(生命創薬科学)(99)は微減だが2年連続減少。

〈共通テスト利用方式〉

- 経営(130)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(ビジネスエコノミクス)(149)は3年連続減少の反動、(経営)(135)も2年連続大幅減少の反動。新設2年目の(国際デザイン経営)(75)は大幅減少。
- 理(117)は、3年ぶり増加。学科別では、前年度唯一増加だった(化学)(98)は微減だが、その他の学科はいずれも増加し、特に(応用数学)(158)、(応用化学)(140)の大幅増加が目立った。
- 工(115)は、大幅増加で3年ぶり増加。学科別では、前年度唯一増加だった(情報工)(97)はやや減少だが、その他の学科はいずれも増加し、特に(機械工)(135)、(電気工)(128)の大幅増加が目立った。
- 理工(135)は、2年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、10学科中9学科が増加で、特に、(建築)(201)は倍増、(先端化学)(170)、(数学)(168)は激増で、いずれも2年連続減少の反動。唯一減少の(経営工)(84)は、前年度半減の反動はなく2年連続大幅減少。
- 先進工(72)は、旧基礎工から2年連続増加した反動で大幅減少。学科別では、(電子システム工)(49)は前年度激増の反動、(マテリアル創成工)(82)は前年度大幅減少の反動はなく2年連続減少、(生命システム工)(90)は2年連続増加の反動。
- 薬(103)は、やや増加。学科別では、(薬)(117)は2年連続減少の反動に加え、系統への人気の高まりもあり大幅増加。(生命創薬科学)(82)は大幅減少で前年度の反動による増減が継続。

青山学院大：入試改革 2 年目、周知が進み大幅増加

一般：+4,558 人 共テ：+3,158 人



主な入試変更点

学科新設：法…(ヒューマンライツ)
 試験会場：＜全学部＞…東京、仙台、横浜、名古屋、岡山、福岡→東京、横浜、名古屋、福岡
 併願パターン：法＜全学部＞…(法)のみ→(法)と(ヒューマンライツ)の併願可
 募集人員：文(フランス文)…＜全学部＞10人→15人、＜共テ併用・個別A＞45人→40人
 (比較芸術)…＜共テ併用・個別A＞43人→45人
 法(法)…＜全学部＞70人→80人、＜共テ＞20人→10人、
 ＜共テ併用・個別＞100人→80人、＜共テ併用・個別B＞80人→25人
 入試科目：文(日本語)＜共テ併用・個別B＞…＜共テ＞国+外、＜個＞国→＜共テ＞外、＜個＞国
 (フランス文)＜共テ併用・個別A＞…＜共テ＞国+歴公+外、＜個＞総合問題
 →＜共テ＞歴公+外、＜個＞総合問題
 国際政治経済＜共テ併用・個別A＞…＜共テ＞国+外+(歴公 or 数① or 数②)、＜個＞論述+総合問題(自学科+他学科)
 →＜共テ＞国+外+(歴公 or 数① or 数②)、＜個＞論述・総合問題(自学科)
 ＜共テ併用・個別B＞…＜共テ＞国+外、＜個＞論述+総合問題(自学科+他学科)
 →＜共テ＞国+外、＜個＞論述・総合問題(自学科)

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、7,716人(119)の大幅増加で4年ぶりの増加。前年度はそれまでの一般方式・個別学部日程を経済と理工＜個別A＞を除いて、共通テスト併用方式に変更したが、コロナ禍の中で周知が広まらず30%以上の大幅減少だったが、これに対する反動が見られた。学部別では、教育人間科学(95)がやや減少だったが、これを除く10学部は増加。特に、法(161)は激増、コミュニティ人間科学(150)、地球社会共生(141)、文(131)の3学部は30%以上の大幅増加。方式別では、一般方式が4,558人(123)、共通テスト利用方式が3,158人(116)といずれも大幅増加。共通テスト利用方式では、以前から実施されてきた＜共テ＞が1,853人(120)の大幅増加、実施2年目の＜共テ併用＞が1,305人(112)の増加だった。

＜一般方式＞

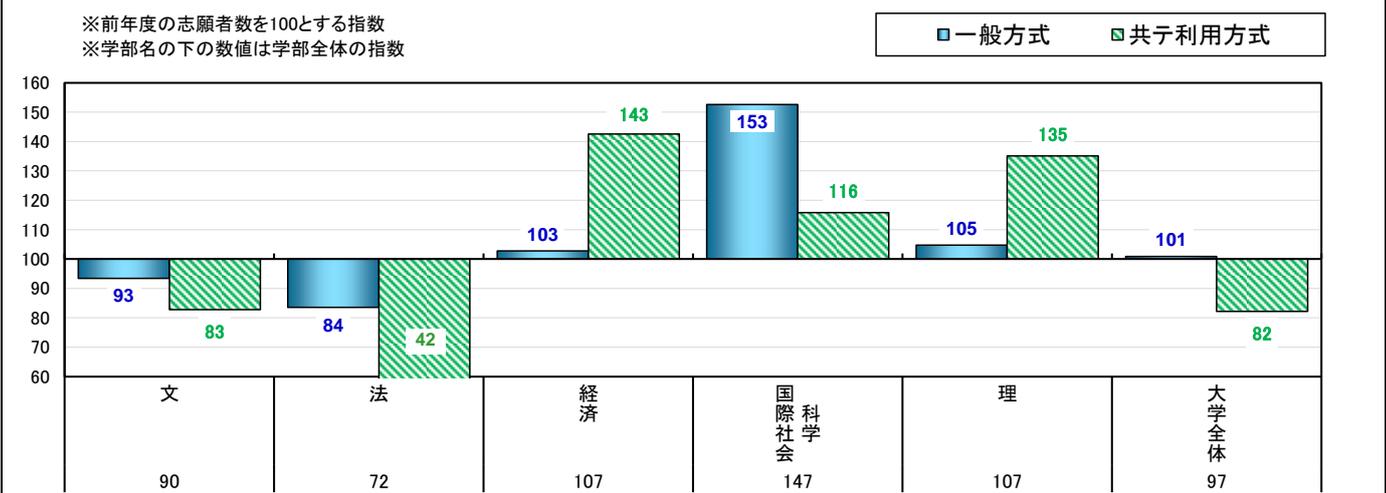
- 文(131)は、大幅増加。学科別では、5学科全てが増加。特にフランス文(277)は＜全学部＞の募集人員増もあり、約2.8倍の激増。
- 総合文化政策(96)は、＜全学部＞のみの募集だがやや減少。＜全学部＞は2018年度以降、前年度の反動による増減が継続。
- 法(244)は、＜全学部＞のみの募集だが約2.4倍の激増。(ヒューマンライツ)の新設の影響が大きい。これを除いた(法)＜全学部＞(168)のみでも激増で、2年連続大幅増加。
- 国際政治経済(144)は、＜全学部＞のみの募集だが大幅増加で、＜全学部＞のみで2年連続減少の反動が要因。学科別では、3学科のいずれも増加だが、特に(国際コミュニケーション)(173)は激増、(国際政治)(152)も50%以上の大幅増加。
- 経済(101)は、前年度増加の反動はなく前年度並。学科別では、(現代経済デザイン)(140)は大幅増加で3年連続増加。一方で、(経済)(93)は前年度増加の反動でやや減少と2学科で対照的。
- 経営(191)は、＜全学部＞のみの募集だが前年度大幅減少の反動で激増。＜全学部＞は2019年度以降、前年度の反動による増減が継続。学科別では、(経営)(200)は倍増、(マーケティング)(174)も激増。
- 社会情報(149)は、＜全学部＞のみの募集だが＜全学部＞の4年連続減少の反動で大幅増加。方式別でも、文系型の＜全学部A＞(144)、理系型の(全学部B)(156)のいずれも大幅増加。
- コミュニティ人間科学(213)は、＜全学部＞のみの募集だが倍増以上。＜全学部＞は新設2年目の2020年度以降、3年連続増加。
- 教育人間科学(92)は、＜全学部＞のみの募集だが減少。前年度ほぼ倍増だった反動が見られた。学科別では、(心理)(102)は前年度倍増以上だった反動は見られなかったが、(教育)(85)は前年度激増の反動で大幅減少と対照的。
- 地球社会共生(135)は、＜全学部＞のみの募集だが大幅増加で2年連続増加。
- 理工(124)は、＜個別A＞と＜全学部＞での募集だが大幅増加。方式別では、系統への人気の高まりもあって、＜個別A＞(119)は大幅増加、＜全学部＞(151)は50%を超える大幅増加。学科別では、7学科全てが増加。(数理サイエンス)(113)は増加、(情報テクノロジー)(103)はやや増加、これらの学科は人気の高い系統だが高難易度への慎重な出願で比較的增加率は低かった。他の5学科はいずれも大幅増加で、(物理科学)は50%を超える大幅増加。

＜共通テスト利用方式＞

- 文(131)は、大幅増加。方式別では、実施2年目の＜共テ併用＞(107)はやや増加、＜共テ＞(178)は3年連続減少の反動で激増。

- 学科別では、フランス文(275)は<共テ併用・個別A>で共テの国語を削減した負担減もあって2.7倍以上の激増。(史学)(139)も大幅増加。
- 総合文化政策(109)は、増加。方式別では、実施2年目の<共テ併用>(100)は前年度並、<共テ>(128)は前年度減少の反動で大幅増加。
 - 法(118)は、大幅増加。ただし、新設の(ヒューマンライツ)を除いた(法)(82)のみでは大幅減少。方式別では、実施2年目の<共テ併用>(115)は大幅増加だが、(法)(78)のみでは大幅減少。<共テ>(122)は前年度減少の反動で大幅増加だが、(法)(88)のみでは減少。
 - 国際政治経済(114)は、増加。方式別では、実施2年目の<共テ併用>(134)は大幅増加、<共テ>(98)は微減だが3年連続減少。学科別では、(国際コミュニケーション)(161)の激増が目立った。
 - 経済(108)は、<共テ>のみを実施。増加だが、2年連続大幅減少の反動は小さかった。学科別では、(現代経済デザイン)(186)は一部の方式の廃止などもあって2年連続70%以上の激減だった反動で激増。
 - 経営(108)は、増加。方式別では、実施2年目の<共テ併用>(102)は前年度並、<共テ>(118)は2年連続大幅増加。学科別では、マーケティング(112)は増加、(経営)(108)はやや増加。
 - 社会情報(118)は、大幅増加。方式別では、実施2年目の<共テ併用>(112)は増加、<共テ>(135)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
 - コミュニティ人間科学(81)は、前年度より<共テ>および<共テ併用>を導入。学部全体では大幅減少。方式別では、<共テ併用>(88)は減少、<共テ>(73)は大幅減少。
 - 教育人間科学(99)は、前年度並。方式別では、実施2年目の<共テ併用>(141)は大幅増加、<共テ>(79)は大幅減少で、前年度の反動による増減が継続。学科別では、心理(117)が大幅増加に対して、(教育)(90)は減少と対照的。
 - 地球社会共生(146)は、大幅増加。方式別では、実施2年目の<共テ併用>(184)は激増、<共テ>(124)は大幅増加で2年連続増加。
 - 理工(118)は、大幅増加。方式別では、実施2年目の<共テ併用>(111)は増加、<共テ>(121)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(化学・生命科学)(99)の微減を除いた6学科は増加、特に改組2年目の(物理科学)(205)は倍増以上。

学習院大：国際社会科学は大幅増加、法は大幅減少 一般：+125人 共テ：-612人



主な入試変更点 選抜方法：新規…国際社会科学(国際社会科学)<プラス>(2021年度はコロナ禍のため中止)

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、487人(97)のやや減少で2年ぶりに減少。方式別では、一般方式は125人(101)の微増だが4年ぶりに増加。共通テスト利用入試は導入2年目だが、法(42)の志願者が半減以下で617人減少したこともあり、612人(82)の大幅減少。

<一般方式>

- 文(93)は、前年度大幅減少の反動はなくやや減少で2年連続減少。学科別では、(日本語日本文学)(121)は2年連続減少の反動で、唯一大幅増加。他の7学科はいずれも減少で、(英語英米文化)(93)は3年連続、他の6学科はいずれも2年連続減少。
- 法(84)は、2年連続大幅減少で4年連続減少。学科別では(政治)(60)は、2年連続大幅減少。(法)(99)は前年度並。
- 経済(103)は、3年連続減少の反動は小さくやや増加。学科・方式別では、(経営)<プラス>(139)、(経済)<プラス>(123)はいずれも3年連続減少の反動で大幅増加、(経済)<コア>(109)も増加。一方で、(経営)<コア>(89)は減少。
- 国際社会科学(153)は、2年連続大幅減少の反動と、前年度コロナ禍のため中止となった<プラス>も実施されたため大幅増加。方式別では、<コア>(121)は3年連続減少の反動で大幅増加。<プラス>の志願者は379人、2020年度と比較すると(89)の減少。
- 理(105)は、2年連続減少の反動は小さくやや増加。学科・方式別では、(化学)<コア>(119)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。(生命科学)<コア>(112)は2年連続減少の反動で増加。一方で、(生命科学)<プラス>(92)は2年連続大幅増加の反動で減少。

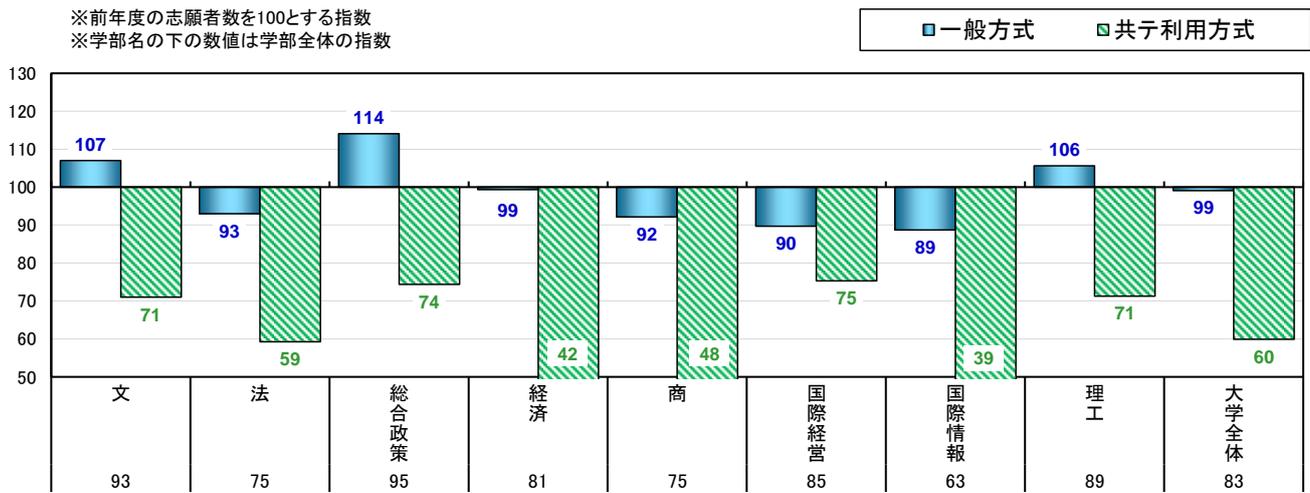
<共通テスト利用方式>

- 文(83)は大幅減少。学科別では、(フランス語圏文化)(159)が60%近い大幅増加。教育(113)は増加。一方で、哲(64)、(ドイツ語圏文化)(69)、史学(70)、(英語英米文化)(77)はいずれも大幅減少。
- 法(42)は、60%近い大幅減少。学科別でも、(政治)(41)、(法)(43)といずれも大幅減少。
- 経済(143)は、(経済)のみの募集だが40%以上の大幅増加。

- 国際社会科学(116)は、大幅増加。
○理(135)は、(化学)のみ募集だが大幅増加。

中央大：共通テスト利用方式は大幅減少

一般：-405人 共テ：-13,335人



主な入試変更点	<p>試験会場変更：全日程…東京、札幌、仙台、さいたま、千葉、新潟、名古屋、大阪、広島、福岡 →東京、札幌、仙台、さいたま、千葉、名古屋、大阪、福岡</p> <p>入学検定料：特例措置(理工および理工以外の〈共テ単独・後期〉を除いた、〈一般〉と〈共テ〉や〈英語外部試験利用〉との併願時の〈一般〉以外の検定料免除)…廃止</p> <p>学科名称変更：商(商業・貿易)→商(国際マーケティング)</p> <p>英語外部試験：理工〈一般・英語外部試験利用〉…新規</p>
---------	--

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では13,740人(83)の大幅減少で3年連続減少。方式別では、一般方式(99)は微減だが3年連続減少。共通テスト利用方式(60)は、上記の「主な入試変更点」に示したように「入学検定料の特例措置」を廃止したことで、前年度も特例措置の対象外であった〈共テ単独・後期〉を除いた方式が大幅減少となり、共通テスト利用方式全体では40%の大幅減少となり、志願者数は2万人を下回った。

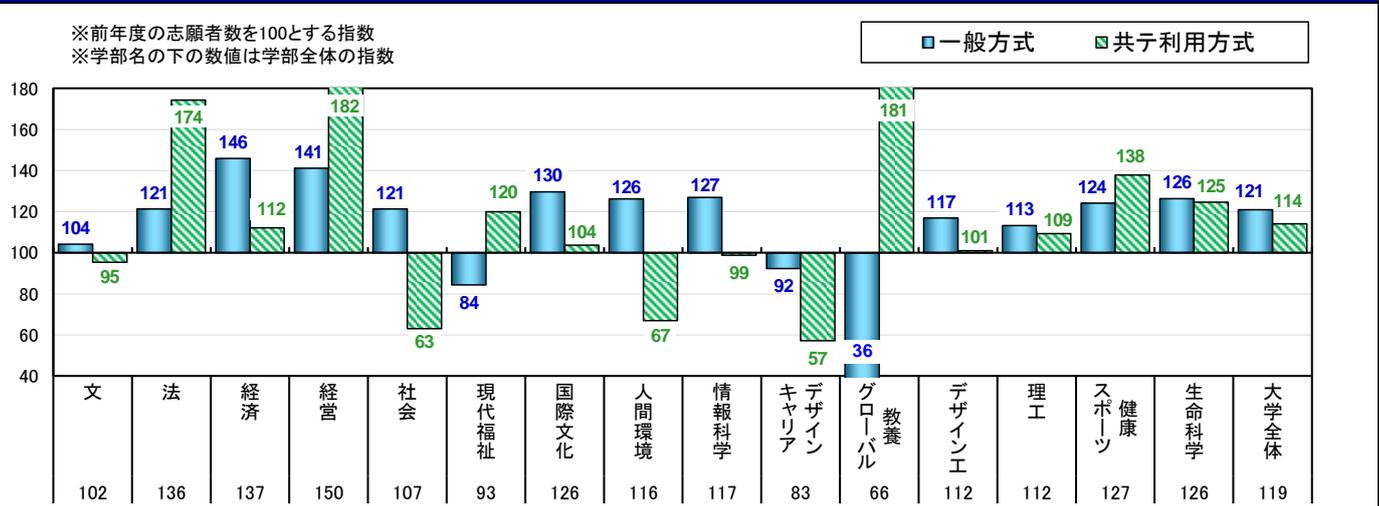
〈一般方式〉

- 文(107)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加、2016年度より前年度の反動による増減が継続。専攻別では、(人文社会/ドイツ語文学文化)(160)、(人文社会/フランス語文学文化)(160)はいずれも前年度大幅減少の反動で激増。一方で、(人文社会/西洋史学)(75)は大幅減少で3年ぶりの減少。14専攻中9専攻が増加、5専攻が減少。
- 法(93)は、2年連続減少。学科別では、(政治)(79)は前年度減少した反動はなく大幅減少で2年連続減少。(国際企業関係法)(82)は大幅減少で4年連続減少。(法律)(99)は微減だが2年連続減少。
- 総合政策(114)は、3年連続減少の反動で増加。学科別では、(国際政策文化)(125)は3年連続減少の反動で大幅増加し、志願倍率も17倍を上回った。(政策科学)(103)はやや増加で4年ぶりに増加したが、志願倍率は14.4倍と2020年度以前より低倍率に留まった。
- 経済(99)は、前年度やや減少に引き続き微減。学科別では、(公共・環境経済)(146)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。(国際経済)(121)は大幅増加で5年連続増加。(経済情報システム)(105)は2年連続減少の反動は小さくやや増加。一方で、(経済)(84)は大幅減少で2年連続減少。
- 商(92)は、前年度増加の反動で減少。学科・コース別では、(フリーメジャー)(102)、(会計/フレックス)(100)は前年度並。他の5学科・コースは減少。特に、(金融/フレックス Plus1)(71)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。(経営/フレックス)(85)も2年連続増加の反動で大幅減少。なお、(国際マーケティング)は(商業・貿易)から名称変更したが、前年度の(商業・貿易)との比較では(85)の大幅減少。
- 国際経営(90)は、新設2年目の2020年度以降3年連続減少。方式別では、〈一般〉(87)、〈英語外部試験利用〉(92)はいずれも前年度やや増加の反動で減少。
- 国際情報(89)は、減少。新設2年目の2020年度以降、前年度の反動による増減が継続。方式別では、〈一般〉(88)は前年度増加の反動で減少。〈英語外部試験利用〉(93)は前年度やや増加の反動でやや減少。方式別でも、新設2年目の2020年度から前年度の反動による増減が継続。
- 理工(106)は、やや増加。2018年度以降、前年度の反動による増減が継続。ただし、志願倍率は募集人員の増加があったので、16.2倍→16.6倍とほとんど変化はなかった。学科別では、10学科中増減が5学科ずつと分かれた。特に、(人間総合理工)(246)が5年連続減少の反動で2.5倍近い激増だったのが目立った。

＜共通テスト利用方式＞

- 理工を除いて、＜共テ単独・後期＞を除いた共通テスト利用方式と一般方式との併願時に共通テストの検定料免除という「入学検定料の特例措置」を廃止した影響が大きく、全ての学部で大幅減少となった。入試制度変更による減少なので、この影響による学部ごとの詳細には触れない。
- 文(71)は、4年連続減少で特に過去2年間は大幅減少で、2018年度対比では約6割の減少。専攻別では、14専攻中5専攻は大幅増加、他の9専攻は大幅減少と増減が分かれた。特に、(人文社会／フランス語文学文化)(170)は、前年度半減以下の反動で激増。一方で、(人文社会／社会学)(43)は2年連続大幅減少。
- 法(59)は、大幅減少で2年連続減少。学科別でも3学科全てが大幅減少で、特に、(政治)(49)は半減以下。方式別では、入学検定料の特例措置廃止の影響のなかった＜共テ単独・後期＞(114)は2年連続増加。
- 総合政策(74)は、3年連続大幅減少。学科別では、(政策科学)(60)は3年連続大幅減少。(国際政策文化)(87)は4年連続減少。方式別では、入学検定料の特例措置廃止の影響のなかった＜共テ単独・後期＞(74)も大幅減少で2年連続増加。
- 経済(42)は、60%近い大幅減少で3年連続減少。学科別では、(経済)(36)は激減で4年連続減少。他の3学科は、いずれも大幅減少。方式別では、入学検定料の特例措置廃止の影響のなかった＜共テ単独・後期＞(115)は大幅増加。
- 商(48)は、半減以下の大幅減少。学科・コース別では、(フリーメジャー)(26)は激減。他の3つの学科・コースはいずれも大幅減少。方式別では、入学検定料の特例措置廃止の影響のなかった＜共テ単独・後期＞(148)は大幅増加。
- 国際経営(75)は、3年連続大幅減少。方式別では、入学検定料の特例措置廃止の影響のなかった＜共テ単独・後期3教科＞(283)と3倍近い激増。
- 国際情報(39)は、激減。入学検定料の特例措置廃止の影響のなかった＜共テ単独・後期＞(129)は大幅増加。
- 理工(71)は、大幅減少で3年連続減少。学科別では、(人間総合理工)(127)は大幅増加だったが、他の9学科はいずれも大幅減少。方式別では、＜共テ単独・前期＞(59)は激減で志願者数は3,000人を下回った、＜共テ・併用＞(93)はやや減少。

法政大：大学全体では4年ぶりに増加、15学部中12学部が増加 一般：+13,781人 共テ：+3,543人



主な入試変更点

選抜方法：＜英語外部試験利用＞新規実施…社会(社会政策科学)：募集人員：5人、利用方法：出願要件(社会)：募集人員：7人、利用方法：出願要件(メディア社会)：募集人員：5人、利用方法：出願要件
国際文化：募集人員：5人、利用方法：出願要件
グローバル教養＜A方式＞…外の独自試験を廃止し英語外部試験を活用
利用方法：出願要件、得点換算
募集人員：社会(社会政策科学)＜A方式＞…93人→88人
(社会)＜A方式＞…159人→152人
(メディア社会)＜A方式＞…98人→93人
国際文化＜A方式＞…123人→118人
工(機械／航空操縦)＜一般・共テ＞…15人→25人
(機械／機械工)＜A方式＞…50人→40人
入試科目：グローバル教養＜A方式＞…国+外→国+外+(歴古 or 数)
※外は英語外部試験を得点換算

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、3年連続減少の反動もあって17,324人(119)の大幅増加。志願者数は2年ぶりの10万人超えの108,280人。方式別では、一般方式(121)は大幅増加、共通テスト利用方式(114)は増加。一般方式の＜英語外部試験利用＞(149)は、社会、国際文化の新規実施で大幅増加だが、新規実施を除くと(105)のやや増加。学部別では、グローバル教養(66)、キャリアデザイン(83)、現代福祉(93)は減少したが、他の12学部は増加し、経営(150)、経済(137)、法(136)、スポーツ健康(127)、国際文化(126)、生命科学(126)、情報科学(117)、人間環境(116)は大幅増加。

＜一般方式＞

- 文(104)は、やや増加で4年ぶりに増加。学科別では、(史学)(121)は大幅増加、(心理)(113)、(日本文)(113)は増加。一方で、(哲)(85)は大幅減少、(地理)(86)は減少、(英文)(95)はやや減少。
- 法(121)は、大幅増加で5年ぶりに増加。学科別では、3学科とも増加で、(法律)(126)、国際政治(115)はいずれも大幅増加で2年連続増加。方式別では、〈英語外部試験利用〉(147)、〈T日程〉(131)はいずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加、〈A方式〉(117)は大幅増加で2年連続増加。
- 経済(146)は、大幅増加で5年ぶりに増加。学科別では、3学科とも大幅増加で、(現代ビジネス)(157)、(経済)(154)はいずれも1.5倍以上の増加。
- 経営(141)は、大幅増加で前年度の反動による増減が継続。学科別では、3学科とも大幅増加で、(市場経営)(163)は1.6倍以上の増加で2年連続増加、(経営戦略)(147)は大幅増加で3年ぶりに増加、(経営)(129)も大幅増加で前年度の反動による増減が継続。
- 社会(121)は、大幅増加で前年度の反動による増減が継続。学科別では、3学科とも増加で、(社会政策)(131)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(メディア社会)(125)も大幅増加で3年ぶりに増加、(社会)(112)は増加で3年ぶりに増加。
- 現代福祉(84)は、前年度大幅な増加の反動で大幅減少。学科別では、(臨床心理)(123)は大幅増加で6年ぶりに増加。一方で、(福祉コミュニティ)(67)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 国際文化(130)は、大幅増加で3年ぶりに増加。方式別では、新規導入の〈英語外部試験利用〉を除いた、既存の2方式でも〈A方式〉(124)は大幅増加、〈T日程〉(104)はやや増加。
- 人間環境(126)は、大幅増加で3年ぶりに増加。方式別では、3方式とも大幅増加。
- 情報科学(127)は、系統への人気の高さもあって、大幅増加で2年連続増加。学科別では、2学科とも大幅増加で、(デジタルメディア)(128)は2年連続大幅増加、(コンピュータ科学)(126)も大幅増加で3年連続増加。
- キャリアデザイン(92)は、3年ぶりに減少。方式別では、〈A方式〉(107)はやや増加だが、導入2年目の〈英語外部試験利用〉(65)は大幅減少、〈T日程〉(86)は減少。
- グローバル教養(36)は、コロナ禍によるグローバル系への人気低下により激減で4年連続減少。方式別では、〈英語外部試験利用〉(24)は前年度激増の反動で激減、〈A方式〉(46)は外国語の独自日程を廃止し英語外部試験を必須化したことで、半減以下的大幅減少。
- デザイン工(117)は、大幅増加。学科別では、3学科とも増加で、(都市環境デザイン工)(124)は大幅増加で前年度の反動による増減が継続、(建築)(117)は大幅増加で3年ぶりに増加、(システムデザイン)(111)は増加で2年連続増加。
- 理工(113)は、増加で3年ぶりに増加。学科・専攻別では、(創生科学)(143)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(機械/機械工)(131)は募集人員が10人(募集人員前年度対比指数80)減少だが、大幅増加で3年ぶりに増加。一方で、(経営システム工)(89)は減少で3年連続減少。
- スポーツ健康(124)は、大幅増加で4年ぶり増加。
- 生命科学(126)は、大幅増加で3年ぶりに増加。学科別では、3学科とも増加で、(環境応用化学)(145)、(応用植物科学)(144)は大幅増加、(生命機能)(104)はやや増加。

＜共通テスト利用方式＞

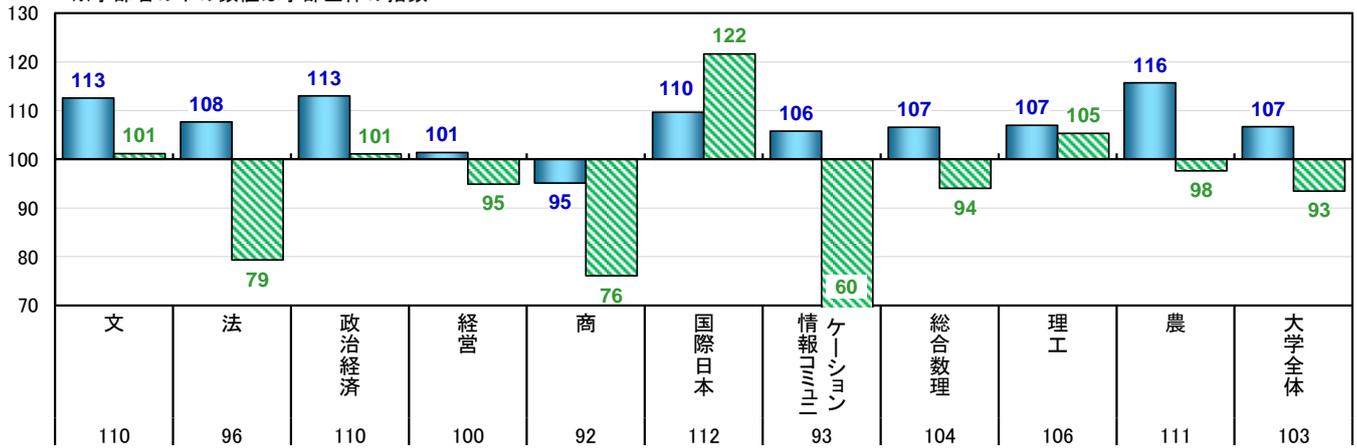
- 文(95)は、やや減少で3年連続減少。学科別では、(哲)(149)は大幅増加で4年ぶりの増加。一方で、(英文)(72)、(地理)(84)は大幅減少、(史学)(93)はやや減少。
- 法(174)は、激増で3年ぶりに増加。学科別では、3学科とも大幅増加で、(政治)(285)は激増で4年ぶりに増加。
- 経済(112)は、増加で4年ぶりに増加。学科別では、(現代ビジネス)(474)は前年度激減の反動から4倍以上の激増で、前年度の反動による大幅増減が継続。一方で、(国際経済)(60)は前年度激増の反動で大幅減少、(経済)(85)は前年度増加の反動で大幅減少。
- 経営(182)は、前年度半減近い大幅減少の反動で激増。学科別では、(経営戦略)(564)は前年度に2020年度比13%の志願者数に激減した反動で5倍以上の激増、(市場経営)(190)は大幅増加で3年ぶりに増加。一方で、(経営)(91)は減少。
- 社会(63)は、2年連続大幅減少。学科別では、3学科とも大幅減少で、(メディア社会)(59)は前年度増加の反動で大幅減少、(社会)(65)は3年連続大幅減少、(社会政策)(67)は2年連続大幅減少。
- 現代福祉(120)は大幅増加で2年連続増加。学科別では、2学科とも大幅増加で、(福祉コミュニティ)(120)は2年連続大幅増加、(臨床心理)(120)は大幅増加で5年ぶりに増加。
- 人間環境(67)は、3年連続大幅減少。志願者数は2019年度の約4分の1。
- キャリアデザイン(57)は、前年度2倍を超える激増の反動で大幅減少、前年度の反動による増減が継続。方式別では、〈共テ・B方式〉(49)が前年度激増の反動で大幅減少、〈共テ・C方式〉(156)は前年度大幅減少の反動で大幅増加と対照的。
- グローバル教養(181)は、激増で3年ぶりに増加。
- 理工(109)は、増加で3年ぶりに増加。学科・専攻別では、(創生科学)(176)は前年度大幅減少の反動で激増、(機械/機械工)(120)は大幅増加で3年ぶりに増加、(機械/航空操縦)(107)はやや増加だが、募集人員が10人(募集人員前年度対比指数167)増加のため、志願倍率は5.9倍→3.8倍に緩和。一方で、(経営システム工)(84)は3年連続大幅減少、(応用情報工)(87)は減少で3年連続減少。
- スポーツ健康(138)は、大幅増加で5年ぶりに増加。
- 生命科学(125)は、大幅増加で3年ぶりに増加。学科別では、(環境応用化学)(168)は激増で3年ぶりに増加、(応用植物科学)(112)は増加で5年ぶりに増加。一方で、(生命機能)(95)はやや減少で2年連続減少。

明治大：大学全体では4年ぶりに増加、共テ利用方式は減少

一般：+4,777人 共テ：-1,821人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■共テ利用方式



主な入試変更点

入試科目：国際日本…〈学部別3科目〉：国+歴公+外 ※歴公：世 Bor 日 Bor 政経→国+歴+外 ※歴公：世 Bor 日 B
 〈英語4技能〉：国+歴公 ※歴公：世 Bor 日 Bor 政経→国+歴 ※歴公：世 Bor 日 B
 配点変更：農…〈学部別〉：各科目〈120〉×3科目＝総点〈360〉→各科目〈150〉×3科目＝総点〈450〉

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では2,956人(103)のやや増加で、4年ぶりに増加。学部別では、国際日本(112)、農(111)、文(110)、政治経済(110)は増加、理工(106)、総合数理(104)はやや増加。一方で、商(92)は減少、情報コミュニケーション(93)、法(96)はやや減少。方式別では、一般方式は4,777人(107)のやや増加で、3年連続の減少の反動は小さかった。共通テスト利用方式は、1,821人(93)のやや減少で、志願者数は2万6千人余りに留まった。方式別では、〈共テ前期〉(93)はやや減少、一方で、〈共テ後期〉(107)は商、総合数理、理工のみの実施だがやや増加。

〈一般方式〉

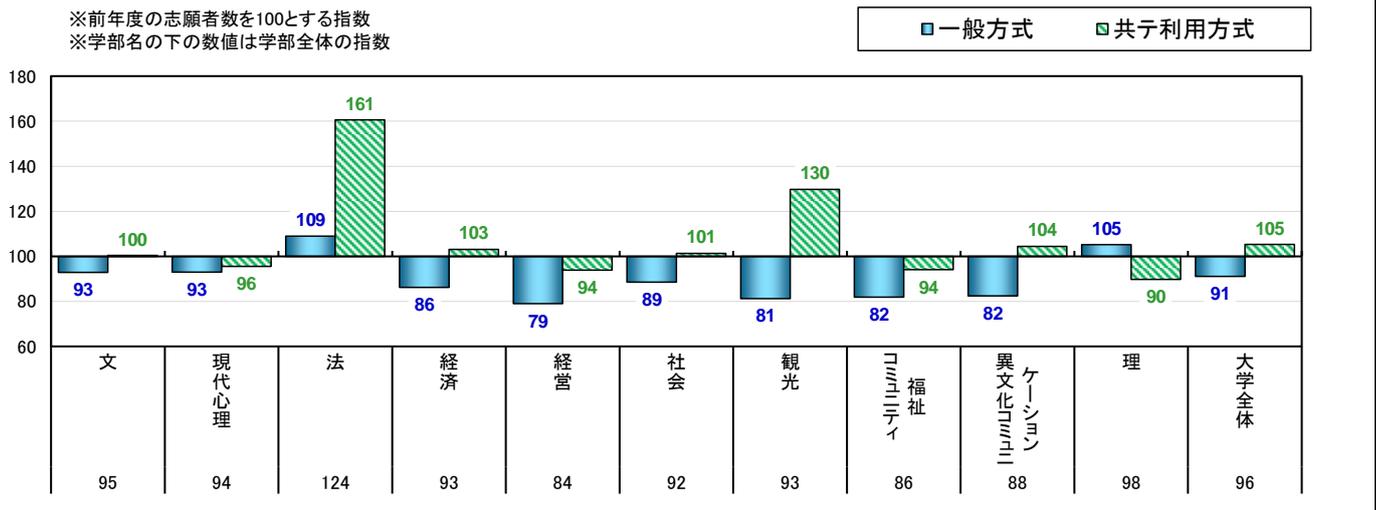
- 文(113)は、増加で4年ぶり増加も志願者数は3年連続1万人を下回った。学科・専攻別では、14専攻中10専攻が増加。(文/フランス文学)(180)、(史学地理/地理学)(162)は激増、(文/ドイツ文学)(148)、(史学地理/考古学)(136)、(心理社会/臨床心理学)(128)、(心理社会/哲学)(121)、(文/文芸メディア)(117)は大幅増加、(史学地理/日本史学)(111)は増加、(心理社会/現代社会学)(107)、(文/日本文学)(107)はやや増加。一方で、(史学地理/西洋史学)(88)、(文/英米文学)(89)は減少、(史学地理/アジア史)(94)、(文/演劇学)(95)はやや減少。
- 法(108)は、2年連続増加。方式別では、〈全学部統一3科目〉(114)は3年連続減少の反動で増加、〈学部別〉(105)はやや増加。
- 政治経済(113)は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、(地域行政)(168)は前年度大幅減少の反動で激増、(経済)(116)も前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(政治)(88)は2年連続減少。
- 経営(101)は、2年連続前年度並。方式別では、〈全学部統一3科目〉(110)は増加。一方で、〈学部別英語4技能〉(90)は減少。
- 商(95)は、やや減少で3年連続減少。方式別では、〈全学部統一〉(109)は増加で4年ぶりに増加。一方で、〈学部別英語4技能〉(93)はいずれもやや減少。
- 国際日本(110)は、増加で2年連続増加。方式別では、〈学部別英語4技能〉(130)、〈全学部統一英語4技能〉(125)、〈全学部統一3科目〉(124)はいずれも大幅増加。一方で、〈学部別3科目〉(93)はやや減少。
- 情報コミュニケーション(106)は、やや増加で2年連続増加。方式別では、いずれも増加で、〈全学部統一〉(108)は増加で3年ぶりに増加、〈学部別〉(105)はやや増加。
- 総合数理(107)は、やや増加で3年ぶりに増加。学科別では、(現象数理)(120)は2年連続減少の反動で大幅増加、志願者数も1,000人を上回った。(ネットワークデザイン)(113)は増加で3年ぶりに増加。一方で、(先端メディアサイエンス)(96)は減少で2年連続減少。
- 理工(107)は、やや増加で4年ぶりに増加。学科・専攻別では、9学科・専攻中6学科・専攻が増加。(電気電子生命/電気電子工学)(125)は前年度減少の反動で大幅増加、(物理)(120)は大幅増加で3年ぶりに増加、(応用化学)(115)は大幅増加、(建築)(111)は増加で4年ぶりに増加し、志願者数も2,000人を上回った。一方で、(数学)(89)は減少で4年連続減少、(電気電子生命/生命工学)(96)はやや減少、系統への人気が高い(情報科学)(97)は2年連続増加の反動でやや減少。
- 農(116)は、大幅増加で8年ぶりに増加。学科別では、(農芸化学)(133)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(食料環境政策)(126)は大幅増加で4年ぶりに増加、(農)(115)は大幅増加で2年連続増加。一方で、(生命科学)(98)は微減だが3年連続減少。

〈共通テスト利用方式〉

- 文(101)は、微増だが4年ぶりに増加。学科・専攻別では、14学科中8学科が増加。(史学地理/地理学)(218)は2年連続減少の反動で2倍以上の激増、(史学地理/考古学)(187)は3年連続減少の反動で大幅増加、(文/ドイツ文学)(129)は大幅増加で6年ぶりに増加、(文/フランス文学)(118)、(心理社会/臨床心理学)(116)はいずれも大幅増加で4年ぶりに増加。一方で、(史学地理/アジア史)(68)は大幅減少で6年連続減少し、志願者数は100人を下回った、(文/英米文学)(69)は前年度増加の反動で大幅減少、(心理社会/現代社会学)(75)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(史学地理/西洋史学)(76)は大幅減少で3年連続減少し、志願者数は200人を下回った、(文/演劇学)(84)は大幅減少で6年連続減少。
- 法(79)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 政治経済(101)は、前年度並。学科別では、(地域行政)(123)は前年度減少率68%の激減の反動で大幅増加、(経済)(106)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。一方で、(政治)(83)は大幅減少で2年連続減少。
- 経営(95)は、前年度激増の反動は小さくやや減少に留まった。

- 商(76)は、3年連続大幅減少。
- 国際日本(122)は、大幅増加で4年ぶりに増加。
- 情報コミュニケーション(60)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。前年度の反動による増減が継続。
- 総合数理(94)は、前年度増加の反動は小さくやや減少に留まった。学科別では、(現象数理)(114)は2年連続減少の反動で増加、(先端メディアサイエンス)(105)は2年連続減少の反動は小さくやや増加に留まった。一方で、(ネットワークデザイン)(71)は前年度激増の反動で大幅減少。
- 理工(105)は、やや増加。学科・専攻別では、9学科・専攻中5学科・専攻が増加。(電気電子生命/電気電子工学)(156)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(物理)(114)は増加で5年ぶりに増加。一方で、(数学)(72)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(電気電子生命/生命理工学)(89)は前年度増加の反動で減少。
- 農(98)は、微減だが4年連続減少。学科別では、(食料環境政策)(138)は大幅増加で2年連続増加、(農芸化学)(112)は前年度大幅減少の反動で増加。一方で、(農)(76)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(生命科学)(86)は減少で4年連続減少。

立教大：大学全体では減少、特に一般が1割近く減少 一般：-3,953人 共テ：+1,124人



主な入試変更点 募集人員：法(国際ビジネス法)…61人→46人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

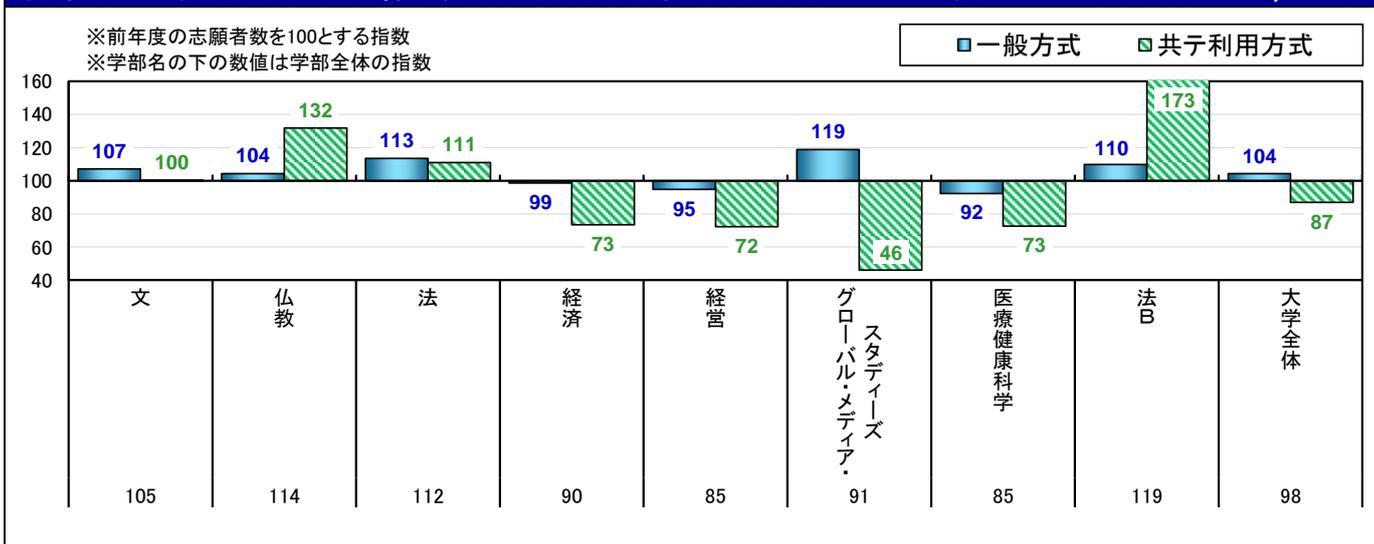
大学全体では、2,829人(96)のやや減少。方式別では、一般方式(91)は前年度の全学部日程試験日拡大による増加の反動で減少。共通テスト利用方式(105)はやや増加で4年ぶりに増加。学部別では、法(124)のみ大幅増加。一方で、経営(84)は大幅減少、コミュニティ福祉(86)、異文化コミュニケーション(88)、社会(92)は減少、経済(93)、観光(93)、現代心理(94)、文(95)はやや減少、理(98)は前年度並だが微減で10学部中9学部が減少。

- ＜一般方式＞
- 文(93)は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。学科・専修別では、前年度は全て増加だったが、キリスト教(135)、(文/芸芸・思想)(118)は大幅増加。一方で、(文/ドイツ文学)(79)、(文/日本文学)(84)、(史学)(85)は大幅減少、(文/英米文学)(90)はやや減少と別れた。
 - 現代心理(93)は、やや減少。学科別では、(映像身体)(98)は前年度並だが、(心理)(87)は減少で3年連続減少。
 - 法(109)は、増加で2年連続増加。学科別では、(国際ビジネス法)(201)は募集人員が15人(募集人員前年度対比指数75)減少だが、倍増。一方で、(政治)(91)は減少で4年ぶりに減少、(法)(95)は前年度大幅増加の反動は小さくやや減少に留まった。
 - 経済(86)は、減少で3年連続減少。学科別では、(会計ファイナンス)(102)は前年度並だが微増で、3年ぶりに増加。一方で、(経済政策)(78)は2年連続大幅減少、(経済)(85)も大幅減少で5年連続減少。
 - 経営(79)は、大幅減少で4年連続減少。学科別では、(国際経営)(106)はやや増加で3年連続増加。一方で、(経営)(70)は大幅減少で4年連続減少。
 - 社会(89)は、減少。学科別では、3学科とも減少し、(現代文化)(88)、(メディア社会)(89)は減少でいずれも3年ぶりに減少。
 - 観光(81)は、大幅減少で4年連続減少。学科別では、(交流文化)(116)は大幅増加で前年度の反動による増減が継続、(観光)(63)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
 - コミュニティ福祉(82)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(スポーツウェルネス)(105)、(福祉)(104)はいずれもやや増加で4年ぶりに増加。一方で、(コミュニティ政策)(58)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
 - 異文化コミュニケーション(82)は、前年度大幅増加で8年ぶりの増加だったが、その反動で大幅減少。
 - 理(105)は、やや増加。学科別では、(数学)(118)は前年度減少の反動で大幅増加、(化学)(107)はやや増加、残りの2学科はいずれも前年度並。

- ＜共通テスト利用方式＞
- 文(100)は、前年度並。学科・専修別では、(文/フランス文学)(145)が前年度半減以下の激減の反動で大幅増加、(史学)(119)は2年連続減少の反動で大幅増加、(文/芸芸・思想)(112)は増加で2年連続増加。一方で、(文/ドイツ文学)(75)は2年連続大幅減少、(文/英米文学)(86)は前年度大幅増加の反動で減少、(キリスト教)(88)は減少で2年連続減少。
 - 法(161)は、大幅増加で2年連続増加。学科別では、(国際ビジネス法)(635)は前年度大幅減少の反動で6倍以上の激増、特に共通テスト難化の影響が少ない<3科目>が約6.5倍の激増。(政治)(114)は増加で2年連続増加、法(107)はやや増加で2年連続増加。

- 経済(103)**は、やや増加で2年連続増加。学科別では、(経済政策)(136)は2年連続大幅増加。一方で、(会計ファイナンス)(85)は大幅減少で3年連続減少。
- 社会(101)**は、前年度並。学科別では、(メディア社会)(108)は増加、(社会)(107)はやや増加で2年連続増加。一方で、(現代文化)(88)は前年度大幅増加の反動で減少。
- 観光(130)**は、大幅増加で4年ぶりに増加。学科別では、(交流文化)(210)は前年度大幅減少の反動で2倍以上の激増。一方で、(観光)(82)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- コミュニティ福祉(94)**は、やや減少。学科別では、(スポーツウエルネス)(142)は大幅増加で2年連続増加。一方で、(コミュニティ政策)(73)は前年度倍以上の大幅増加の反動で大幅減少、(福祉)(88)も前年度倍以上の大幅増加の反動で減少。
- 理(90)**は、減少で2年連続減少。学科別では、(数学)(127)は大幅増加で2年連続増加。一方で、(生命理)(79)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(物理)(79)も大幅減少で2年連続減少、(化学)(92)は減少で2年連続減少。

駒澤大：一般方式はやや増加、共テ利用は減少と対照的 一般：+778人 共テ：-1,462人



主な入試変更点 試験会場：全学部統一…東京、仙台、新潟、水戸、長野、高崎、宇都宮、立川、横浜、静岡、名古屋
→東京、札幌、仙台、新潟、つくば、長野、高崎、宇都宮、千葉、静岡、名古屋、大阪、福岡
選抜方法：グローバル・メディア・スタディーズ<一般・T方式(2月)><一般・S方式>…国+外+ (歴公 or 数) ※外に基準点を設ける
→国+外+ (歴公 or 数) ※国、外に基準点を設ける
文(社会/社会、地理) <一般・T方式(3月)>…廃止

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、674人(98)の微減。方式別では、一般方式は2年連続減少の反動で788人(104)のやや増加だった。一方で、共通テスト利用方式は大幅増加の反動で1,462人(87)の減少で、志願者数は2年ぶりに10,000人を下回った。

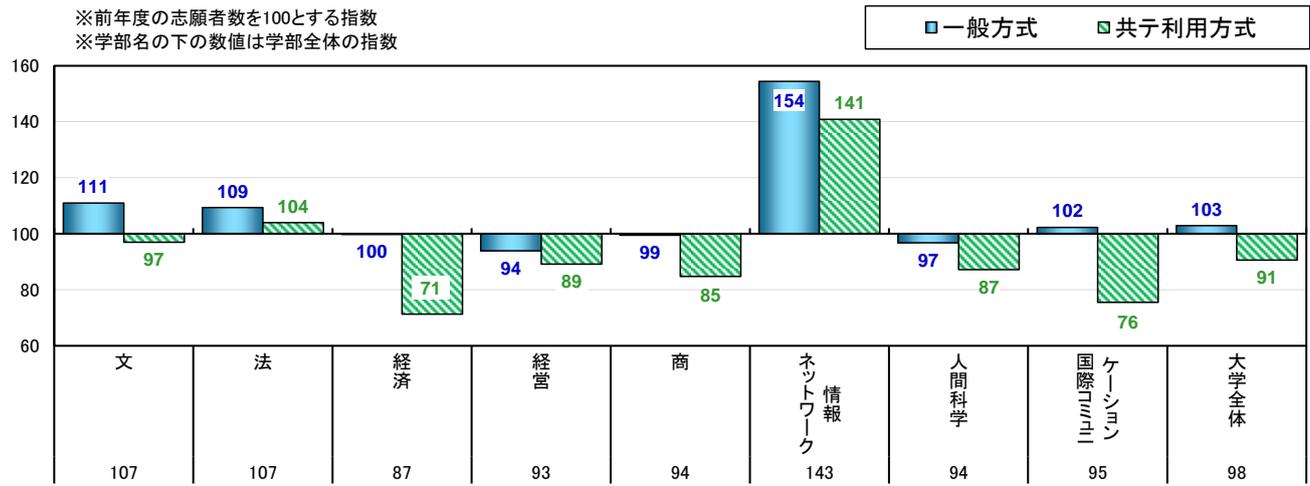
<一般方式>

- 文(107)**は、増加だが3年連続減少の反動は小さく志願者数は7,000人を下回った。学科・専攻別では、特に(地理/地域環境研究)(128)、(社会/社会福祉)(125)、(英米文)(116)はいずれも大幅増加で、いずれも前年度大幅減少の反動。一方で、(地理/地域文化研究)(85)は大幅減少で2年連続減少。
- 法(113)**は、増加で2年連続増加。学科別では、(政治)(120)は2年連続減少の反動で大幅増加、(法律/フレックスA)(111)は増加で2年連続増加。
- 経済(99)**は、2年連続前年度並。学科別では、(商)(112)は3年連続減少の反動で増加。(経済)(103)は3年連続減少の反動は小さくやや増加に留まった。一方で、(現代応用経済)(64)は大幅減少、前年度の反動による大幅増減が継続。
- 経営(95)**は、やや減少。志願者数は3,000人を下回った。学科別では、(市場戦略)(89)は減少で3年連続減少。(経営)(97)はやや減少で再び減少に転じた。
- グローバル・メディア・スタディーズ(119)**は、大幅増加で2年連続増加。方式別では、<T方式(2月)>(145)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。<S方式>(116)は、2年連続大幅増加。一方で、<T方式(3月)>(67)は3年連続大幅減少。
- 医療健康科学(92)**は、2年連続減少。方式別では、<S方式>(203)は前年度大幅減少の反動で倍以上。一方で、<T方式(2月)>(62)は大幅減少で2年連続減少。

<共通テスト利用方式>

- 文(100)**は、前年度並。学部・専攻別では、(社会/社会福祉)(156)は、前年度大幅減少の反動で50%以上の大幅増加。(地理/地域環境研究)(124)も大幅増加で2年連続増加。一方で、(英米文)(80)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 法(111)**は、前年度大幅増加の反動はなく、さらに増加で2年連続増加。学科別では、(政治)(131)は2年連続大幅増加。(法律/フレックスA)(99)は前年度大幅増加の反動はなく前年度並。
- 経済(73)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少、志願者数は2,000人を下回った。学科別では、(現代応用経済)(104)は前年度大幅増加に引き続きやや増加。一方で、(商)(51)はほぼ半減。(経済)(87)も前年度大幅増加の反動で減少。
- 経営(72)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別でも、(経営)(65)は大幅減少、(市場戦略)(92)は減少でいずれも前年度の反動。
- グローバル・メディア・スタディーズ(46)**は、前年度ほぼ倍増だった反動で半減以下。前年度の反動による大幅増減が継続。
- 医療健康科学(73)**は、前年度5年ぶりに増加に転じたが、大幅減少で再び減少に転じた。

専修大：大学全体で3年連続減少、8学部中5学部が減少 一般：+850人 共テ：-1,684人



主な入試変更点 選抜方法：文(英語英米文、歴史除く)、法、経済、経営、商、人間科学…<共テ・前期4教科型>新規実施
文(英語英米文)…<共テ・前期5教科型>新規実施
英語外部試験利用方法：<全学部統一><一般・前期A方式><一般・前期D方法><一般・前期F方式>
<共テ併用・前期AS方式><共テ併用・前期E方式>
…得点換算80点、100点の2区分→得点換算80点、90点、100点の3区分

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

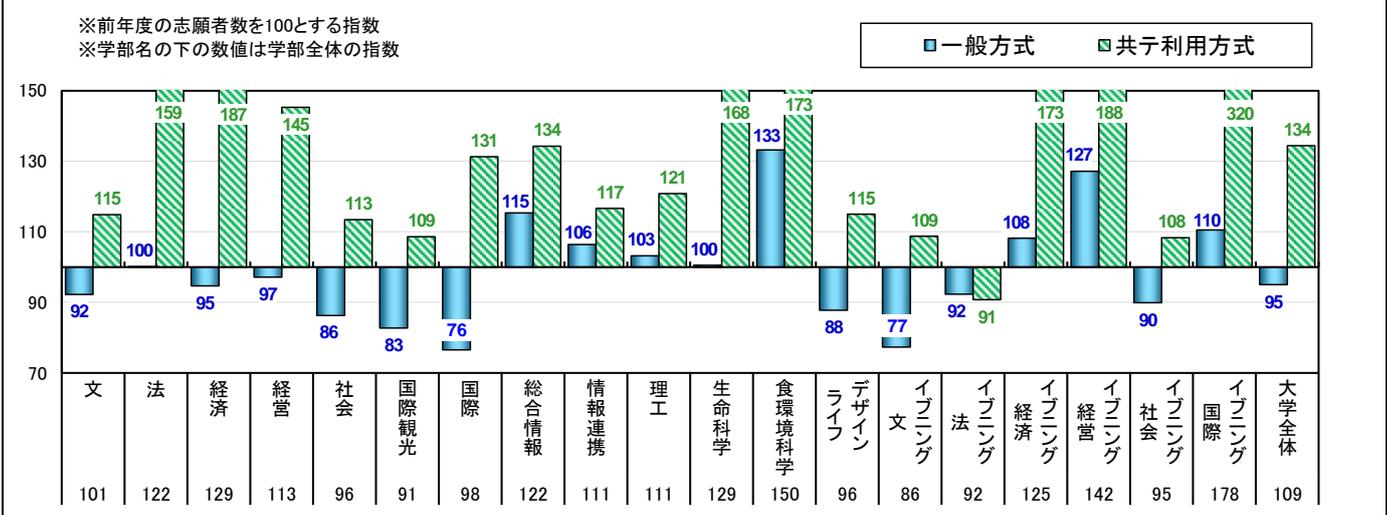
大学全体では、834人(98)の微減で3年連続減少。学部別では、(ネットワーク情報)(143)、(文)(107)、(法)(107)を除く5学部はいずれも減少。方式別では、一般方式は850人(103)のやや増加で志願者数は3万人を上回ったが、2年連続減少の反動は小さかった。共通テスト利用方式は1,684人(91)の減少で、志願者数は17,000人を下回った。

- <一般方式>**
- 文(111)は、2年連続減少の反動で増加。学科別では、(ジャーナリズム)(131)、(環境地理)(126)、(歴史)(122)は大幅増加。(日本文学文化)(108)は増加、いずれも2年連続減少の反動。一方で、(英語英米文)(90)は前年度大幅増加の反動で減少。(哲)(98)は2年連続大幅減少の反動はなく微減。
 - 法(109)は、2年連続増加。学科別では、(法律)(110)は2年連続増加。(政治)(109)は前年度大幅増加に引き続き増加。
 - 経済(100)は、3年連続増加の反動はなく前年度並。学科別では、2020年度に(経済)から改組された(現代経済)と(生活環境経済)は2学科合計では2年連続増加だが、(現代経済)(117)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(生活環境経済)(86)は前年度激増の反動で減少と対照的。(国際経済)(95)は2年連続増加の反動は小さくやや減少。
 - 経営(94)は、2年連続やや減少。学科別では、(経営)(104)は前年度やや減少の反動でやや増加。一方で、(ビジネスデザイン)(79)は大幅減少で2年連続減少。
 - 商(99)は、微減だが3年連続減少。学科別では、(会計)(101)は2年連続減少の反動はなく前年度並、(マーケティング)(98)も前年度減少の反動はなく前年度並。
 - ネットワーク情報(154)は、前年度は<全学部統一><前期A方式><後期>が一般方式から共通テスト利用方式に変更された影響で80%近い激減だった反動で、50%以上の大幅増加。しかし、2020年度志願者数の約3割に留まった。方式別では、<全国>(184)、<スカラシップ>(165)は前年度大幅減少の反動で激増。<前期F方式>(140)は募集人員が減少(募集人員の対前年度対比指数82)したが、前年度減少の反動で大幅増加。
 - 人間科学(97)は、2年連続減少の反動はなくやや減少。学科別では、(心理)(93)はやや減少で3年連続減少。(社会)(100)は、5人減少で前年度並。
 - 国際コミュニケーション(102)は、コロナ禍の影響による系統の人気低下が継続していることから、前年度大幅減少の反動は小さく微増に留まった。学科別では、(異文化コミュニケーション)(103)は前年度半減近かった反動は小さくやや増加。(日本語)(99)も前年度大幅減少の反動はなく微減。

- <共通テスト利用方式>**
- 文(97)は、やや減少で3年連続減少。学科別では、(日本文学文化)(110)は3年連続減少の反動は小さく、4年ぶりに増加したが、志願者数は500人に達しなかった。(英語英米文)(110)も増加で3年ぶりに増加に転じた。一方で、(環境地理)(55)は前年度60%近い大幅増加の反動で大幅減少。(ジャーナリズム)(70)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
 - 法(104)は、2年連続やや増加。学科別では、(法律)(114)は増加で2年連続増加。(政治)(84)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
 - 経済(71)は、前年度50%以上の大幅増加の反動で大幅減少。2016年度より、前年度の反動による増減が継続。学科別では、2020年度に(経済)から改組された(現代経済)と(生活環境経済)は2学科合計では、大幅減少で前年度の反動による増減が継続しているが、(生活環境経済)(45)は前年度3倍以上の激増の反動で半減以下の大幅減少、(現代経済)(91)は2年連続減少。(国際経済)(85)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
 - 経営(89)は、前年度増加の反動で減少。学科別では、(ビジネスデザイン)(87)は前年度90%の激増の反動で減少。経営(90)は3年連続減少。
 - 商(85)は、2年連続大幅減少。学科別では、(会計)(79)は2年連続大幅減少で3年連続減少。(マーケティング)(88)は、前年度大幅減少に引き続き2年連続減少。

- ネットワーク情報(141)は、大幅増加で2年連続増加。前年度にく全学部統一<前期A方式><後期>が、一般方式から共通テスト利用方式に変わったこともあり、志願者数は2,300人を上回った。
- 人間科学(87)は、4年連続減少。学科別では、(社会)(86)、(心理)(89)といずれも減少。
- 国際コミュニケーション(76)は、コロナ禍の影響による系統への人気低下もあり2年連続大幅減少。

東洋大：大学全体では3年ぶりに増加、共テが大幅増加 一般：-2,846人 共テ：+11,299人



主な入試変更点 選抜方法：全学部…<共テ・前期英語外部試験利用>新規実施
 文(英米文)…<共テ・前期4教科均等配点>新規実施
 (国際文化コミュニケーション)…<共テ・前期5教科均等配点>新規実施
 経営(マーケティング)…<共テ・前期5教科均等配点>新規実施
 (会計ファイナンス)…<共テ・前期3教科英語重視><共テ・前期5教科均等配点>新規実施
 社会(メディアコミュニケーション)…<一般・前期4教科均等配点>
 <一般・中期3教科国語重視>
 <共テ・中期3教科均等配点>新規実施
 (社会心理)…<共テ・中期3教科均等配点>新規実施
 国際(国際地域)…<共テ・前期3教科最高点重視>新規実施
 情報連携…<一般・後期2教科均等配点(英・情報)+面><一般・後期3教科均等配点>新規実施
 理工(生体医工)…<共テ・前期5教科均等配点>新規実施
 経営(マーケティング)…<一般・前期3教科数学重視><共テ・中期2教科均等配点>廃止
 (会計ファイナンス)…<共テ・中期3教科均等配点><共テ・後期3教科ベスト2>廃止
 情報連携…<一般・前期3教科最高点重視文系2回目、3回目>
 <一般・前期3教科均等配点文系3回目>
 <共テ・前期3教科最高点重視><共テ併用・後期3教科文系、理系>廃止
 国際(国際地域)…<共テ・前期2教科外部試験利用>廃止
 食環境科学(食環境科学)…<一般・前期3教科理科重視>廃止
 (食環境科学/フードサイエンス)…<共テ・前期3教科ベスト2>廃止

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、8,453人(109)の増加で3年ぶりの増加となったが、志願者数は2年連続で10万人を下回った。方式別では、一般方式(95)はやや減少。共通テスト利用方式(134)は英語外部試験利用を可能にしたことや新方式の導入により大幅増加で、(法イブニング)(91)以外の全ての学部が増加。学部別では、イブニングコースを除いた13学部中9学部で増加し、特に(食環境科学)(150)、(生命科学)(129)、(経済)(129)、(総合情報)(122)、(法)(122)が大幅増加。

<一般方式>

- 文(92)は、減少で3年連続減少。学科・専攻別では、(教育/初等教育)(125)は大幅増加、(教育/人間発達)(108)は増加で、いずれも前年度大幅減少の反動。一方で、(哲)(74)、(東洋思想文化)(82)は大幅減少、(史)(93)、(日本文学文化)(93)、(国際文化コミュニケーション)(95)はやや減少で、いずれも3年連続減少。
- 法(100)は、微増だが系統への人気もあって2年連続増加。学科別では、(企業法)(104)はやや増加で、2019年度以降前年度の反動による増減が継続。(法律)(98)は微減。
- 経済(95)は、やや減少で4年連続減少。学科別では、(国際経済)(123)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(総合政策)(81)は2年連続大幅減少。
- 経営(97)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(マーケティング)(112)は2年連続大幅減少の反動で増加、(会計ファイナンス)(104)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。
- 社会(86)は、減少で3年連続減少。学科別では、5学科全てが減少。特に、(社会福祉)(62)、(社会心理)(82)は大幅減少。
- 国際観光(83)は、コロナ禍の影響による系統への人気低下の影響から、前年度に引き続き大幅減少で、3年連続減少。
- 国際(76)は、コロナ禍の影響による系統への人気低下の影響から、3年連続大幅減少。学科別では、2学科ともに2年連続大幅減少。
- 総合情報(115)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。

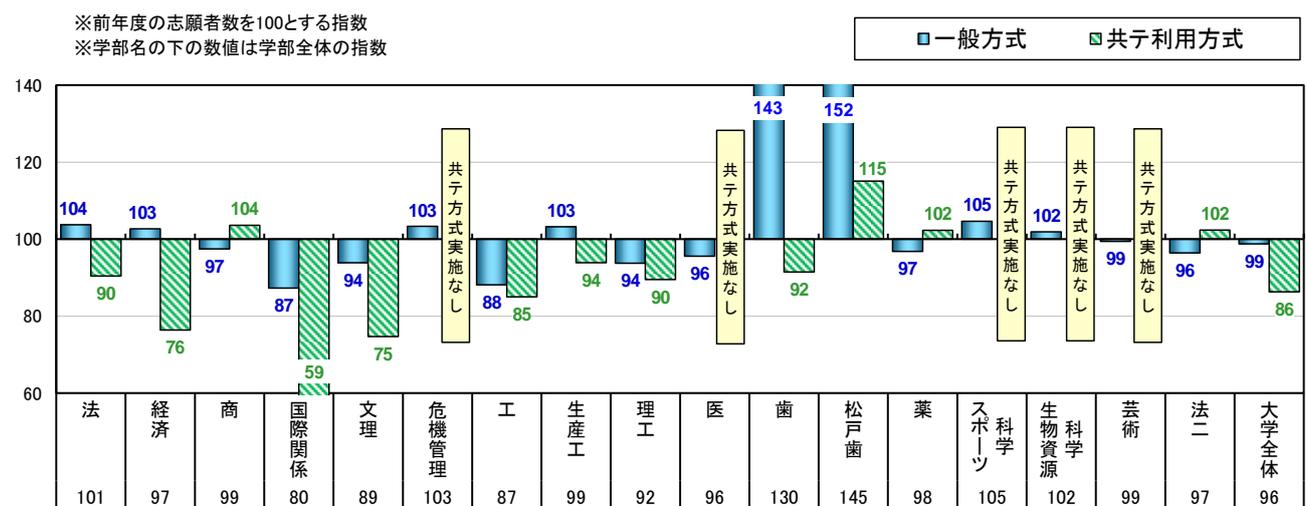
- 情報連携(106)は、〈一般・後期〉で新規実施の方式の影響もあって、やや増加で2年連続増加。
- 理工(103)は、前年度減少の反動は小さくやや増加。学科別では、(応用化)(122)は大幅増加、(機械工)(108)は増加で、いずれも前年度大幅減少の反動。一方で、(生体医工)(88)は減少で、3年連続減少。
- 生命科学(100)は、微増だが3年ぶりに増加。学科別では、(生命科学)(100)は微減だが、3年連続減少。
- 食環境科学(133)は、前年度大幅減少の反動で3年ぶりに大幅増加。学科・専攻別では、(食環境科学/スポーツ・食品機能)(177)が3年連続減少の反動で激増、(食環境科学/フードサイエンス)(144)は前年度約40%の大幅減少の反動で大幅増加、(健康栄養)(108)は増加で、2年連続増加。
- ライフデザイン(88)は、前年度やや増加の反動で減少。学科・専攻別では、(健康スポーツ)(100)以外の3学科・専攻が減少。特に、(人間環境デザイン)(67)は大幅減少で2年連続減少。

〈共通テスト利用方式〉

- 文(115)は、大幅増加で4年ぶりに増加。学科・専攻別では、(東洋思想文化)(66)以外の7学科・専攻が増加。(教育/初等教育)(176)は激増、(国際文化コミュニケーション)(154)は〈共テ・前期5教科均等配点〉の新規実施により、大幅増加。(英米文)(148)は3年連続減少の反動で大幅増加。
- 法(159)は、系統への人気もあって大幅増加で、2年連続増加。学科別では、(企業法)(189)は激増、(法律)(142)は大幅増加で、いずれも2年連続増加。
- 経済(187)は、3年連続減少の反動で激増。学科別では、(国際経済)(384)、(総合政策)(186)は激増でいずれも3年連続大幅減少の反動。(経済)(132)は、大幅増加で2年連続増加。
- 経営(145)は、大幅増加で2年連続増加。学科別では、3学科全てが大幅増加で、いずれも2年連続増加。
- 社会(113)は、増加で2年連続増加。学科別では、5学科全てが増加。改組2年目の(国際社会)(109)を除く4学科が2年連続増加。
- 国際観光(109)は、増加。しかし、2017年度の新設後2018年度から4年連続減少したが、コロナ禍の影響による系統への人気低下の影響でその反動は小さく、志願者数は1,100人に達しなかった。
- 国際(131)は、3年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、(国際地域)(140)は〈共テ・前期3教科最高点重視〉のしたことあって大幅増加。(グローバル・イノベーション)(111)は増加。
- 総合情報(134)は、3年連続減少の反動で大幅増加。
- 情報連携(117)は、大幅増加で3年ぶりに増加。
- 理工(121)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、6学科全てが増加。特に、(建築)(137)、(都市環境デザイン)(136)、(生体医工)(129)、(応用化)(115)、(機械工)(115)が大幅増加。
- 生命科学(168)は、2年連続大幅減少の反動で激増。学科別では、(生命科学)(184)は2年連続大幅減少の反動で激増、(応用生物科学)(148)は3年連続減少の反動で大幅増加。
- 食環境科学(173)は、2年連続減少の反動で激増。学科・専攻別では、(食環境科学/スポーツ・食品機能)(257)は、前年度半減以下の反動で倍以上。 (健康栄養)(182)は2年連続大幅減少の反動で激増。(食環境科学/フードサイエンス)(141)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- ライフデザイン(115)は、大幅増加で3年ぶりに増加だが、志願者数は3年連続で2,000人を下回った。学科・専攻別では、(人間環境デザイン)(80)を除く3学科・専攻が大幅増加。(生活支援/生活支援学)(140)は2年連続減少に反動で、(健康スポーツ)(129)は3年連続減少の反動で、いずれも大幅増加。

日本大：一般は前年度並、共テは2年連続減少

一般：-893人 共テ：-3,285人



主な入試変更点
 選抜方法：医、歯、松戸歯…〈一般・N2期〉新規実施
 医…〈一般・A方式〉廃止
 芸術(音楽/弦管打楽)…〈一般・N1期〉廃止
 募集人員：医〈一般・N1期〉…10人→90人
 入試科目：文理(地球科学)〈一般・A2期〉…数+理+外→数+外+(数 or 理) ※理が必須から選択へ
 医〈一般・N1期〉…〈2次〉論+面+適性検査→〈2次〉数+外+面 ※2次試験の科目変更

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数
 大学全体では、4,178人(96)のやや減少で2年連続減少となり、志願者数も2年連続で10万人を下回った。学部別では、〈一

般・N 2 期>を新規実施した松戸歯(145)、歯(130)が大幅増加、スポーツ科学(105)、危機管理(103)はやや増加。一方で、コロナ禍による系統への低い人気に影響して国際関係(80)は大幅減少。方式別では、一般方式は 893 人(99)の前年度並だったが、共通テスト利用方式は 3,285 人(86)の減少で、前年度の大幅減少に続いて 2 年連続減少。

<一般方式>

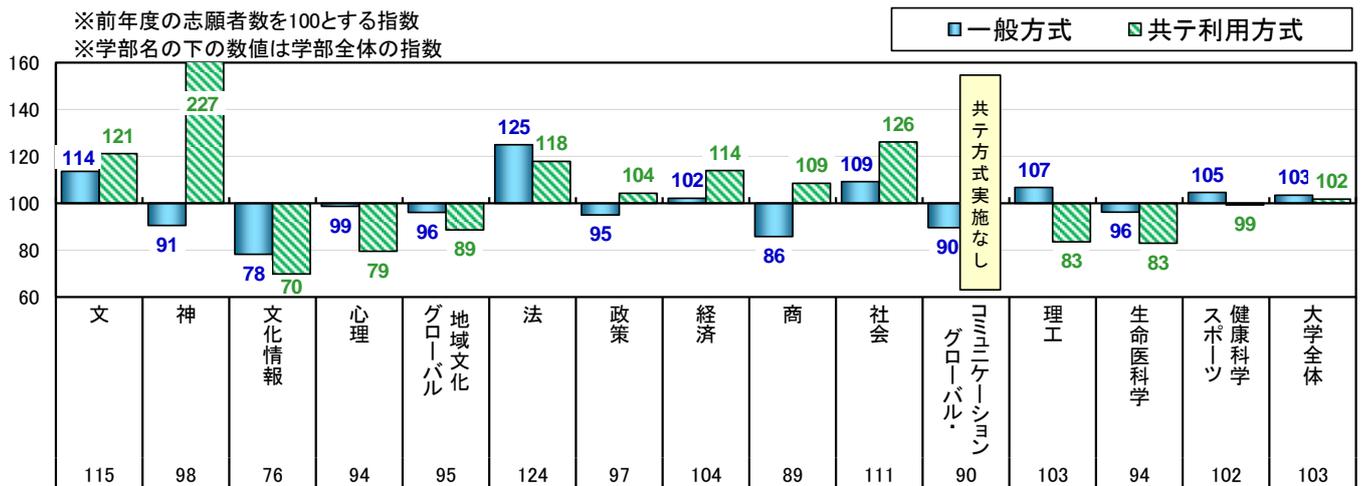
- 法(104)は、前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加。学科別では、(経営法)(136)は大幅増加、(公共政策)(113)、(法律)(108)は増加。一方で、(新聞)(83)は 2 年連続大幅減少。
- 経済(103)は、やや増加で、2019 年度以降前年度の反動による増減が継続。学科別では、(産業経営)(112)は増加で 2019 年度以降前年度の反動による増減が継続、(経済)(102)は前年度減少の反動は小さく微増に留まった。(金融公共経済)(92)は 4 年連続減少、志願者数は 5 年ぶりに 1,000 人を下回った。
- 商(97)は、3 年連続やや減少。学科別では、(会計)(109)は 2 年連続減少の反動で増加。一方で、(商業)(93)はやや減少で 2018 年度以降前年度の反動による増減が継続。
- 国際関係(87)は、減少で 2 年連続減少。学科別では、2 学科とも減少。
- 文理(94)は、やや減少で 2 年連続減少。学科別では、18 学科中 3 学科のみ増加、特に(中国語中国文化)(114)は 2 年連続大幅増加で 4 年連続増加、志願者数は 300 人を上回った。一方で、(ドイツ文)(79)、(数)(80)、(哲)(81)は大幅減少。
- 危機管理(103)は、やや増加で 2016 年度の新設以降隔年での増減が継続。方式別では、<N 1 期>(107)、<A 方式>(103)も学部全体と同じくやや増加で 2016 年度の新設以降隔年での増減が継続。。一方で、<N 2 期>(93)はやや減少で 3 年連続減少。
- 工(88)は、前年度の微減に引き続き減少。学科別では、6 学科中 5 学科が減少。唯一増加した(電気電子工)(103)は 6 年連続増加。一方で、(土木工)(60)は 2 年連続大幅減少。
- 生産工(103)は、前年度大幅減少の反動でやや増加。学科別では、9 学科中 6 学科が増加。(数理情報工)(122)は大幅増加、(マネジメント工)(107)、(創生デザイン)(107)、(電気電子工)(106)はやや増加。一方で、(建築工)(91)は減少、(応用分子化)(93)はやや減少で、いずれも 2 年連続減少。
- 理工(94)は、やや減少で 2 年連続減少。学科別では、14 学科中 12 学科が減少。特に(交通システム工)(77)、(応用情報工)(81)、(航空宇宙工)(83)は大幅減少。一方で、10%以上増加したのは(海洋建築工)のみ。
- 医(96)は、やや減少で 4 年連続減少。新設の<N 2 期>の志願者数 1,137 人が廃止した<A 方式>の前年度志願者数 2,737 人対比で(42)と大幅減少で、募集人員を 9 倍に増員した<N 1 期>(341)の志願者数増加も 2 次試験の教科試験負担増で約 3.4 倍増に留まった。
- 歯(143)は、大幅増加。新規の<N 2 期>の志願者数は 127 人。既存の方式別では、<N 1 期>(161)は激増。一方で、<A 方式>(93)は、やや減少で 3 年連続減少。
- 松戸歯(152)は、大幅増加。新規の<N 2 期>の志願者数は 63 人。既存の方式別では、<N 1 期>(171)は激増、<A 1 期>(119)は 2 年連続大幅減少の反動で大幅増加。一方で、<A 2 期>(85)は 3 年連続大幅減少。
- 薬(97)は、やや減少で 4 年連続減少、志願者数は 2 年連続で 1,000 人を下回った。方式別では、<N 1 期>(133)は前年度やや減少の反動で大幅増加。一方で、<A 方式>(85)は 2 年連続大幅減少で 4 年連続減少。
- スポーツ科学(105)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。方式別では、<N 1 期>(115)は大幅増加、<N 2 期>(113)は増加、いずれも前年度大幅減少の反動。一方で、<A 方式>(93)はやや減少で 2 年連続減少。
- 生物資源科学(102)は、前年度大幅減少の反動は小さく微増。学科別では、12 学科中 8 学科が増加、特に、(生命化)(109)、(海洋生物資源科学)(108)、(食品生命)(108)、(動物資源科学)(108)の増加が目立った。一方で、(生物環境工)(90)、(応用生物科学)(91)、(くらしの生物)(92)の 4 学科が減少。

<共通テスト利用方式>

- 法(90)は、前年度半減に近かった反動はなく、さらに減少。学科別では、減少した(経営法)(56)、(政治経済)(60)、(公共政策)(84)の 3 学科は大幅減少で 2 年連続減少。
- 経済(76)は、2 年連続大幅減少。学科別では、(金融公共経済)(128)、(産業経営)(120)はいずれも前年度激減の反動で大幅増加。一方で、(経済)(61)は大幅減少で 2 年連続減少。
- 商(104)は、2 年連続減少の反動は小さくやや増加に留まり、志願者数は 3 年連続 2,000 人を下回った。学科別では、(会計)(154)、(経営)(123)は大幅増加。一方で、(商業)(74)は大幅減少で、2018 年度以降前年度の反動による増減が継続。
- 国際関係(59)は、2 年連続で大幅減少。学科別では、(国際総合政策)(49)は半減以下、(国際教養)(71)は 4 年連続大幅減少。
- 文理(75)は、大幅減少。前年度 4 年ぶりに増加したが、再度減少に転じた。学科別では、18 学科中 15 学科が減少。特に(英文)(43)は半減以下で志願者数は 150 人を下回った。一方で、(中国語中国文化)(172)は 2 年連続大幅増加、(ドイツ文)(111)は増加だが、前年度半減以下の反動は小さかった。
- 工(85)は、大幅減少で 2 年連続減少。学科別では、(電気電子工)(114)のみ増加で、これ以外の 5 学科はいずれも減少。特に、(土木工)(60)、(情報工)(78)、(建築)(81)、(機械工)(84)の 4 学科は大幅減少。
- 生産工(94)は、やや減少で 2 年連続減少。学科別では、(環境安全工)(139)、(マネジメント工)(137)は大幅増加で、いずれも前年度大幅減少の反動。一方で、(建築工)(76)、(応用分子化)(85)、(数理情報工)(85)は大幅減少で、いずれも 2 年連続大幅減少、(電気電子工)(84)も大幅減少で、3 年連続減少。
- 理工(90)は、前年度の大幅減少に引き続き減少。学科別では、14 学科中 9 学科が減少。特に、(航空宇宙工)(71)、(数)(79)、(精密機械工)(84)、(電気工)(84)は大幅減少で、いずれも 2 年連続減少。(建築)(74)、(応用情報工)(75)も大幅減少。一方で、(土木工)(134)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(海洋建築工)(110)、(交通システム工)(108)は増加、(物質応用化)(105)はやや増加。
- 歯(92)は、減少で 3 年連続減少。方式別では、共通テスト後の出願締切日の(C 2 期)(56)は共通テストの平均点ダウンの影響を大きく受けて大幅減少。
- 松戸歯(115)は、3 年連続大幅減少の反動で大幅増加。方式別では、(C 1 期)(156)は 3 年連続減少の反動で大幅増加だが、共通テスト後の出願締切日の(C 2 期)(52)は共通テストの平均点ダウンの影響を大きく受けて半減近い大幅減少。
- 薬(102)は、微増だが 5 年ぶりに増加。しかし、志願者数は、3 年連続で 400 人を下回った。

同志社大：大学全体では4年ぶりに増加

一般：+1,236人 共テ：+137人



主な入試変更点 選抜方法：理工(情報システムデザイン)〈一般・全学部(文系)〉…廃止
 入試科目：文(英文)〈共テ併用・A方式〉…〈共テ〉外+〈個〉口頭試験 ※英語で実施
 →〈共テ〉外+〈個〉口頭試験 ※英語と日本語で実施

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、1,373人(103)のやや増加で4年ぶりに増加。方式別では、一般方式(103)はやや増加で4年ぶりに増加、共通テスト利用方式(102)は微増だが3年ぶりに増加。学部別では、法(124)、文(115)は大幅増加、社会(111)は増加、経済(104)、理工(103)はやや増加。一方で、文化情報(76)は大幅減少、前年度唯一増加の商(89)は減少、グローバル・コミュニケーション(90)も減少、心理(94)、生命医科学(94)、グローバル地域文化(95)、政策(97)はやや減少。

〈一般方式〉

- 文(114)は、増加で4年ぶりに増加。学科別では、全ての学科で増加し、(国文)(131)、(哲)(125)、(美学芸術)(115)は大幅増加、(英文)(108)は増加、(文化史)(101)は微増。
- 文化情報(78)は、大幅減少で4年連続減少。方式別では、全ての方式で減少し、〈学部文系〉(68)は前年度唯一増加したが大幅減少、〈A方式・共テ併用〉(73)、〈全学理系〉(76)も大幅減少、〈学部理系〉(88)は減少、〈全学文系〉(93)はやや減少。
- 心理(99)は、微減だが4年連続減少。方式別では、〈全学文系〉(102)は微増だが、〈学部個別〉(96)、〈全学理系〉(97)はいずれもやや減少。
- グローバル地域文化(96)は、コロナ禍の影響もあってやや減少で2年連続減少。コース別では、(グローバル地域文化/アメリカ)(124)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(グローバル地域文化/アジア太平洋)(86)、(グローバル地域文化/ヨーロッパ)(90)はいずれも減少。
- 法(125)は、系統への高い人気もあって大幅増加で3年ぶりに増加。学科別では、全ての学科で大幅増加し、(法律)(127)は4年ぶりの増加、(政治)(118)は2年連続増加。
- 政策(95)は、やや減少で2年連続減少。
- 経済(102)は、微増だが4年ぶりに増加。
- 商(86)は、前年度大幅増加の反動で減少。コース別では、(商/フレックス複合)(80)は大幅減少で5年連続減少、(商/商学総合)(87)は前年度大幅増加の反動で減少。
- 社会(109)は、増加で4年ぶりに増加。学科別では、(社会)(78)は前年度大幅増加の反動で大幅減少だが、その他の学科はいずれも増加。特に、(社会福祉)(174)は前年度大幅減少の反動で激増。
- グローバル・コミュニケーション(90)は、コロナ禍の影響もあって減少で2年連続減少。コース別では、全てのコースで減少し、(グローバル・コミュニケーション/中国語)(66)は2年連続大幅減少、(グローバル・コミュニケーション/英語)(98)は微減で4年連続減少。
- 理工(107)は、やや増加。学科別では、(情報システムデザイン)(126)は〈全学部(文系)〉を廃止したが、大幅増加で4年ぶりに増加、(環境システム)(123)、(機械システム工)(121)は大幅増加。一方で、(機械理工)(76)は大幅減少。
- 生命医科学(96)は、やや減少で3年連続減少。学科別では、(医情報)(112)は前年度大幅減少の反動で増加。一方で、(医工)(86)は前年度大幅増加の反動で減少。
- スポーツ健康科学(105)は2年連続減少の反動は小さくやや増加。方式別では、全ての方式で増加だが、〈学部理系〉(109)の増加率が高かった。

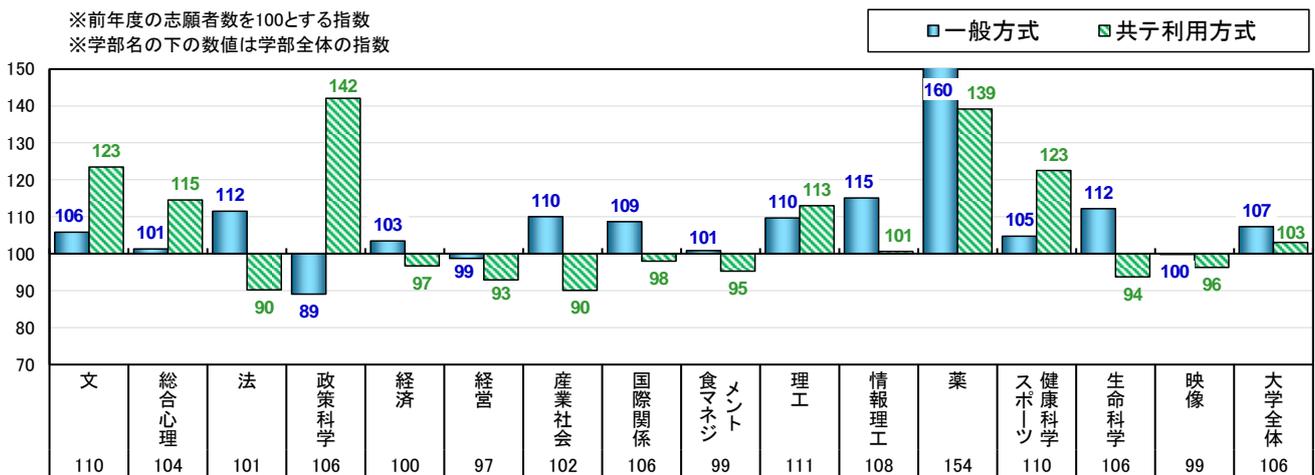
〈共通テスト利用方式〉

- 文(121)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、全ての学科で増加し、(哲)(145)、(国文)(140)は大幅増加、(英文)(114)、(美学芸術)(112)、(文化史)(110)は増加。
- 文化情報(70)は、2年連続大幅減少。
- グローバル地域文化(89)は、コロナ禍の影響もあって減少で3年連続減少。コース別では、全てのコースで減少し、(グローバル地域文化/アメリカ)(72)は大幅減少、(グローバル地域文化/ヨーロッパ)(91)は減少。
- 法(118)は、系統への高い人気もあって大幅増加で3年ぶりに増加。学科別では、全ての学科で増加し、(法律)(121)は大幅増加。

- 政策(104)は、やや増加で3年連続増加。方式別では<共テ・4科目>(138)は大幅増加だが、<共テ・3科目>(93)はやや減少。
- 商(109)は、増加で3年ぶりに増加。
- 社会(126)は、大幅増加で3年ぶりに増加。学科別では、(教育文化)(201)は2倍以上の激増で3年ぶりに増加、(社会福祉)(159)は前年度に2020年度比19%の志願者数激減した反動で大幅増加。一方で、(産業関係)(37)は激減で3年連続減少し、志願者は1桁になった。(社会)(58)は2年連続大幅減少。
- 理工(83)は、大幅減少で3年連続減少。学科別では、(数理システム)(127)、(環境システム)(118)は大幅増加、(情報システムデザイン)(106)はやや増加。一方で、(機械理工)(49)、(機能分子・生命化)(61)、(機械システム工)(67)、(電子工)(74)は大幅減少、(インテリジェント情報)(88)、(化学システム・創成工)(88)は減少、(電気工)(94)はやや減少。
- 生命医科学(83)は、3年連続大幅減少。学科別では、(医情報)(119)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(医工)(67)は大幅減少で4年連続減少、(医生命システム)(78)も大幅減少で3年連続減少。
- スポーツ健康科学(99)は、微減だが3年連続減少。方式別では、<競技力>(129)は前年度半減の反動で大幅増加。一方で、<5科目>(90)は2年連続減少、<3科目>(91)は3年連続減少。

立命館大：大学全体では4,823人のやや増加

一般：+3,905人 共テ：+918人



主な入試変更点

選抜方法：情報理工(情報理工/情報システムグローバル)<共テ+面接グローバル方式>
 …対面での面接 ※新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、オンライン面接に変更
 →オンライン面接 ※対面での面接廃止

募集人員：経営(国際経営)…<全学統一・文系>44人→41人
 産業社会(現代社会/現代社会)…<全学統一・文系>130人→133人
 (現代社会/メディア社会)…<全学統一・文系>68人→75人
 (現代社会/子ども社会)…<全学統一・文系>23人→20人、
 国際関係(国際関係/国際関係)…<全学統一・文系>76人→79人、
 <学部個別・文系>10人→7人
 <共テ・7科目型、5教科型、3教科型>13人→10人
 情報理工(情報理工/情報システムグローバル除く)…<全学統一・理系>169人→174人
 薬(薬)…<薬学>25人→28人
 (創薬科学)…<薬学>12人→16人

出願方法：薬(薬、創薬科学)<薬学><全学統一・理系>…2学科併願制の新規導入

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前年度大幅減少の反動で4,823人(106)のやや増加となったが、志願者数は2年連続で9万人を下回った。方式別では、一般方式3,905人(107)、共通テスト利用方式918人(103)のいずれもやや増加。学部別では、経営(97)がやや減少、食マネジメント(99)、映像(99)、経済(100)の微減を除く11学部が増加で、特に薬(154)は5割以上の大幅増加。

<一般方式>

- 文(106)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。学域別では、(人文/言語コミュニケーション)(142)、(人文/日本史研究)(121)、(人文/人間研究)(120)、(人文/日本文学研究)(115)は大幅増加。一方で、(人文/地域研究)(86)、(人文/国際文化)(89)は減少、(人文/国際コミュニケーション)(96)はやや減少。
- 総合心理(101)は、3年連続減少の反動は小さく微増。方式別では、<学部個別・文系>(124)、<学部個別・理1型>(116)はいずれも大幅増加。一方で、<全学統一・文系>(96)はやや減少。
- 法(112)は、3年連続減少の反動と系統への人気の高まりから増加。方式別では、<全学統一・文系>(119)は大幅増加。一方で、<学部個別・文系>(88)は減少。それぞれ3年ぶりの増減。
- 政策科学(89)は、減少で4年連続減少。方式別では、<後期分割>(148)は大幅増加。一方で、<学部個別・文系>(62)、<全学統一・文系>(83)はいずれも大幅減少。
- 経済(103)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。専攻別では、(経済/国際)(104)、(経済/経済)(103)はいずれもやや増加。
- 経営(99)は、前年度大幅減少に引き続き微減で2年連続減少。学科別では、(国際経営)(97)はやや減少、(経営)(99)は微減

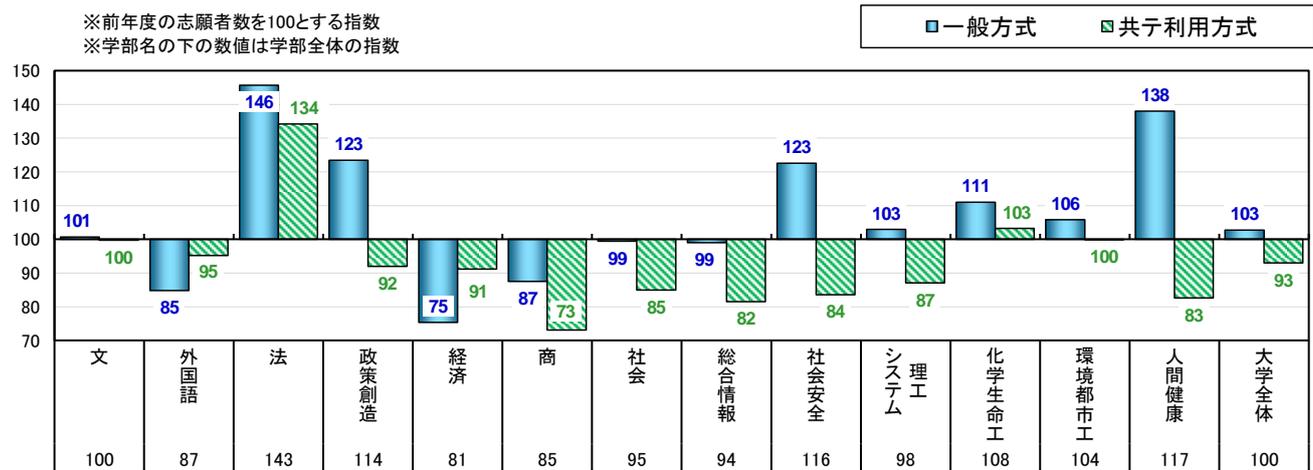
だが2年連続減少。

- 産業社会(110)は、2年連続減少の反動で増加。専攻別では、(現代社会/スポーツ社会)(133)は大幅増加で4年ぶりに志願者数が600人を上回り、(現代社会/現代社会)(117)は2年連続減少の反動で大幅増加、(現代社会/人間福祉)(108)は前年度大幅減少の反動で増加、(現代社会/子ども社会)(106)は前年度大幅減少の反動でやや増加。一方で、(現代社会/メディア社会)(91)は前年度大幅増加の反動で5専攻中唯一減少。
- 国際関係(109)は、増加で前年度の反動による増減が継続。専攻別では、(国際関係/グローバル・スタディーズ)(120)は前年度減少の反動で大幅増加、(国際関係/国際関係)(107)も前年度減少の反動でやや増加。
- 食マネジメント(101)は、微増だが2018年度の新設以降で初めての増加。方式別では、〈理系型3教科〉(135)は大幅増加、〈後期分割〉(112)は増加、〈学部個別・文系〉(103)はやや増加で2年連続増加。一方で、〈全学統一・文系〉(93)はやや減少で新設2年目の2019年度以降4年連続減少。
- 理工(110)は、前年度大幅減少の反動で増加。学科・コース別では、(環境都市工)(131)、(建築都市デザイン)(122)、(電気電子工)(116)は大幅増加、(電子情報工)(111)、(物理科学)(110)、(数理科学/数学)(109)は増加。一方で、(機械工)(95)はやや減少、(ロボティクス)(98)、(数理科学/データサイエンス)(99)は微減だがいずれも2年連続減少。
- 情報理工(115)は、前年度減少の反動で大幅増加。前年度の反動による増減が継続。
- 薬(160)は、一部の方式での2学科併願制の新規導入、前年度大幅減少の反動に加えて系統への高い人気から激増。学科別では、(創薬科学)(260)は2.6倍の激増、(薬)(130)は大幅増加。方式別では、2学科併願制の新規導入をした〈薬学〉(189)、〈全学統一・理系〉(162)はいずれも激増。
- スポーツ健康科学(105)は、2年連続減少の反動は小さくやや増加に留まった。方式別では、〈全学統一・文系〉(110)は増加。一方で、〈学部個別・文系〉(84)は2年連続大幅減少、〈理系型3教科〉(93)はやや減少で2年連続減少。
- 生命科学(112)は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、すべて増加で、(生命情報)(127)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(生命医科学)(111)、(生物工)(108)は増加。
- 映像(100)は、前年度並。方式別では、〈全学統一・文系〉(107)はやや増加。一方で、〈後期分割〉(80)は大幅減少、〈学部個別・文系〉(89)は減少、〈学部個別・理1型〉(94)はやや減少。

〈共通テスト利用方式〉

- 文(123)は、5年連続減少の反動で大幅増加。学域別では、すべて増加で、(人文/言語コミュニケーション)(205)は倍以上、(人文/国際コミュニケーション)(152)、(人文/人間研究)(133)、(人文/日本史研究)(124)、(人文/東アジア研究)(122)は大幅増加。
- 総合心理(115)は、大幅増加で6年ぶりに増加。
- 法(90)は、減少で3年連続減少、志願者数も3,000人を下回った。
- 政策科学(142)は、3年連続減少の反動で大幅増加。
- 経済(97)は、やや減少で2年連続減少。専攻別では、(経済/経済)(102)は微増だが、(経済/国際)(44)は半減以下の大幅減少で2年連続減少。
- 経営(93)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(国際経営)(106)は前年度半減以下の反動は小さくやや増加に留まった。一方で、(経営)(91)は減少で2年連続減少。
- 産業社会(90)は、減少で2年連続減少。専攻別では、5専攻すべてが減少。特に(現代社会/人間福祉)(76)は前年度の半減以下に引き続き大幅減少で志願者数は400人を下回った。(現代社会/メディア社会)(80)も2年連続大幅減少。
- 国際関係(98)は、(国際関係)のみの募集で、5年連続減少。
- 食マネジメント(95)は、やや減少で3年連続志願者数は900人を下回った。
- 理工(113)は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別・コース別では、(環境都市工)(152)、(建築都市デザイン)(123)、(数理科学/数学)(122)は大幅増加、(物理科学)(112)、(電気電子工)(111)、(ロボティクス)(109)は増加。いずれも前年度減少の反動。一方で、(機械工)(96)はやや減少で2年連続減少。
- 薬(139)は、大幅増加で5年ぶりに増加。学科別では、2学科とも大幅増加で、(創薬科学)(171)は3年連続減少の反動で激増、(薬)(126)も5年連続減少の反動で大幅増加。
- スポーツ健康科学(123)は、大幅増加で4年ぶりに増加。方式別では、〈共テ・後期型〉(232)、〈後期分割〉(219)はいずれも倍以上の激増、〈共テ併用〉(110)、〈共テ・7科目型〉(110)はいずれも増加。
- 生命科学(94)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(生命情報)(108)は前年度大幅減少の反動で増加。一方で、(生物工)(85)は大幅減少で3年連続減少、(生命医科学)(93)、(応用化)(94)は2年連続減少。
- 映像(96)は、やや減少。方式別では、〈共テ併用〉(110)は増加、〈共テ・5教科型〉(104)はやや増加。一方で、〈共テ・後期型〉(65)は前年度3.7倍以上の激増の反動で大幅減少、〈共テ・3教科型〉(87)は減少。

関西大：大学全体では3年連続減少、共テは11学部で減少 一般：+1,523人 共テ：-1,638人



主な入試変更点 学科名称：環境都市工(エネルギー・環境工)→環境都市工(エネルギー環境・化学工)

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では115人(100)の微減だが3年連続減少。学部別では、増加7学部、減少6学部とほぼ拮抗。方式別では、一般方式は1,523人(103)のやや増加で3年連続減少の反動は小さかった。共通テスト利用方式は1,638人(93)のやや減少で前年度増加の反動が見られた。学部別では、法(134)、化学生命工(103)を除く11学部が減少。特に、商(73)の30%近い大幅減少が目立った。

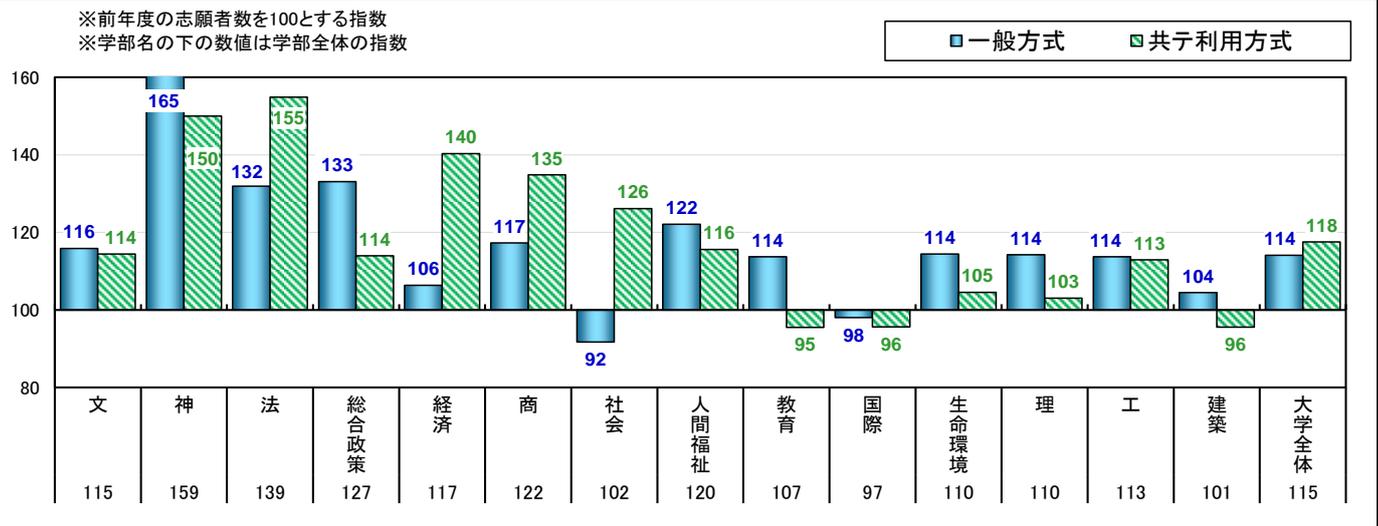
<一般方式>

- 文(101)は、2年連続減少の反動はなく、微増に留まった。
- 外国語(85)は、系統への低い人気も影響して大幅減少で、4年連続減少。その結果、志願倍率は2018年度の27.2倍→18.7倍にダウン。
- 法(146)は、前年度大幅減少の反動と系統への人気の高まりもあって大幅増加。志願倍率は15.0倍→21.9倍にアップ。なお、2019年度以降、志願者数は前年度の反動による増減が継続。
- 政策創造(123)は、3年連続減少の反動で、大幅増加。
- 経済(75)は、大幅減少で2年連続減少。志願者数および志願倍率はそれぞれ6,000人、20倍を下回った。
- 商(87)は、減少で5年連続減少。志願者数は約6,000人まで減少し、志願倍率も19倍を下回った。
- 社会(99)は、微減だが4年連続減少。
- 総合情報(99)は、微減だが3年連続減少。
- 社会安全(123)は、4年連続減少の反動で大幅増加、志願倍率も2年ぶりに20倍を上回った。
- システム理工(103)は、前年度大幅減少の反動でやや増加。
- 化学生命工(111)は、前年度大幅減少の反動で増加。
- 環境都市工(106)は、やや増加で4年ぶりに増加。
- 人間健康(138)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も17.2倍→23.7倍にアップ。

<共通テスト利用方式>

- 文(100)は、前年度大幅増加の反動はなく、前年度並。
- 外国語(95)は、やや減少で3年連続減少。
- 法(134)は、4年ぶりに大幅増加。
- 政策創造(92)は、減少で3年連続減少。
- 経済(91)は、前年度募集人員の増加により激増した反動で減少。
- 商(73)は、前年度激増の反動で大幅減少。
- 社会(85)は、大幅減少で4年連続減少。
- 総合情報(82)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 社会安全(84)は、前年度半減以下の反動はなく大幅減少で、3年連続大幅減少。
- システム理工(87)は、5年連続増加の反動で減少、志願者数は3年ぶりに2,500人を下回った。
- 化学生命工(103)は、やや増加で、5年連続増加、志願者数は2年連続で1,500人を上回った。
- 環境都市工(100)は、1人のみの微減で前年度並。
- 人間健康(83)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。

関西学院大：一般、共テ共に選抜方式の拡大で2年連続増加 一般：+3,183人 共テ：+1,937人



主な入試変更点 選抜方法：〈全学部〉…2日間とも全14学部で実施
 ※文、神、法、経済(文系型)、商、社会、人間福祉、教育(文系型)、国際は2022年度から2日間実施
 文、神、法、総合政策、経済、商、社会、人間福祉、教育、国際…〈共テ・1月7科目型〉新規実施
 生命環境、理、工、建築…〈共テ・関学数学併用3教科必須型〉廃止
 入試科目：文、神、法、総合政策、経済、商、社会、人間福祉、教育、国際〈一般・学部個別〉…外+〔(国+歴+数)→2〕→国+外+(歴 or 数)
 ※国が選択から必須に
 教育(教育/初等教育)〈一般・学部個別主体性評価方式文系型〉…外+〔(国 or 歴 or 数)→2〕+調→国+外+(歴 or 数)+調
 ※国が選択から必須に

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、〈全学部〉の14学部全ての2日間実施や〈共テ・1月7科目型〉の新規実施など受験生にとって利便が増す選抜方法の拡大によって、5,120人(115)の大幅増加で、2年連続増加。学部別では、コロナ禍の影響で系統への人気は低下している国際(97)を除いた13学部が増加。方式別では、一般方式は3,183人(114)の増加。特に、〈全学部〉が前述の入試機会の拡大により2,783人(119)の大幅増加。共通テストの平均点ダウンにより、難関国公立大からの併願増加も影響した。共通テスト利用方式は〈1月7科目型〉の新規実施の影響もあり、1,937人(118)の大幅増加。学部別では、14学部中11学部で増加し、特に法(155)、神(150)、経済(140)、商(135)、社会(126)、人間福祉(116)が大幅増加。

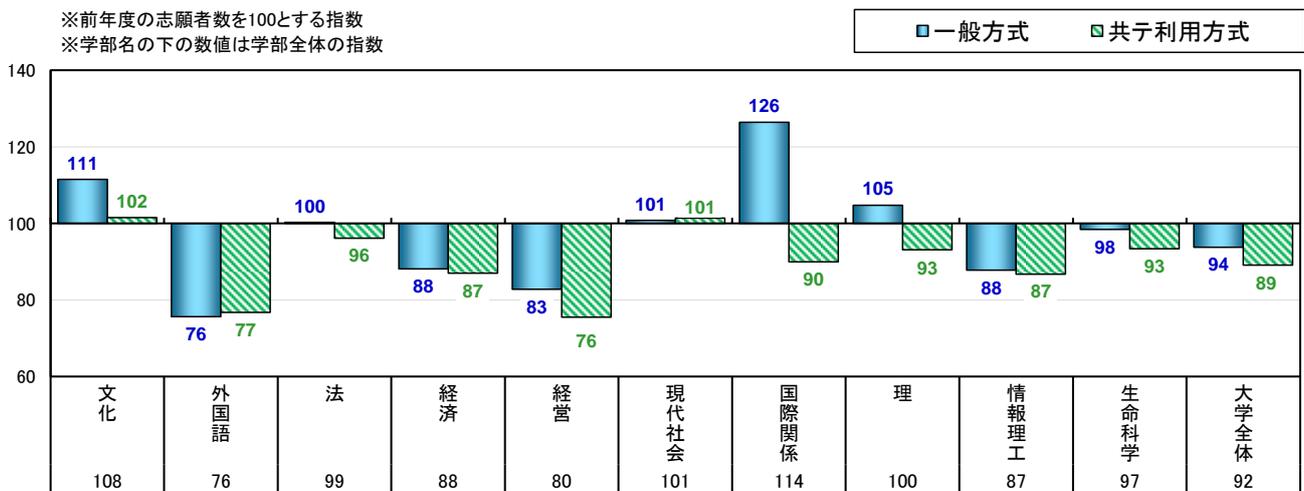
- 〈一般方式〉**
- 文(116)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。専修別では、2年連続大幅減少の(文化歴史/日本史学)(78)を除いた10学科・専修が増加。特に、(文化歴史/地理学地域文化学)(162)、(文化歴史/美学芸術学)(159)は50%以上の大幅増加。
 - 法(132)は3年連続減少の反動に系統への人気の高まりも加わり大幅増加。学科別では、(政治)(142)は3年連続大幅減少の反動で大幅増加、(法律)(129)は2年連続減少の反動で大幅増加。
 - 総合政策(133)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。学部全体の募集人員増加があったが、志願倍率は6.8倍→8.4倍にアップ。
 - 経済(106)は、3年連続減少の反動は小さくやや増加に留まった。方式別では、〈全学文系〉(113)の増加が目立った。
 - 商(117)は、大幅増加で、前年度の反動による増減が継続。方式別では、〈英数型〉(171)が前年度大幅減少かつ3年連続減少の反動で激増。
 - 社会(92)は、系統への低い人気も影響して5年連続減少。方式別では、3方式全てが減少で、特に〈英数型〉(54)はほぼ半減。
 - 人間福祉(122)は、3年連続大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(社会起業)(183)は3年連続大幅減少の反動で激増、(人間科学)(122)は3年連続減少の反動で大幅増加。(社会福祉)(97)はやや減少で4年連続減少。
 - 教育(114)は、4年連続減少の反動で増加。学科・コース別では、3学科・コース全てが前年度と逆の増減で、(教育/教育科学)(90)は2年連続減少、他の2コースは大幅増加で、(教育/幼児教育)(121)は2年連続増加。
 - 国際(98)は、コロナ禍の中で系統への人気は低下しており、微減だが2年連続減少で、志願者数は900人を下回った。方式別では、〈全学英语〉(83)は大幅減少。
 - 生命環境(114)は、改組2年目で増加。学科・専攻別では、(生物科学)(131)、(環境応用化)(129)、(生命医科学/発生再生医科学)(124)はいずれも大幅増加。一方で、(生命医科学/生命医科学)(72)は大幅減少。
 - 理(114)は、改組2年目で増加。3学科全てが増加で、特に(数理科学)(122)、(物理・宇宙)(115)が大幅増加。
 - 工(114)は、改組2年目で、系統への人気の高まりも影響して増加。課程別では、4課程中3課程が増加、特に(電気電子応用工)(165)が激増、(物質工)(134)が大幅増加。
 - 建築(104)は、改組2年目でやや増加。方式別では、〈英数型〉(82)のみ大幅減少。

- 〈共通テスト利用方式〉**
- 文(114)は、増加で3年ぶりに増加。ただし、新設の〈共テ・1月7科目型〉を除くと、(70)の大幅減少。専修別では、(文化歴史/哲学倫理学)(189)、(文化歴史/美学芸術学)(175)、(文学言語/フランス文学フランス語学)(170)は激増、一方で(文化歴史/西洋史学)(80)、(文学言語/英米文学英語学)(84)は大幅減少。
 - 法(155)は、3年連続減少の反動と系統への人気の高まりから大幅増加。学科別では、2学科とも大幅増加で、(法律)(156)は2年連続減少の反動で50%以上の大幅増加、(政治)(148)は2019年度から3年連続大幅減少の反動で大幅増加。
 - 総合政策(114)は、3年連続減少の反動で増加。方式別では、〈共テ・数学併用型〉(146)が大幅増加。

- 経済(140)は、4年連続減少の反動で大幅増加。
- 商(135)は、3年連続減少の反動で大幅増加。
- 社会(126)は、4年連続減少の反動で大幅増加。
- 人間福祉(116)は、3年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、(社会起業)(159)は3年連続大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(人間科学)(98)の微減だが4年連続減少。
- 教育(95)は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。学科・コース別では、(教育/初等教育)(109)のみ増加で2年連続増加。一方で、(教育/幼児教育)(81)は大幅減少、(教育/教育科学)(89)は前年度大幅増加の反動で減少。
- 国際(96)は、コロナ禍の中で系統への人気は低下しており、やや減少だが5年連続減少。
- 生命環境(105)は、改組2年目でやや増加。学科・専攻別では、(環境応用化学)(156)が50%以上の大幅増加。一方で、(生命医科学/生命医科学)(53)、(生命医科学/医工学)(68)はいずれも大幅減少。
- 理(103)は、改組2年目でやや増加。学科別では、(化学)(90)のみ減少。
- 工(113)は、改組2年目で増加。課程別では、(知能・機械工)(96)のみがやや減少で、他の3課程は増加。特に、(電気電子応用工)(155)、(物質工)(137)は大幅増加。
- 建築(96)は、改組2年目でやや減少、志願者数は600人を下回った。

京都産業大：大学全体では2年連続減少、6学部が減少

一般：-1,686人 共テ：-1,504人



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、3,190人(92)の減少で2年連続減少。志願者数は、4万人を下回った。方式別では、一般方式は1,686人(94)のやや減少、共通テスト利用方式は1,504人(89)の減少で、いずれも2年連続の減少。学部別では、国際関係(114)、文化(108)は増加、現代社会(101)、理(100)は微増だが、その他の6学部はいずれも減少。

＜一般方式＞

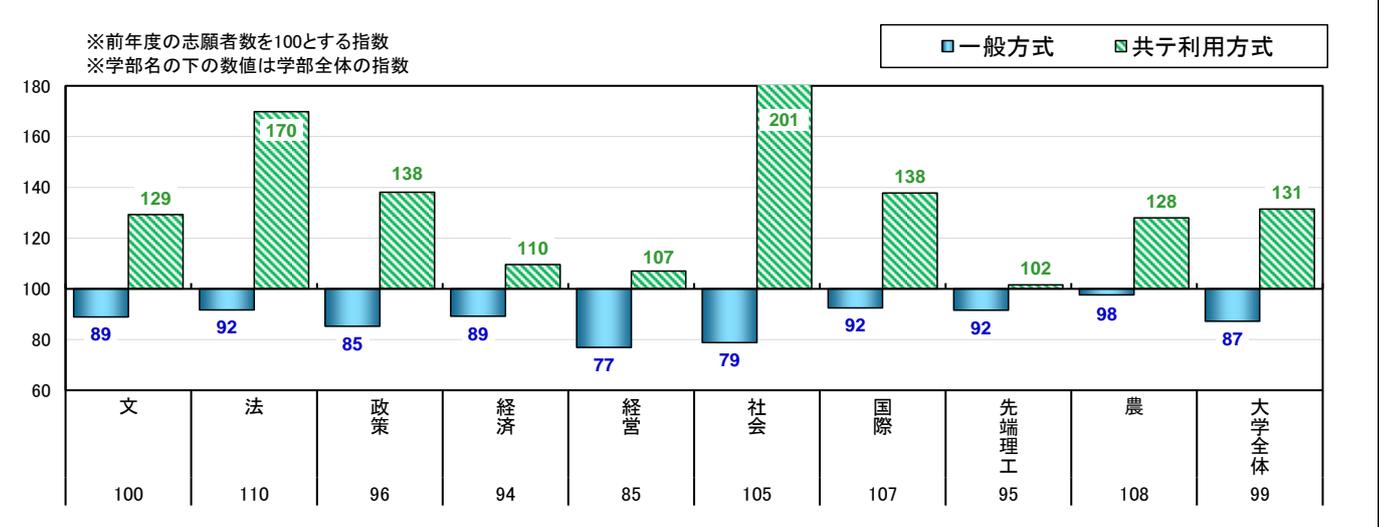
- 文化(111)は、増加。学科別では、(京都文化)(114)は、前年度大幅増加に引き続き2年連続増加、(国際文化)(109)は増加で前年度の反動による増減が継続。
- 外国語(76)は、コロナ禍による系統への低人気に影響し、2年連続大幅減少。学科別では、3学科いずれも2年連続減少で、(英語)(62)、(アジア言語)(79)は大幅減少、(ヨーロッパ言語)(90)は前年度半減に近い減少に引き続き減少。
- 法(100)は、前年度並。学科別では、(法律)(101)は微増で3年ぶり増加、(法政策)(99)は微減だが2年連続減少。
- 経済(88)は、減少で3年連続減少。志願者数は、4,000人を下回った。方式別では、<後期>(54)は2年連続大幅減少、<前期>(91)は減少で3年連続減少、<中期>(98)は前年度並。
- 経営(83)は、2年連続大幅減少。方式別では、<後期>(76)は3年連続大幅減少、<前期>(80)は2年連続大幅減少、<中期>(100)は前年度並。
- 現代社会(101)は、前年度大幅減少の反動はなく前年度並。学科別では、(現代社会)(106)はやや増加で、前年度の反動による増減が継続、(健康スポーツ社会)(93)はやや減少で3年連続減少。
- 国際関係(126)は、大幅増加で2019年度新設後初の増加。方式別では、<前期>(128)、<中期>(128)は大幅増加、<後期>(106)はやや増加。
- 理(105)は、やや増加。学科別では、(宇宙物理・気象)(110)は4年ぶり増加、(数理科学)(108)は前年度40%近い大幅減少の反動は小さく増加に留まった。(物理科学)(91)は、2年連続減少。
- 情報理工(88)は、減少で2年連続減少。方式別では、<後期>(120)は2年連続減少の反動で大幅増加、<中期>(112)は増加。一方で、<前期>(81)は大幅減少で2年連続減少。
- 生命科学(98)は、微減だが改組2年目の2020年度から3年連続減少。学科別では、(産業生命科学)(126)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(先端生命科学)(89)は改組2年目の2020年度から3年連続減少。

＜共通テスト利用方式＞

- 文化(102)は、前年度並。学科別では、(国際文化)(102)は前年度大幅減少の反動はなく微増に留まる。(京都文化)(101)は微増だが2年連続増加。
- 外国語(77)は、コロナ禍による系統への低人気に影響し、2年連続大幅減少。学科別では、全ての学科で2年連続大幅減少、特に、(英語)(64)は30%以上の大幅減少と目立った。

- 法(96)は、やや減少で3年連続減少。学科別では、(法政策)(96)は前年度半減に近かった反動はなく2年連続減少、(法律)(96)は減少で3年連続減少。
- 経済(87)は、減少で2年連続減少。方式別では、唯一増加の〈中期プラス〉(106)はやや増加、その他の方式はいずれも減少。特に、〈後期〉(60)は大幅減少で4年連続減少。
- 経営(76)は、2年連続大幅減少。方式別では、全ての方式で減少、特に〈前期〉(69)の大幅減少が目立った。
- 現代社会(101)は、前年度大幅減少の反動はなく前年度並。
- 国際関係(90)は、減少で新設2年目の2020年度から3年連続減少。
- 理(93)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(宇宙物理・気象)(106)はやや増加で、4年ぶりに増加だが志願者数は500人に達しなかった。その他の2学科は、いずれも2年連続大幅減少。
- 情報理工(87)は、前年度大幅減少の反動はなくさらに減少。方式別では、〈後期〉(178)は2年連続大幅減少の反動で激増、〈中期プラス〉(111)は前年度大幅減少の反動で増加。一方で、〈前期プラス〉(78)は大幅減少、〈前期〉(88)は減少でいずれも2年連続減少。
- 生命科学(93)は、やや減少で改組2年目の2020年度以降3年連続減少。学科別では、(産業生命科学)(119)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(先端生命科学)(84)は大幅減少で改組2年目の2020年度以降3年連続減少。

龍谷大：大学全体では微減、共テは方式拡大で2年連続大幅増加 一般：-5,275人 共テ：+4,776人



主な入試変更点

選抜方法：全学部…〈共テ・中期(英語外部試験利用)〉、〈共テ・後期(英語外部試験利用)〉を新規実施
 国際(グローバルスタディーズ)…〈一般・前期(国際学部独自)〉、〈共テ併用(リスニング)〉、〈共テ・後期(外国語1教科)〉を新規実施
 募集人員：国際(グローバルスタディーズ)…〈一般・前期〉24人→27人、〈一般・中期〉20人→16人、〈一般・後期〉…7人→2人
 先端理工(数理・情報科学)…〈一般・前期〉23人→31人
 (知能情報メディア)…〈一般・前期〉23人→31人
 (電子情報通信)…〈一般・前期〉23人→31人
 (機械工学・ロボティクス)…〈一般・前期〉25人→33人
 (応用化学)…〈一般・前期〉23人→31人
 (環境生態工学)…〈一般・前期〉23人→31人
 農(植物生命科学)…〈一般・前期〉32人→27人、〈一般・中期〉17人→12人、
 〈共テ・前期〉9人→11人、〈共テ・中期〉4人→5人、〈共テ・後期〉2人→3人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、499人(99)の微減。学部別では、9学部中5学部が増加。法(110)、農(108)は増加、国際(107)、社会(105)はやや増加、文(100)は前年度並。一方で、(経営)(85)は大幅減少。方式別では、一般方式は5,275人(87)の増加で3年連続減少、全学部が減少。一方で、共通テスト利用方式は英語外部試験利用可能日程の拡大で、4,776人(131)の大幅増加で全学部が増加。過去2年間の実施日程・方式の拡大の効果で2年連続大幅増加。

〈一般方式〉

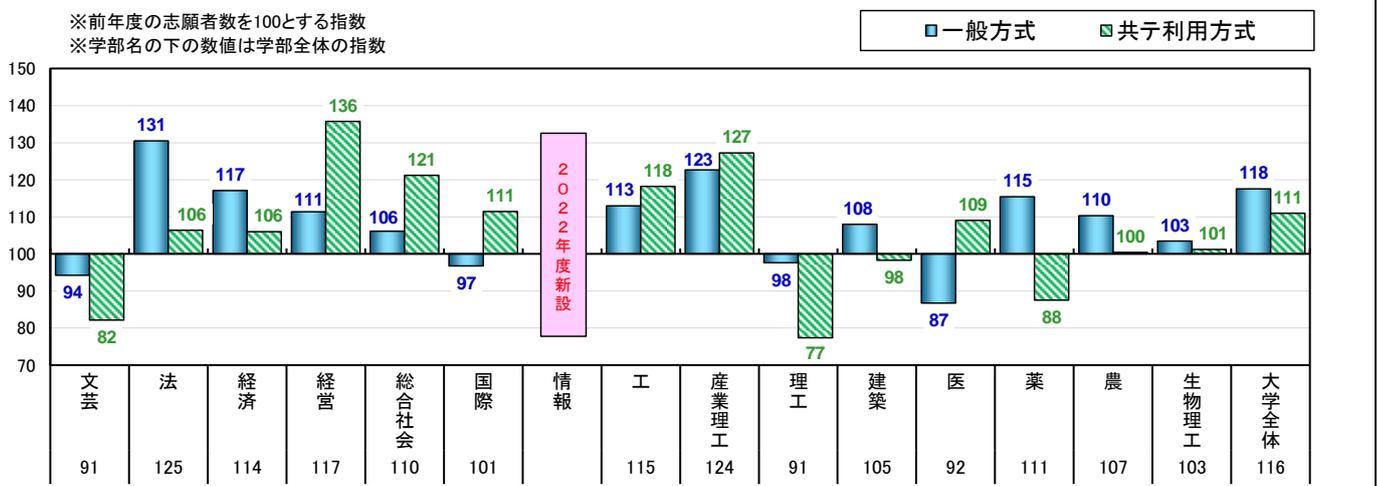
- 文(89)は、減少。学科・専攻別では、11学科・専攻中8学科・専攻が減少。特に、(歴史/東洋史学)(60)は大幅減少で前年度40%の大幅増加の反動、(哲/教育学)(70)も大幅減少で、2019年度以降前年度の反動による増減が継続。(歴史/東洋史学)(81)。(臨床心理)(81)も大幅減少。一方で、(歴史/文化遺産学)(130)は大幅増加で2年連続減少の反動、(英語英米文)(112)は増加で2年連続大幅減少の反動。
- 法(92)は、3年ぶりに減少。方式別では、全方式が減少。
- 政策(85)は、大幅減少で3年連続減少。方式別では、共通テストの平均点ダウンの影響による追加出願により、〈後期高得点〉(185)、〈後期スタンダード〉(166)は激増。その他の方式は、いずれも大幅減少。
- 経済(89)は、減少で2年連続減少。志願者数は6年ぶりに5,000人を下回った。方式別では、共通テストの平均点ダウンの影響による追加出願により、〈後期高得点〉(170)は激増、〈後期スタンダード〉(127)は大幅増加、いずれも2年連続大幅増加。
- 経営(77)は、大幅減少で2018年度以降前年度の反動による増減が継続。方式別では、全ての方式で減少。
- 社会(79)は、前年度増加の反動で大幅減少し、志願者数は4,000人を下回った。学科別では、(現代福祉)(101)は3年連続減少の反動はなく微増に留まった。(コミュニティマネジメント)(71)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(社会)(72)も大幅減少で前年度の反動による増減が継続、志願者数が2,000人を下回ったのは6年ぶり。

- 国際(92)は、コロナ禍の影響で系統への人気低下により、4年連続減少。学科別では、(グローバルスタディーズ)(140)は、留学必須でコロナ禍の影響が大きく3年連続大幅減少だったが、留学に相当するカリキュラムの設置や、2022年度前期から学科独自の海外留学の再開を決定したことで、4年ぶり大幅増加。一方で、(国際文化)(79)は大幅減少、志願者数は2,000人を下回った。
- 先端理工(92)は、2020年度に改組後旧理工との比較を含めて3年連続減少。募集人員は増加(募集人員の前年度対比指数120)で、志願倍率は15.0倍→11.5倍へダウン。課程別では、(知能情報メディア)(119)は大幅増加、(電子情報通信)(112)は増加でいずれも前年度大幅減少の反動。その他の4学科はいずれも大幅減少で、2年連続減少。
- 農(98)は、微減で2年連続減少。学科別では、唯一増加の(植物生命科学)(134)は、前年度40%以上の大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(食料農業システム)(80)は大幅減少、(食品栄養)(94)、(資源生物科学)(97)はやや減少で、3学科はいずれも2年連続減少。

＜共通テスト利用方式＞

- 文(129)は、前年度激増の反動はなく大幅増加。学科・専攻別では、全学科・専攻で増加。特に、(歴史/文化遺産学)(226)は倍増以上、(歴史/仏教史学)(164)は激増。
- 法(170)は、激増で2年連続大幅増加。志願者数は2,000人を上回った。方式別では、全ての方式で大幅増加。
- 政策(138)は、前年度大幅減少の反動も加わり大幅増加。方式別では、＜共テ・前期3科目＞(93)のやや減少、＜共テ・前期4科目＞(102)の前年度並を除いた方式は大幅増加。
- 経済(110)は、2年連続増加。方式別では、＜共テ・中期2科目＞(192)、＜共テ・前期2科目＞(182)の激増が目立った。
- 経営(107)は、やや増加で2年連続増加。方式別では、英語外部試験の利用が可能になった＜共テ・中期2科目＞(237)の激増が目立った。
- 社会(201)は、倍増で2年連続大幅増加。志願者数は2,500人を上回った。学科別では、3学科全て激増。
- 国際(138)は、2年連続大幅増加。コロナ禍の影響で系統への人気は低下だが、国際のみの新規実施方式を除いても(132)の大幅増加。学科別では、(グローバルスタディーズ)(153)、(国際文化)(131)でいずれも大幅増加。
- 先端理工(102)は、微増で旧理工から引き続き5年連続増加。課程別では、(電子情報通信)(109)、(知能情報メディア)(108)は増加、(機械工学・ロボティクス)(104)はやや増加。一方で、(応用化学)(90)は減少、(数理・情報科学)(93)はやや減少で、いずれも前年度の反動。
- 農(128)は、大幅増加で4年連続増加。志願者数は1,600人を上回った。学科別では、(食料農業システム)(178)は激増。(植物生命科学)(142)は大幅増加。

近畿大: 大学全体では情報新設で増加 志願者数は9年連続全国最多 一般:+17,196人 共テ:+4,145人



主な入試変更点

学部新設: 情報(情報) ※旧理工(情報)から改組
 学科改組: 理工(応用化学、理、機械工、生命科学、情報、社会環境工、電気電子工)
 →(応用化学、理、機械工、生命科学、社会環境工、エネルギー物質、電気電子通信工)
 選抜方法: 工…＜共テ併用・後期＞を新規実施
 募集人員: 文芸(芸術/造形芸術)…＜一般・前期A日程＞14人→11人、＜一般・前期B日程＞11人→14人、＜一般・後期＞3人→4人
 工(機械工)…＜共テ・前期＞13人→11人
 (ロボティクス)…＜共テ・前期＞10人→8人
 (情報)…＜共テ・前期＞10人→8人
 (建築)…＜共テ・前期＞13人→11人
 (化学生命工)…＜共テ・前期＞10人→8人
 (電子情報工)…＜共テ・前期＞10人→8人
 薬(医療薬)…＜一般・後期＞13人→10人、＜共テ・後期＞4人→2人
 (創薬科学)…＜一般・前期A日程＞9人→8人、＜一般・前期B日程＞9人→6人、＜一般・後期＞6人→4人、＜共テ・後期＞2人→1人
 入試科目: 文芸(芸術/造形芸術)＜一般・前期A日程＞…国+外+(歴公 or 数)→実技 ※実技: デッサン

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、情報の新設に3年連続減少の反動が加わり21,341人(116)の大幅増加で、志願者数は過去最高の157,171人で9年連続全国最多。文理別では、理系9学部合計(121)で大幅増加だが新設の情報を除くと(102)の前年度並、文系6学部合計

(111)は増加。なお、新設の情報は旧理工(情報)との比較では、募集人員は約1.4倍に対して、志願者数は2.3倍となり、学部になり学習・研究環境やカリキュラムが充実した効果は大きかった。方式別では、一般方式17,196人(118)は大幅増加で4年ぶり増加、志願者数は再び10万人を超えた。共通テスト利用方式4,145人(111)は増加で2年連続増加、志願者数は4万人を上回った。

〈一般方式〉

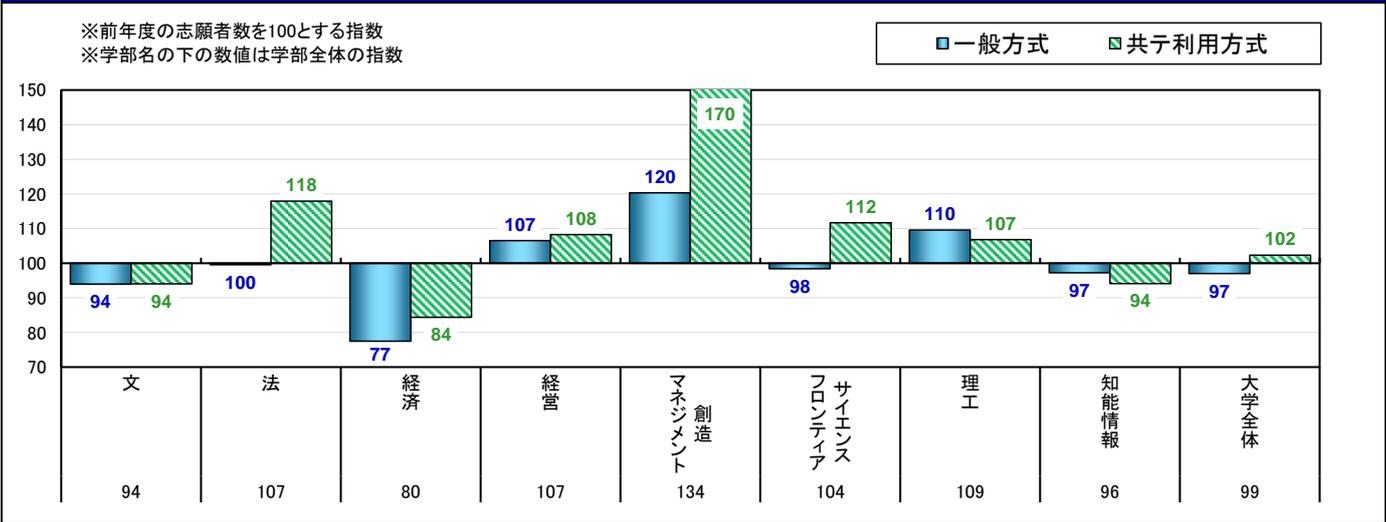
- 文芸(94)**は、やや減少で4年連続減少。学科・専攻別では、唯一増加の(文化・歴史)(108)は5年ぶり増加、その他の5学科・専攻はいずれも減少で、特に(芸術/造形芸術)(66)は入試科目が教科試験から実技のみに変更の影響で、30%以上の大幅減少。
- 法(131)**は、大幅増加で2年連続増加。方式別では、〈前期B日程〉(139)は大幅増加で4年連続減少の反動、〈前期A日程〉(138)は大幅増加で2年連続増加、〈後期〉(90)は減少。
- 経済(117)**は、3年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、3学科全てで大幅増加。
- 経営(111)**は、増加で2019年度以降前年度の反動による増減が継続。学科別では、(商)(128)は大幅増加で2019年度以降前年度の反動による増減が継続、(会計)(108)は4年ぶりの増加、(キャリア・マネジメント)(105)、(経営)(104)はやや増加。
- 総合社会(106)**は、やや増加で2年連続増加。学科・専攻別では、(総合社会/社会・マスメディア系)(114)は2年連続増加、(総合社会/環境・まちづくり系)(107)は、前年度大幅増加に引き続きやや増加。一方で、(総合社会/心理系)(94)はやや減少で3年連続減少。
- 国際(97)**は、コロナ禍の影響を強く受け人気は低下している系統である影響で、やや減少だが5年連続減少。学科・専攻別では、(国際/グローバル)(98)は、微減だが5年連続減少。(国際/東アジア)(92)は2年連続減少。
- 情報**は、旧理工(情報)をもとに新設された。一般方式合計の募集人員143人に対し、志願者数は9,694人、志願倍率は67.8倍と全学部中で最も高倍率となった。旧理工(情報)との比較では、募集人員は47%増加だが、志願者数は約2.7倍と大幅に上回った。
- 工(113)**は、広島キャンパス設置だが、2年連続減少の反動で増加。学科別では、6学科全てが増加し、特に東大阪キャンパスでの情報新設効果もあって(情報)(132)の大幅増加が目立った。
- 産業理工(123)**は、福岡キャンパス設置だが、前年度12年ぶり減少に転じたが、再び増加で大幅増加。学科別では、(生物環境化)(157)は60%近い大幅増加で2018年度以降前年度の反動による増減が継続。(電気電子工)(149)、(情報)(124)は2年連続減少の反動で大幅増加、(建築・デザイン)(109)は増加、(経営ビジネス)(100)は微増。
- 理工(98)**は、微減で前年度の大幅減少に引き続き減少。ただし、情報の学部新設に伴い募集停止となった旧(情報)を除くと(123)の大幅増加。募集人員は旧(情報)を除いた比較では増加(募集人員の前年度対比指数110)だが、志願倍率は28.7倍→32.1倍へアップ。学科・コース別では、9学科・コース中旧(電気電子工)から改組の(電気電子通信工)を含めた6学科・コースが増加。
- 建築(108)**は、2年連続減少の反動で増加。方式別では、〈前期B〉(113)は前年度大幅減少の反動で増加、〈前期A〉(111)は2年連続減少の反動で増加、〈後期〉(79)は大幅減少。
- 医(87)**は、前年度大幅増加の反動で減少。方式別では、〈前期A〉(92)は前年度5年ぶりに増加に転じたが再び減少、〈後期〉(74)は大幅減少で2年連続減少。
- 薬(115)**は、大幅増加。4年連続減少の反動に加え、コロナ禍におけるワクチンや治療薬開発の話題が多く報道されたことも影響。学科別では、特に4年制の製薬系の(創薬科学)(131)が大幅増加、募集人員は減少(募集人員の前年度対比指数75)なので、志願倍率は24.0倍→41.7倍へ大幅アップで競争激化。(医療薬)(112)は増加で5年ぶり増加。
- 農(110)**は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、(水産)(100)のみ微減だが、その他の5学科はいずれも増加。特に、(生物機能科学)(131)、(農業生産科学)(124)の大幅増加が目立った。
- 生物理工(103)**は、4年連続減少の反動はなくやや増加に留まり、志願者数も2年連続3,000人を下回った。学科別では、(生物工)(111)、(人間環境デザイン工)(110)は増加、(生命情報工)(103)、(遺伝子工)(103)はいずれも前年度大幅減少の反動はなくやや増加。一方で、(医用工)(93)はやや減少で2年連続減少、(食品安全工)(96)もやや減少で4年連続減少。

〈共通テスト利用方式〉

- 文芸(82)**は、大幅減少。学科・専攻別では、(芸術/造形芸術)(101)は微増で2年連続増加だが、(文化・歴史)(95)のやや減少を除くその他の4学科・専攻はいずれも大幅減少。志願者数は2,000人を下回った。
- 法(106)**は、系統への高い人気からやや増加で2年連続増加。方式別では、実施2年目となる〈共テ併用・A日程〉(121)の大幅増加が目立った。
- 経済(106)**は、やや増加で2年連続増加。学科別では、(総合経済政策)(121)は大幅増加、(経済)(103)はやや増加で、いずれも2年連続増加、(国際経済)(100)は微減だが4年連続減少。
- 経営(136)**は、大幅増加で2年連続大幅増加。学科別では、4学科全て大幅増加だが、特に、(商)(161)は激増で2年連続大幅増加。
- 総合社会(121)**は、前年度大幅増加に引き続き2年連続大幅増加。学科・専攻別では、(総合社会/社会・マスメディア系)(131)、(総合社会/心理系)(117)は大幅増加、(総合社会/環境・まちづくり系)(111)は増加で、いずれも2年連続増加。
- 国際(111)**は、コロナ禍の影響を強く受け人気は低下している系統だが、2年連続減少の反動で増加。学科・専攻別では、(国際/東アジア)(124)は大幅増加で2年連続増加、(国際/グローバル)(108)は増加で2年連続減少の反動。
- 情報**は、旧理工(情報)をもとに新設された。共通テスト利用方式合計の募集人員45人に対し、志願者数は2,669人、志願倍率は59.3倍、全学部中で建築75.2倍、医74.7倍に次ぐ高倍率となった。旧理工(情報)との比較では、募集人員は25%増加だが、志願者数は58%と上回った。
- 工(118)**は、大幅増加で5年連続増加。新規実施方式の〈共テ併用・後期〉を除いても(116)の大幅増加。学科別では、全ての学科で増加、特に(電子情報工)(137)の大幅増加が目立った。
- 産業理工(127)**は、大幅増加で2019年度以降前年度の反動による増減が継続。学科別では、特に(生物環境化)(159)、(電気電子工)(158)は60%近い大幅増加で目立った。
- 理工(77)**は、大幅減少だが、ただし、情報の学部新設に伴い募集停止となった旧(情報)を除くと(97)のやや減少。学科・コース別では、(機械工)(108)は増加で5年連続増加、(電気電子通信工)は改組された旧(電気電子工)と比較すると(104)のや

- や増加、その他の6学科・コースはいずれも減少。
- 建築(98)**は、前年度50%近い大幅増加の反動はなく微減に留まった。
- 医(109)**は、増加で2018年度以降前年度の増減による反動が継続。方式別では、〈前期〉(112)、〈中期〉(113)はいずれも増加、〈後期〉(92)は減少で前年度と逆の増減。
- 薬(88)**は、減少。特に、共通テスト後の出願期間で共通テストの平均点ダウンの影響を大きく受けた〈共テ・後期〉(49)が半減以下、ただし、募集人員の減少(募集人員の前年度対比指数83)で、志願倍率は32.2倍→33.8倍へアップ。
- 農(100)**は、前年度並。学科別では、(生物機能科学)(121)、(農業生産科学)(117)は大幅増加、(環境管理)(102)は微増。その他の3学科はいずれも減少。
- 生物理工(101)**は、微増だが2年連続増加。学科別では、(人間環境デザイン工)(132)の大幅増加、(医用工)(74)の大幅減少が目立った。

甲南大：大学全体では3年連続減少、マネジメント創造のみ反動で大幅増加 一般：-286人 共テ：+125人



主な入試変更点	募集人員：法〈共テ・後期〉10人→5人 経営…〈共テ・前期〉20人→17人、〈共テ・後期〉5人→4人 〈共テ併用・前期3教科型〉32人→27人、〈共テ併用・前期2教科型〉8人→7人 マネジメント創造…〈一般・前期2教科型〉17人→14人、〈一般・後期〉8人→6人 理(物理)…〈共テ併用・前期3教科型〉6人→5人 (生物)…〈共テ併用・前期3教科型〉4人→3人 (機能分子化学)…〈共テ・前期〉3人→2人
----------------	--

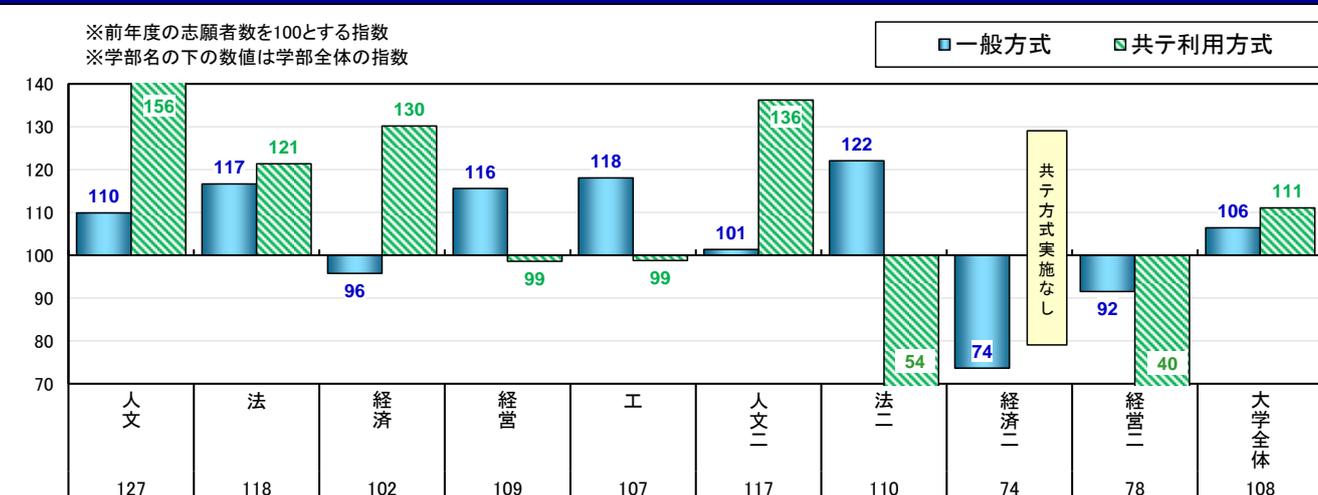
COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数
 大学全体では、161人(99)の微減だが3年連続減少。学部別では、8学科中5学科が増加。マネジメント創造(134)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加、理工(109)は増加、法(107)、経営(107)、フロンティアサイエンス(104)はやや増加。一方で、(経済)(80)は大幅減少で4年連続減少、(文)(94)、(知能情報)(96)はいずれも3年連続減少。方式別では、一般方式は286人(97)のやや減少で3年連続減少、共通テスト利用方式は125人(102)の微増で3年ぶり増加。

- 〈一般方式〉**
- 文(94)**は、やや減少で3年連続減少。学科別では、(歴史文化)(120)は大幅増加、(社会)(112)は3年連続減少の反動で増加。一方で、(英語英米文)(72)は大幅減少、(日本語日本文)(81)は前年度3年ぶりに増加に転じたが、再び減少で大幅減少。(人間科学)(89)は3年連続減少。方式別では、〈前期・2教科型〉(122)は2年連続大幅増加、〈前期・3教科型〉(91)は3年連続減少と対照的で、科目負担が少ない方式への支持が高かった。
 - 法(100)**は、前年度並だが3年連続増加がない。方式別では、〈前期・2教科型〉(125)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。〈前期・3教科型〉(96)はやや減少で3年連続減少、志願者数は2年連続1,000人を下回った。科目負担が少ない方式への支持が高かった。
 - 経済(77)**は、大幅減少で4年連続減少。方式別では、〈後期〉(74)は大幅減少。〈前期・3教科型〉(75)は大幅減少で4年連続減少。〈前期・2教科型〉(100)は前年度並。
 - 経営(107)**は、前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加で4年ぶり増加。方式別では、〈前期・2教科型〉(156)は3年連続減少の反動で激増に近い大幅増加。〈後期〉(127)も大幅増加。一方で、〈前期・3教科型〉(95)はやや減少で4年連続減少。
 - マネジメント創造(120)**は、2年連続大幅減少の反動は小さく、大幅増加でも志願者数は600人を下回った。方式別では、〈前期・2教科型〉(125)は大幅増加、募集人員減少(募集人員の前年度対比指数82)で志願倍率は4.9倍→7.4倍へアップ。一方で、〈後期〉(91)は減少だが、募集人員も減少(募集人員の前年度対比指数75)で志願倍率は2.8倍→3.3倍へアップ。
 - フロンティアサイエンス(98)**は、微減だが4年連続減で、志願倍率は7倍を下回った。方式別では、〈前期・3教科型〉(105)はやや増加で4年ぶり増加、〈前期・2教科型〉(91)は減少で4年連続減少。
 - 理工(110)**は、増加だが前年度大幅減少の反動は小さかった。学科別では、(機能分子化学)(112)、(生物)(112)は増加、(物理)(105)はやや増加で、いずれも前年度大幅減少の反動は小さかった。
 - 知能情報(97)**は、やや減少で3年連続減少。方式別では、〈前期・2教科型〉(107)はやや増加で3年ぶり増加、〈前期・3教科型〉(94)はやや減少で3年連続減少。科目負担が少ない方式への支持が高かった。

＜共通テスト利用方式＞

- 文(94)は、やや減少で3年連続減少。学科別では、(歴史文化)(116)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加、(英語英米文)(107)は2年連続大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。その他の3学科は減少で、特に(日本語日本文)(67)は大幅減少で3年連続減少、志願者数は200人を下回った。方式別では、〈前期・外部英語試験活用型〉(142)の大幅増加が目立った。
- 法(118)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加だが、志願者数は2年連続1,000人を下回った。方式別では、〈前期・4教科型〉(312)は、前年度大幅減少の反動が大きく300%以上激増。〈後期・3教科型〉(75)は大幅減少。
- 経済(84)は、大幅減少で4年連続減少。志願者数は2年連続1,000人を下回った。方式別では、〈前期〉(109)は3年連続減少の反動で増加、その他の3方式は減少。
- 経営(108)は、増加だが2年連続大幅減少の反動は小さかった。方式別では、〈共テ併用・前期3教科型〉(113)は増加、一方で、〈後期〉(76)は大幅減少で4年連続減少。
- マネジメント創造(170)は、2年連続半減前後の反動で激増。方式別では、全方式で大幅増加、特に〈前期・英語重視型〉(349)は約3.5倍。
- フロンティアサイエンス(112)は、増加だが2年連続大幅減少の反動は小さかった。方式別では、〈前期・外部英語試験活用型〉(150)は前年度半減の反動で大幅増加、〈後期〉(71)も大幅減少。
- 理工(107)は、やや増加。学科別では、(機能分子化学)(115)は大幅増加、(生物)(111)は増加で、いずれも2年連続減少の反動。(物理)(97)は、やや減少で2年連続減少。
- 知能情報(94)は、やや減少で2019年度の約2.3倍増以降は3年連続減少。方式別では、〈前期・外部英語試験活用型〉(140)は大幅増加だが、その他の3方式は減少。

北海学園大：大学全体では2年ぶり増加、昼間部は5学部全て増加 一般：+284人 共テ：+249人



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、コロナ禍の影響が厳しかった札幌都市圏への敬遠傾向が緩和され533人(108)のやや増加。志願者数は7,000人を上回った。昼間部のみでは608人(110)の増加で、大学全体の増加率を上回った。学部別では、昼間部5学部はいずれも増加、夜間部は(人文二)(117)は大幅増加だが、その他の3学部はいずれも減少。方式別では、一般方式は前年度減少の反動で284人(106)のやや増加、昼間部のみでは329人(109)の増加。共通テスト利用方式は2年連続減少の反動で249人(111)の増加、昼間部のみでは279人(113)の増加。いずれの方式も共通テスト受験後の出願が可能で、一般方式は共通テスト難化による一般方式への駆け込み出願、共通テスト利用方式は共通テスト平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。

＜一般方式＞

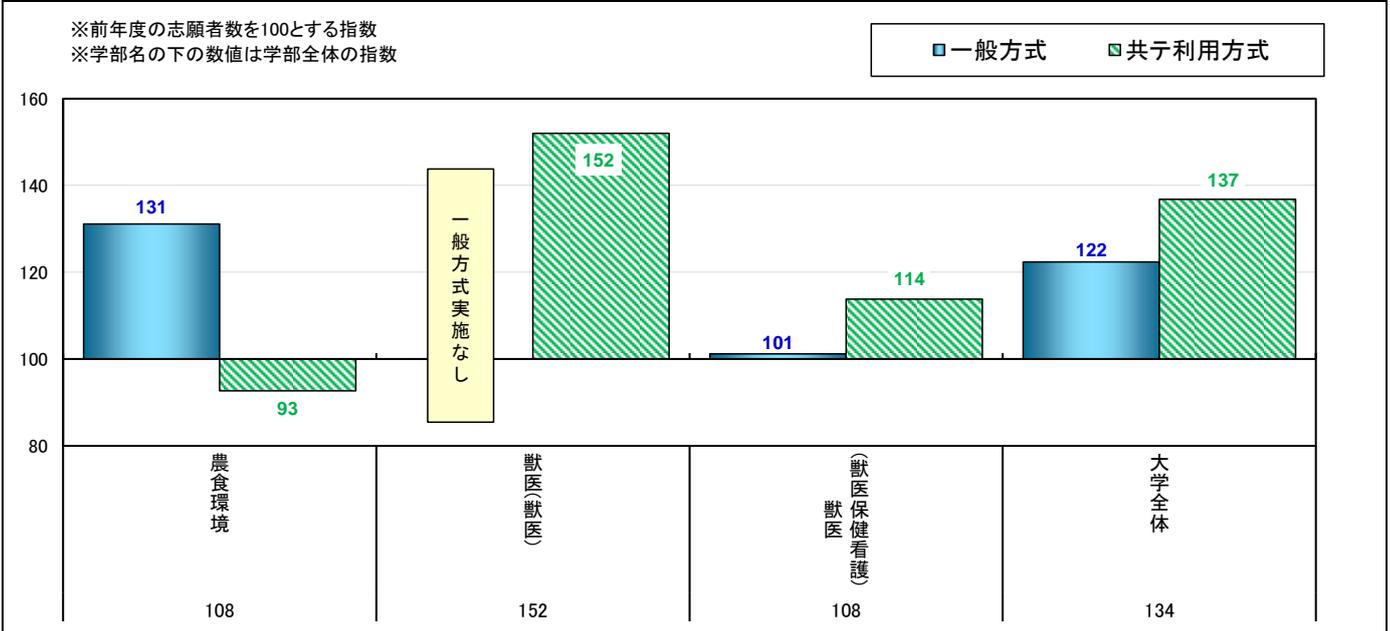
- 人文(110)は、前年度4年ぶりに減少したが、再び増加。学科別では、(日本文化)(115)は大幅増加で6年連続増加、(英米文化)(104)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。
- 法(117)は、系統への人気の高まりと前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 経済(96)は、やや減少で2年連続減少。志願者数は5年ぶりに1,200人を下回った。
- 経営(116)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(経営情報)(135)は大幅増加、(経営)(105)はやや増加で、いずれも前年度の反動。
- 工(118)は、系統への堅調な人気に加え前年度減少の反動で大幅増加。学科・コース別では、全ての学科・コースが増加で、特に(社会環境工/環境情報)(147)は大幅増加で4年連続増加。(建築)(123)、(生命工)(122)も大幅増加、(社会環境工/社会環境)(114)は増加でいずれも前年度大幅減少の反動。(電子情報工)(107)はやや増加。

＜共通テスト利用方式＞

- 人文(156)は、前年度減少率40%近い大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(日本文化)(168)は2年連続大幅減少の反動で激増、(英米文化)(146)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 法(121)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。方式別では、〈共テ・I期A〉(133)、〈共テ・I期B〉(124)は大幅増加でいずれも前年度大幅減少の反動に加え、共通テスト平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。一方で、〈共テ・II期〉(74)は大幅減少。
- 経済(130)は、2年連続減少の反動で大幅増加。方式別では、〈共テ・I期〉(135)は2年連続減少の反動に加え、共通テスト平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。〈共テ・II期〉(94)はやや減少。

- 経営(99)は、微減だが3年連続減少。学科別では、(経営)(109)は2年連続増加。(経営情報)(83)は3年連続大幅減少で、志願者数は200人を下回った。
- 工(99)は、微減。学科・コース別では、(社会環境工/環境情報)(80)は3年連続増加の反動で大幅減少、(社会環境工/社会環境)(82)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(生命工)(89)はやや減少で2年連続減少。一方で、(建築)(113)は2年連続減少の反動で増加、(電子情報工)(111)は2年連続増加。

酪農学園大：大学全体では5年ぶり増加、共テ方式は2年連続大幅増加 一般：+66人 共テ：+513人



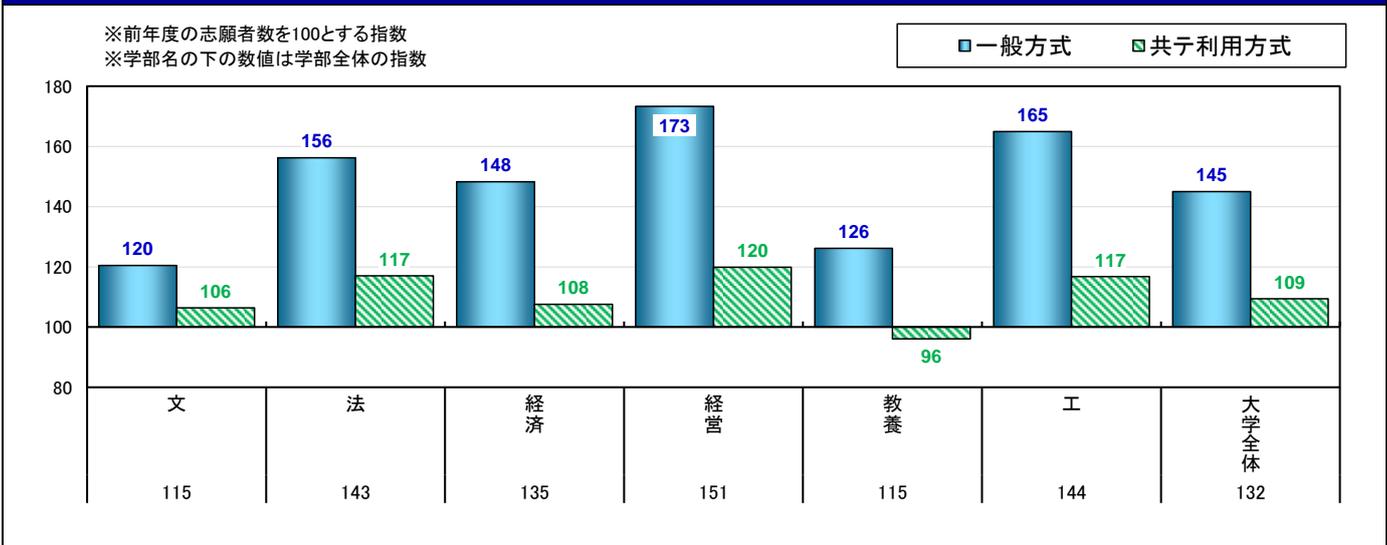
主な入試変更点 選抜方法：獣医(獣医)…〈共テ併用・第1期(A日程/理科重点)〉新規実施
 〈共テ併用・第2期理科重点〉…〈個理100〉→〈個理200〉 ※配点を変更して理科重点型へ
 募集人員：獣医(獣医)…〈共テ併用・第1期(A日程/通常)〉57人→50人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、コロナ禍の中で遠距離大学への進学を敬遠する傾向が緩和され、579人(134)の大幅増加で5年ぶりに増加だが、2020年度対比では(100)でほぼ同数。学群(獣医は学類)別では、獣医(獣医)(152)は共通テスト併用方式で理科重点型を新規実施した影響もあり、大幅増加で5年ぶりに増加。志願者数は4年ぶりに1,500人を上回った。獣医(獣医保健看護)(108)は増加で3年連続増加、農食環境(108)も増加で2018年度以降前年度の反動による増減が継続。方式別では、一般方式は66人(122)の大幅増加だが、前年度一般方式を廃止した獣医(獣医)を除くと2020年度対比では(78)の大幅減少。一方で、共通テスト利用方式は513人(137)で2年連続大幅増加。獣医(獣医)の共通テスト併用方式で理科重点型の新規実施に加え、〈共テ併用・第1期〉を除いて共通テスト受験後の出願が可能のため、共通テストの平均点ダウンを加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願も影響。ただし、大きな入試変更を行った獣医(獣医)を除くと、前年度の大幅減少に引き続き(97)のやや減少で2年連続減少。

<一般方式>
 ○農食環境(131)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加だが、2020年度対比では(77)の大幅減少。学類・コース別では、全ての学類・コースで増加。特に、(循環農)(162)は3年連続大幅減少の反動で激増、(食と健康)(140)は前年度減少率約70%の激減だった反動で大幅増加。ただし、2020年度対比で増加したのは(循環農)のみ。
 ○獣医(獣医保健看護)(101)は、微増。志願者数は2019年度以降80人台で推移。方式別では、新設2年目の〈一般・第1期〉(113)は増加、〈一般・第2期〉(58)は減少率40%以上の大幅減少と対照的。

<共通テスト利用方式>
 ○農食環境(93)は、前年度大幅減少に引き続き、やや減少で2年連続減少。志願者数は300人を下回った。学類・コース別では、(食と健康)(57)は大幅減少で4年連続減少。(食と健康/管理栄養士)(79)も2年連続大幅減少。(環境共生)(107)は前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加。(循環農)(102)は、前年度大幅減少の反動はなく微増に留まった。
 ○獣医(獣医)(152)は、前年度は一般方式を廃止し、共通テスト利用(併用)方式しか選択肢がなくなったことで、4倍近い激増だったが、引き続き大幅増加で、志願者数は1,500人を上回った。新規実施方式の〈共テ併用・第1期(A日程/理科重点)〉を除いても(112)の増加。方式別では、理科の配点を高くし理科重点型に変更した〈共テ併用・第2期理科重点〉(191)は倍増に近い大幅増加。〈共テ併用・第1期〉を除いて共通テスト受験後の出願が可能のため、共通テストの平均点ダウンを加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願も影響。
 ○獣医(獣医保健看護)(114)は、増加で2年連続増加。方式別では、〈共テ・前期〉(111)は増加で2年連続増加、〈共テ・後期〉(143)は3年連続大幅増加。

東北学院大：大学全体では3年ぶり増加、一般が併願割引で大幅増加 一般：+2,766人 共テ：+353人


主な入試変更点	選抜方法：全学部…〈一般・前期全学部型〉、〈一般・前期学科分割型〉、〈英語資格・検定試験利用型〉廃止 〈一般・前期A日程〉、〈一般前期B日程(英語外部試験利用可能)〉新規実施 ※A日程・B日程それぞれ最大3学科併願可能
	入学検定料：〈一般・前期〉…1出願につき28,000円→1出願目30,000円、2出願目以降1学科につき15,000円 A日程出願者はB日程の1出願目25,000円、2出願目以降1学科につき15,000円 〈共テ〉…1学科につき10,000円→1学科につき12,000円

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、3,119人(132)の大幅増加、志願者数は3年ぶりに1万人を上回った。学部別では、全ての学部で大幅増加。特に、経営(151)、工(144)、法(143)の大幅増加が目立った。方式別では、一般方式は2,766人(145)の大幅増加。〈一般・前期〉で1日につき最大3学科まで併願が可能で、2学科目以降の出願については「併願割引」を適用することで、経済的負担の軽減から出願数が増加したことが影響。共通テスト利用方式は353人(109)の増加で2年連続増加、志願者数は3年ぶり4,000人を上回った。共通テスト受験前に出願締め切りとなる〈共テ・前期〉(111)は2年連続増加。一方で、共通テスト受験後に出願可能なく〈共テ・後期〉(96)はやや減少で、特に工(70)で共通テストの平均点ダウンによる敬遠が影響。

〈一般方式〉

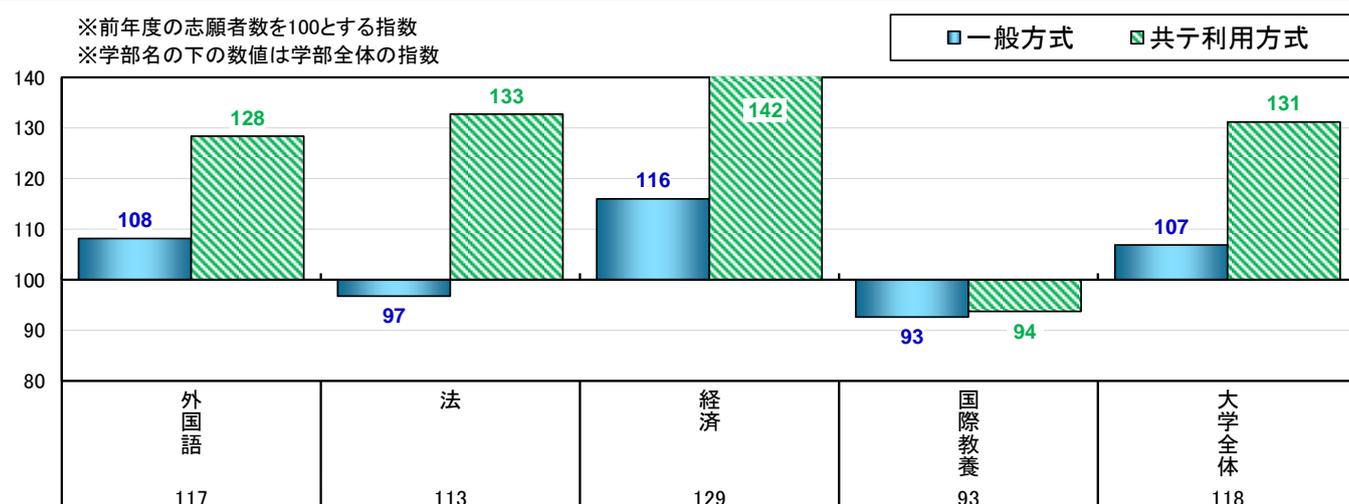
- 文(120)は、大幅増加で4年ぶり増加。学科別では、唯一減少の教育(95)は、系統への人気低下からやや減少で2年連続減少。その他の3学科はいずれも大幅増加。特に、(総合人文)(154)は3年ぶりの志願者数200人台。
- 法(156)は、大幅増加で3年ぶり増加。方式別では、共通テスト受験後の出願が可能なく〈後期〉(136)は大幅増加だが、共通テスト難化による一般方式への駆け込み出願も影響。
- 経済(148)は、大幅増加で3年ぶり増加。志願者数は2,000人を上回った。学科別では、(共生社会経済)(157)は前年度倍増に近い大幅増加に引き続き、2年連続大幅増加、(経済)(145)も大幅増加で志願者数は1,500人を上回った。
- 経営(173)は、激増で3年連続増加。方式別では、共通テスト受験後の出願が可能なく〈後期〉(148)は大幅増加で、前年度大幅減少の反動に加え、共通テスト難化による一般方式への駆け込み出願も影響。
- 教養(126)は、大幅増加で2年連続増加。学科別では、(地域構想)(154)は大幅増加で3年ぶり増加、(情報科学)(137)も大幅増加で4年ぶり増加、(言語文化)(115)は大幅増加、(人間科学)(108)は増加でいずれも2年連続増加。
- 工(165)は、系統への堅調な人気と併願割引の効果で激増。学科別では、全ての学科で大幅増加。特に、(機械知能工)(201)は前年度大幅減少の反動も加わり倍増。

〈共通テスト利用方式〉

- 文(106)は、3年ぶり増加。学科別では、(歴史)(122)、(総合人文)(117)はいずれも大幅増加で3年ぶり増加、(英文)(106)はやや増加で2年連続増加。一方で、(教育)(73)は系統への人気低下もあり大幅減少で2年連続減少。
- 法(117)は、大幅増加で3年ぶり増加。方式別では、〈共テ・前期〉(118)は大幅増加で3年ぶり増加。共通テスト受験後の出願が可能なく〈後期〉(110)も増加で2年連続増加、共通テストの平均点ダウンを加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。
- 経済(108)は、前年度大幅増加の反動はなく増加で2年連続増加。学科別では、(共生社会経済)(70)は前年度2.5倍以上の激増だった反動で大幅減少、(経済)(127)は2年連続減少の反動で大幅増加と対照的。
- 経営(120)は、大幅増加で3年連続増加。方式別では、〈共テ・前期〉(116)は大幅増加で3年連続増加。共通テスト受験後の出願が可能なく〈共テ・後期〉(160)は激増で、共通テストの平均点ダウンを加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。
- 教養(96)は、やや減少。学科別では、(人間科学)(74)、(言語文化)(82)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。(情報科学)(124)は大幅増加、(地域構想)(111)は増加で2年連続増加。方式別では、〈共テ・前期〉(95)はやや減少。一方で、〈共テ・後期〉(112)は増加で3年連続増加、共通テストの平均点ダウンを加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。
- 工(117)は、大幅増加で3年ぶり増加。学科別では、(環境建設工)(146)は大幅増加、(情報基盤工)(120)は4年連続大幅増加、(機械知能工)(107)はやや増加で2年連続増加。一方で、(電気電子工)(99)は微減だが2年連続減少。方式別では、〈共テ・前期〉(123)は大幅増加。共通テスト受験後の出願が可能なく〈共テ・後期〉(70)は大幅減少で、特に理系での共通テストの平均点ダウンの影響が大きかったことから、敬遠された。

獨協大：志願者数は3年ぶりに大幅増加

一般：+577人 共テ：+2,252人



<p>主な入試変更点</p>	<p>選抜方法：〈一般・A方式外検〉新規実施…外国語(英語)：募集人員：15人、利用方法：出願要件(ドイツ語)：募集人員：5人、利用方法：出願要件(フランス語)：募集人員：5人、利用方法：出願要件(交流文化)：募集人員：5人、利用方法：出願要件</p> <p>経済(経営)：募集人員：20人、利用方法：出願要件(経済)：募集人員：20人、利用方法：出願要件(国際環境経済)：募集人員：5人、利用方法：出願要件</p> <p>国際教養(言語文化)：募集人員：5人、利用方法：出願要件</p> <p>〈共テ・後期2科目〉新規実施…外国語(英語、交流文化)、国際教養：国+外 経済：外+(国 or 歴公 or 数 or 理・理基2)</p> <p>〈共テ・後期3科目〉新規実施…外国語(ドイツ語、フランス語)：国+外+(歴公 or 数 or 理・理基2)</p> <p>〈共テ・英語資格〉新規実施…法：利用方法：出願要件</p> <p>募集人員：外国語(英語)…〈一般・A方式〉70人→60人 経済(経営)…〈一般・A方式〉75人→60人、〈一般・B方式〉70人→65人 (経済)…〈一般・A方式〉75人→60人、〈一般・B方式〉70人→65人 (国際環境経済)…〈一般・B方式〉35人→30人 国際教養(言語文化)…〈一般・A方式〉35人→30人 法(法律)…〈一般・A方式〉45人→55人 (国際関係法)…〈一般・A方式〉15人→20人 (総合政策)…〈一般・A方式〉15人→20人</p>
-----------------------	--

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前年度まで2年連続大幅減少の反動で、2,829人(118)の大幅増加。学部別では、コロナ禍の影響を受けている国際教養(93)を除く3学部が増加、特に経済(129)は30%近い増加。方式別では、一般方式(107)はやや増加で4年ぶりに増加。共通テスト利用方式(131)は新しい方式を新規導入した影響もあって大幅増加で3年ぶりに増加。

〈一般方式〉

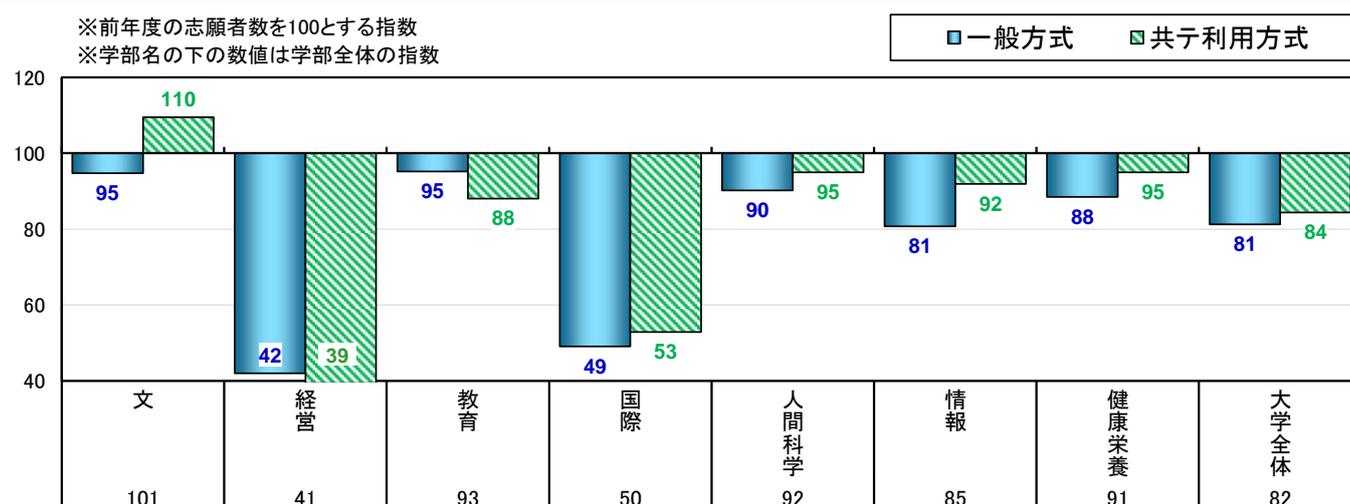
- 外国語(108)は、増加で4年ぶりに増加。学科別では、(フランス語)(180)は激増で3年ぶりに増加、(ドイツ語)(117)は大幅増加で6年ぶりに増加。一方で、(交流文化)(94)と(英語)(95)はやや減少でいずれも4年連続減少。
- 法(97)は、やや減少で3年連続減少。学科別では、(国際関係法)(156)は大幅増加で3年ぶりに増加。一方で、(総合政策)(72)は大幅減少で2年連続減少、(法律)(89)は減少で2年連続減少。
- 経済(116)は、3年連続減少の反動で大幅増加だが、志願者数は2年連続で4,000人を下回った。学科別では、(経営)(126)と(経済)(115)はいずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(国際環境経済)(90)は減少で3年連続減少。志願者数は400人を下回った。
- 国際教養(93)は、コロナ禍の影響が大きい系統ということもあり、やや減少で4年連続減少。方式別では、全学統一の〈B方式〉(85)は大幅減少で3年連続減少、一般2・3科目の〈A方式〉(89)は減少で4年連続減少。

〈共通テスト利用方式〉

- 外国語(128)は、大幅増加で3年ぶりに増加。学科別では、4学科全てが増加し、(フランス語)(203)は2年連続大幅減少の反動で激増、(ドイツ語)(145)と(交流文化)(134)はいずれも3年連続減少の反動で大幅増加、(英語)(103)はやや増加。
- 法(133)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(総合政策)(185)は前年度大幅減少の反動で激増、(国際関係法)(169)は2年連続大幅減少の反動で激増。一方で、(法律)(98)は微減だが3年連続減少。
- 経済(142)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、3学科全てが大幅増加し、(経済)(159)は3年連続大幅減少の反動で大幅増加、(経営)(135)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加、(国際環境経済)(122)は大幅増加。
- 国際教養(94)は、コロナ禍の影響が大きい系統ということもあり、やや減少で3年連続減少。方式別では、共通テスト受験前に出願締め切りとなる〈前期〉(76)は大幅減少で3年連続減少。共通テスト受験後に出席可能な〈中期〉(70)は2年連続大幅減少。〈英語資格〉(72)も大幅減少。3月募集の〈後期〉(264)は〈後期2科目〉新規実施により激増。

文教大：志願者数は大幅減少で3年連続減少

一般：-1,957人 共テ：-773人



主な入試変更点	選抜方法：〈一般・A日程(方式2=実技)〉新規実施…教育(学校教育/美術)：国+実 〈共テ・1期、2期(方式1=2教科型)〉廃止…経営(経営)：(国 or 歴公 or 数 or 理・理基2 or 外)→2 入試科目：教育(学校教育/美術)〈一般・A日程(方式1)〉…国+外+実+(歴公 or 数 or 理)→国+外+(歴公 or 数 or 理) 募集人員：経営(経営)…〈一般・A日程〉25人→30人、〈一般・全国〉6人→10人 〈共テ・1期〉方式1=2教科型、方式2=3教科型あわせて30人→20人 〈共テ・2期〉方式1=2教科型、方式2=3教科型あわせて12人→15人 〈共テ・3期〉7人→5人
---------	---

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、2,730人(82)の2年連続大幅減少で3年連続減少。学部別では、文(101)のみ微増でその他の6学部はいずれも減少。特に、経営(41)が3年連続増加の反動で大幅減少。国際(50)はコロナ禍の影響もあり半減で2年連続減少。情報(85)は2年連続大幅減少。方式別では、一般方式(81)は2年連続大幅減少、共通テスト利用方式(84)は3年連続大幅減少。

〈一般方式〉

- 文(95)は、やや減少で3年連続減少。学科別では、(中国語中国文)(106)は前年度激減の反動は小さくやや増加、(日本語日本文)(103)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。一方で、(英米語英米文)(83)、(外国語)(84)はいずれも大幅減少で3年連続減少。
- 経営(42)は、6年連続増加の反動で58%の大幅減少。志願者数は500人を下回った。特に、〈一般・A日程〉(38)が激減。
- 教育(95)は、減少で3年連続減少。課程・専修別では、(発達/特別支援教育)(80)、(学校/英語)(83)、(発達/幼児心理教育)(85)は大幅減少。一方で、(学校/家庭)(122)は大幅増加で6年ぶりに増加、実技型の〈一般・A日程(方式2)〉を新規実施した(学校/美術)(115)は大幅増加。
- 国際(49)は、6年連続増加の反動とコロナ禍の影響を強く受けた系統であることから半減以下の大幅減少。学科別では、(国際理解)(49)、(国際観光)(50)はいずれも半減。
- 人間科学(90)は、減少で2年連続減少。学科別では、3学科全てが減少で(心理)(88)、(臨床心理)(88)はいずれも減少、(人間科学)(94)はやや減少。
- 情報(81)は、2年連続大幅減少。学科別では、3学科全てが減少で、特に(メディア表現)(71)、(情報社会)(83)はいずれも2年連続大幅減少。
- 健康栄養(88)は、減少で6年連続減少。

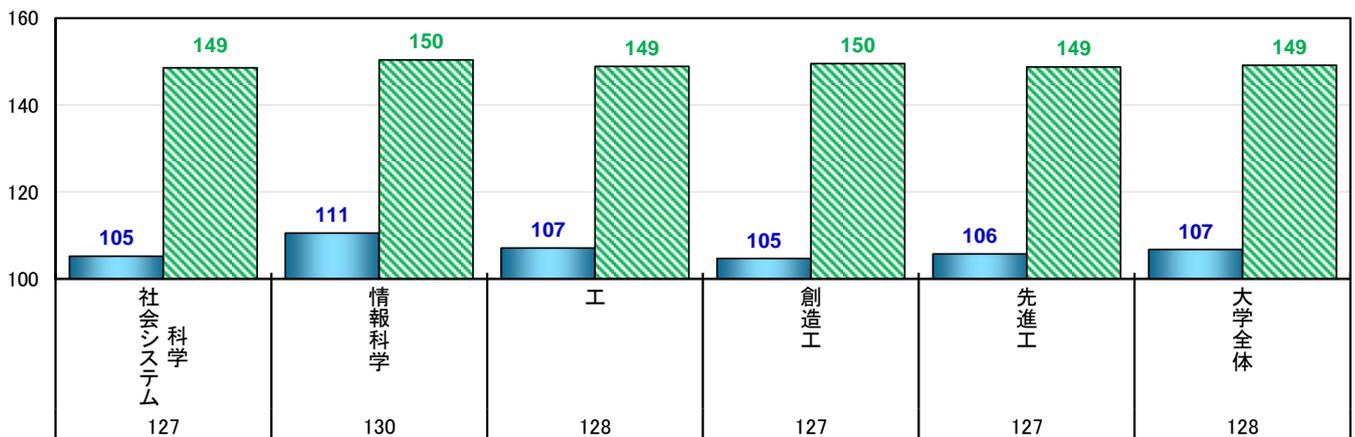
〈共通テスト利用方式〉

- 文(110)は、2年連続大幅減少の反動で7学部中唯一増加。学科別では、4学科中3学科が増加。特に、(英米語英米文)(117)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(中国語中国文)(85)は2年連続大幅減少で3年連続減少し、志願倍率は5倍を下回った。
- 経営(39)は、〈共テ・1期〉、〈共テ・2期〉ともに2教科型の(方式1)を廃止した影響で61%減少の激減で3年連続大幅減少。ただし、廃止した募集単位を除くと、(109)の増加
- 教育(88)は、減少で3年連続減少。課程・専修別では、13課程・専修別8課程・専修で減少。(学校/社会)(69)、(学校/音楽)(78)、(学校/数学)(79)、(学校/体育)(80)、(学校/国語)(84)は大幅減少、(学校/理科)(86)、(学校/英語)(86)、(発達/児童心理教育)(89)は減少。一方で、(発達/初等連携教育)(128)、(発達/特別支援教育)(123)は大幅増加、(学校/美術)(111)は増加、(学校/家庭)(106)、(発達/幼児心理教育)(104)はやや増加。
- 国際(53)は、大幅減少で3年連続減少。(国際理解)(50)は半減で3年連続減少。コロナ禍の影響を強く受ける(国際観光)(58)は3年連続大幅減少。
- 人間科学(95)は、やや減少だが3年連続減少。学科別では、(臨床心理)(88)は減少、(人間科学)(97)はやや減少、(心理)(99)は微減で3学科いずれも減少。
- 情報(92)は、減少で3年連続減少。学科別では、3学科中2学科が減少。(メディア表現)(79)は3年連続大幅減少、(情報システム)(92)は減少で3年連続減少。一方で、(情報社会)(109)は増加で3年ぶりに増加。
- 健康栄養(95)は、やや減少で3年連続減少。

千葉工業大：大学全体で志願者数は3年連続10万人超え 一般：+3,685人 共テ：+26,682人

※前年度の志願者数を100とする指数
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■共テ利用方式



主な入試変更点 選抜方法：全5学部…<A日程タイプB(英語外部試験利用)>を新規実施 利用方法：出願要件…<S A日程>新規実施
 入試科目：社会システム科学<A日程>…外+(国 or 数 or 理)→数+外+(国 or 理)

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、30,367人(128)の大幅増加で5年連続増加となり、志願者数は3年連続10万人を突破。方式別では、一般方式は3,685人(107)のやや増加で、共通テスト利用方式は併用の<S A日程>新規実施とコロナ禍対策として引き続き共通テスト検定料を無料または減免したことから、前年度に引き続き26,682人(149)の大幅増加。

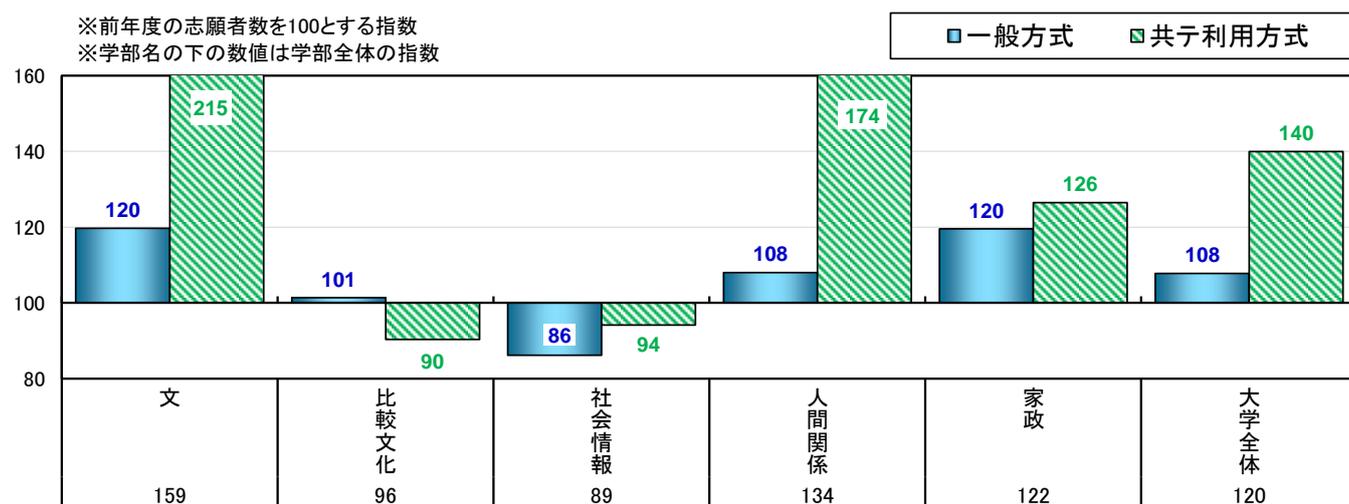
＜一般方式＞

- 社会システム科学(105)は、やや増加で前年度11年ぶりに減少に転じたが、再び増加した。学科別では、3学科全てが増加で、特に(金融・経営リスク科学)(108)は前年度大幅減少の反動で増加。
- 情報科学(111)は、前年度10年ぶりに減少に転じたが、再び増加した。学科別では、2学科とも増加。
- 工(107)は、前年度減少の反動は小さくやや増加に留まった。学科別では、6学科全てが増加で、(応用化)(110)、(情報通信システム工)(109)、(機械工)(108)は増加、他の3学科はいずれもやや増加。
- 創造工(105)は、前年度減少の反動は小さくやや増加に留まった。学科別では、3学科全てがやや増加。
- 先進工(106)は、やや増加。学科別では、3学科全てが増加で、(知能メディア工)(108)は増加で、他の2学科はいずれもやや増加。

＜共通テスト利用方式＞

- 社会システム科学(149)は、大幅増加で5年連続増加。学科別では、3学科全てが大幅増加。方式別では、新規実施の<S A日程>を除いても(123)の大幅増加。
- 情報科学(150)は、5年連続大幅増加。学科別では、2学科とも大幅増加。方式別では、新規実施の<S A日程>を除いても(123)の大幅増加。
- 工(149)は、大幅増加で5年連続増加。学科別では、6学科全てが大幅増加。方式別では、新規実施の<S A日程>を除いても(123)の大幅増加。
- 創造工(150)は、大幅増加で5年連続増加。学科別では、3学科全てが大幅増加。方式別では、新規実施の<S A日程>を除いても(125)の大幅増加。
- 先進工(149)は、大幅増加で5年連続増加。学科別では、3学科全てが大幅増加。方式別では、新規実施の<S A日程>を除いても(123)の大幅増加。

大妻女子大：大学全体では3年ぶりに大幅増加、共テは受験後に出願可能が影響 一般：+205人 共テ：+671人



主な入試変更点	選抜方法：全学部<一般・A方式><共テ・B方式>…調査書を点数化 ※「調査書の「全体の学習成績の状況」を点数化」 <共テ・B方式I期><共テ・B方式II期> …英語外部試験利用を導入 利用方法：得点換算 ※高得点の方を英語の得点として判定 入試科目：社会情報(社会情報/社会生活情報学) …<一般・A方式I期(2/2)>外+(国 or 歴)→外+(国 or 歴 or 数) <共テ・B方式I期><共テ・B方式II期>国+外+(歴 or 理・理基2)→国+外+調+(歴 or 数 or 理・理基2)
---------	--

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、876人(120)の大幅増加で3年ぶりに増加。学部別では、文(159)、人間関係(134)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。家政(122)は2年連続減少の反動で大幅増加。一方で、社会情報(89)は3年連続大幅減少。方式別では、一般方式は205人(108)の増加で3年ぶりに増加。2月入試の<A方式I期>(112)は増加、3月入試の<A方式II期>(78)は3年連続大幅減少と対照的。共通テスト利用方式は671人(140)の大幅増加で3年ぶりに増加。2月入試の<B方式I期>(139)は大幅増加、3月入試の<B方式II期>(156)も大幅増加。いずれも、共通テスト受験後に出願可能なので、合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。

<一般方式>

- 文(120)は、前年度大幅減少の反動による大幅増加で3年ぶりに増加。学科別では、(英語英文)(143)は前年度半減以下の反動で大幅増加。(コミュニケーション文化)(125)は3年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(日本文)(91)は前年度半減以下に引き続き減少で3年連続減少。方式別では、2月入試の<A方式I期>(124)は大幅増加、3月入試の<A方式II期>(88)は減少と対照的。
- 比較文化(101)は、2年連続減少の反動はなく2人の微増で、志願者数は2年連続で150人を下回った。方式別では、2月入試の<A方式I期>(121)は大幅増加、3月入試の<A方式II期>(53)はほぼ半減と対照的。
- 社会情報(86)は、2年連続大幅減少に引き続き減少。学科・専攻別では、3学科・専攻全てで減少。(社会情報/環境情報学)(76)、(社会情報/社会生活情報学)(83)はいずれも3年連続大幅減少。(社会情報/情報デザイン)(98)は微減だが3年連続減少。方式別では、2月入試の<A方式I期>(90)は減少、3月入試の<A方式II期>(64)は大幅減少。
- 人間関係(108)は、3年連続減少の反動で増加に転じたが、志願者数は400人を下回った。学科・専攻別では、(人間関係/社会学)(119)は3年連続減少の反動で大幅増加、(人間関係/社会・臨床心理学)(115)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、前年度の反動による増減が継続。一方で、(人間福祉)(81)は3年連続大幅減少。方式別では、2月入試の<A方式I期>(112)は増加、3月入試の<A方式II期>(83)は大幅減少と対照的。
- 家政(120)は、3年連続減少の反動で大幅増加。6学科・専攻中4学科・専攻が増加。特に、(被服)(145)は大幅増加で6年ぶりに増加。(ライフデザイン)(129)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。(食物/管理栄養士)(124)は大幅増加で7年ぶりに増加に転じたのが目立った。方式別では、2月入試の<A方式I期>(121)は大幅増加、3月入試の<A方式II期>(104)はやや増加。

<共通テスト利用方式>

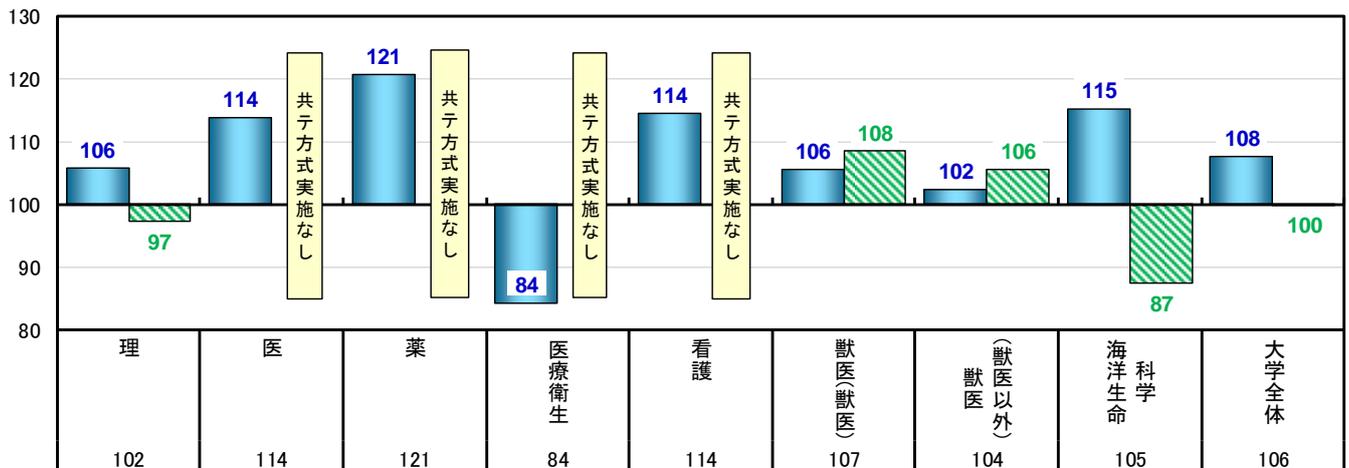
- 文(215)は、2年連続大幅減少の反動で倍以上。学科別では、3学科全て増加。(英語英文)(310)は2年連続大幅減少の反動で3倍以上。(コミュニケーション文化)(238)は前年度大幅減少の反動で倍以上。(日本文)(133)は2年連続減少の反動で大幅増加。
- 比較文化(90)は、前年度大幅増加の反動で減少。方式別では、2月入試の<B方式I期>(87)は減少、3月入試の<B方式II期>(183)は激増と対照的。
- 社会情報(94)は、やや減少で3年連続減少、志願者数は400人を下回った。学科・専攻別では、3学科・専攻全てで減少。特に、(社会情報/環境情報学)(90)は2年連続大幅減少の反動はなく減少。
- 人間関係(174)は、2年連続大幅減少の反動で激増。学科・専攻別では、3学科・専攻全てで増加。(人間関係/社会学)(240)は倍以上。(人間福祉)(159)、(人間関係/社会・臨床心理学)(141)はいずれも2年連続大幅減少の反動で大幅増加。
- 家政(126)は、2年連続減少の反動で大幅増加。6学科・専攻中5学科・専攻が大幅増加。特に(ライフデザイン)(155)は2年連続減少の反動で50%以上の大幅増加。(食物/管理栄養士)(142)は2年連続大幅増加。

北里大：志願者数は6年ぶりに増加

一般：+689人 共テ：-2人

※前年度の志願者数を100とする指数
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数

■ 一般方式 ■ 共テ利用方式



主な入試変更点

選抜方法：医療衛生(医療検査、医療工、リハビリテーション)〈一般・前期〉、獣医(獣医)〈一般・後期〉…〈第2志望制度〉新規実施
 医療衛生(保健衛生)…学科募集→コース別募集
 募集人員：薬(生命創薬科学)…〈一般・前期〉22人→20人
 医療衛生(医療工/診療放射線技術科学)…〈一般・前期〉48人→38人
 (医療工/臨床工学)…〈一般・前期〉35人→25人
 (リハビリテーション/言語聴覚療法学)…〈一般・前期〉18人→16人、〈一般・後期〉3人→2人
 (リハビリテーション/作業療法学)…〈一般・前期〉31人→20人、〈一般・後期〉3人→4人
 (リハビリテーション/視覚機能療法学)…〈一般・前期〉17人→13人、〈一般・後期〉3人→2人
 (リハビリテーション/理学療法学)…〈一般・前期〉35人→20人
 (保健衛生)…〈一般・前期〉22人→(保健衛生/環境保健学)11人、(保健衛生/臨床心理学)11人
 (保健衛生)…〈一般・後期〉10人→(保健衛生/環境保健学)4人、(保健衛生/臨床心理学)4人
 (医療検査)…〈一般・前期〉70人→50人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、687人(106)のやや増加で6年ぶりに増加。学部(獣医は(獣医)と(獣医以外))別では、医療衛生(84)のみ大幅減少。一方で、薬(121)は大幅増加、医(114)、看護(114)は増加、獣医(獣医)(107)、海洋生命科学(105)、獣医(獣医以外)(104)はやや増加、理(102)は微増。方式別では、一般方式は689人(108)の増加で6年ぶりに増加、共通テスト利用方式は2020年度から理、獣医、海洋生命科学の3学部のみ募集だが、2人(100)の微減で2020年度以降は連続減少。共通テスト受験前に出願締め切りとなる〈共テ・前期〉〈共テ併用・プラス〉の合計(101)は前年度並。一方で、共通テスト受験後に出願可能な〈共テ・後期〉〈共テ併用・後期〉の合計(78)は大幅減少で、共通テストの平均点ダウンの影響で出願を諦めた層がいたことがうかがえる。

〈一般方式〉

- 理(106)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。学科別では、3学科全てが増加。(生物科学)(110)は増加、(物理)(104)、(化)(103)はやや増加。
- 医(114)は、コロナ禍による首都圏の大学を敬遠する傾向が緩和した結果増加。志願者数は4年ぶりに2,000人を上回った。
- 薬(121)は、7年連続減少の反動と系統への人気の高まりから大幅増加。学科別では、(生命創薬科学)(133)は大幅増加で2年連続増加、(薬)(118)も大幅増加で8年ぶりに増加。
- 医療衛生(84)は、募集人員減少もあり2年連続大幅減少したが、志願倍率は逆に4.8倍→5.2倍にアップ。募集単位別では、7つの募集単位全てで減少。特に、(リハビリテーション/言語聴覚療法学)(37)は募集人員減少(前年度募集人員対比指数86)により激減で志願倍率も2.7倍→1.2倍にダウン、(リハビリテーション/作業療法学)(63)も募集人員減少(前年度募集人員対比指数71)により大幅減少で志願倍率も2.7倍→2.4倍にダウン。一方で、(リハビリテーション/理学療法学)(78)も募集人員減少(前年度募集人員対比指数63)により大幅減少だが、志願倍率は7.5倍→9.4倍にアップして競争は激化。
- 看護(114)は、2年連続減少の反動で増加。
- 獣医(獣医)(106)は、やや増加で5年ぶりに増加。方式別では、〈前期〉(100)は前年度並だが、〈後期〉(125)は大幅増加と対照的。
- 獣医(獣医以外)(102)は、微増だが4年ぶりに増加。学科別では、(生物環境科学)(114)は増加で4年ぶりに増加。一方で、(動物資源科学)(97)はやや減少で6年連続減少。
- 海洋生命科学(115)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加し、6年ぶりに増加。

〈共通テスト利用方式〉

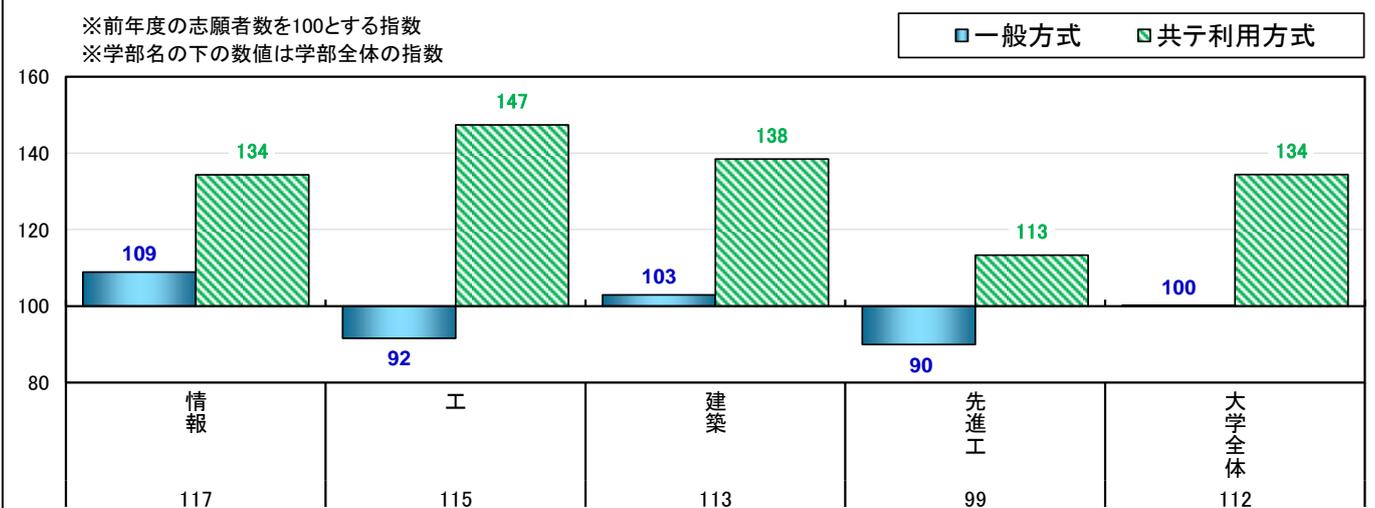
- 理(97)は、やや減少で志願者数は2年連続1,000人を下回った。学科別では、(化)(106)は3年連続減少の反動は小さくやや増加、(物理)(105)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。一方で、(生物科学)(86)は前年度増加の反動で減少。
- 獣医(獣医)(108)は、前年度大幅減少の反動で増加。方式別では、〈5教科〉(112)が増加、〈3教科〉(107)はやや増加。
- 獣医(獣医以外)(106)は、やや増加で4年ぶりに増加。学科別では、(生物環境科学)(107)、(動物資源科学)(104)のいずれも

やや増加。

○海洋生命科学(87)は、減少で3年連続減少。志願者数は500人を下回った。

工学院大：志願者数は2年ぶりに2万人を上回る

一般：+22人 共テ：+2,296人



主な入試変更点 選抜方法：全学部…〈共テ・前期4教科型〉を新規実施
入試科目：建築〈B日程〉…(国 or 数 or 理 or 外)→2 ※数、外いずれか必須→(国 or 数 or 理 or 外)→3 ※数、外いずれか必須

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、2,318人(112)の増加で3年ぶりに増加。大学全体の志願者数は前年度2万人を下回ったが、今年度は上回った。学部別では、情報(117)、工(115)は大幅増加、建築(113)は増加。方式別では、一般方式が22人(100)の微増だが、共通テスト利用方式は〈共テ・前期4教科型〉の新規実施もあり2,296人(134)の大幅増加。方式別では、共通テスト受験前に出願締め切りとなる〈共テ前期〉(136)は〈共テ・前期4教科型〉の新規実施の影響で大幅増加、共通テスト受験後に出願可能なく共テ後期(85)は3年連続大幅減少で共通テストの平均点ダウンの影響もあった。

<一般方式>

- 情報(109)は、系統への人気が高いこともあり、前年度2年連続増加から減少に転じたが、再び増加。学科および学部総合の5つの募集単位別では、(情報デザイン)(128)は2年連続減少の反動で大幅増加、(システム数理)(120)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(コンピュータ科学)(111)は2年連続増加。一方で、(学部総合)(92)は減少で3年連続減少、(情報通信工)(95)はやや減少だが2年連続減少。
- 工(92)は、減少で3年連続減少。学科別では、3学科全てが減少で、特に(電気電子工)(87)は減少で3年連続減少。
- 建築(103)は、2年連続減少の反動は小さくやや増加に留まった。学科および学部総合の4つの募集単位別では、(建築)(117)は2年連続減少の反動で大幅増加。一方で、他の3つの募集単位はいずれも減少で、特に(まちづくり)(89)は前年度大幅増加の反動で減少。
- 先進工(90)は、減少で3年連続減少。学科・専攻別および大学院接続型コースの7つの募集単位別では、(応用化)(111)は前年度大幅減少の反動で増加、(環境化)(111)は前年度大幅減少の反動で増加。一方で、(機械理工/航空理工学)(45)は2019年度新設以降2年連続大幅増加の反動で大幅減少、新設3年目の(大学院接続型)(57)は2年連続大幅減少、他の3学科・専攻も大幅減少。

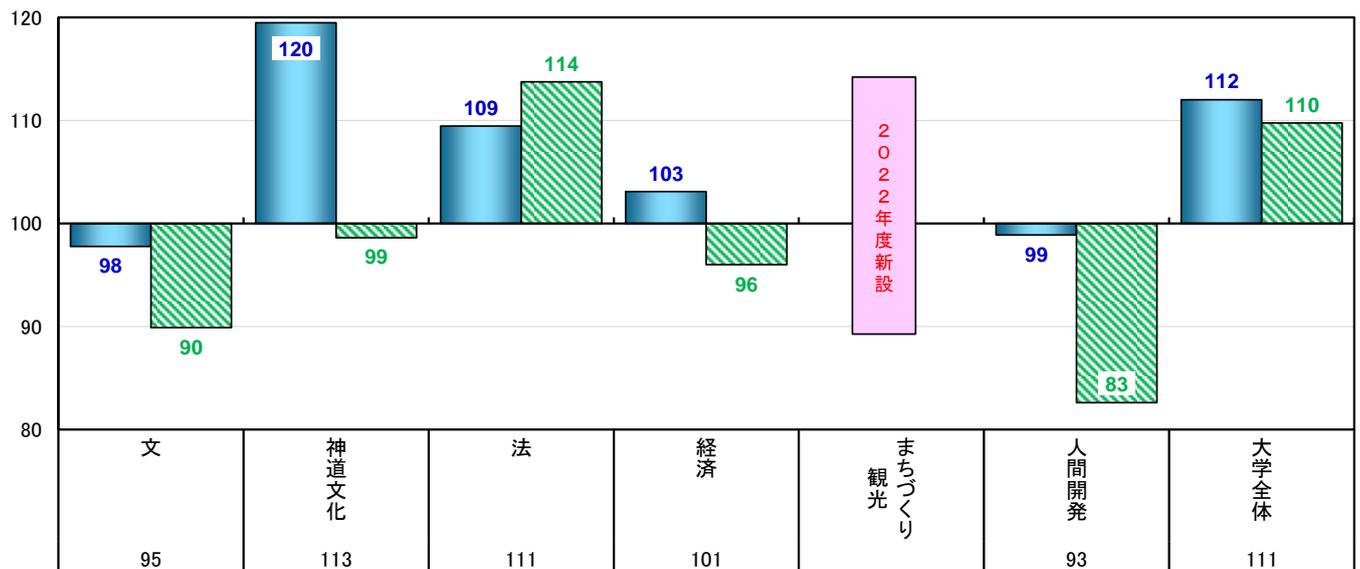
<共通テスト利用方式>

- 情報(134)は、系統への人気が高いこともあり、大幅増加で前年度2017年度改組以降初の減少だったが再び増加。学科および学部総合の5つの募集単位別では、全てが大幅増加で、特に(システム数理)(156)は前年度減少の反動で大幅増加、(情報デザイン)(153)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 工(147)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、3学科全てが大幅増加。
- 建築(138)は、2年連続減少の反動で大幅増加。学科および学部総合の4つの募集単位別では、全てが大幅増加。特に、(学部総合)(163)は2年連続減少の反動で激増。
- 先進工(113)は、2年連続減少の反動で増加。学科・専攻別および大学院接続型コースの7つの募集単位別では、(機械理工/機械理工学)(127)は改組後2年連続減少の反動で大幅増加、(応用化)(124)、(生命化)(121)、(応用物理)(115)はいずれも2年連続減少の反動で大幅増加、(大学院接続型)(116)は新設3年目で大幅増加。一方で、(機械理工/航空理工学)(51)は2019年度新設以降2年連続大幅増加の反動で大幅減少、(環境化)(91)は減少で2年連続減少。

國學院大：志願者数は3年ぶりに増加し、2万人を上回る
一般：+1,595人 共テ：+593人

※前年度の志願者数を100とする指数
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■共テ利用方式

**主な入試変更点**

学部新設：観光まちづくり(観光まちづくり)
 募集人員：文(史)…〈一般・B日程〉23人→21人、〈共テ・V方式〉18人→13人
 (哲)…〈一般・B日程〉7人→8人
 (中国文)…〈一般・A日程〉16人→20人、〈一般・B日程〉10人→8人、
 〈共テ・V方式〉4人→3人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、2,188(111)の増加で3年ぶりに増加し、大学全体の志願者数が2年ぶりに2万人を上回った。学部新設の観光まちづくりを除くと1人(100)減少の前年度並。新設の観光まちづくりはコロナ禍の影響を受けた系統ということもあって、志願倍率は大学全体の志願倍率より低かった。方式別では、一般方式は、1,595人(112)の増加で、新設の観光まちづくりを除くと301人(102)の微増。共通テスト利用方式も、593人(110)の増加で3年ぶりの増加だが、新設の観光まちづくりを除くと302人(95)やや減少で3年連続減少。

<一般方式>

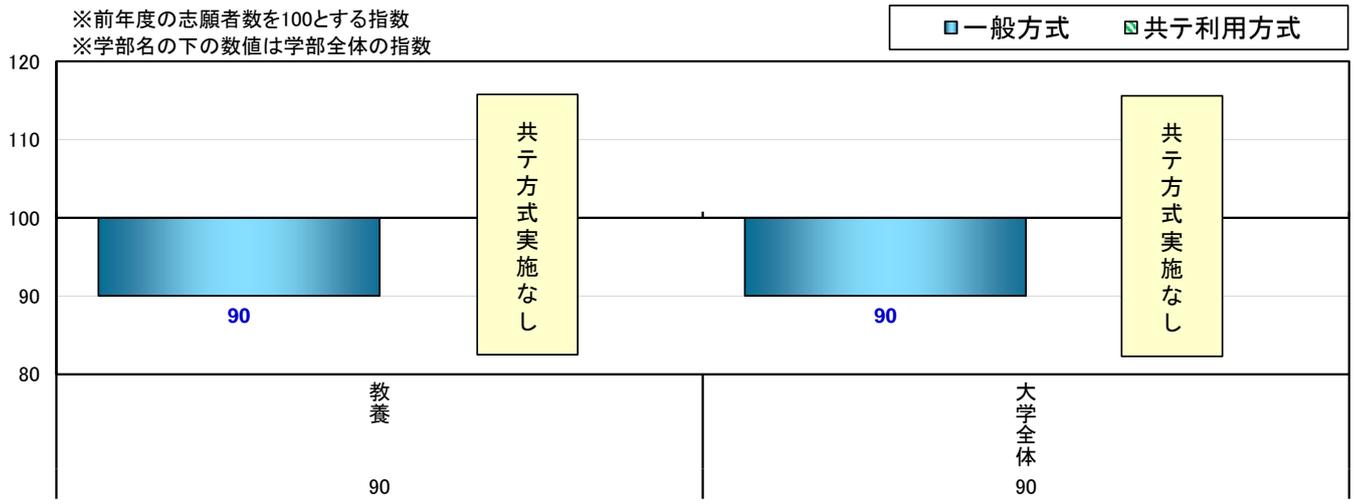
- 文(98)は、微減だが2年連続減少。学科別では、5学科中4学科が減少で、(哲)(86)、(外国語文化)(88)、(中国文)(90)はいずれも減少、(日本文)(99)は微減。一方で、(史)(106)はやや増加で唯一の増加。
- 神道文化(120)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加、志願者数は2年ぶりに500人を上回った。
- 法(109)は、2年連続減少の反動で増加。専攻別では、(法律/法律)(115)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(法律/政治)(102)は3年連続減少の反動はなく微増。一方で、(法律/法律専門職)(91)は、3年連続増加の反動で減少。
- 経済(103)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。学科別では、(経営)(98)は微減だが2年連続減少。一方で、(経済)(108)は前年度大幅減少の反動で増加。
- 観光まちづくりは新設学部だが、コロナ禍の影響を受けた系統ということもあって、一般方式の募集人員114人に対し、志願者数は1,294人、志願倍率は11.4倍で、大学全体の一般方式の志願倍率12.5倍を下回った。
- 人間開発(99)は、微減だが2年連続減少。学科別では、3学科中2学科が増加で、(初等教育)(104)はやや増加、(健康体育)(102)は微増。一方で、(子ども支援)(84)は大幅減少で2年連続減少。

<共通テスト利用方式>

- 文(90)は、2年連続大幅減少に引続き減少。学科別では、5学科全て減少で、特に(哲)(64)は2年連続大幅減少で3年連続減少。志願者数は6年ぶりに200人を下回った。
- 神道文化(99)は、前年度大幅減少に引続き、微減。
- 法(114)は、2年連続大幅減少の反動で増加。専攻別では、3専攻中2専攻が増加。特に、(法律/法律)(125)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加、(法律/政治)(111)は増加。一方で、(法律/法律専門職)(80)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 経済(96)は、やや減少だが3年連続減少。学科別では、(経営)(85)は2年連続大幅減少で3年連続減少。一方で、(経済)(109)は前年度大幅減少の反動で増加。
- 観光まちづくりは新設学部だが、コロナ禍の影響を受けた系統ということもあって、共通テスト利用方式の募集人員50人に対し、志願者数は895人、志願倍率は17.9倍で、大学全体の共通テスト利用方式の志願倍率26.4倍を大きく下回った。
- 人間開発(83)は、2年連続大幅減少で3年連続減少。学科別では、3学科全てが減少で、(子ども支援)(80)、(初等教育)(80)はいずれも大幅減少、(健康体育)(88)は減少。

国際基督教大：志願者数は2年連続減少

一般：-114人



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

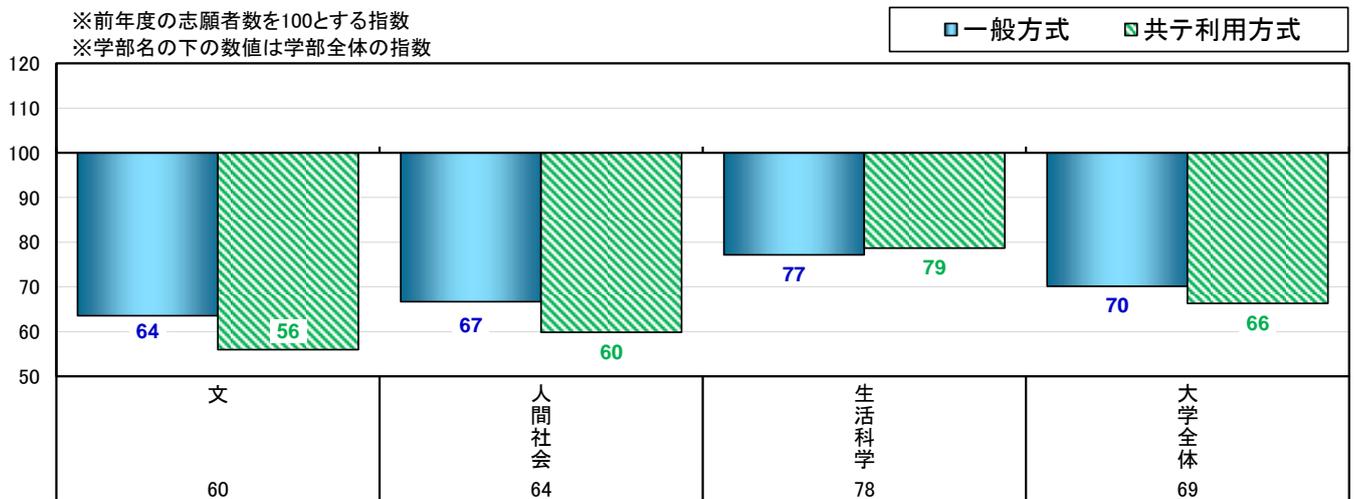
大学全体では、114人(90)の減少で2年連続減少。志願者数は1,000人余りとなり、2014年度に旧センター試験利用方式を廃止後最少。

<一般方式>

○教養(90)は、減少で2年連続減少。方式別では、入試で「人文・社会科学」または「自然科学」、「総合教養」、「英語」の3科目を課す<A方式>(91)は減少で2年連続減少だが、前年度募集人員を290人→240人へ削減したため、志願倍率は4.2倍→4.4倍→4.0倍と推移。第一次選考で「総合教養」および「英語外部試験」、第二次選考で「個人面接」課す<B方式>(英語外部試験利用)(76)は2年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率は7.5倍→9.1倍→6.9倍と推移。

実践女子大：大学全体では3年連続大幅減少

一般：-815人 共テ：-602人



主な入試変更点

選抜方法：全学部<一般・I期>…1回実施→A日程、B日程の2回で実施
 <一般・II期(高校時代活動評価方式)>…一般III期で実施→一般II期で実施
 <一般・III期>…廃止
 <共テ併用・III期(ジェネリックスキル方式)>…新規実施
 入試科目：文(英文)<一般・II期(高校時代活動評価方式)>…国+外→外+(国 or 数 I・A)
 <共テ・III期>…国+外→外+(国 or 歴公 or 数 or 理・理基 2)
 (美学美術史)<一般・II期(高校時代活動評価方式)>…国+外→(国 or 数 I・A or 外)→2
 人間社会<一般・II期(高校時代活動評価方式)>…外+(国 or 数 I・A)→(国 or 数 I・A or 外)→2
 生活科学(食生活科学/管理栄養士)<一般・II期(高校時代活動評価方式)>…数 I・A+外→数 I・A+(国 or 外)

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、女子大全体への人気低下もあって1,417人(69)の大幅減少で3年連続大幅減少。学部別では、文(60)、人間社会(64)、生活科学(78)の3学部全てが大幅減少。方式別では、一般方式は<一般・III期>の廃止もあって815人(70)の大幅減少で3年連続減少。2月上旬入試の<一般・I期>(84)、2月中旬入試の<一般・II期>(58)のいずれも大幅減少。共テ利用方式は602人(66)の大幅減少で4年連続減少。事実上共通テスト受験前に出願となる<共テ・I期>(61)、共通テスト受験後に出願可能な<共テ・II期>(69)はいずれも大幅減少、3月入試の<共テ・III期>(205)のみ<共テ併用・III期(ジェネリックスキル方式)>の新規実施で倍増、この新規実施を除いても(129)の大幅増加。最後の受験機会を生かしたい受験生が集まったと思われる。

〈一般方式〉

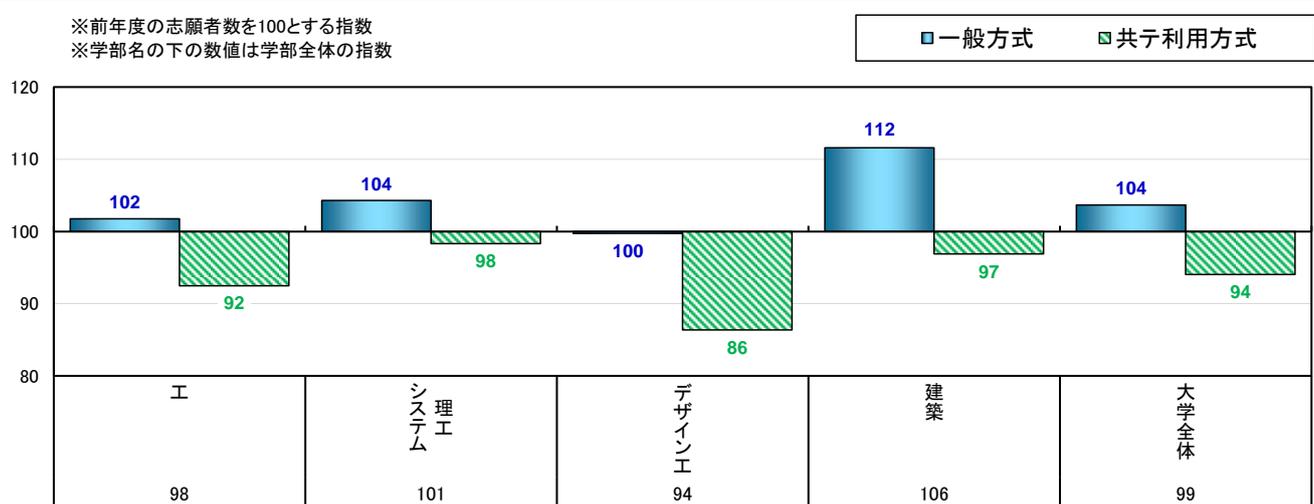
- 文(64)は、大幅減少で3年連続減少、廃止された〈一般・III期〉を除いても(70)の大幅減少。学科別では3学科全て大幅減少。(国文)(58)は前年度半減の反動はなく40%以上の大幅減少で3年連続減少。志願者数は200人を下回った。(美学美術史)(61)は2年連続大幅減少。(英文)(71)は大幅減少で3年連続減少。
- 人間社会(67)は、2年連続大幅減少で3年連続減少、廃止された〈一般・III期〉を除いても(72)の大幅減少。志願者数は500人を下回った。
- 生活科学(77)は、2年連続大幅減少で3年連続減少、廃止された〈一般・III期〉を除いても(85)の大幅減少。学科・専攻別では、7学科・専攻全て減少。特に、(現代生活)(63)は2年連続大幅減少、(生活文化/生活心理)(65)は2年連続大幅減少で3年連続減少、(食生活科学/健康栄養)(67)は前年度3年ぶりに減少しなかったが大幅減少で再び減少したのが目立った。

〈共通テスト利用方式〉

- 文(56)は、3年連続大幅減少。学科別では3学科全て大幅減少。(国文)(43)は2年連続大幅減少に引き続き半減以下で、志願者数は80人を下回った。(美学美術史)(58)は大幅減少で3年連続減少。志願者数は6年ぶりに200人を下回った。(英文)(65)は大幅減少で4年連続減少。
- 人間社会(60)は、前年度4年ぶりにやや増加したが大幅減少で再び減少に転じ、志願者数は250人を下回った。
- 生活科学(79)は、大幅減少で4年連続減少。学科・専攻別では、7学科・専攻中6学科・専攻が減少。特に、(食生活科学/食物科学)(66)、(食生活科学/健康栄養)(75)、(生活環境)(79)はいずれも大幅減少で5年連続減少。(生活文化/生活心理)(69)は4年連続大幅減少。一方で、(生活文化/幼児保育)(102)は前年度減少率60%以上の激減の反動はなく1人増加で前年度並。

芝浦工業大：大学全体では微減で、3年連続減少

一般：+789人 共テ：-994人



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、205人(99)の微減だが3年連続減少、志願者数は2年連続で4万人を下回った。学部別では、建築(106)は前年度減少の反動でやや増加。一方で、工(98)は微減だが3年連続減少。方式別では、一般方式は789人(104)のやや増加で3年ぶりに増加。共通テスト利用方式は994人(94)のやや減少で3年連続減少。共通テスト利用方式では、共通テスト受験後に出願可能な〈共テ・後期〉(130)が共通テストの平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加もあって2年連続大幅増加。一方で、共通テスト受験前に出願締め切りの〈共テ・前期〉(92)は2年連続減少と対照的。

〈一般方式〉

- 工(102)は、微増だが4年ぶりに増加。学科別では、(応用化)(116)、(材料工)(115)は、いずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(電子工)(90)は2年連続やや増加の反動で減少、(機械工)(93)はやや減少で3年連続減少、(情報通信工)(93)はやや減少で2年連続減少。
- システム理工(104)は、やや増加で3年ぶりに増加。学科・コース別では、(生命科学/生命科学)(119)は2年連続減少の反動で大幅増加、(数理科学)(110)、(機械制御システム)(110)は増加で、いずれも前年度減少の反動。一方で、(環境システム)(97)はやや減少で、3年連続減少。
- デザイン工(100)は、前年度並。学科・系別では、(デザイン工/生産・プロダクトデザイン)(105)は3年連続減少の反動でやや増加。一方で、(デザイン工/ロボティクス・情報デザイン)(95)は、前年度やや増加の反動でやや減少。
- 建築(112)は、増加で5年ぶりに増加。学科・コース別では、3学科・コース全てが増加。特に、(建築/先進的プロジェクトデザイン)(163)は3年連続減少の反動で激増。

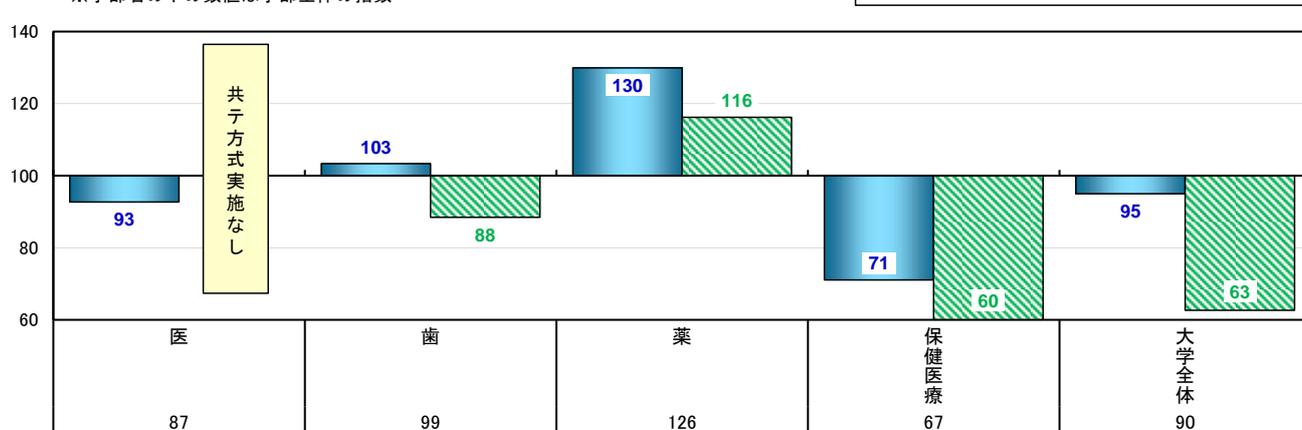
〈共通テスト利用方式〉

- 工(92)は、減少で3年連続減少。志願者数は2年連続で9,000人を下回った。学科別では、(機械機能工)(117)は大幅増加、(電子工)(102)は微増で、他の7学科は減少。特に(情報通信工)(76)は大幅減少。方式別では、〈共テ・後期〉(127)は2年連続大幅増加。一方で、〈共テ・前期〉(91)は2年連続減少。
- システム理工(98)は、前年度に引き続き微減。学科・コース別では、(数理科学)(110)は増加で、2年連続増加。一方で、(電子情報システム)(91)は前年度やや増加の反動で減少、(機械制御システム)(93)はやや減少で3年連続減少。方式別では、〈共テ・後期〉(145)は前年度の激増に引き続き大幅増加。一方で、〈共テ・前期〉(96)はやや減少で、2年連続減少。
- デザイン工(86)は、減少で前年度の反動による増減が継続。学科・系別では、2学科・系のいずれも減少。方式別でも、〈共テ・前期〉(86)、〈共テ・後期〉(91)といずれも減少。

○**建築(97)**は、やや減少で3年連続減少。学科・コース別では、(建築/先進的プロジェクトデザイン)(111)のみ増加。方式別では、<共テ・後期>(161)は前年度の大幅増加に引き続き激増。一方で、<共テ・前期>(95)はやや減少で、2年連続減少。

昭和大学：大学全体では減少、共テはB方式廃止で大幅減少 一般：-306人 共テ：-401人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数



主な入試変更点	選抜方法：医…<茨城県枠>新規実施 医、歯、薬、保健医療…<共テ併用・B方式>廃止
	募集人員：医…<I期>75人→82人、歯…<共テ併用>10人→5人 保健医療(理学療法)…<一般・I期>13人→15人、<共テ併用>3人→2人 (作業療法)…<一般・I期>8人→10人、<共テ併用>3人→2人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、707人(90)の減少。学部別では、薬(126)を除く3学部で減少。方式別では、一般方式は、306人(95)のやや減少。共通テスト利用方式は、全学部で<共テ併用・B方式>を廃止した影響もあり、401人(63)の大幅減少で4年連続減少。志願者数は700人を下回った。ただし、廃止した<共テ併用・B方式>を除くと、38人(95)のやや減少に留まった。

<一般方式>

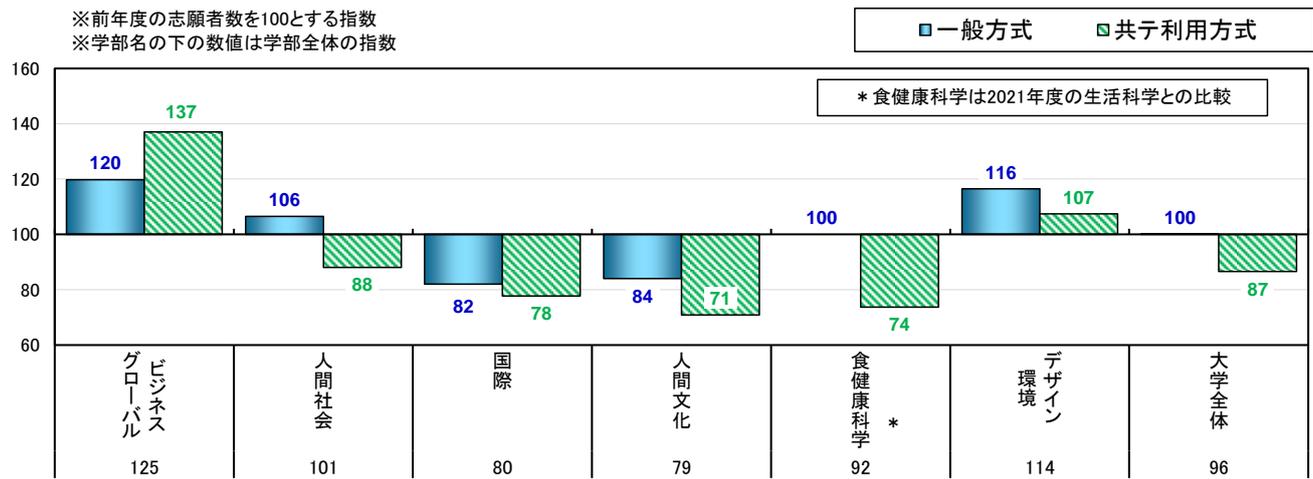
- 医(93)**は、やや減少。方式別では、<I期>と<II期>との併願が可能なく<地域枠>との合計では(93)でやや減少で、志願倍率は35.6倍→27.0倍にダウン。なお、新規実施の<茨城県枠地域枠>を除くと(92)の減少。3月募集の<II期>(91)は2年ぶりに減少。志願者数は再び1,500人を下回った。
- 歯(103)**は、2年連続減少の反動は小さくやや増加に留まった。志願者数は2年連続で500人を下回った。方式別では、<I期>(109)は2年連続減少の反動で増加。<II期>(87)は前年度の大幅減少に引き続き、2年連続減少。
- 薬(130)**は、系統への高い人気に加えて、3年連続大幅減少の反動で大幅増加。方式別では、<I期>(126)は3年連続大幅減少の反動で大幅増加。<II期>(141)は5年連続減少の反動で40%以上の大幅増加。
- 保健医療(71)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、3学科全てが大幅減少。特に、(作業療法)(31)は減少率70%近い激減で2年連続減少。特に<II期>の志願者数は1人のみ。(理学療法)(50)は前年度大幅増加の反動で半減。<I期><II期>のいずれもほぼ半減。(看護)(79)は減少率20%余りの大幅減少。特に<II期>は半減。

<共通テスト利用方式>

- 歯(88)**は、<共テ併用・B方式>(地域別選抜)の廃止もあって、減少で3年連続減少、志願者数は170人を下回った。ただし、<共テ併用・A方式>のみでは、(96)のやや減少で、4年連続減少。
- 薬(116)**は、系統への高い人気に加えて、2年連続減少の反動で大幅増加。しかし、志願者数は3年連続300人を下回った。
- 保健医療(60)**は、<共テ併用・B方式>(地域別選抜)の廃止もあって、大幅減少で4年連続減少。<共テ併用・A方式>のみでも、(68)の大幅減少で、2年ぶりに減少、志願者数は300人を下回った。学科別では、3学科全てが大幅減少。前年度から継続する<共テ併用・A方式>のみの比較でも、(理学療法)(51)はほぼ半減。(作業療法)(59)は大幅減少で5年連続減少。(看護)(74)は大幅減少で3年ぶりの減少。

昭和女子大：大学全体ではやや減少し、3年連続減少

一般：+3人 共テ：-431人



主な入試変更点

学部名称変更：生活科学→食健康科学 ※2021年4月より

入試科目：グローバルビジネス(ビジネスデザイン)〈共テ・II期英語4技能試験活用〉

…(国or歴公or数①or数②)から2→(国or歴公or数①or数②)から1 ※高得点2科目採用から高得点1科目採用に変更
環境デザイン(環境デザイン)〈共テ・I期(一般)〉〈共テ・II期(一般)〉

…外+(歴公or数①or数②or理)→外+(歴公or数①or数②or理・理基2) ※選択に理基2追加

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、女子大への人気低下している中で、428人(96)のやや減少で3年連続減少。学部別では、グローバルビジネス(125)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、コロナ禍の影響が大きい系統である国際(80)は大幅減少で、3年連続減少。方式別では、一般方式は3人(100)の微増に留まり、4年連続減少の反動はなく、志願者数も2年連続で7,000人を下回った。共通テスト利用方式は、431人(87)の減少で3年連続減少。共通テスト受験前に入願締め切りとなる〈共テI期〉(81)は3年連続減少に対して、共通テスト受験後に入願可能なく共テ・II期〉(177)は全ての募集単位で大幅増加と対照的。共通テストの平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。

〈一般方式〉

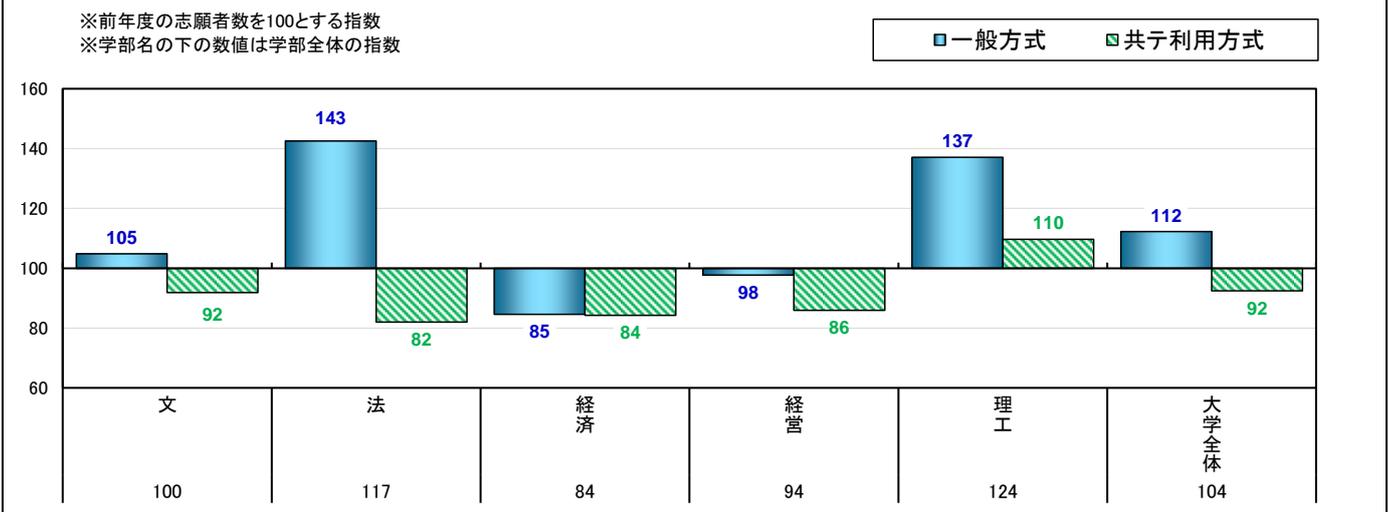
- グローバルビジネス(120)は、前年度大幅減少の反動による大幅増加で、志願者数は900人を上回った。学科別では、2学科とも増加。特に、(ビジネスデザイン)(128)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 人間社会(106)は、2年連続減少の反動は小さくやや増加に留まり、志願者数は2,000人を2年連続で下回った。学科別では、(現代教養)(145)は3年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(福祉社会)(76)は前年度大幅増加の反動で大幅減少と対照的。
- 国際(82)は、コロナ禍の中で系統への人気低下しており、2年連続大幅減少。学科別では、2学科とも減少。特に、(英語コミュニケーション)(79)は大幅減少で、3年連続減少。
- 人間文化(84)は、大幅減少で2017年度の改組以降で志願者数は最少。学科別では、2学科とも減少。(日本語日本文)(81)は大幅減少、(歴史文化)(87)は前年度増加の反動で減少。
- 食健康科学(100)は、2021年4月に生活科学から学部名称を変更して、初めての募集だったが、志願者数は前年度と同数。学科別では、(健康デザイン)(105)は前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加。一方で、(食安全マネジメント)(93)は前年度大幅増加の反動でやや減少。
- 環境デザイン(116)は、2020年度に改組後3年目だが、前年度大幅減少の反動で大幅増加。

〈共通テスト利用方式〉

- グローバルビジネス(137)は、3年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、2学科とも大幅増加。特に、(ビジネスデザイン)(144)は、前年度大幅減少の反動と〈共テ・II期英語4技能試験活用〉(700)において、選抜方法を高得点2科目採用から高得点1科目採用に変更した影響で7倍増だったこともあって、大幅増加。
- 人間社会(88)は、減少で3年連続減少。学科別では、(現代教養)(113)以外の3学科が減少。特に(福祉社会)(57)は前年度大幅増加の反動で40%以上の大幅減少。(初等教育)(73)は系統への低い人気に影響し3年連続大幅減少。
- 国際(78)は、コロナ禍の中で系統への人気低下しており、3年連続大幅減少。学科別では、2学科とも減少。特に、(英語コミュニケーション)(70)は3年連続減少率20%を上回る大幅減少。(国際)(89)は、減少で2年連続減少。
- 人間文化(71)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、2学科とも大幅減少。
- 食健康科学(74)は、2021年4月に生活科学から学部名称を変更して、初めての募集だったが、大幅減少。学科別では、3学科とも大幅減少で、特に(食安全マネジメント)(65)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 環境デザイン(107)は、2020年度に改組後3年目だが、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。方式別では、〈共テ・II期(一般)〉(267)は共通テストの平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願増加の影響で約2.7倍の激増。

成蹊大：大学全体では3年ぶりに増加

一般：+1,386人 共テ：-552人



主な入試変更点	学科改組：理工(物質生命理工、情報科学、システムデザイン) →理工(理工/データ数理、コンピュータ科学、機械システム、電気電子、応用化) 入試科目：法(政治、法律)〈共テ併用・P方式〉…〈共テ〉国+外+(歴公 or 数①)→2、〈個〉外 →〈共テ〉国+外+(数② or 理・理基2)+(歴公 or 数①)→2、〈個〉外
---------	--

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、834人(104)のやや増加で3年ぶりに増加。学部別では、学科改組をした理工(124)と法(117)は大幅増加。一方で、経済(84)は大幅減少。方式別では、一般方式は1,386人(112)の増加で、3年ぶりに増加。一方で、共通テスト利用方式は、552人(92)の減少で、3年連続減少と対照的。

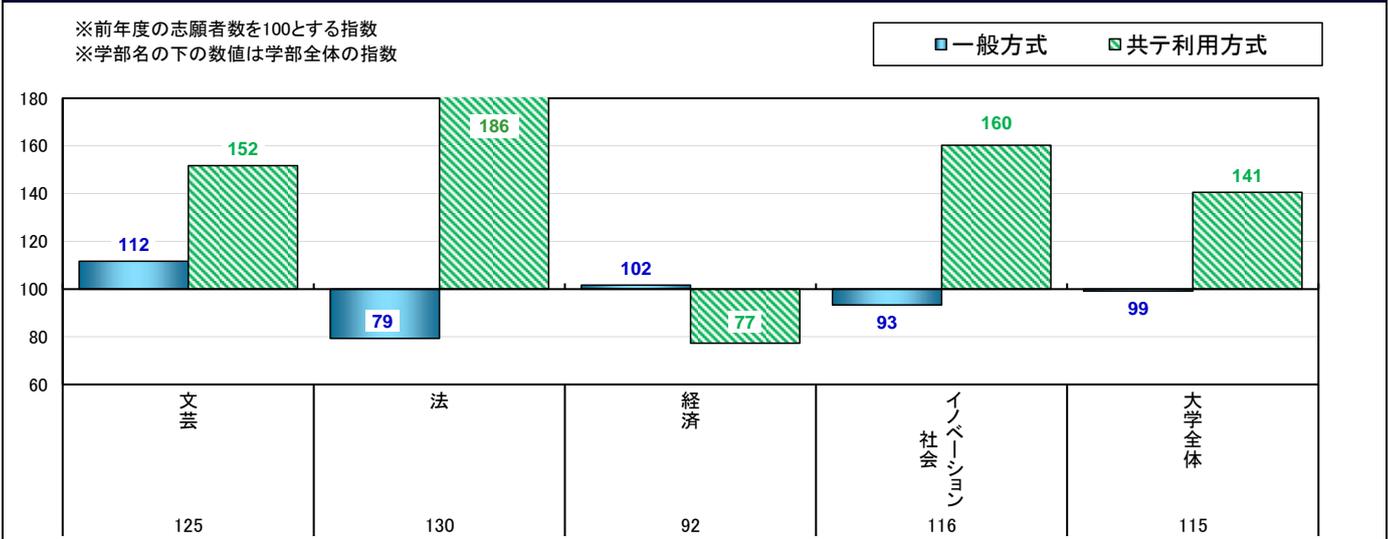
<一般方式>

- 文(105)は、2年連続減少の反動は小さくやや増加。学科別では、(現代社会)(88)以外の3学科が増加。特に、(国際文化)(115)、(日本文)(115)は大幅増加で、いずれも3年連続減少の反動。
- 法(143)は、2年連続大幅減少の反動で40%以上の大幅増加。学科別では、2学科とも大幅増加。特に(法律)(159)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。
- 経済(85)は、3年連続大幅減少。学部改組後3年目だが、2学科とも減少。特に(現代経済)(83)が大幅減少で、2年連続大幅減少。
- 経営(98)は、微減で学部改組後3年目だが2年連続減少。方式別では、2教科に英語外部検定試験と活動報告書を評価する〈G方式〉(112)は、コロナ禍の中での英語外部試験を受験する環境が回復した結果、前年度50%以上の大幅減少の反動で増加。一方で、3教科型の〈A方式〉(94)は2年連続やや減少。
- 理工(137)は、2年連続減少の反動で大幅増加。学科改組により学部全体の募集人員が7%増加したが、それを上回る志願者増加で志願倍率は11.6倍→14.9倍にアップ。

<共通テスト利用方式>

- 文(92)は、減少で前年度の反動による増減が継続。学科別では、(日本文)(104)のやや増加を除き、他の3学科は減少。特に、(国際文化)(75)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 法(82)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2017年度以降、前年度の反動による増減が継続。学科別では、2学科とも減少。(政治)(66)は30%以上の大幅減少、(法律)(94)はやや減少。いずれも前年度の反動による増減が継続。
- 経済(84)は、大幅減少で3年連続減少。学部改組3年目だが、(現代経済)(111)は前年度大幅減少の反動で増加。一方で、(経済数理)(57)は前年度激増の反動で大幅減少と対照的。
- 経営(86)は、減少で学部改組3年目だが2年連続減少。方式別では、共通テスト受験前に出願締め切りとなる〈共テ・C方式〉(84)は2年連続大幅減少。
- 理工(110)は、学科改組だが、前年度大幅減少の反動で増加。

成城大：大学全体では4年ぶりに大幅増加、特に共テが40%以上の大幅増加 一般：-71人 共テ：+2,094人



主な入試変更点
 選抜方法：文芸…〈共テ・後期B方式〉新規実施
 入試科目：経済〈共テ・前期B方式〉…英(リーディング)のみ→英(リーディング)と英(リスニング) ※英にリスニング追加
 配点変更：社会イノベーション〈共テ・前期B方式〉…国<100>+外<200>+(歴公 or 数① or 数② or 理 or 理基2)<100>=総点<400>
 →国<150>+外<300>+(歴公 or 数① or 数② or 理 or 理基2)<150>=総点<600>

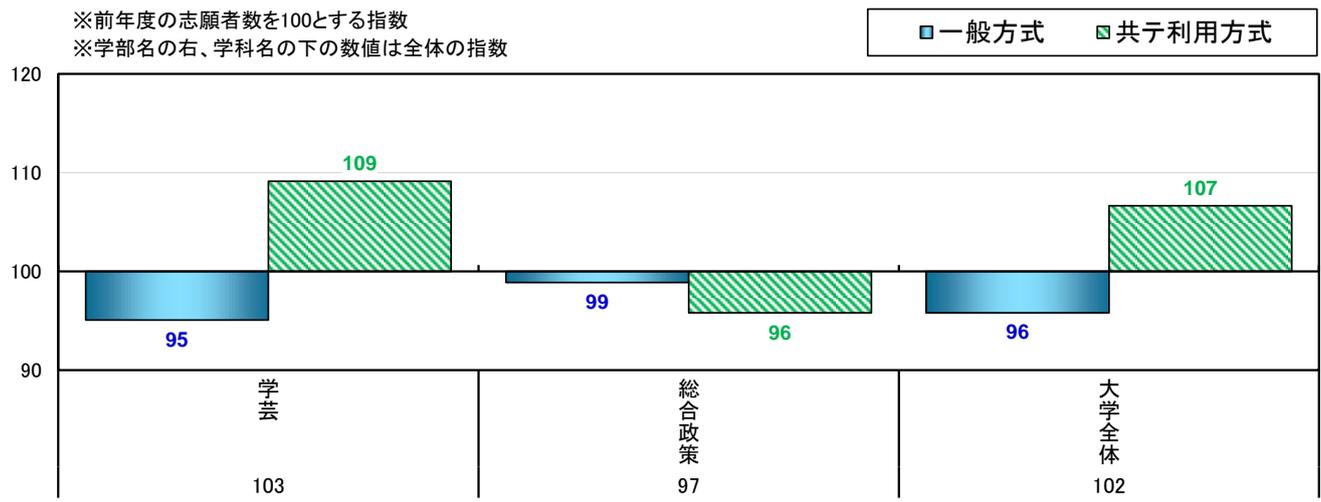
COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、3年連続減少の反動で2,023人(115)の大幅増加し、4年ぶりに増加。学部別では、経済(92)を除く3学部はいずれも大幅増加。方式別では、一般方式は71人(99)の微減だが4年連続減少。共通テスト利用方式は2,094人(141)の40%以上の大幅増加。文芸〈共テ・後期B方式〉の新規実施と、3年連続減少の反動が要因。文芸〈共テ・後期B方式〉を除いても(135)の大幅増加。

<一般方式>
 ○文芸(112)は、3年連続減少の反動で増加。学科別では、6学科全てが増加。特に、(文化史)(127)、(ヨーロッパ文化)(115)は大幅増加で、いずれも3年連続減少の反動。(マスコミュニケーション)(105)は、前年度大幅減少の反動でやや増加。2018年度以降前年度の反動による増減が継続。
 ○法(79)は、前年度3年ぶりに大幅増加したが、反動で大幅減少。方式別では、全学部の〈S方式〉(134)は大幅増加、学部別の〈A方式〉(68)は大幅減少と対照的。いずれも前年度の反動による増減。
 ○経済(102)は、微増だが3年ぶりに増加。学科別では、2学科とも微増。(経済)(102)は4年ぶりに増加。
 ○社会イノベーション(93)は、前年度やや増加の反動は小さくやや減少に留まった。学科別では、(政策イノベーション)(110)は、3年連続減少の反動で増加、志願者数は1,200人を上回った。一方で、(心理社会)(77)は前年度大幅増加の反動で大幅減少と対照的。志願者数は1,000人を下回った。方式別では、全学部の〈S方式〉(136)が大幅増加、一方で学部別の〈A方式2教科〉(69)が大幅減少。

<共通テスト利用方式>
 ○文芸(152)は、〈共テ・B方式後期〉の新規実施と、3年連続減少の反動で50%以上の大幅増加。学科別では、6学科全てが大幅増加。特に(国文)(186)、(英文)(180)は激増。(ヨーロッパ文化)(156)は前年度大幅減少の反動で50%以上の大幅増加。(文化史)(150)は3年連続減少の反動で大幅増加。
 ○法(186)は、3年連続減少の反動で激増。志願者数は3年ぶりに2,000人を上回った。方式別では、全ての方式で大幅増加。特に、〈共テ・前期B方式3教科型〉(196)、〈共テ・前期B方式4教科型〉(161)は激増。
 ○経済(77)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、(経済)(53)は前年度の微減に引き続き40%以上の大幅減少。一方で、(経営)(102)は前年度大幅減少の反動で微増。
 ○社会イノベーション(160)は、激増で2年連続増加。学科別では、2学科とも大幅増加。(政策イノベーション)(193)は2年連続減少の反動で激増。(心理社会)(142)は前年度に引き続き大幅増加で、2年連続大幅増加。

津田塾大：大学全体では微増だが3年ぶりの増加、共テC方式前期が大幅増加 一般：-76人 共テ：+151人



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、75人(102)の微増だが3年ぶりに増加。しかし、志願者数は、3年連続4,000人台に留まった。一般方式は前年度の大幅減少の反動はなく、76人(96)のやや減少で3年連続減少。共通テスト利用方式は107人(107)のやや増加で2年連続減少の反動。方式別では、共通テスト受験前に入願締め切りとなる共テ利用の<C方式前期>(117)は4年連続減少の反動で大幅増加、共通テスト受験後まで出願可能な<C方式後期>(81)は大幅減少、共テ併用<B方式>(74)も3年連続減少。いずれも共通テストの平均点ダウンの影響。

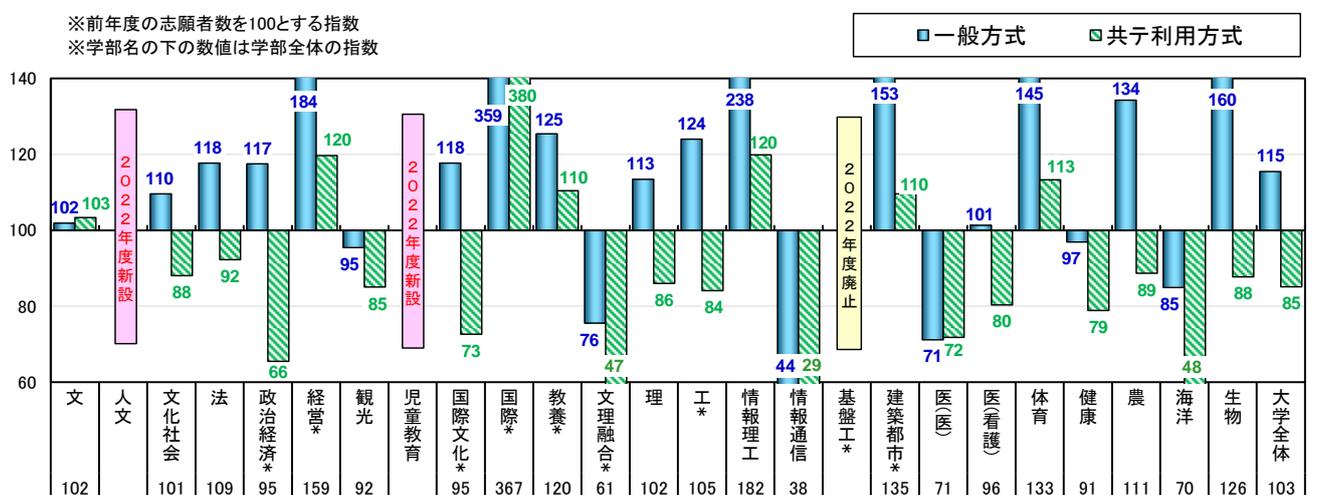
<一般方式>

- 学芸(95)は、やや減少で3年連続減少。学科別では、5学科中2学科が増加。特に、(数)(112)は前年度大幅減少の反動で増加。2019年度以降前年度の反動による増減が継続。(情報科学)(107)はやや増加で、6年ぶりに増加。一方で、(多文化・国際協力)(87)は、コロナ禍の影響による系統の人気低下もあって減少、2019年度の新設以降最少の志願者数で志願倍率も5倍を下回った。(国際関係)(98)もコロナ禍の影響による系統の人気低下で微減、2019年度に募集人員が115人になった以降で最少の志願者数で志願倍率も5倍を下回った。
- 総合政策(99)は、前年度大幅減少した反動はなく微減。2017年度の新設以降最少の志願者数。

<共通テスト利用方式>

- 学芸(109)は、2年連続減少の反動で増加。学科別では、5学科中2学科が大幅増加。特に、(数)(165)は3年連続減少の反動で激増。(英語英文)(134)は、2年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(多文化・国際協力)(62)はコロナ禍の影響による系統の人気低下もあって大幅減少で、2019年の新設以降3年連続大幅減少で志願者数も最少。(国際関係)(91)も、コロナ禍での系統の人気低下により減少、3年連続志願者数は700人を下回った。方式別では、共通テスト受験前に入願締め切りとなる共テ利用の<C方式前期>(120)は2年連続減少の反動で大幅増加。共通テスト受験後まで出願可能な<C方式後期>(55)は(英語英文)のみの募集だが大幅減少、<B方式>(74)も大幅減少で3年連続減少。いずれも、共通テストの平均点ダウンの影響。
- 総合政策(96)は、前年度大幅増加の反動でやや減少。

東海大：大学全体では新設・改組の影響でやや増加だが共テは大幅減少 一般：+4,134人 共テ：-2,624人



* 政治経済は2021年度の(経営)を除いた志願者数との比較、経営は2021年度の政治経済(経営)との比較、国際文化は2021年度の国際文化(地域創造)、(国際コミュニケーション)、(デザイン文化)の合計との比較、国際は2021年度の教養(国際)との比較、教養は2021年度の(国際)を除いた志願者数との比較、文理融合は2021年度の経営、基盤工の合計との比較、工は2021年度の(建築)、(土木工)を除いた志願者数との比較、建築都市は2021年度の工(建築)、(土木工)の合計との比較

<p>主な入試変更点</p>	<p>学部新設：【湘南】児童教育、【清水】人文 ※【 】内は校舎 学科新設：【湘南】情報理工(情報メディア) 学部・学科改組： 【湘南・渋谷】政治経済(政治、経済、経営)→政治経済(政治、経済)、経営 【湘南】教養(芸術、国際、人間環境/自然環境、人間環境/社会環境)→教養(芸術、人間環境)、国際 【湘南・伊勢原】工(材料科学、建築、航空宇宙、機械工、精密工、動力機械工、土木工、生命化、応用化、光・画像工、原子力工、電気電子工、医用生体工) →工(航空宇宙、機械工、機械システム工、応用化、電気電子工、生物工、医工)、建築都市(建築、土木工) 【湘南・高輪】情報通信(情報メディア、組み込みソフトウェア工、経営システム工、通信ネットワーク工)→情報通信(情報通信) 【札幌】国際文化(地域創造、国際コミュニケーション、デザイン文化)→国際文化(地域創造、国際コミュニケーション) 【清水】海洋(水産、海洋文明、海洋生物、環境社会、海洋地球科学、航海工)→海洋(水産、海洋生物、海洋理工/海洋理工学、海洋理工/航海学) 【熊本】経営(経営、観光ビジネス)、基盤工(電気電子情報工、医療福祉工)→文理融合(経営、地域社会、人間情報工) 学科名称変更：【熊本】農(応用植物科学、応用動物科学、バイオサイエンス)→(農、動物科学、食生命科学) 選抜方法：全学部<一般・文系・理系学部統一英語外部試験利用>…独自に行う英語筆記試験の受験を必須とする ※高得点の方を英語の得点として判定 医(医)除く<一般・英語外部試験利用>…独自に行う英語筆記試験の受験を必須とする ※高得点の方を英語の得点として判定 工(航空宇宙)<共テ>…利用方法：出願要件 対象試験：英検 2 級以上、GTEC 940 点以上、TOEFL iBT 32 点以上、TOEFL ITP 400 点以上、 TOEFL PBT 400 点以上、TOEIC L&R 450 点以上、TOEIC L&R IP 450 点以上、 TOEIC Bridge 80 点以上 →利用方法：出願要件 対象試験：ケンブリッジ英検 145 点以上、英検 2 級以上、GTEC 1,010 点以上、 IELTS 4.5 以上、TEAP 245 点以上、TEAP CBT 460 点以上、 TOEFL iBT 48 点以上、TOEIC L&R 600 点以上、TOEIC L&R+IP 600 点以上 医(看護)、体育…<共テ・後期>を新規実施 体育(体育、武道、競技スポーツ)…<文系学部統一(前期、後期)>、<理系学部統一(前期、後期)>を新規実施 (生涯スポーツ、スポーツ・レジャーマネジメント)…<理系学部統一(前期、後期)>を新規実施 …<文系学部統一(後期)>を新規実施 健康…<理系学部統一(前期、後期)>を新規実施 入試科目：理<一般・一般>…数+理+外 ※理：物 or 化→数+理+外 ※理：物 or 化 or 生 情報理工(情報科学)<一般・一般>…数+理+外 ※数：数 I・II・A・B ※理：物 or 化 or 生 →数+理+外 ※数：数 I・II・III・A・B ※理：物 or 化 or 生 体育(生涯スポーツ、スポーツ・レジャーマネジメント)<一般・一般>…外+論+(国 or 数)→外+実+(国 or 数)</p>
-----------------------	---

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、1,510人(103)のやや増加で3年ぶりの増加だが、志願者数は45,000人台に留まった。新設の人文、児童教育を除くと(101)の微増。学部別では、改組により新設された4学部のうち、国際(367)、経営(159)、建築都市(135)の3学部は改組前の旧募集単位との比較ではいずれも大幅増加。一方で、文理融合(61)は大幅減少。既存の学部では、17学部中9学部で増加。方式別では、一般方式は4,134人(115)の大幅増加で3年ぶりの増加。前年度3万人を下回った志願者数は再び3万人を上回った。一方で、共通テスト利用方式は2,624人(85)の大幅減少で3年連続減少。

<一般方式>

- 文(102)は、前年度大幅減少の反動は小さく、微増に留まった。学科・専攻別では、6学科・専攻中3学科・専攻ずつ増減が分かれた。その中で、(歴史/考古学)(119)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。
- 人文は、清水校舎に新設。一般方式の募集人員合計87人に対し、志願者数は349人で、志願倍率は4.0倍。
- 文化社会(110)は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、6学科中4学科が増加。特に(ヨーロッパ・アメリカ)(154)は前年度ほぼ半減の反動で約1.5倍増。一方で、(文芸創作)(78)は大幅減少で3年連続減少、2018年度の学部改組・新設後初めて、志願者数は200人を下回った。
- 法(118)は、2年連続減少の反動で大幅増加。方式別では、<一般>(147)は大幅増加。一方で、<文系学部統一(前期)>(95)はやや減少、2期募集の<文系学部統一(後期)>(70)は大幅減少。
- 政治経済(117)は、学科改組で3学科から旧政治経済(経営)を除いた2学科となったが、前年度の旧政治経済(経営)を除いた比較では大幅増加。一方で、募集人員は30人(19%)増加なので、志願倍率は逆に9.4倍→9.3倍にダウン。学科別では、(経済)(123)は大幅増加で、募集人員が15人(19%)増加にもかかわらず志願倍率は11.6倍→12.0倍にアップ。一方で、(政治)(108)は増加だが、募集人員も15人(19%)増加したことで志願倍率は7.1倍→6.5倍にダウン。
- 経営(184)は、旧政治経済(経営)の改組による湘南・高輪校舎への学部新設(熊本校舎の2022年度に文理融合への改組のため廃止された旧経営とは別の学部)。旧政治経済(経営)との比較では激増。募集人員も30人(40%)増加したが、志願倍率は11.3倍→14.8倍にアップ。
- 観光(95)は、コロナ禍により敬遠される系統であることから、やや減少で、3年連続減少。方式別では、<一般>(123)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、<文系学部統一(前期)>(67)は大幅減少で2年連続減少、2期入試の<文系学部統一(後期)>(59)は2年連続大幅減少。
- 児童教育は、湘南校舎に新設。一般方式の募集人員合計74人に対して、志願者数は434人で、志願倍率は5.9倍だった。
- 国際文化(118)は、学科改組で3学科から(デザイン文化)を除いた2学科となったにもかかわらず、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(地域創造)(183)は前年度ほぼ半減の反動で激増、(国際コミュニケーション)(138)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 国際(359)は、湘南・高輪校舎に旧教養(国際)の改組による新設。3年次から東京都心の高輪校舎への通学になったこともあって旧教養(国際)との比較では約3.6倍増。募集人員も65人(155%)増加したが、志願倍率は4.9倍→7.0倍にアップ。
- 教養(125)は、学科改組で3学科から旧教養(国際)を除いた2学科となったが、旧教養(国際)を除いた比較では大幅増加。改

組前までさかのぼると 2020 年度以来の 2 年ぶりの増加。募集人員が 23 人(20%)減少したこともあって、志願倍率は 4.9 倍→7.7 倍にアップ。

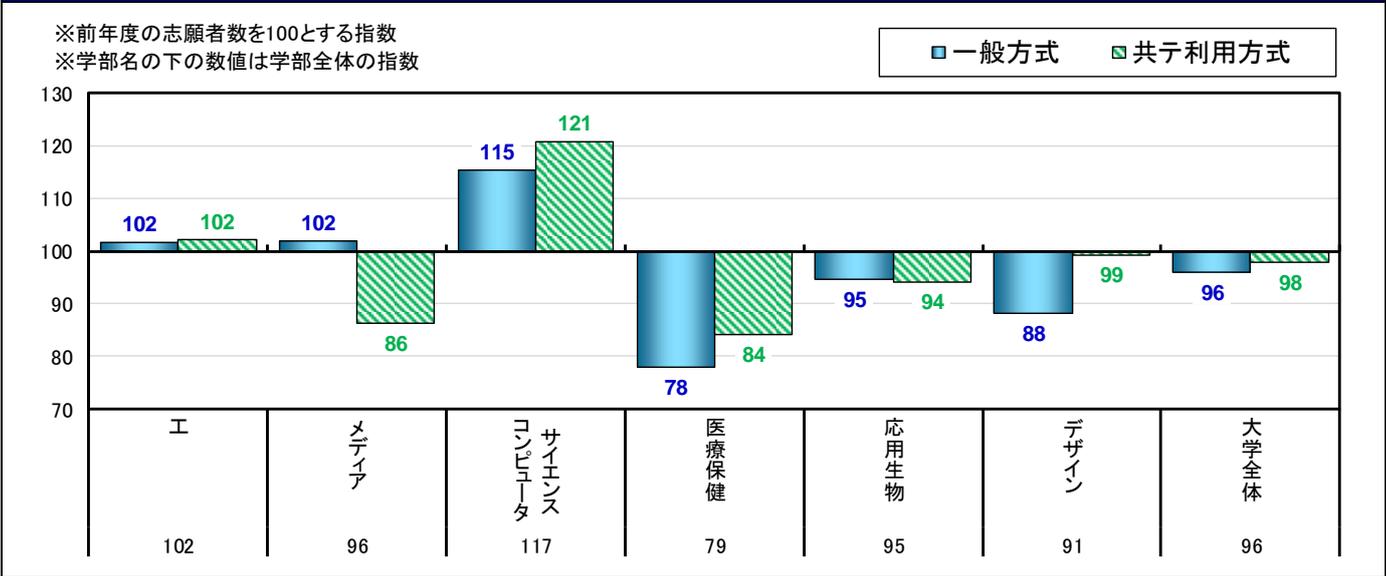
- 文理融合(76)**は、熊本校舎へ旧経営と旧基盤工の改組による新設。旧経営と旧基盤工の合計との比較では、2 年連続大幅減少。募集人員も 28 人(24%)減少だが、志願倍率は 4.10 倍→4.09 倍とわずかにダウン。
- 理(113)**は、増加で 2 年ぶりの増加。学科別では、4 学科中 3 学科が増加。(情報数理)(145)、(化)(120)はいずれも大幅増加、(工)(107)はやや増加で 3 年連続増加。一方で、物理(95)はやや減少で 2 年連続減少。
- 工(124)**は、建築都市に改組された旧工(建築)、(土木工)を除いた比較では、前年度大幅減少の反動で大幅増加。募集人員が 128 人(23%)減少したため、志願倍率は 5.8 倍→9.3 倍にアップ。学科別の志願倍率では、7 学科で(電気電子工)の 13.2 倍が最も高く、(生物工)の 3.8 倍が最も低かった。
- 情報理工(238)**は、約 2.4 倍増で 2 年ぶりの増加、志願者数が 1,000 人を上回った。新設で志願者数が 1,068 人だった(情報メディア)を除いても(152)の大幅増加。既存 2 学科も(コンピュータ応用工)(212)は倍増以上、(情報科学)(115)は大幅増加でいずれも前年度大幅減少の反動。
- 情報通信(44)**は、学科改組で 4 学科から(情報通信)の 1 学科のみとなったが、半減以下で改組前を含めると 3 年連続減少。募集人員も 40 人(24%)減少したが、志願倍率は 14.2→8.3 倍にダウン。
- 建築都市(153)**は、湘南校舎に旧工(建築)、(土木工)の改組による新設。旧工(建築)と旧工(土木工)の合計との比較では、大幅増加で 3 年ぶりの増加。募集人員も 12 人(7%)増加だが、志願倍率は 6.4 倍→9.2 倍にアップ。
- 医(医)(71)**は、大幅減少で 3 年連続減少。志願者数は 3,000 人を下回った。
- 医(看護)(101)**は、3 年連続大幅減少の反動はなく、前年度並に留まった。
- 体育(145)**は、大幅増加で 8 年ぶりの増加。募集人員も 40 人(24%)増加だが、志願倍率は 3.9 倍→4.6 倍にアップ。全学科で〈文系学部統一(前期、後期)〉、〈理系学部統一(前期、後期)〉の新規実施による増加が大きかったが、〈文系学部統一〉、〈理系学部統一〉を除いた〈一般〉のみでの比較でも(119)の大幅増加。学科別では、前年度 5 学科全てで減少だったが、全学科が大幅増加に転じた。特に、前年度半減以下の(競技スポーツ)(226)は倍増以上。
- 健康(97)**は、前年度の大幅減少に引き続き、やや減少で 2 年連続減少。
- 農(134)**は、2 年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、3 学科とも学科名称を変更したが、改称前の学科との比較では、3 学科とも大幅増加。
- 海洋(85)**は、学科改組で 6 学科から 3 学科となったが、大幅減少で 3 年連続減少。しかし、募集人員が 89 人(32%)減少したので、志願倍率は 8.0 倍→10.0 倍にアップ。
- 生物(160)**は、2 年連続大幅減少の反動で激増。学科別では、2 学科とも大幅増加だが、特に(生物)(193)はほぼ倍増。

〈共通テスト利用方式〉

- 文(103)**は、4 年連続減少の反動は小さく、やや増加に留まった。学科・専攻別では、6 学科・専攻中 4 学科・専攻が増加。特に(文明)(115)は大幅増加。なお、減少の 2 学科・専攻の(歴史/日本史)(97)、(歴史/西洋史)(99)も減少率は小さかった。
- 人文**は、清水校舎に新設。共通テスト利用方式の募集人員合計 18 人に対し、志願者数は 175 人、志願倍率は 9.7 倍だった。
- 文化社会(88)**は、3 年連続減少。学科別では、6 学科中 5 学科で減少。特に、(文芸創作)(65)は 3 年連続大幅減少で志願者数は 100 人を下回った。一方で、(ヨーロッパ・アメリカ)(115)は唯一の増加学科で 2 年連続大幅減少の反動で大幅増加。
- 法(92)**は、2 年連続大幅減少に引き続き、減少。特に、〈前期〉(92)が 3 年連続減少。
- 政治経済(66)**は、学科改組で 3 学科から旧政治経済(経営)を除いた 2 学科となったが、前年度の旧政治経済(経営)を除いた比較では大幅減少し、3 年連続減少。志願者数は 7 年ぶりに 1,000 人を下回った。学科別では、(政治)(60)、(経済)(71)のいずれも大幅減少。
- 経営(120)**は、旧政治経済(経営)の改組による湘南・高輪校舎への学部新設(熊本校舎の 2022 年度に文理融合への改組のため廃止された旧経営とは別の学部)。旧政治経済(経営)との比較では大幅増加。方式別では、〈前期〉(123)は大幅増加。一方で、〈後期〉(74)は 9 人の大幅減少。
- 観光(85)**は、コロナ禍で敬遠される系統ということもあり、3 年連続大幅減少。
- 児童教育**は、湘南校舎に新設。共通テスト利用方式の募集人員合計 12 人に対して、志願者数は 193 人で、志願倍率は 16.1 倍だった。
- 国際文化(73)**は、学科改組で 3 学科から(デザイン文化)を除いた 2 学科となったが、改組前を含めると 2 年連続大幅減少。ただし、(デザイン文化)を除いた 2 学科合計の比較では(101)の前年度並。学科別では、(地域創造)(111)は増加で 4 年ぶりの増加。一方で、(国際コミュニケーション)(96)はやや減少で 2 年連続減少。
- 国際(380)**は、湘南・高輪校舎に旧教養(国際)の改組による新設。3 年次から東京都心の高輪校舎への通学になったこともあって、旧教養(国際)との比較では 3.8 倍増。改組前を含めると 3 年ぶりの増加。
- 教養(110)**は、学科改組で 3 学科から旧教養(国際)を除いた 2 学科となったが、旧教養(国際)を除いた比較では増加。改組前を含めると 3 年ぶりの増加。学科別では、(人間環境)は前年度の(人間環境/自然環境)と(人間環境/社会環境)の合計との比較では(116)の大幅増加で 3 年ぶりの増加。一方で、芸術(90)は前年度までの 3 年連続大幅減少に引き続き減少。
- 文理融合(47)**は、熊本校舎へ旧経営と旧基盤工の改組による新設。旧経営と旧基盤工の合計との比較では半減以下で、改組前を含めると 3 年連続減少。
- 理(86)**は、減少で 3 年連続減少。学科別では、4 学科全てが減少、特に(数学)(75)、(情報数理)(82)はいずれも大幅減少。
- 工(84)**は、建築都市に改組された旧工(建築)、(土木工)を除いた比較では、2 年連続大幅減少。
- 情報理工(120)**は、大幅増加で 2 年ぶりの増加。新設で志願者数が 410 人だった(情報メディア)を除くと(83)の大幅減少。既存の 2 学科は、(情報科学)(79)は 2 年連続大幅減少、(コンピュータ応用工)(89)は 2 年連続減少。
- 情報通信(29)**は、学科改組で 4 学科から(情報通信)の 1 学科のみとなったことで、減少率 70%を超える激減。
- 建築都市(110)**は、湘南校舎に旧工(建築)、(土木工)の改組による新設。旧工(建築)と(土木工)の合計との比較では、3 年ぶりの増加。学科別では、(建築)(116)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、一方で(土木工)(97)はやや減少で 3 年連続減少。
- 医(医)(72)**は、3 年連続大幅減少。方式別では、いずれの方式も減少率 30%前後の大幅減少。
- 医(看護)(80)**は、2 年連続大幅減少。
- 体育(113)**は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、5 学科中 3 学科が増加で、いずれも大幅増加。一方で、(体育)(92)

- は2年連続減少、(武道)は前年度と同じ志願者数だった。
- 健康(79)は、3年連続大幅減少。方式別では、<前期>(86)は3年連続減少、2期募集の<後期>(33)は大幅減少。
- 農(89)は、3年連続減少。学科別では、3学科とも学科名を名称変更したが、改称前の学科との比較では、3学科中2学科で減少。特に、(食生命科学)(77)は改称前の旧(バイオサイエンス)との比較では大幅減少で3年連続減少。一方で、農(104)は唯一改称前の旧(応用植物科学)との比較で増加。
- 海洋(48)は、学科改組で6学科から3学科となったが、半減以下で3年連続減少、志願者数は700人に留まった。
- 生物(88)は、3年連続減少。学科別では、(海洋生物科学)(76)は前年度増加の反動で大幅減少、(生物)(100)は前年度並。

東京工科大：大学全体ではやや減少で、前年度の大幅減少に引き続き2年連続減少 一般：-428人 共テ：-91人



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、519人(96)のやや減少で、前年度の大幅減少に引き続き2年連続減少。学部別では、6学部中4学部が減少で、特に(医療保健)(79)は2年連続大幅減少。一方で、(コンピュータサイエンス)(117)は大幅増加。方式別では、一般方式は428人(96)のやや減少で、<一般A日程>(97)はやや減少、2期募集の<一般B日程>(87)は減少。<奨学生>(99)は前年度並、共通テスト利用方式は91人(98)の微減で、共通テスト受験前に出願締め切りとなる<共テ前期>(97)はやや減少、共通テスト受験後に出願可能なく共テ後期>(109)は増加。共通テストの平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。

<一般方式>

- 工(102)は、前年度大幅減少の反動は小さく、微増に留まった。学科別では、3学科中2学科が増加で、(電気電子工)(106)、(機械工)(103)のいずれもやや増加。一方で、(応用化)(93)はやや減少で2年連続減少。
- メディア(102)は、前年度並。方式別では、<奨学生>(109)は増加、<一般A日程>(102)は微増。一方で、2期募集の<一般B日程>(96)のみやや減少。
- コンピュータサイエンス(115)は、前年度大幅減少の反動による大幅増加で、2年ぶりに志願者数は2,100人を上回った。専攻別では、(コンピュータサイエンス/先進情報)(119)は大幅増加、(コンピュータサイエンス/人工知能)(111)も増加で、いずれも前年度大幅減少の反動。
- 医療保健(78)は、2年連続大幅減少。学科・専攻別では、6学科・専攻全て大幅減少。
- 応用生物(95)は、前年度大幅減少の反動はなくやや減少。専攻別では、(応用生物/生命科学・医薬品)(94)、(応用生物/食品・化粧品)(95)はいずれも前年度の大幅減少に引き続きやや減少。方式別では、いずれの方式でも減少だが、特に2期募集の<一般B日程>(70)は2年連続大幅減少。
- デザイン(88)は、前年度大幅減少の反動はなく、さらに減少率10%以上の減少。専攻別では、(デザイン/工業デザイン)(88)、(デザイン/視覚デザイン)(89)はいずれも前年度の大幅減少に引き続き減少。方式別では、いずれの方式でも減少だが、特に<奨学生>(77)は2年連続大幅減少。

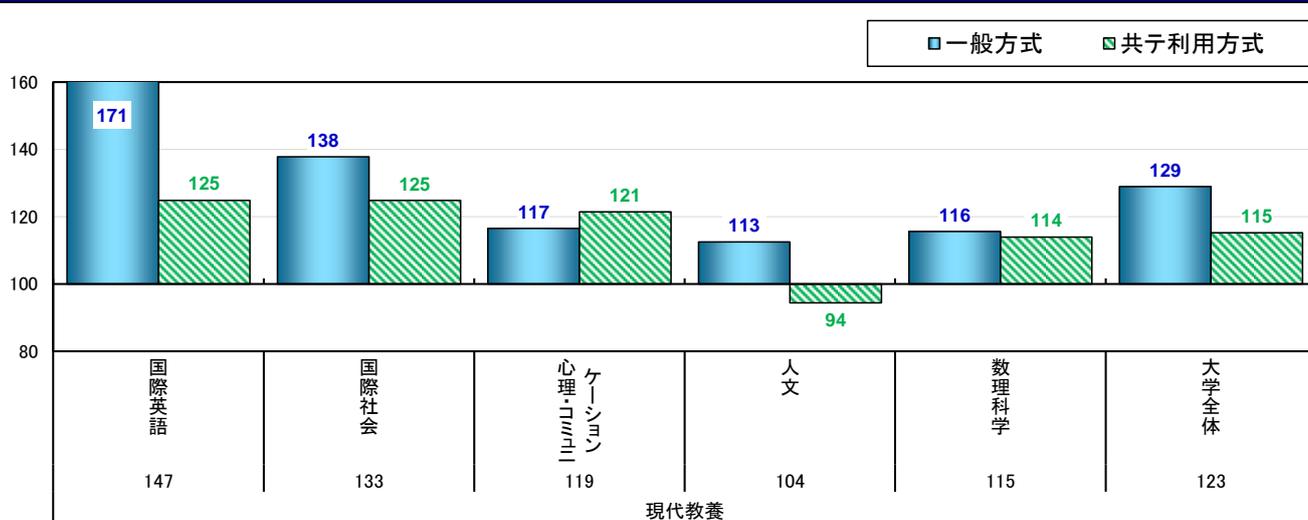
<共通テスト利用方式>

- 工(102)は、前年度ほぼ半減の反動は小さく、微増に留まった。学科別では、3学科中2学科が増加で、(電気電子工)(111)は増加、(機械工)(102)は微増。一方で、(応用化)(92)は2年連続減少。
- メディア(86)は、前年度大幅減少の反動はなく、2年連続減少。方式別では、<共テ前期>(84)は2年連続大幅減少、<共テ後期>(136)は大幅増加と対照的。共通テスト受験後に出願可能なく共テ後期>において、共通テストの平均点ダウンを加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。
- コンピュータサイエンス(121)は、前年度ほぼ半減の反動で大幅増加。2019年度以降、前年度の反動による大幅な増減が継続。専攻別では、(コンピュータサイエンス/先進情報)(129)は大幅増加、(コンピュータサイエンス/人工知能)(110)は増加でいずれも前年度大幅減少の反動。
- 医療保健(84)は、2年連続大幅減少。学科・専攻別では、6学科・専攻中5学科・専攻が減少。特に、(リハビリテーション/作業療法学)(69)、(臨床工)(77)、(リハビリテーション/理学療法学)(82)は大幅減少。一方で、増加した(リハビリテーション/言語聴覚学)(105)は志願者数1人のみの増加。
- 応用生物(94)は、前年度減少率40%以上の大幅減少に引き続き、やや減少。専攻別では、(応用生物/食品・化粧品)(99)は

微減、(応用生物/生命科学・医薬品)(90)は減少で、いずれも2年連続減少。

○デザイン(99)は、前年度大幅減少に引き続き、微減。専攻別では、(デザイン/工業デザイン)(94)はやや減少で2年連続減少。一方で、(デザイン/視覚デザイン)(105)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。

東京女子大：大学全体では大幅増加で4年ぶり増加、国際系2学科の増加目立つ 一般：+1,146人 共テ：+496人



主な入試変更点

選抜方法：現代教養(国際英語)〈一般・前期英語外部試験利用〉〈一般・前期英語 Speaking Test 利用〉

…利用方法：出願要件、得点換算 ※対象試験：英検2級以上(各技能480以上)、TEAP(各技能55以上)、TEAP CBT(各技能100以上)

→利用方法：出願要件、得点換算 ※対象試験：英検2級以上(R、L各480以上、W、S各432以上)、TEAP(R、L各55以上、W、S各50以上)
TEAP CBT(R、L各100以上、W、S各90以上)

入試科目：現代教養(心理・コミュニケーション/コミュニケーション)〈共テ・3月期専攻特色型〉

…数①+外→外+(国 or 歴公 or 数① or 数② or 理 or 理基2)

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、3年連続減少の反動で1,642人(123)の大幅増加。学科別では、全ての学科で増加、特に国際系2学科の増加が目立った。方式別では、一般方式は、1,146人(129)の大幅増加で4年ぶり増加。特に〈英語外部試験利用〉(168)は激増。共通テスト利用方式は、496人(115)の大幅増加で3年ぶり増加。全ての方式で増加し、特に〈3月期専攻特色型〉(170)、〈前期5科目型〉(136)、〈3月期国公立併願型〉(130)はいずれも大幅増加。いずれも共通テスト受験後に受験可能なため、共通テストの平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。

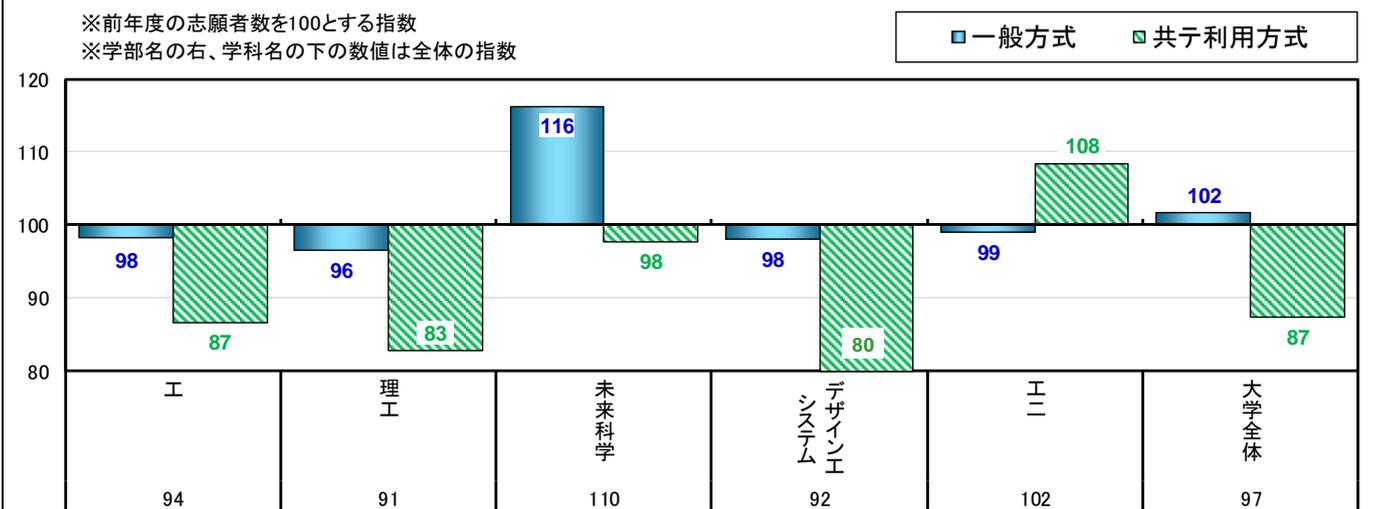
〈一般方式〉

- 現代教養(国際英語)(171)は、前年度減少率40%以上の大幅減少の反動で激増。募集人員(募集人員の前年度対比指数93)の減少もあって、志願倍率は6.4倍→11.8倍にアップ。方式別では、出願要件を緩和した〈英語外部試験利用〉(269)は、約2.7倍の激増。
- 現代教養(国際社会)(138)は、3年連続減少の反動で大幅増加。専攻別では、全ての専攻で増加。特に(国際社会/社会学)(189)は激増、(国際社会/コミュニティ構想)(159)、(国際社会/経済学)(135)はいずれも大幅増加。
- 現代教養(心理・コミュニケーション)(117)は2年連続減少の反動で大幅増加。専攻別では、2専攻とも大幅増加で、(心理・コミュニケーション/コミュニケーション)(117)は2年連続増加、(心理・コミュニケーション/心理学)(115)は旧(人間科学/心理学)時代から前年度の反動による増減が継続。
- 現代教養(人文)(113)は、前年度大幅減少の反動で増加。専攻別では、前年度3専攻全てが大幅減少だったが、反動で(人文/哲学)(161)は激増、(人文/歴史文化)(112)は増加。一方で、(人文/日本文学)(94)は2年連続減少。
- 現代教養(数理科学)(116)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。専攻別では、(数理科学/情報理学)(136)は前年度大幅減少の反動と系統への高い人気から大幅増加。

〈共通テスト利用方式〉

- 現代教養(国際英語)(125)は3年連続減少の反動で大幅増加。方式別では、〈前期5科目型〉(280)は2.8倍の激増。
- 現代教養(国際社会)(125)は、2年連続減少の反動で大幅増加。専攻別では4専攻中3専攻が増加で、特に(国際社会/社会学)(182)、(国際社会/経済学)(151)はいずれも大幅増加。一方で、(国際社会/国際関係)(97)はやや減少で3年連続減少。
- 現代教養(心理・コミュニケーション)(121)は、大幅増加で2年連続増加。専攻別では、(心理・コミュニケーション/コミュニケーション)(145)は2年連続大幅増加。全ての方式で増加し、方式別では、数学を必須から選択にすることで受験生への門戸を広げた〈3月期専攻特色型〉(1200)、〈3月期国公立併願型〉(400)、〈5科目型〉(184)の激増が目立った。一方で、(心理・コミュニケーション/心理学)(97)は4年連続減少。
- 現代教養(人文)(94)は、やや減少で改組後4年連続減少、改組前からだと6年連続減少。専攻別では、(人文/日本文学)(69)は前年度増加の反動で大幅減少。(人文/哲学)(93)はやや減少で4年連続減少。一方で、(人文/歴史文化)(135)は大幅増加で、前年度の反動による大幅な増減が継続。
- 現代教養(数理科学)(114)は、増加。志願者数は500人を上回った。専攻別では、2学科とも増加で、(数理科学/数学)(118)は前年度減少の反動で大幅増加、(数理科学/情報理学)(110)は系統への高い人気もあり3年連続増加。

東京電機大：大学全体ではやや減少で4年ぶりの減少、共テの減少目立つ 一般：+312人 共テ：-1,243人



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、931人(97)のやや減少で、4年ぶりの減少。工二を除いても952人(97)のやや減少。学部別では、昼間部では未来科学(110)が唯一増加、他の昼間部3学科は理工(91)、システムデザイン工(92)は減少、工(94)はやや減少。方式別では、一般方式は312人(102)の微増、工二を除いても318人(102)の微増。特に、〈一般・英語外部試験利用〉(111)は、2019年度の新規導入以降、3年連続増加。一方で、〈一般・後期〉(94)はやや減少で志願者数は4年ぶりに4,000人を下回った。共通テスト利用方式は、1,243人(87)の減少。工二を除いても1,270人(87)の減少。共通テスト受験前に出願締め切りとなる〈共テ・前期〉(87)は減少。共通テスト受験後に出願可能なく共テ・後期〉(85)はさらに減少率が高く大幅減少、共通テストの平均点ダウンによる敬遠の影響が大きかった。

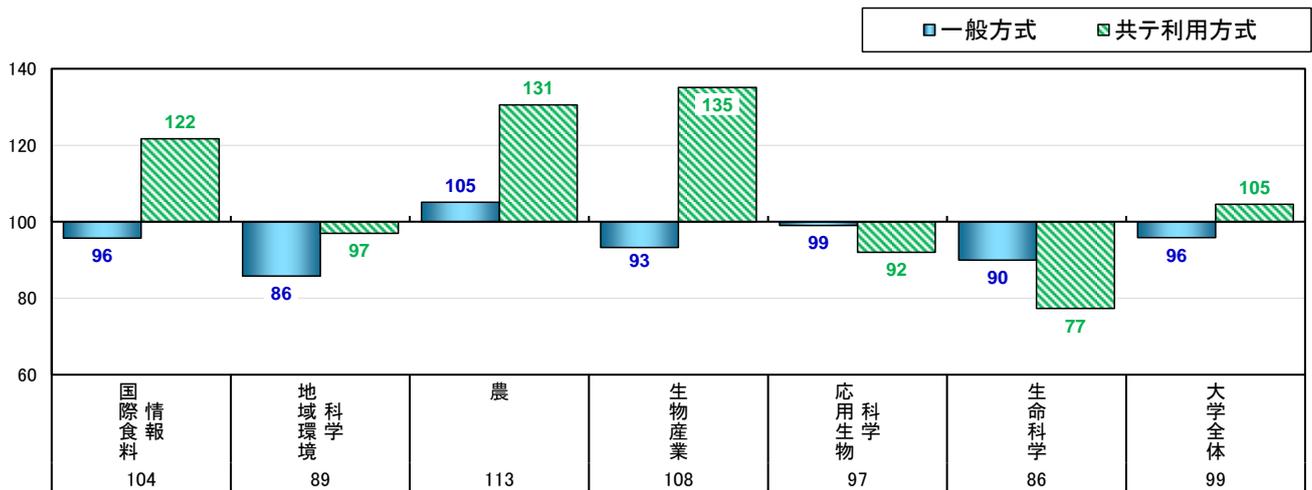
〈一般方式〉

- 工**(98)は、微減だが2年連続減少。学科別では、(情報通信工)(77)は、3年連続増加の反動で大幅減少、(電子システム工)(93)は3年連続大幅増加の反動は小さくやや減少。一方で、(先端機械工)(119)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(電気電子工)(111)は2年ぶりに増加。方式別では、〈一般・英語外部試験利用〉(105)はやや増加で、2019年度の新規導入以降、3年連続増加。
- 理工**(96)は、やや減少で、2018年度の学系改組後初めての減少。学系別では、6学系中4学系が増加。特に、(理工/建築・都市環境)(127)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加、(理工/機械工)(113)は2年連続増加。一方で、(理工/電子工)(56)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(理工/理)(86)は2年連続減少。方式別では、〈一般・前期〉(98)は微減だが3年連続減少。〈一般・後期〉(88)も減少。一方で、〈一般・英語外部試験利用〉(103)はやや増加で、2019年度の新規導入以降、3年連続増加。
- 未来科学**(116)は、前年度減少の反動で大幅増加。学科別では、(情報メディア)(135)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。(建築)(106)はやや増加。(ロボット・メカトロニクス)(94)はやや減少で4年ぶりの減少。方式別では、〈一般・英語外部試験利用〉(134)は大幅増加で、2019年度の新規導入以降、3年連続増加。〈前期〉(114)は前年度大幅減少の反動で増加。
- システムデザイン工**(98)は、3年連続増加の反動は小さく、微減に留まった。学科別では、(デザイン工)(113)は、2017年度の学部・学科新設以降連続増加。情報システム工(91)は4年ぶりに減少。方式別では、〈一般・英語外部試験利用〉(106)はやや増加で、2019年度の新規導入以降、3年連続増加。

〈共通テスト利用方式〉

- 工**(87)は、5年連続増加の反動で減少。学科別では、(先端機械工)(109)を除く5学科で減少。(電子システム工)(74)、(情報通信工)(82)、(機械工)(83)は大幅減少。(電気電子工)(88)は減少。方式別では、〈共テ・前期〉(88)は3年連続減少、〈共テ・後期〉(64)は大幅減少。
- 理工**(83)は、大幅減少。学系別では、6学系中4学系が減少で、(理工/電子工)(56)、(理工/理)(74)、(理工/建築都市環境)(83)、(理工/情報システムデザイン)(83)と、いずれも大幅減少。増加した2学系は、(理工/機械工)(110)は2年連続減少の反動で増加。(理工/生命科学)(107)は前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。方式別では、〈共テ・前期〉(83)、〈共テ・後期〉(77)、といずれも大幅減少。
- 未来科学**(98)は、微減だが2年連続減少。学科別では、(建築)(91)は減少で2014年度以降前年度の反動が継続、(ロボット・メカトロニクス)(94)はやや減少。一方で、(情報メディア)(105)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。方式別では、〈共テ・前期〉(97)はやや減少だが、〈共テ・後期〉(131)は2年連続大幅増加。
- システムデザイン工**(80)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(デザイン工)(80)、(システムデザイン工)(80)と2学科とも大幅減少で、いずれも前年度大幅増加の反動。方式別では、〈共テ・前期〉(79)は大幅減少だが、〈共テ・後期〉(102)は前年度並。

東京農業大：大学全体では5年連続減少。共テは前期新方式導入でやや増加 一般：-624人 共テ：+331人



主な入試変更点

選抜方法：〈共テ・前期2科目型〉新規実施…全学科（(応用生物科学／醸造科学)を除く）
 募集人員：国際食料情報(国際農業開発)…〈一般・A日程〉86人→76人、(食料環境経済)…〈一般・A日程〉100人→91人
 (国際バイオビジネス)…〈一般・A日程〉86人→76人、(国際食農科学)…〈一般・A日程〉60人→53人
 地域環境科学(森林総合科学)…〈一般・A日程〉75人→65人、(生産環境工)…〈一般・A日程〉78人→68人
 (造園科学)…〈一般・A日程〉75人→66人、(地域創成科学)…〈一般・A日程〉60人→55人
 農(動物科学)…〈一般・A日程〉80人→65人、(農)…〈一般・A日程〉90人→80人
 (生物資源開発)…〈一般・A日程〉72人→65人、(デザイン農)…〈一般・A日程〉70人→63人
 生物産業(食香粧化)…〈一般・A日程〉45人→38人、(北方園農)…〈一般・A日程〉43人→40人
 (海洋水産)…〈一般・A日程〉41人→38人
 応用生物(農芸化)…〈一般・A日程〉96人→91人、(食品安全健康)…〈一般・A日程〉96人→86人
 (栄養科学)…〈一般・A日程〉76人→71人
 生命科学(バイオサイエンス)…〈一般・A日程〉95人→90人、(分子生命化)…〈一般・A日程〉93人→80人
 (分子微生物)…〈一般・A日程〉92人→88人
 入試科目：国際食料情報(国際農業開発)
 〈共テ・4科目型〉…理+外+(国or歴or数①or数②)→2 ※理：化or生 ※選択は1教科から1科目に限る
 →外+(国or数①or数②)+(歴or理)→2 ※理：物or化or生or地学 ※選択は1教科から1科目に限る
 〈共テ・3科目型〉…理+外+(国or歴or数①or数②) ※理：化or生
 →外+(国or歴or数①or数②or理)→2 ※理：物or化or生or地学 ※選択は1教科から1科目に限る
 地球環境科学(生産環境工)〈共テ・3科目型〉…理+外+(国or数①or数②)→外+(国or数①or数②)+(地歴or理) ※地歴：地理
 農(動物科学、生物資源開発)〈共テ・3科目型〉…理+外+(国or数①or数②) ※理：化or生→理+外+(国or数①or数②) ※理：物or化or生
 (農)〈共テ・3科目型〉…理+外+(国or数①or数②) ※理：化or生→理+外+(国or数①or数②) ※理：物or化or生or地学
 生物産業(自然資源経営)
 〈共テ・4科目型〉…理+外+(国or歴or数①or数②)→2 ※理：化or生 ※選択は1教科から1科目に限る
 →国+外+(歴or数①or数②or理)→2 ※理：物or化or生or地学 ※選択は1教科から1科目に限る
 応用生物(醸造科学)
 〈共テ・4科目型〉…理2+外+(国or数①or数②) ※理：化+生→理2+外+(国or数①or数②) ※理：(物or化or生)→2
 〈共テ・3科目型〉…理+外+(国or数①or数②) ※理：化or生→理+外+(国or数①or数②) ※理：物or化or生

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、293人(99)の微減だが5年連続減少。方式別では、一般方式は624人(96)のやや減少で5年連続減少。ただし、募集人員(募集人員の前年度対比指数91)が減少したことで志願倍率は8.0倍→8.4倍にアップ。共通テスト利用方式は(応用生物科学／醸造科学)を除く全学科で〈前期2科目型〉を新規実施したこともあり331人(105)のやや増加で2年ぶりの増加。しかし、新規実施の〈前期2科目型〉を除くと(72)の大幅減少。方式別では、〈後期〉(59)、〈前期4科目型〉(71)、〈前期3科目型〉(73)といずれも大幅減少。共通テスト受験後に出願可能なため、共通テストの平均点ダウンの影響を強く受けた。

- 〈一般方式〉
- 国際食料情報(96)は、前年度大幅減少の反動はなくやや減少だが、募集人員(募集人員の前年度対比指数90)も減少で、志願倍率は5.8倍→6.2倍にアップ。学科別では、前年度全ての学科で大幅減少だったが、反動により増加したのは前年度ほぼ半減だった(国際農業開発)(133)のみで、他の3学科は引き続き減少。
 - 地球環境科学(86)は、3年連続減少。志願者数は2,000人を下回った。学科別でも4学科全てが減少。特に(生産環境工)(74)、(地域創成科学)(84)は大幅減少。一方で、減少した学科のうち、(森林総合科学)(91)は募集人員(募集人員の前年度対比指数88)も減少のため、志願倍率は7.5倍→7.9倍にアップ。造園科学(93)も募集人員(募集人員の前年度対比指数89)の減少で、志願倍率は6.2倍→6.4倍にアップ。
 - 農(105)は、3年連続大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。学科別では、4学科中3学科で増加、特に(動物科学)(117)は大幅増加で、志願倍率は募集人員(募集人員の前年度対比指数83)の減少もあって7.8倍→10.9倍にアップ。(デザイン農)(89)のみ前年度大幅増加の反動で減少。
 - 生物産業(93)はやや減少で8年連続減少。学科別では、(食香粧化)(127)は大幅増加で4学科中唯一増加、志願倍率は募集人員

員(募集人員の前年度対比指数 86)の減少もあって 3.3 倍→4.9 倍にアップ。一方で、他の 3 学科はいずれも減少で、特に(自然資源経営) (60)は 3 年連続大幅減少。(北方圏農) (96)はやや減少だが、募集人員(募集人員の前年度対比指数 94)も減少したため、志願倍率は 3.7 倍→3.8 倍にわずかにアップ。

○**応用生物科学(99)**は、微減だが 2017 年度の改組後、5 年連続減少。ただし、募集人員(募集人員の前年度対比指数 95)も減少で、志願倍率は 9.0 倍→9.4 倍にアップ。学科別では、前年度 4 学科全てで大幅減少したが、反動は小さく、(栄養科学) (110)が増加、(醸造科学) (106)がやや増加したに留まった。減少した学科のうち、(食品安全健康) (91)は 3 年連続減少だが、募集人員(募集人員の前年度対比指数 90)も減少で志願倍率は 9.1 倍→9.2 倍にわずかにアップ。(農芸化) (94)はやや減少で 2 年連続減少。

○**生命科学(90)**は、前年度大幅減少の反動はなく減少。学科別では、(分子生命科学) (78)は 2 年連続大幅減少、(分子微生物) (88)は 2 年連続減少。(バイオサイエンス) (101)も前年度大幅減少の反動はなく、前年度並。

<共通テスト利用方式>

○**国際食料情報(122)**は、大幅増加。志願者数は 2 年ぶりに 1,000 人を上回った。ただし、新規実施の<共テ・前期 2 科目型>を除くと、(70)大幅減少。学科別では、4 学科中 3 学科が増加。特に(国際農業開発) (240)は 2.4 倍増だが、新規実施の<共テ・前期 2 科目型>を除いても (125)と前年度半減以下の反動で大幅増加。

○**地球環境科学(97)**はやや減少で 3 年連続減少。さらに、新規実施の<共テ・前期 2 科目型>を除くと、(60)の大幅減少。学科別では、(森林総合科学) (132)は大幅増加。他の 3 学科はいずれも減少。特に(生産環境工) (84)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、新規実施の<共テ・前期 2 科目型>を除くと半減、(造園科学) (84)は 2 年連続大幅減少。

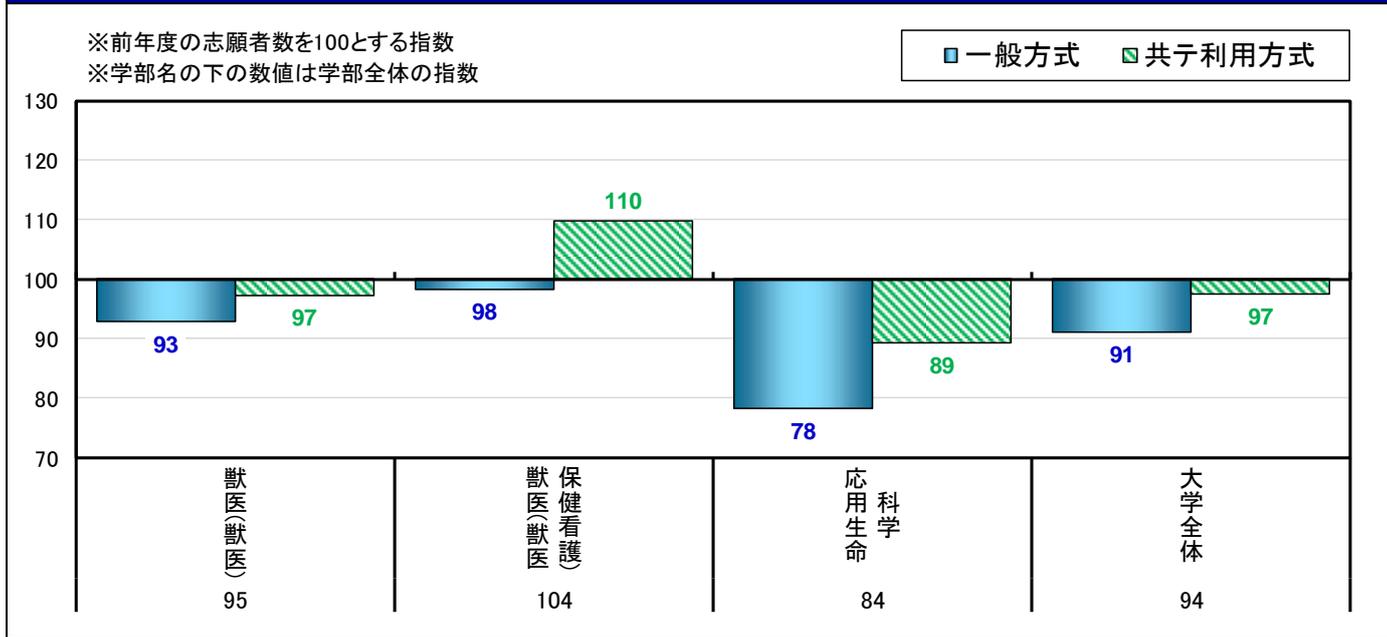
○**農(131)**は、大幅増加。志願者数は 2 年ぶりに 2,000 人を上回った。ただし、新規実施の<共テ・前期 2 科目型>を除くと、(84)の大幅減少。学科別では、4 学科とも増加。特に(動物科学) (170)、(生物資源開発) (125)、(農) (121)は大幅増加。

○**生物産業(135)**は、大幅増加。志願者数は 2 年ぶりに 500 人を上回った。ただし、新規実施の<共テ・前期 2 科目型>を除くと、(79)の大幅減少。学科別では、3 学科とも大幅増加。

○**応用生物科学(92)**は、前年度大幅減少の反動はなく減少。さらに、新規実施の<共テ・前期 2 科目型>を除くと、(73)の大幅減少。学科別では、(栄養科学) (103)はやや増加、その他の 3 学科はいずれも減少で、特に(農芸化) (85)は 2 年連続大幅減少。

○**生命科学(77)**は 2 年連続大幅減少。さらに、新規実施の<共テ・前期 2 科目型>を除くと、(66)の大幅減少。学科別では、(分子微生物) (66)、(バイオサイエンス) (74)はいずれも 2 年連続大幅減少。(分子生命化) (89)は 3 年連続減少。

日本獣医生命科学大：大学全体では 3 年連続減少 一般：-141 人 共テ：-40 人



主な入試変更点

入試科目：応用生命科学<共テ・第 1 回><共テ・第 2 回><共テ併用・第 1 回><共テ併用・第 2 回>
…理+外+(国 or 数①)→理・理基 2+外+(国 or 数①)

募集人員：獣医(獣医保健看護)…<一般・第 3 回>5 人→4 人、<共テ併用・第 2 回>7 人→6 人
応用生命科学(動物科学)…<一般・第 1 回>40 人→35 人、<一般・第 3 回>6 人→5 人
<共テ・第 2 回>2 人→共テの枠内で若干名、<共テ併用・第 2 回>7 人→5 人
(食品科学)…<一般・第 1 回>21 人→20 人、<一般・第 3 回>5 人→3 人
<共テ・第 1 回 3 科目方式>5 人→3 人、<共テ併用・第 2 回>5 人→3 人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、181 人(94)のやや減少で 3 年連続減少だが、獣医(獣医)を除く 2 学部 3 学科で募集人員が 181 人(6%)減少したことで、大学全体の志願倍率は 14.0 倍→14.4 倍へアップ。方式別では、一般方式は 141 人(91)の減少、共通テスト利用方式は 40 人(97)のやや減少で、いずれも 3 年連続減少。

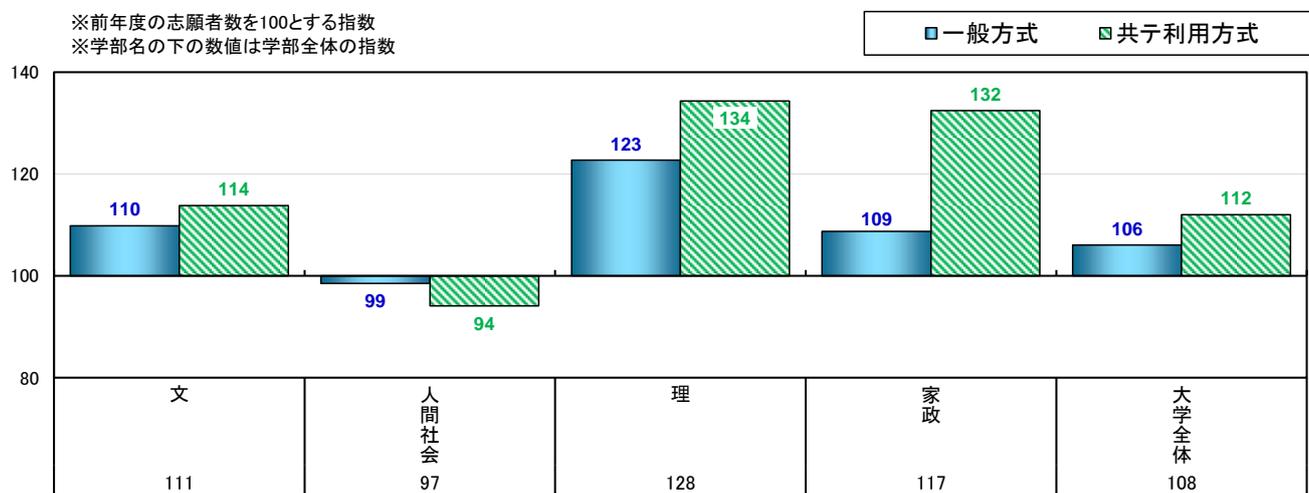
＜一般方式＞

- 獣医(獣医)(93)は、やや減少で3年連続減少。＜一般＞を2回実施となった2019年度以降では最少の志願者数で、志願倍率も20.8倍までダウン。募集単位別では、＜一般・第1回＞(92)は減少、＜一般・第3回＞(94)はやや減少。
- 獣医(獣医保健看護)(98)は、微減で2018年度以降の志願者数は320人前後で推移。募集単位別では、＜一般・第1回＞(101)は増、＜一般・第3回＞(89)は減少。
- 応用生命科学(78)は、大幅減少で6年連続減少。募集人員も9人(募集人員の前年度対比指数88)減少だが、志願倍率は4.3倍→3.8倍へダウン。学科別では、(食品科学)(58)は減少率40%以上の大幅減少、(動物科学)(89)も減少で、いずれも6年連続減少。方式別では、＜一般・第3回＞(53)は半減近い大幅減少、遅い入試日程への敬遠が見られた。

＜共通テスト利用方式＞

- 獣医(獣医)(97)は、5年連続減少。募集単位別では、＜共テ・第1回5科目＞(108)は増加だが、＜共テ・第1回3科目＞(89)は減少。私立大専願者の共通テストへの敬遠傾向が見られた。＜共テ併用・第2回＞(100)は前年度並。
- 獣医(獣医保健看護)(110)は、2年連続減少の反動で増加。志願者数は2年ぶりに300人に達した。募集単位別では、＜共テ・第1回＞(112)は増加、＜共テ併用・第2回＞(107)はやや増加。
- 応用生命科学(89)は、減少で3年連続減少。学科別では、(食品科学)(84)は大幅減少、(動物科学)(93)はやや減少で、いずれも前年度大幅減少の反動はなく3年連続減少。募集単位別では、共通テスト受験後に出願可能な(食品科学)＜共テ・第2回＞(200)は倍増、(動物科学)＜共テ・第2回＞(118)は大幅増加で、共通テストの平均点ダウンを加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。

日本女子大：大学全体では3年ぶり増加も、人間社会のみやや減少 一般：+356人 共テ：+407人



主な入試変更点

学科名称変更：理…(数物科学)→(数物情報科学)、(物質生物科学)→(化学生命科学)
 選抜方法：＜一般・英語外部試験利用型＞…TEAP220点以上→TEAP225点以上
 家政(児童)…＜共テ・後期＞新規実施
 募集人員：文(英文)…＜一般・個別＞73人→70人、＜一般・英語外部試験利用型＞5人→8人
 (日本文)…＜一般・個別＞72人→64人
 (史)…＜共テ・前期＞13人→15人、＜共テ・後期＞7人→5人
 人間社会(現代社会)…＜一般・個別＞60人→57人
 家政(家政経済)…＜一般・個別3教科＞3人→4人、＜一般・英語外部試験利用型＞3人→2人
 (児童)…＜一般・個別2教科＞57人→45人、＜共テ・前期＞7人→10人
 (被服)…＜一般・個別2教科＞40人→38人、＜共テ・前期＞9人→7人
 (住居/居住環境デザイン)…＜一般・英語外部試験利用型＞3人→2人
 (住居/建築デザイン)…＜一般・英語外部試験利用型＞3人→2人
 入試科目：家政(家政経済)…＜共テ・後期＞国+外+(歴公or数) ※歴公：日Aor日Bor世Aor世Bor地理Aor地理Bor現or倫or政or倫政
 →外+(国or歴公or数)→2 ※歴公：日Bor世Bor地理Bor現or倫or政or倫政
 配点変更：文(日本文)…＜一般・英語外部試験利用型＞国<120>+歴<100>=総点<220>→国<150>+歴<100>=総点<250>
 家政(家政経済)…＜一般・個別3教科型＞国<100>+数<100>+外<100>=総点<300>→国<50>+数<150>+外<100>=総点<300>
 ＜一般・英語外部試験利用型＞国<100>+数<100>=総点<200>→国<50>+数<150>=総点<200>

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、763人(108)の増加で3年ぶり増加。学部別では、人間社会(97)はやや減少だが、その他の3学部はいずれも増加。方式別では、一般方式は356人(106)のやや増加だが、募集人員(前年度募集人員対比指数97)が減少したことで、志願倍率は7.2倍→7.9倍へアップ。共通テスト利用方式は407人(112)の増加で3年ぶり増加。共通テスト受験前に出願締め切りとなる＜共テ前期＞(103)は2年連続大幅減少の反動はなくやや増加に留まった。共通テスト受験後に出願可能な＜共テ後期＞(211)は倍増以上、共通テストの平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。

＜一般方式＞

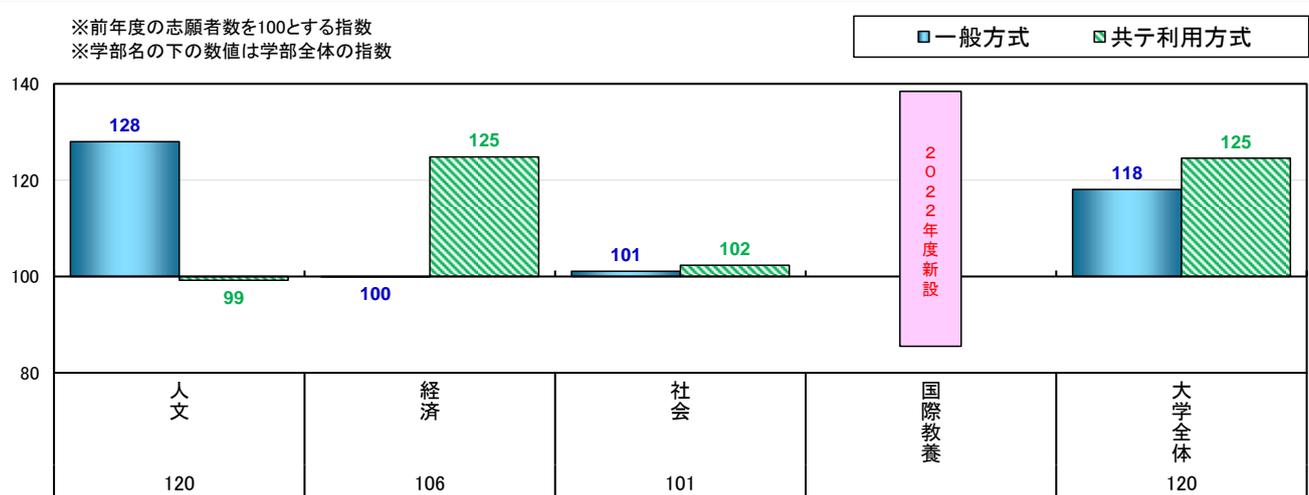
- 文(110)は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、(日本文)(113)は2年連続減少の反動で増加、(史)(112)も増加で前年度の反動による増減が継続、(英文)(105)はやや増加。募集単位別では、(英文)〈英語外部試験利用型〉(123)は大幅増加だが、募集人員も増加(募集人員の前年度対比指数 160)で志願倍率は 41.0 倍→31.5 倍へダウン。(日本文)〈個別〉(103)はやや増加で、募集人員は減少(募集人員の前年度対比指数 89)し志願倍率は 6.1 倍→7.0 倍へアップ。
- 人間社会(99)は、微減だが3年連続減少。学科別では、(現代社会)(120)は大幅増加で2年連続増加、募集人員は減少(募集人員の前年度対比指数 95)で志願倍率は 12.1 倍→15.3 倍へアップ。その他の4学科はいずれも減少で、特に、(文化)(79)は大幅減少で3年連続減少。
- 理(123)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、2学科とも学科名を改称したが、改称前の旧(数物科学)、旧(物質生物科学)との比較では、(数物情報科学)(129)、(化学生命科学)(117)でいずれも大幅増加。
- 家政(109)は、前年度大幅減少の反動で増加。学科・専攻別では、(児童)(83)は6年連続減少で志願者数は200人を下回ったが、募集人員も減少(募集人員の前年度対比指数 81)で、志願倍率は 3.7 倍→3.8 倍へアップ。その他の6学科・専攻はいずれも増加、特に(住居/建築デザイン)(138)の大幅増加が目立った。方式別では、前年度は判定科目数や入試科目増加の影響で激減した〈英語外部試験利用型〉(173)が激増、募集人員は減少(募集人員の前年度対比指数 81)で志願倍率は 5.3 倍→11.3 倍へアップ。

＜共通テスト利用方式＞

- 文(114)は、2年連続大幅減少の反動で増加。学科別では、(日本文)(132)、(英文)(119)は大幅増加で、いずれも2年連続大幅減少の反動。一方で、(史)(98)は微減だが2年連続減少。方式別では、〈共テ前期〉(107)はやや増加、〈共テ後期〉(203)は倍増以上で、共通テストの平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。
- 人間社会(94)は、やや減少で3年連続減少。学科別では、(教育)(178)は激増。(心理)(102)は、微増で3年ぶり増加。その他の3学科はいずれも大幅減少。方式別では、〈共テ前期〉(83)は大幅減少で3年連続減少、一方で〈共テ後期〉(202)は倍増以上で、共通テストの平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。
- 理(134)は、大幅増加で前年度の反動による増減が継続。学科別では、2学科とも学科名を改称したが、改称前の旧(数物科学)、旧(物質生物科学)との比較では、(化学生命科学)(151)は大幅増加で前年度の増減による反動が継続、(数物科)(114)は2年連続大幅減少の反動で増加。方式別では、〈共テ前期〉(129)の大幅増加、〈共テ後期〉(242)は約2.4倍増で、共通テストの平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。
- 家政(132)は、2年連続大幅減少の反動で30%以上の大幅増加。学科別では、(児童)(194)は倍増に近い大幅増加、新規実施方式の〈共テ後期〉を除いても、(169)の激増。(住居)(147)は大幅増加で4年ぶり増加、(被服)(136)は前年度半減以下の反動で大幅増加、(家政経済)(125)も大幅増加で前年度の増減による反動が継続。一方で、(食物)(81)は大幅減少で4年連続減少、志願者数は150人を下回った。方式別では、〈共テ前期〉(130)の大幅増加、〈共テ後期〉(229)は倍増以上、新規実施の(児童)を除いても(186)の激増。共通テストの平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。

武蔵大：大学全体では3年ぶり増加、人文は大幅増加

一般：+1,949人 共テ：+955人



主な入試変更点 | 学部新設：国際教養(国際教養)

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、2,904人(120)の大幅増加、新設の国際教養を除いても(107)のやや増加で3年ぶり増加。学部別では、3学部全てが増加。方式別では、一般方式は1,049人(118)の大幅増加で前年度大幅減少の反動、新設の国際教養を除いても(106)のやや増加、共通テスト利用方式は955人(125)の大幅増加で4年連続減少の反動、新設の国際教養を除くと(114)のやや増加。共通テスト受験前に出願締め切りとなる〈共テ前期〉(118)は4年連続減少の反動で大幅増加、新設の国際教養を除いても(111)の増加。共通テスト受験後に出願可能なく〈共テ後期〉(157)は50%以上の大幅増加、新設の国際教養を除いても(142)の大幅増加、共通テストの平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。

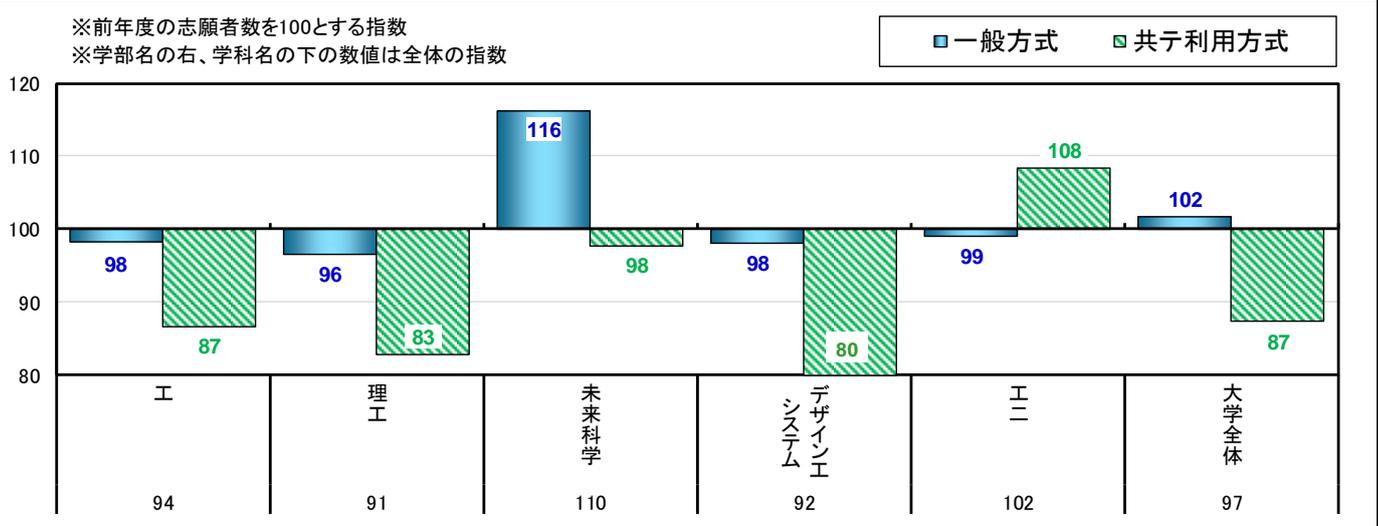
＜一般方式＞

- 人文(128)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(日本・東アジア文化)(136)、(ヨーロッパ文化)(129)、(英語英米文化)(120)は、いずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。募集単位別でも、すべてが増加。
- 経済(100)は、前年度大幅減少の反動はなく、微減で2年連続減少。学科別では、唯一増加の(金融)(104)は、前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。(経営)(100)は微減だが2年連続減少、(経済)(97)はやや減少で3年連続減少。方式別では、〈全学部統一グローバル型〉(146)は前年度40%近い大幅減少の反動で大幅増加、〈全学部統一型〉(92)は減少で3年連続減少、〈個別学部併願型〉(97)はやや減少で2年連続減少。
- 社会(101)は、3年連続減少の反動はなく、微増に留まった。学科別でも、(メディア社会)(101)、(社会)(101)はいずれも微増で4年ぶり増加。方式別では、〈個別学部併願型〉(104)はやや増加で2年連続増加、〈全学部統一型〉(103)もやや増加で4年ぶりの増加だが志願者数は2年連続で1,300人を下回った。一方で、〈全学部統一グローバル型〉(84)は2年連続大幅減少。
- 新設の国際教養は、コロナ禍で人気低下している系統だが、一般方式の募集人員合計55人に対し、志願者数は1,267人、志願倍率は23.0倍で、一般方式全体の志願倍率27.1倍を下回った。

＜共通テスト利用方式＞

- 人文(99)は、2年連続大幅減少の反動はなく、微減で3年連続減少。志願者数は2年連続1,000人を下回った。学科別では、(英語英米文化)(118)は唯一増加で3年ぶり増加。一方で、(ヨーロッパ文化)(90)は4年連続減少、(日本・東アジア文化)(92)は減少で2016年度入試以降7年連続減少。方式別では、〈共テ前期〉(100)は前年度並、〈共テ後期〉(97)はやや減少。
- 経済(125)は、前年度30%以上の大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(金融)(253)は倍増以上の大幅増加、(経済)(122)は大幅増加、(経営)(83)は大幅減少でいずれも前年度と逆の増減。方式別では、〈後期〉(214)は2年連続減少の反動が大きく倍増以上の大幅増加、〈前期〉(107)はやや増加。方式別では、〈共テ前期〉(107)はやや増加、〈共テ後期〉(214)は倍増以上、共通テストの平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。
- 社会(102)は、微増だが2年連続増加。学科別では、(メディア社会)(127)は3年連続減少の反動で大幅増加、(社会)(82)は大幅減少で、前年度の反動による増減が継続。方式別では、〈共テ前期〉(102)、〈共テ後期〉(102)のいずれも微増。
- 新設の国際教養は、コロナ禍で敬遠される系統だが、共通テスト利用方式の募集人員合計25人に対し、志願者数は544人、志願倍率は21.8倍で、共通テスト利用方式全体の志願倍率23.2倍を下回った。

東京都市大：大学全体では2年連続減少、共テ利用方式は2年連続大幅減少 一般：+506人 共テ：-4,326人



<p>主な入試変更点</p>	<p>キャンパス移転：都市生活、人間科学…等々カキャンパス→世田谷キャンパス 試験会場：全学部〈一般・前期〉〈一般・中期〉…横浜・大宮廃止、浦和・三島追加 選抜方法：全学部〈一般・前期〉〈一般・中期(英語外部試験利用)〉 …対象試験：ケンブリッジ英検、英検、GTEC、IELTS、TEAP、TOEFL iBT、TOEIC LR&SW ※換算点は60点、80点、100点の3区分 →対象試験：ケンブリッジ英検、英検、GTEC、IELTS、TEAP、TEAP CBT、TOEFL iBT、TOEIC LR&SW ※換算点は50点、60点、70点、80点、100点の5区分 人間科学(児童)〈一般・後期2教科型〉…新規実施 情報工〈共テ・前期5教科基準点型〉…合格基準点：580点→590点 理工〈一般・前期3教科型〉…数学インセンティブ判定を新規実施 入試科目：人間科学(児童)〈一般・前期2教科型〉〈一般・中期2教科型〉 …国+外 ※他学科と併願不可→外+(国 or 数) ※数を選択した場合のみ、情報システム学科と併願可</p>
----------------	---

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、3,820人(86)の減少で、2年連続減少。学部別では、7学部全てが減少。方式別では、一般方式は506人(104)のやや増加で2年連続増加。共通テスト利用方式は、4,326人(67)の大幅減少で、2年連続大幅減少。志願者数は5年ぶりに1万人を下回った。学部別では、7学部全てが2年連続大幅減少だが、特に人間科学(35)、メディア情報(51)、都市生活(52)、環境(55)の減少が目立った。共通テスト受験前に出願締め切りとなる〈共テ・前期3教科型〉(63)と〈共テ・前期5教科型〉(76)はいずれも大幅減少。一方で、2月22日から出願開始だった〈共テ併用・後期〉(129)は大幅増加、2月前半の入試結果と共通テストの平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。

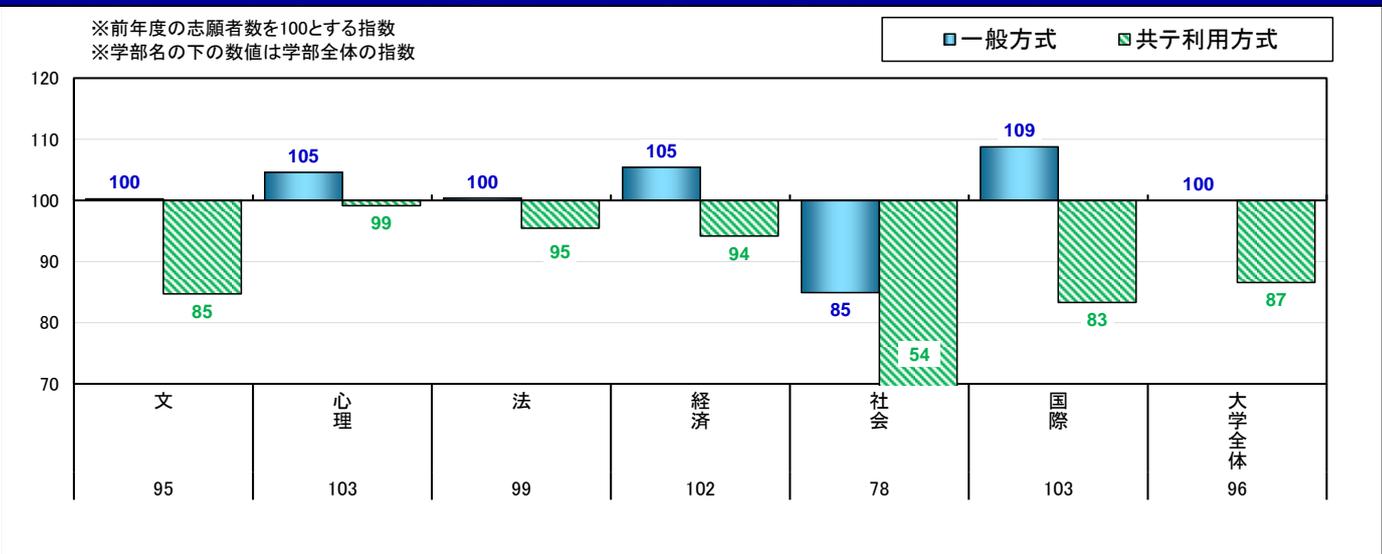
〈一般方式〉

- 都市生活(104)は、やや増加で3年ぶり増加。方式別では、全ての方式で増加だが、3月入試の〈一般・後期2教科型〉(113)の増加が目立った。
- 人間科学(122)は、2年連続大幅増加。新規実施の〈一般・後期2教科型〉を除いても(108)の増加。
- メディア情報(75)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2020年度以降前年度の反動による大幅な増減が継続。学科別でも、2学科のいずれも大幅減少。募集単位別では、(社会メディア)〈一般・後期2教科型〉(103)のみがやや増加。
- 情報工(112)は、学部名称変更及び学科改組3年目だが、系統への高い人気もあって2年連続増加。学科別では、(情報科学)(139)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 環境(96)は、やや減少で3年連続減少。学科別では、(環境経営システム)(91)は年連続減少。(環境創成)(99)は微減だが3年連続減少。方式別では、〈一般・前期3教科型〉(118)は大幅増加、〈一般・中期2教科型〉(75)と〈一般・後期2教科型〉(47)はいずれも大幅減少と入試日程が遅くなるにつれて減少率が大きかった。
- 理工(114)は、学部改組3年目だが2年連続増加。学科別では、(医用工)(94)を除く6学科で増加。特に(原子力安全工)(150)、(応用化)(129)、(機械工)(117)はいずれも大幅増加。方式別では、全方式で増加。特に、〈一般・中期3教科型〉(118)は大幅増加、特に理系に厳しかった共通テストの平均点ダウンの影響による追加出願の影響もあった。また、〈一般・前期3教科型〉(114)も増加、通常の3教科での合否判定と同時に、数学の得点のみで合否判定を行う数学インセンティブ判定の新規実施が影響。
- 建築都市デザイン(93)は、学部改組3年目で初めてやや減少。学科別では、2学科とも減少。方式別では、〈一般・前期3教科型〉(97)はやや減少、〈中期3教科型〉(84)と〈後期2教科型〉(77)はいずれも大幅減少と入試日程が遅くなるにつれて減少率が大きかった。

〈共通テスト利用方式〉

- 都市生活(52)は、大幅減少で3年連続減少。方式別では、共通テスト受験前に入願締め切りとなる〈共テ・前期3教科型〉と〈共テ・5教科型〉の合計は(51)でほぼ半減。
- 人間科学(35)は、志望者層の共通テスト敬遠傾向から激減で2年連続大幅減少。志願者数は100人を下回った。
- メディア情報(51)は2年連続大幅減少。志願者数は5年ぶりに1,000人を下回った。学科別では、(社会メディア)(40)が激減。
- 情報工(76)は、学部名称変更及び学科改組3年目だが2年連続大幅減少。方式別では、〈共テ・前期3教科型〉(70)は大幅減少、合格基準点を10点アップさせた〈共テ・1前期5教科型〉(90)は減少。
- 環境(55)は、2年連続大幅減少。志願者数は1,000人を下回った。
- 理工(71)は、学部改組3年目だが2年連続大幅減少。学科別では、7学科全てが大幅減少で、特に(原子力安全工)(42)の減少率60%近い減少が目立った。
- 建築都市デザイン(78)は、学部改組3年目で2年連続大幅減少。ただし、方式別では〈共テ・前期5教科〉(106)のみやや増加。

明治学院大：大学全体では4年連続減少、〈共テ前期〉が大幅減少 一般：±0人 共テ：-811人



主な入試変更点 選抜方法：心理(教育発達)…〈一般・B日程〉を廃止
法(グローバル法)…〈一般・全学部(英語外部検定試験利用型)〉、〈一般・A日程(英語外部検定試験利用型)〉を新規実施

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、811人(96)のやや減少で4年連続減少。志願者数は2万人を下回った。学部別では、社会(78)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、文(95)はやや減少、法(99)は微減、その他の3学部は増加。方式別では、一般方式(100)は前年度同一人数。共通テスト利用方式は811人(87)の減少で4年連続減少。方式別では、共通テスト受験前に入願締め切りとなる〈共テ前期〉(84)が大幅減少で4年連続減少、一方で共通テスト受験後に入願可能なく〈共テ後期〉(156)は大幅増加。

〈一般方式〉

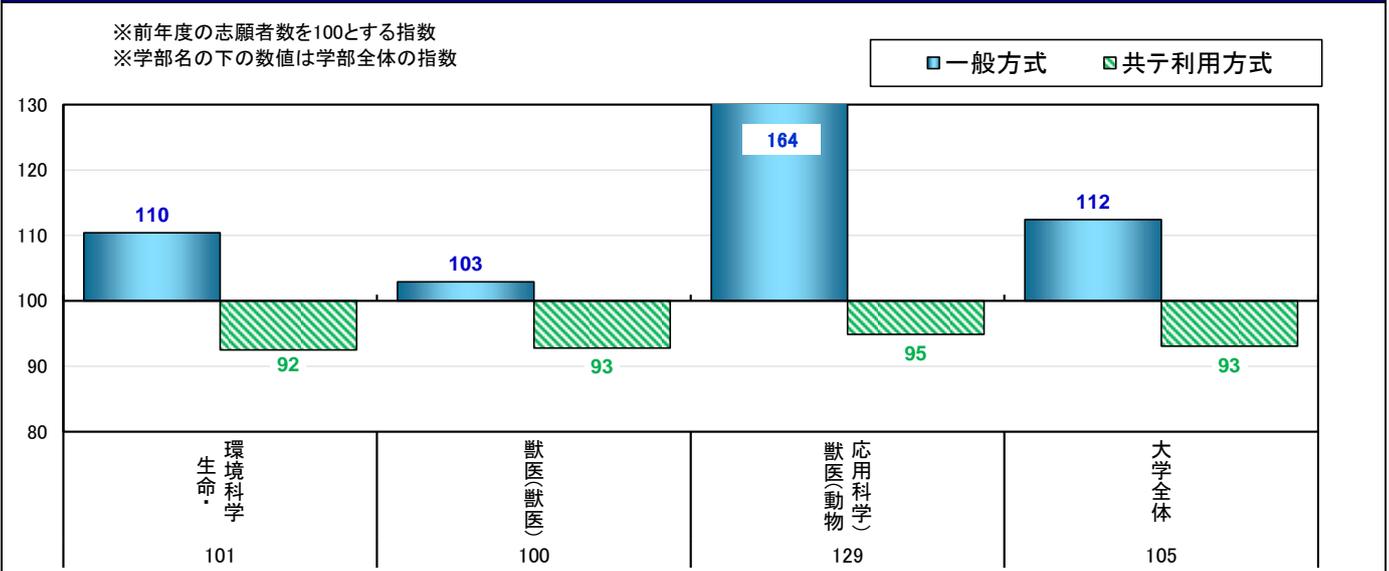
- 文(100)は、前年度大幅減少の反動はなく前年度並。学科別では、(フランス文)(131)は大幅増加で前年度の反動による増減が継続、(芸術)(102)は微増。(英文)(86)は減少で4年連続減少。
- 心理(105)は、やや増加で3年ぶり増加。学科別では、(心理)(116)は大幅増加、(教育発達)(87)は〈一般・B日程〉の廃止が影響して減少、〈一般・B日程〉を除くと(93)のやや減少。いずれも前年度と逆の増減。

- 法(100)は、前年度大幅減少の反動はなく前年度並、志願者数は2年連続 3,000 人を下回った。学科別では、(グローバル法)(251)は2018年度の新設以降連続減少した反動に加え、英語外部検定試験を利用した新規方式の実施も影響して倍以上の激増。その他の3学科はいずれも減少。
- 経済(105)は、系統への人気は低下しているが、やや増加で2年連続増加。学科別では、(経済)(124)は3年連続減少の反動で大幅増加。(経営)(93)は前年度大幅増加の反動でやや減少、(国際経営)(99)は微減だが4年連続減少。
- 社会(85)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(社会福祉)(75)は大幅減少で前年度の反動による極端な増減が継続、(社会)(90)は前年度大幅増加の反動で減少。
- 国際(109)は、コロナ禍で人気は低下している系統だが、増加で2年連続増加。学科別では、(国際)(119)は大幅増加、(国際キャリア)(77)は大幅減少で、いずれも前年度と逆の増減。

＜共通テスト利用方式＞

- 文(85)は、前年度大幅減少に引き続き2年連続大幅減少。学科別では、(フランス文)(223)は、前年度約8割減少の反動で倍以上の大幅増加となり、極端な増減が継続。一方で、(英文)(53)は半減近い大幅減少、(芸術)(87)は減少でいずれも前年度大幅増加の反動。方式別では、＜共テ前期＞(84)は大幅減少、＜共テ後期＞(98)は前年度並。
- 心理(99)は＜共テ前期＞のみの募集だが、微減で3年連続減少。学科別では、心理(106)はやや増加で3年ぶり増加。(教育発達)(81)は大幅減少で、志願者数は200人を下回った。
- 法(95)は＜共テ前期＞のみの募集だが、前年度大幅減少に引き続きやや減少、志願者数は2年連続 900 人を下回った。学科別では、(消費情報環境法)(173)は激増で、前年度の反動による極端な増減が継続。その他の2学科はいずれも減少で、(政治)(50)は半減で2年連続減少、(法律)(93)はやや減少で4年連続減少。
- 経済(94)は、前年度の大規模増加の反動は小さくやや減少。学科別では、(経営)(119)は2年連続大幅増加だが、その他の2学科はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。方式別では、＜共テ前期＞(88)は前年度大幅増加の反動で減少、＜共テ後期＞(188)は激増で2年連続増加、共通テストの平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。
- 社会(54)は、大幅減少で前年度の反動による極端な増減が継続。学科別では、(社会福祉)(45)、(社会)(58)は大幅減少で、いずれも前年度激増の反動。方式別では、＜共テ前期＞(49)は前年度激増の反動で半減以下、＜共テ後期＞(143)は大幅増加で2年連続増加、共通テストの平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。
- 国際(83)は＜共テ前期＞のみの募集だが、コロナ禍による系統への人気低下と前年度大幅増加の反動で大幅減少。

麻布大：大学全体では4年ぶり増加 2学部ともに増加 一般：+267人 共テ：-100人



主な入試変更点
 出願方法：獣医(獣医)＜一般・第I期3科目型＞…第2志望制の導入 ※(動物応用科学)を第2志望とすることが可能
 選抜方法：生命・環境科学…＜一般・第I期2科目選択型＞2回実施→3回実施
 ＜一般・第I期D日程総合問題型＞新規実施
 獣医(動物応用科学)…＜一般・第I期2科目選択型＞新規実施
 ＜一般・第I期D日程総合問題型＞新規実施
 ＜一般・第I期3科目型＞廃止
 入試科目：獣医(動物応用科学)…＜一般・第II期2科目型＞外+(数or理) ※理：化or生→(数or理or外)→2 ※理：化or生

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、167人(105)のやや増加で4年ぶり増加。方式別では、一般方式は＜一般・第I期＞で新規方式導入や実施回数が増やしたことで267人(112)の増加。一方で、共通テスト利用方式は100人(93)のやや減少で、4年連続減少。

＜一般方式＞

- 生命・環境科学(110)は、4年ぶりに増加。学科別では、(環境科学)(154)は、前年度大幅減少の反動に加えて、新規方式実施と試験実施回数増加により大幅増加、(食品生命科学)(101)は2年連続大幅減少の反動はなく微増に留まった。(臨床検査技術)(94)はやや減少で2年連続減少。学科・方式別では、特に(環境科学)＜一般・第I期＞(171)は前年度大幅減少の反動に加え、＜2科目選択型＞の実施回数の増加や＜D日程総合問題型＞を新規実施するなど、受験機会が増えたことが影響して激増。
- 獣医(獣医)(103)は、やや増加で4年ぶりに増加。方式別では、＜第II期＞(115)の大幅増加が目立った。

○獣医(動物応用科学)(164)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加し、志願者数も3年ぶりに400人を超えた。方式別では、〈第I期〉(190)は新規方式の導入で激増、一方で、〈第II期〉(81)は入試科目で外国語が必須から選択になるという負担減の影響はなく、大幅減少で4年連続減少。

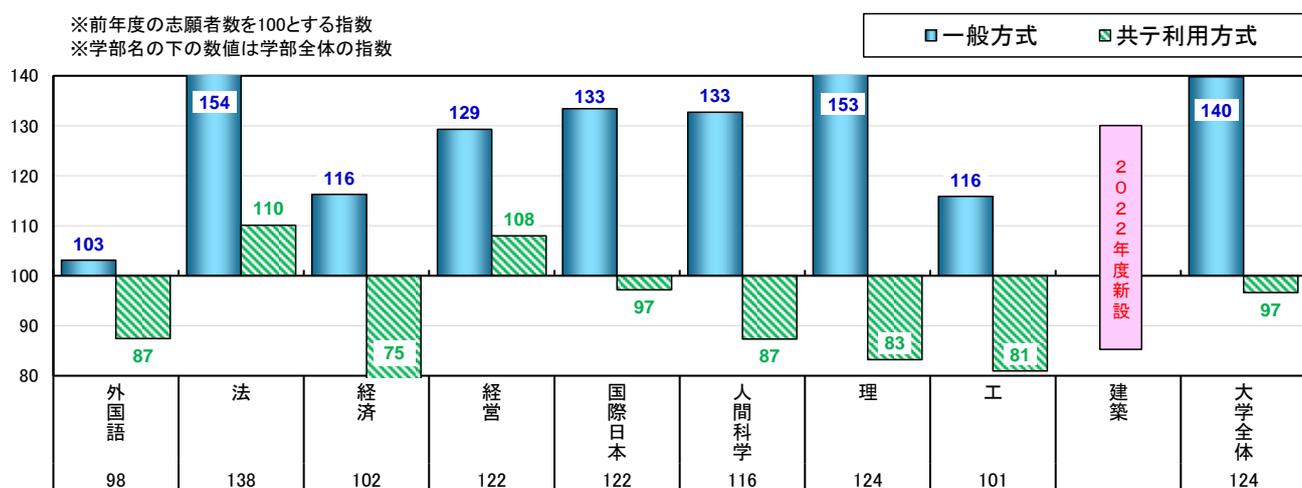
〈共通テスト利用方式〉

○生命・環境科学(92)は、減少で3年連続減少。志願者数は5年ぶりに500人を下回った。学科別では、(環境科学)(102)は、2年連続大幅減少の反動はなく微増。(臨床検査技術)(99)は微減。一方で、(食品生命科学)(78)は前年度増加の反動で大幅減少。方式別では、〈共テ・第I期〉(91)は減少、共通テスト受験後に出願可能なく共テ・第II期〉(110)は増加で、共通テスト平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした出願が可能なことも影響。

○獣医(獣医)(93)は、やや減少で4年連続減少。方式別では、〈共テ・第I期〉(91)は4年連続減少。〈共テ・第II期〉(130)は実施2年目だが大幅増加、共通テスト受験後に出願可能なことで、共通テスト平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした出願が可能なことも影響。

○獣医(動物応用科学)(95)は、やや減少で4年連続減少。方式別では、〈共テ・第I期〉(92)は4年連続減少、〈共テ・第II期〉(178)は実施2年目だが激増、共通テスト受験後に出願可能なことで、共通テスト平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした出願が可能なことも影響。

神奈川大：大学全体では大幅増加、給費生試験の日程変更で4,000人近く増加 一般：+6,077人 共テ：-303人



主な入試変更点

学部改組：工(物質生命化、機械工、情報システム創成、建築、電気電子情報工、経営工、総合工)
→工(物質生命化、機械工、情報システム創成、電気電子情報工、経営工、総合工)
建築(建築、都市生活)

入試科目：工(物質生命化)…〈一般・A方式〉数+理+外 ※数：数I+数II+数III+数A+数B
→数+理+外 ※数：数I+数II+数A+数B (数III除外)

入試日程：〈給費生〉…2月実施→12月実施 ※コロナ禍対策による日程変更を2020年度以前に戻した。

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、5,774人(124)の大幅増加。志願者数は、前年度は4年ぶりに2万人台だったが、再び3万人を上回った。学部別では、系統への人気は低下している外国語(98)を除く7学部で増加。特に、建築は旧工(建築)を学科から学部へ改組した効果で、志願者数は984人→2,547人へ1,563人(259)の約2.6倍増だった。これに伴い、工は募集人員が86人(17%)減少したが54人(101)の微増で、志願倍率は9.9倍→12.1倍にアップ。方式別では、一般方式は6,077人(140)の大幅増加。特に〈給費生〉は、前年度コロナ禍対策として試験日を12月から2月に変更した影響で激減したが、試験日を12月に戻したことで3,931人(216)の倍以上。〈給費生〉を除いた一般方式は2,146人(118)の大幅増加。共通テスト利用方式は303人(97)のやや減少で2年連続減少、共通テスト受験前に出願締め切りとなる〈共テ・前期〉(96)はやや減少、一方で、共通テスト受験後に出願可能なく共テ・後期〉(147)は大幅増加。共通テスト平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。

〈一般方式〉

○外国語(103)は、2年連続大幅減少の反動はなくやや増加に留まった。入試日程変更の影響が大きい〈給費生〉を除くと(88)の減少で、コロナ禍の影響で系統への人気は低下している影響が見られた。学科・プログラム別では全てが減少。特に、(英語英文/GES)(63)は30%以上の大幅減少が目立った。

○法(154)は、系統への人気の高まりで大幅増加。入試日程変更の影響が大きい〈給費生〉を除くと(129)の大幅増加。学科別では、(自治行政)(136)、(法律)(126)のいずれも大幅増加。

○経済(116)は、大幅増加。入試日程変更の影響が大きい〈給費生〉を除くと(96)のやや減少。学科・専攻別では、(経済/経済分析)(118)は大幅増加、(現代ビジネス)(103)はやや増加。一方で、(経済/現代経済)(91)は減少で4年連続減少。

○経営(129)は、大幅増加。入試日程変更の影響が大きい〈給費生〉を除くと(113)の増加。方式別では、〈前期A〉(133)は大幅増加。一方で、〈前期B〉(78)、〈後期A〉(82)は大幅減少でいずれも前年度大幅増加の反動。

○国際日本(133)は、コロナ禍の影響により系統への人気は低調だが、大幅増加。入試日程変更の影響が大きい〈給費生〉を除くと(104)のやや増加。学科別では、(国際文化交流)(90)は減少で2年連続減少、(歴史民俗)(96)は前年度半減以下に引き続き

やや減少。一方で、(日本文化)(143)は大幅増加。

○人間科学(133)は、大幅増加。入試日程変更の影響が大きい<給費生>を除くと(108)の増加。方式別では、<前期A>(111)は増加、<後期A>(86)は2年連続増加の反動で減少。

○理(153)は、大幅増加。入試日程変更の影響が大きい<給費生>を除くと(129)の大幅増加。学科・プログラム別では、(総合理学プログラム)(105)はやや増加、その他の学科・プログラムはいずれも大幅増加。

○工(116)は、大幅増加。入試日程変更の影響が大きい<給費生>を除くと(105)のやや増加。学部改組で募集人員は17%減少で、志願倍率は9.2倍→12.8倍へアップ。学科・プログラム別では、(経営工)(114)は増加だが、その他の5学科・プログラムはいずれも大幅増加。

○建築は新設だが、旧工(建築)との比較では志願者数は651人→1,808人へ1,157人(278)の約2.8倍増。志願倍率25.8倍は全学部中で最も高倍率。

<共通テスト利用方式>

○外国語(87)は、<共テ・前期>のみの募集だが、コロナ禍による系統への人気低下で3年連続大幅減少。志願者数は500人を下回った。学科別では、(中国語)(60)の大幅減少が目立った。

○法(110)は、<共テ・前期>のみの募集だが、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、(自治行政)(133)は2年連続減少の反動で大幅増加、(法律)(101)は前年度大幅減少の反動はなく、微増に留まった。

○経済(75)は、<共テ・前期>のみの募集だが大幅減少で4年連続減少。学科・専攻別では、3学科・専攻とも大幅減少し、特に(経済/経済分析)(41)の大幅減少が目立った。

○経営(108)は、4年ぶり増加。方式別では、<共テ・前期>(105)は3年連続減少の反動でやや増加、<共テ併用・前期>(117)は大幅増加で、前年度の反動による増減が継続。共通テスト実施後に出願可能な<共テ・後期>(142)は大幅増加で共通テスト平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。

○国際日本(97)は、<共テ・前期>のみの募集だがやや減少。コロナ禍による系統への人気低下で2年連続減少。

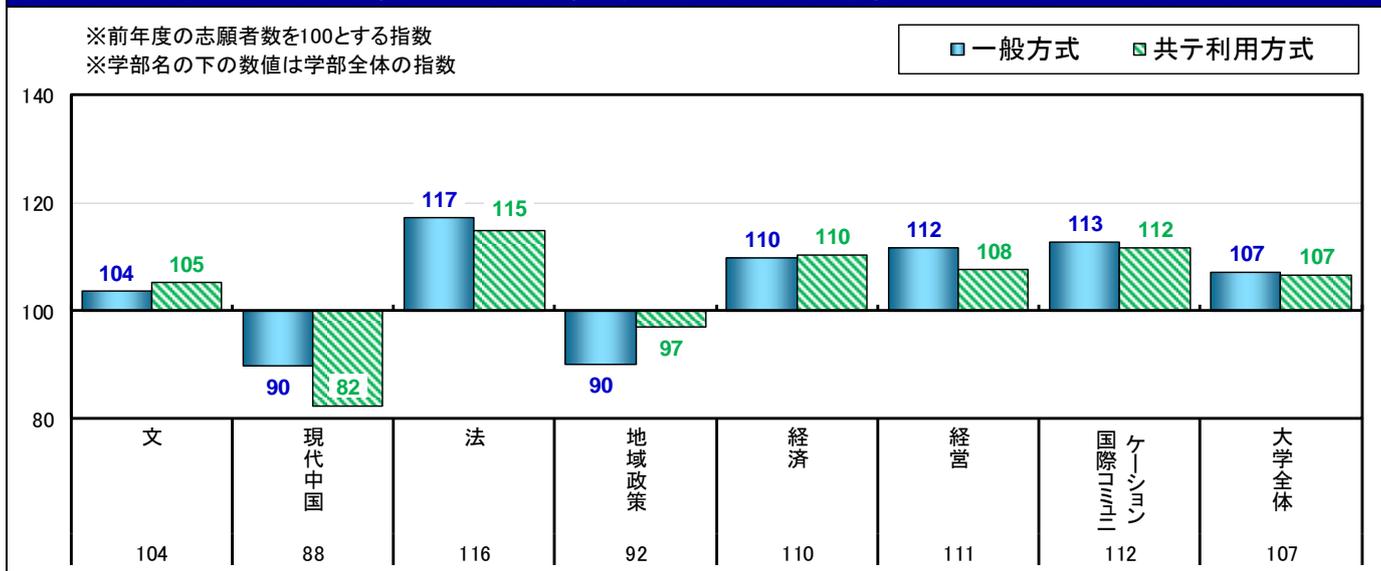
○人間科学(87)は、<共テ・前期>のみの募集だが前年度大幅増加の反動で減少。

○理(83)は、2年連続増加の反動で大幅減少。方式別では、<共テ・前期>(81)は2年連続増加の反動で大幅減少、<共テ併用・前期>(90)は前年度大幅増加の反動で減少。共通テスト実施後に出願可能な<共テ・後期>(140)は大幅増加で共通テスト平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。

○工(81)は、大幅減少で2年連続減少。学部改組で募集停止となった(建築)を除いても(96)のやや減少。方式別では、<共テ・前期>(80)は大幅減少で2年連続減少、<共テ併用・前期>(83)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。共通テスト実施後に出願可能な<共テ・後期>(106)はやや増加で共通テスト平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。

○建築は新設だが、旧工(建築)との比較では志願者数は333人→739人へ406人(222)の約2.2倍増。志願倍率は16.4倍と全学部中で最も高倍率。

愛知大：大学全体ではやや増加で3年ぶり増加、一般M方式が大幅増加 一般：+938人 共テ：+376人



主な入試変更点 コース改組：地域政策(地域政策/まちづくり)(地域政策/地域文化)→(地域政策/まちづくり・文化)
コース名称変更：地域政策(地域政策/地域産業)→(地域政策/経済産業)

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、1,314人(107)のやや増加で3年ぶり増加。学部別では、前年度7学部全てが減少だったが、現代中国(88)、地域政策(92)を除いた5学部で増加。方式別では、一般方式は938人(107)のやや増加。特に全学部日程の<M方式>(129)の大幅増加が目立った。共通テスト利用方式は376人(107)のやや増加で3年ぶりの増加。3年連続減少の<共テ・前期3教科型>(98)を除いた3方式は増加で、<共テ・前期5教科型>(118)は大幅増加、<共テプラス方式>(108)は増加。いずれも、共通テスト受験後に出願可能なため、共通テストの平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした出願が可能だったこと

も影響。3月入試の<共テ・後期>(120)も大幅増加。

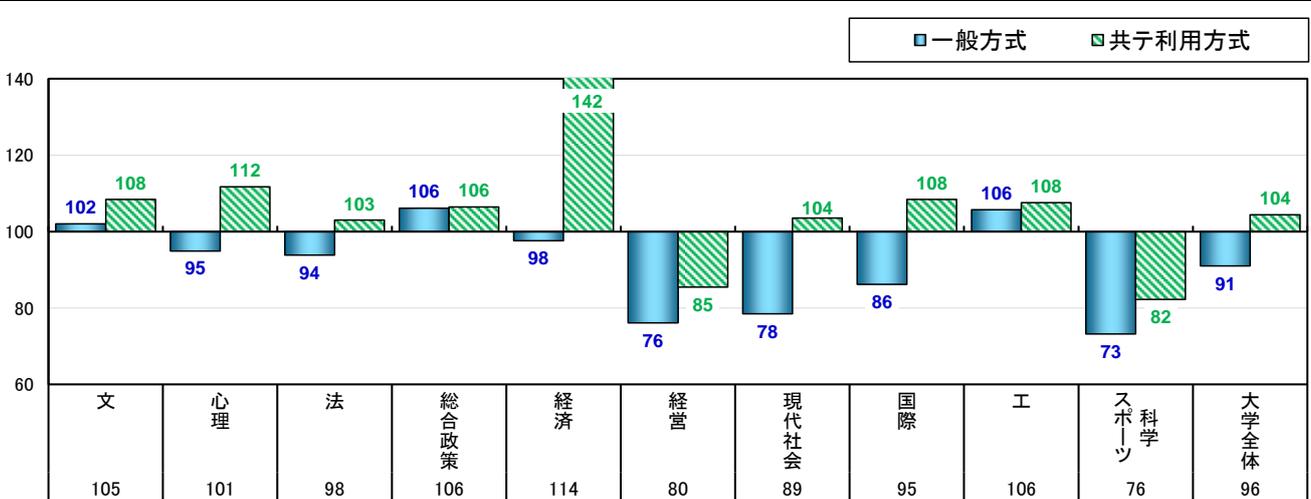
<一般方式>

- 文(104)は、やや増加。学科・コース別では、6学科・コース中、増減は3学科・コースずつ。(人文社会/現代文化)(122)、(心理)(119)、(人文社会/社会学)(117)はいずれも大幅増加。一方で、改組による学科新設2年目の(歴史地理)(89)は減少、(日本語/日本語)(95)、(人文社会/欧米言語文化)(97)はやや減少。
- 現代中国(90)は、前年度大幅減少の反動はなく、さらに減少。方式別では、<一般・前期>(81)は2年連続大幅減少、前年度半減の<一般・後期>(92)は引き続き減少。<M方式>(106)はやや増加。
- 法(117)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。方式別では、<M方式>(156)、<数学重視型>(132)は大幅増加、<一般・前期>(108)は増加。一方で、<一般・後期>(90)は前年度の大幅減少に引き続き2年連続減少。
- 地域政策(90)は、前年度大幅減少の反動はなく、さらに減少。コース別では、(地域政策/食農環境)(47)は2年連続増加の反動で半減以下、志願者数は100人を下回った。また、(地域政策/まちづくり・文化)(88)は改組前の旧(地域政策/まちづくり)、旧(地域政策/地域文化)の合計との比較で3年連続減少、(地域政策/経済産業)(97)は旧(地域政策/地域産業)との比較で前年度大幅減少に引き続いてやや減少。
- 経済(110)は、前年度大幅減少の反動で増加。方式別では、<M方式>(141)、<一般・後期>(136)は大幅増加、<数学重視型>(112)は増加。一方で、<一般・前期>(91)は3年連続減少。
- 経営(112)は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、(会計/ファイナンス)(122)は大幅増加で、2019年度以降前年度の反動による大幅な増減が継続。(経営)(108)は3年連続減少の反動で増加。方式別では、<M方式>(143)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で<数学重視型>(78)は大幅減少で、2020年度の新規導入後連続減少。
- 国際コミュニケーション(113)は、前年度減少の反動で増加。学科別では、(国際教養)(131)は前年度大幅減少の反動で大幅増加だが、(英語)(98)は2年連続微減。方式別では、<M方式>(126)は大幅増加、<一般・前期>(112)は増加。一方で、<一般・後期>(80)は2年連続大幅減少。

<共通テスト利用方式>

- 文(105)は、2年連続減少の反動は小さく、やや増加。学科・コース別では、6学科・コース中4学科・コースが増加。特に、(人文社会/現代文化)(122)、(心理)(116)は大幅増加、(人文社会/社会学)(113)は増加。一方で、(日本語/日本語)(90)は減少で、6学科・コース中唯一減少。方式別では、前年度学科別募集からコース別募集に変わった<共テ・後期>(250)は2.5倍増。
- 現代中国(82)は、3年連続大幅減少。方式別では、全方式で減少し、特に<共テ・前期3教科型>(60)は減少率40%の大幅減少で4年連続減少。
- 法(115)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。方式別では、<共テ・前期5教科型>(143)は大幅増加、<共テプラス方式>(113)は前年度大幅減少の反動で増加。
- 地域政策(97)は、やや減少で3年連続減少。コース別では、(地域政策/公共政策)(153)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(地域政策/食農環境)(59)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。(地域政策/まちづくり・文化)(69)は改組前の旧(地域政策/まちづくり)、旧(地域政策/地域文化)の合計との比較で3年連続大幅減少。
- 経済(110)は、2年連続減少の反動で増加。方式別では、<共テプラス方式>(119)、<共テ・前期5教科型>(118)は大幅増加、<共テ・後期>(113)は増加。一方で、<共テ・前期3教科型>(91)は3年連続減少。
- 経営(108)は、2年連続大幅減少の反動で増加。学科別では、2学科とも増加で、(会計/ファイナンス)(111)は前年度減少率40%以上の大幅減少の反動で増加だが増加率は大きくなかった、(経営)(106)は2年連続減少の反動は小さくやや増加で、志願者数は600人台が継続。
- 国際コミュニケーション(112)は、2年連続大幅減少の反動で増加。学科別では、(国際教養)(130)は2年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(英語)(96)はやや減少で3年連続減少。

中京大：大学全体ではやや減少で2年連続減少、学部別では増減が半数ずつ 一般：-1,700人 共テ：+533人



主な入試変更点 入試科目：経済<共テ・前期2科目型><共テ・後期2科目型>
 …外+(国 or 歴 or 公 or 数 or 理) ※選択は高得点1科目採用→外+(国 or 歴 or 公 or 数 or 理・理基2) ※選択は高得点1科目採用
 <共テ・前期3科目型><共テ・後期3科目型>

	<p>…外+(国 or 歴公 or 数 or 理)→2 ※選択は高得点2科目採用 ※歴公のみ2科目選択可 →外+(国 or 歴公 or 数 or 理・理基2)→2 ※選択は高得点2科目採用 ※歴公のみ2科目選択可 <共テ・前期4科目型><共テ・後期4科目型></p> <p>…外+(国 or 歴公 or 数 or 理)→3 ※選択は高得点3科目採用 ※歴公のみ2科目選択可 →外+(国 or 歴公 or 数 or 理・理基2)→3 ※選択は高得点3科目採用 ※歴公のみ2科目選択可 <共テ・前期5科目型><共テ・後期5科目型></p> <p>…外+(国 or 歴公 or 数 or 理)→4 ※選択は高得点4科目採用 ※歴公のみ2科目選択可 →外+(国 or 歴公 or 数 or 理・理基2)→4 ※選択は高得点4科目採用 ※歴公のみ2科目選択可 国際<共テ・前期2科目型><共テ・後期2科目型></p> <p>…外+(国 or 歴公 or 数) ※選択は高得点1科目採用 →外+(国 or 歴公 or 数 or 理・理基2) ※選択は高得点1科目採用 <共テ・前期3科目型><共テ・後期3科目型></p> <p>…外+(国 or 歴公 or 数)→2 ※選択は高得点2科目採用 ※歴公のみ2科目選択可 →外+(国 or 歴公 or 数 or 理・理基2)→2 ※選択は高得点2科目採用 ※歴公のみ2科目選択可</p>
--	--

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、1,167人(96)のやや減少で、2年連続減少。学部別では、10学部中増減が5学部ずつだった。方式別では、一般方式は1,700人(91)の減少で、2年連続減少。2月入試の<前期・A方式>(91)は減少、<前期・M方式>(97)はやや減少だが、3月入試の<後期・F方式>(80)の大幅減少が目立った。共通テスト利用方式は533人(104)のやや増加。すべての共通テスト利用方式が共通テスト受験後に出席可能だが、特に3月入試の<共テ・後期>(130)の大幅増加が目立った。

<一般方式>

- 文(102)は、前年度減少の反動は小さく、微増。学科別では、(日本文)(126)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。他の2学科はいずれも減少で、(言語表現)(86)は前年度増加の反動で減少、(歴史文化)(97)は前年度の大幅減少に引き続き2年連続減少。
- 心理(95)は、前年度の大幅減少に引き続き2年連続減少。方式別では、<前期・A方式>(92)は2年連続減少。一方で、<後期・F方式>(119)は大幅増加。
- 法(94)は、やや減少で5年連続減少。方式別では、<前期・A方式>(85)は大幅減少。一方で、<前期・M方式>(111)、<後期・F方式>(113)は増加。
- 総合政策(106)は、2年連続大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。方式別では<前期・M方式>(117)は2年連続大幅減少の反動、<前期・A方式>(116)は3年連続減少の反動でいずれも大幅増加。一方で、<後期・F方式>(65)は大幅減少。
- 経済(98)は、前年度の大幅減少に引き続き2年連続減少。方式別では、<前期・M方式>(131)は大幅増加。一方で、<後期・F方式>(60)は大幅減少。
- 経営(76)は、2年連続大幅減少。志願者数は1,500人を下回った。方式別では、3方式全てで減少率20%以上の大幅減少。
- 現代社会(78)は、2年連続大幅減少。専攻別では、前年度に引き続き全専攻で減少。
- 国際(86)は、改組3年目だが、2年連続減少。改組前の旧(国際英語)と旧(国際教養)の合計からの比較では、5年連続減少。専攻別では、前年度5専攻全てで大幅減少だったが、(言語文化/複言語・複文化学)(63)、(国際/国際政治学)(75)は引き続き大幅減少、(言語文化/英米学)(88)は減少。一方で、(国際/国際人間学)(126)は大幅増加、(国際/国際経済学)(107)はやや増加。
- 工(106)は、前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。学科別では、前年度4学科全てで大幅減少だったが、(機械システム工)(126)、(メディア工)(126)は反動でいずれも大幅増加、(情報工)(104)はやや増加。一方で、(電気電子工)(80)は2年連続大幅減少で、4学科中唯一の減少した学科となった。
- スポーツ科学(73)は、前年度学科新設で大幅増加したが、大幅減少。学科別では、大幅増加の(スポーツ健康科学)(126)を除いた4学科はいずれも大幅減少。特に前年度新設の(スポーツマネジメント)(44)、(トレーナー)(55)がいずれも半減前後だったことが目立った。

<共通テスト利用方式>

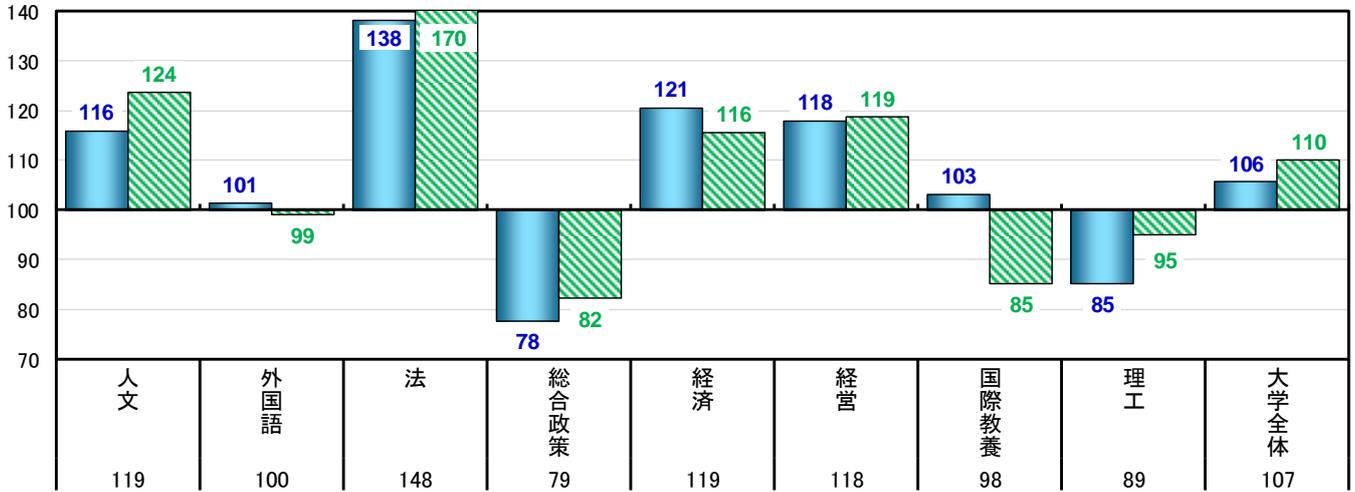
- 文(108)は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、(日本文)(141)は大幅増加、(歴史文化)(105)はやや増加。一方で、(言語表現)(84)は大幅減少。いずれの学科も前年度と逆の増減。方式別では、<共テ・後期>(290)のほぼ3倍増が目立った。
- 心理(112)は、2年連続減少の反動で増加。方式別では、<共テ・前期5科目型>(90)を除き増加、特に<共テ・後期>(344)のほぼ3.5倍増が目立った。
- 法(103)は、やや増加。方式別では、<共テ・前期3科目型>(123)、<共テ・後期>(138)はいずれも大幅増加。一方で、<共テ・前期5科目型>(78)は大幅減少で2年連続減少、<前期・共テプラス方式>(95)はやや減少で3年連続減少。
- 総合政策(106)は、2年連続減少の反動は小さく、やや増加。方式別では、<前期・共テプラス方式>(116)、<共テ・後期>(139)はいずれも大幅増加、<共テ・前期3科目型>(110)は増加。一方で、<共テ・前期5科目型>(87)は前年度の大幅減少に引き続き減少。
- 経済(142)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。方式別では、全方式で大幅増加。
- 経営(85)は、大幅減少。方式別では、<共テ・前期5科目型>(56)の大幅減少が目立った。
- 現代社会(104)は、前年度減少率40%以上の大幅減少の反動は小さく、やや増加。専攻別では、前年度4専攻全てで大幅減少だったが、(現代社会/社会福祉学)(129)は大幅増加、(現代社会/国際文化)(110)は増加、(現代社会/社会学)(106)はやや増加。一方で、(現代社会/コミュニティ学)(82)は大幅減少で、3年連続減少。
- 国際(108)は、改組3年目だが、前年度減少の反動で増加。専攻別では、5専攻中3専攻で増加。特に(国際/国際人間学)(195)のほぼ倍増、(国際/国際経済学)(132)の大幅増加が目立った。一方で、減少の2専攻は、(国際/国際政治学)(67)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(言語文化/複言語・複文化学)(76)は2年連続大幅減少。
- 工(108)は、2年連続減少の反動で増加。学科別では、前年度4学科全てで減少だったが、(機械システム工)(125)は大幅増加、(メディア工)(113)は増加、(情報工)(107)はやや増加。一方で、(電気電子工)(90)は前年度の大幅減少に引き続き2年連続減少で、4学科中唯一の減少。

○スポーツ科学(82)は、前年度学科新設で大幅増加したが、大幅減少。学科別では、(スポーツ健康科学)(177)は前年度半減の反動で激増、(競技スポーツ科学)(102)は微増。一方で、減少の3学科は(スポーツマネジメント)(48)は半減以下、(トレーナー)(57)、(スポーツ教育)(79)はいずれも大幅減少。

南山大：大学全体では5年ぶり増加、一般、共テともに増加 一般：+826人 共テ：+727人

※前年度の志願者数を100とする指数
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■共テ利用方式



主な入試変更点 選抜方法：外国語(スペイン・ラテンアメリカ)〈一般・一般〉
 …(スペイン・ラテンアメリカ/スペイン)14人、(スペイン・ラテンアメリカ/ラテンアメリカ)14人→学科全体で28人
 (アジア)〈一般・一般〉…(アジア/東アジア)14人、(アジア/東南アジア)10人→学科全体で24人
 (フランス)〈一般・一般〉…(フランス/フランス文化)13人、(フランス/フランス社会)13人→学科全体で26人
 (ドイツ)〈一般・一般〉…(ドイツ/ドイツ文化)14人、(ドイツ/ドイツ社会)12人→学科全体で26人
 募集人員：法(法律)…〈一般・一般〉150人→135人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、1,553人(107)のやや増加で5年ぶりに増加。学部別では、8学部中5学部で増加。特に、法(148)、経済(119)、人文(119)、経営(118)が大幅増加。方式別では、一般方式は826人(106)のやや増加で、3年ぶりに増加。共通テスト利用方式727人(110)は2年連続増加。〈共テ・前期〉、〈共テ・後期〉のいずれも共通テスト受験後に出願可能なので、共通テストの平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした出願が可能だったことも影響。

〈一般方式〉

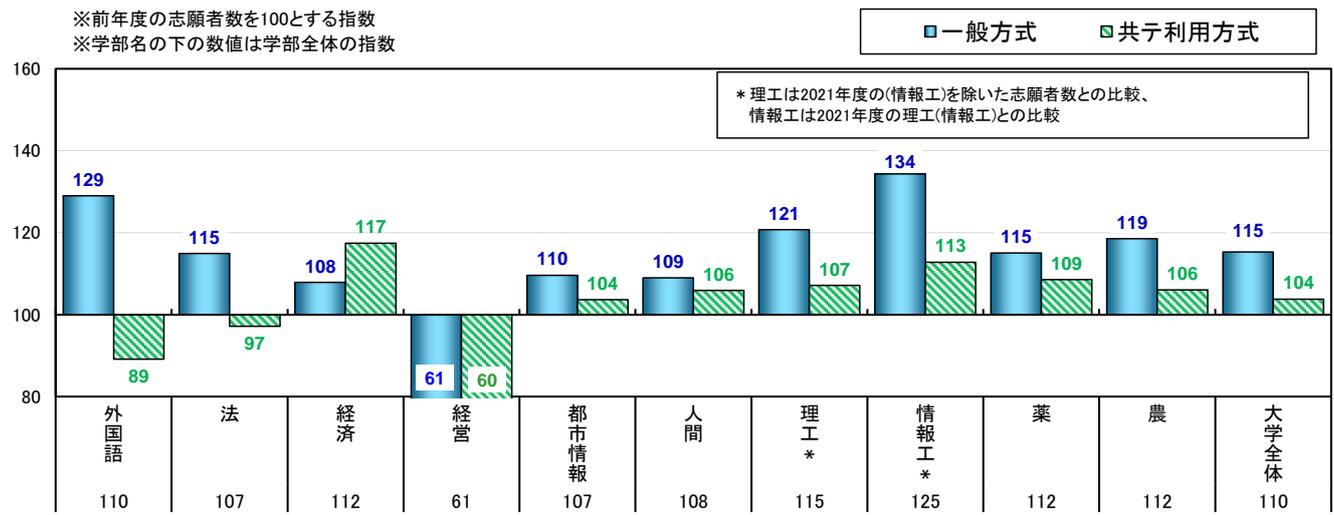
- 人文(116)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、4学科全て増加で、(日本文化)(119)、(人類文化)(119)は大幅増加、(キリスト教)(114)、(心理人間)(111)は増加。
- 外国語(101)は、2年連続減少の反動は小さく微増。学科別では、(ドイツ)(125)、(アジア)(116)は大幅増加。一方で、他の3学科はいずれも減少で、特に(スペイン・ラテンアメリカ)(83)は大幅減少。
- 法(138)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。さらに、募集人員が13人(7%)の減少なので、志願倍率は8.2倍→12.2倍にアップ。方式別では、〈全学統一・個別学力文系型〉(162)は激増。
- 総合政策(78)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 経済(121)は、3年連続減少の反動で大幅増加。方式別では、全方式で増加。特に、〈全学統一・個別学力文系型〉(151)、2教科型の〈一般・B方式〉(123)は大幅増加。
- 国際教養(103)は、やや増加で2年連続増加。方式別では、〈全学統一・個別学力文系型〉(124)は大幅増加。
- 理工(85)は、4年連続増加の反動で大幅減少。学科改組2年目だが、学科別では4学科中3学科が減少。特に(データサイエンス)(68)、(ソフトウェア工)(80)は大幅減少、(機械システム工)(86)は減少。一方で、(電子情報工)(109)は増加。

〈共通テスト利用方式〉

- 人文(124)は、大幅増加。学科別では、4学科中3学科が増加。(人類文化)(137)、(日本文化)(123)、(心理人間)(115)はいずれも大幅増加。一方で、(キリスト教)(89)は減少で、5年連続減少。
- 外国語(99)は、前年度大幅増加の反動は小さく微減。学科別では、5学科中3学科が減少。(スペイン・ラテンアメリカ)(84)は大幅減少、(フランス)(87)は減少、(ドイツ)(94)はやや減少。一方で、(アジア)(118)は大幅増加、(英米)(103)はやや増加。
- 法(170)は、前年度大幅減少の反動で激増。志願者数は5年ぶりに1,000人を上回った。方式別では、前年度全方式で減少だったが、全方式で激増に転じた。特に、〈共テ・後期〉(210)は倍増以上。
- 総合政策(82)は、前年度増加の反動で大幅減少。志願者数は600人を下回った。方式別では、〈共テ・前期3教科型〉(65)の大幅減少が目立った。
- 国際教養(85)は、前年度増加の反動で大幅減少。方式別では、〈共テ・前期5教科型〉(70)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 理工(95)は、前年度大幅増加の反動は小さく、やや減少。学科別では、4学科中3学科が減少。(データサイエンス)(76)は大幅減少、(ソフトウェア工)(99)、(電子情報工)(99)はそれぞれ4人のみ微減。一方で、(機械システム工)(109)は増加。

名城大：大学全体では3年ぶりの増加、10学部中9学部で増加

一般：+3,076人 共テ：+593人



主な入試変更点

学部改組：理工(情報工)→情報工(情報工)
 選抜方法：外国語(国際英語)…〈一般・傾斜配点型K方式〉を新規実施：①一般・3教科型A方式の結果を利用
 ②出願時に外国語学部のA方式の受験必須
 理工…〈一般・傾斜配点型K方式〉を新規実施：①一般・3教科型A方式の結果を利用
 ②出願時に理工学部もしくは情報工学部のA方式の受験必須
 ※1日程につき1学部1学科出願可 ※A方式と異なる学科の併願可
 〈共テ・前期C方式5教科6科目型〉を新規実施：国+歴公+数2+理・理基2+外
 ※歴公：日B or 世B or 現 ※理は高得点1科目採用
 〈一般・M方式〉廃止
 入試科目：理工(数除く)〈一般・3教科型B方式〉…〔(数 or 理 or 外)→2〕→数+理+外 ※2教科型から3教科型へ
 理工(数)〈一般・3教科型B方式〉…数+(理 or 外)→数+理+外 ※2教科型から3教科型へ
 募集人員：都市情報…〈一般・3教科型A方式〉60人→70人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、3,669人(110)の増加で3年ぶりの増加。学部別では、前年度の旧理工(情報工)を除いた志願者数との比較の理工(115)、前年度の旧理工(情報工)との比較の情報工(125)を含め、10学部中9学部で増加、減少は大幅減少の経営(61)のみ。方式別では、一般方式は3,076人(115)の大幅増加。外国語、理工、情報工で新規導入の〈傾斜配点型K方式〉の増加が大きかった。共通テスト利用方式は593人(104)のやや増加で3年ぶりの増加。

〈一般方式〉

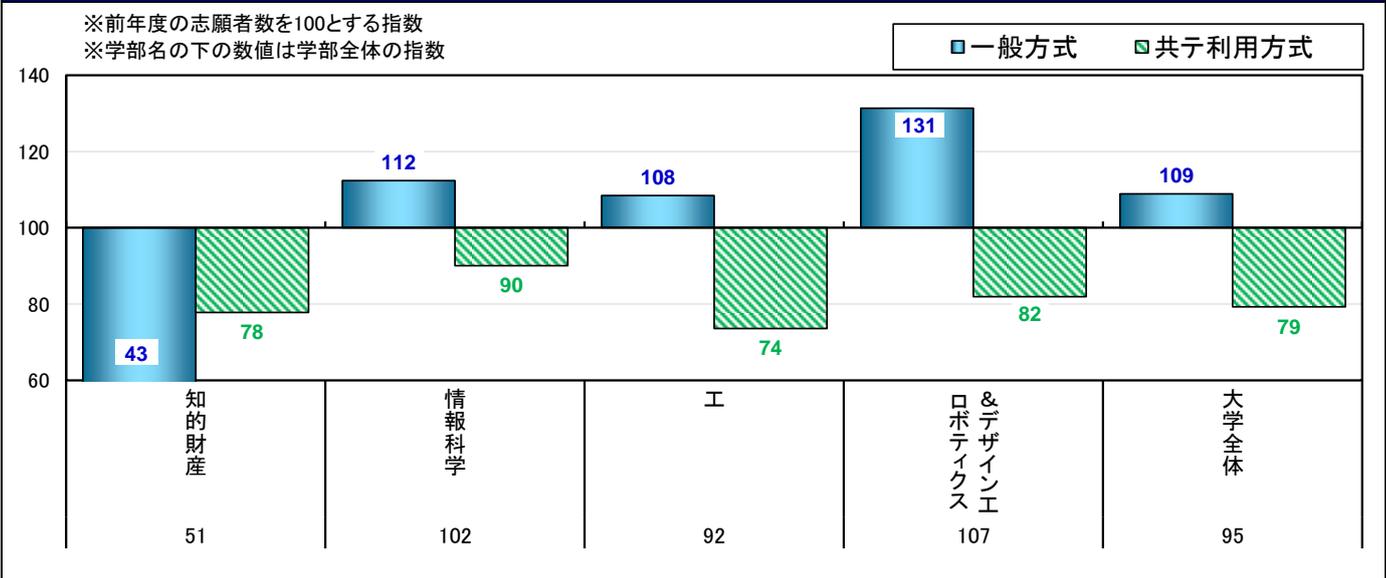
- 外国語(129)は、〈傾斜配点型K方式〉の新規導入もあり、大幅増加。4年ぶりの増加となった。〈傾斜配点型K方式〉を除いても(105)のやや増加。方式別では、〈3教科型A方式〉(117)は3年連続減少の反動で大幅増加。一方で、〈2教科型B方式〉(70)は大幅減少で3年連続減少。
- 法(115)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。2020年度以降前年度の反動による増減が継続。方式別では、〈3教科型A方式〉(113)は増加、〈2教科型B方式〉(120)は大幅増加で、いずれも前年度大幅減少の反動。
- 経済(108)は、2年連続減少の反動で増加。学科別では、(経済)(112)は前年度大幅減少の反動で増加。一方で、(産業社会)(79)は4年連続大幅減少。
- 経営(61)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。前年度の反動による増減が継続。学科別では、(国際経営)(51)、(経営)(62)と2学科とも大幅減少。
- 都市情報(110)は、前年度大幅増加に引き続き、2年連続増加。志願者数は950人を上回った。一方で、募集人員(募集人員の前年度対比指数113)は増加で、志願倍率は11.6倍→11.3倍にダウン。方式別では、〈3教科型A方式〉(114)は増加、〈2教科型B方式〉(100)は前年度と同じ志願者数だった。
- 人間(109)は、前年度大幅減少の反動で増加だが、志願者数は1,000人には届かなかった。方式別では、〈3教科型A方式〉(111)は増加、〈2教科型B方式〉(101)は微増。
- 理工(121)は、前年度の旧(情報工)を除いた志願者数との比較で大幅増加。〈傾斜配点型K方式〉の新規導入も影響した。学科別では、10学科中8学科で増加。更に、増加した8学科中、(数)(108)を除いた7学科は大幅増加で、特に(材料工)(173)は激増。減少の学科は、(環境創造工)(94)、(電気電子工)(96)のみで、いずれもやや減少。方式別では、〈3教科型A方式〉(112)は増加。一方で、科目負担の増えた〈3教科型B方式〉(82)は2年連続大幅減少。
- 情報工(134)は、旧理工(情報工)の改組による新設だが、旧理工(情報工)との比較では募集人員が10人(14%)増加したが、2年連続増加となる大幅増加で、志願倍率も29.0倍→34.1倍にアップ。
- 薬(115)は、系統への人気の高まりもあり、大幅増加で3年連続増加。方式別では、〈3教科型B方式〉(125)は大幅増加、〈3教科型A方式〉(111)は増加でいずれも3年連続増加。
- 農(119)は、4年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、3学科とも大幅増加。

〈共通テスト利用方式〉

- 外国語(89)は、4年連続減少。方式別では、〈共テ前期・C方式〉(75)の大幅減少が目立った。
- 法(97)は、やや減少で3年連続減少。方式別では、〈共テ後期・C方式〉(46)は半減以下、〈共テ前期・C方式〉(75)は大幅減少。〈共テ併用・F方式〉(113)のみ増加。

- 経済(117)**は、2年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、(産業社会)(125)、(経済)(116)と2学科とも大幅増加。
- 経営(60)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。前年度の反動による大幅な増減が継続。(経営)(60)、(国際経営)(61)と2学科とも大幅減少。
- 都市情報(104)**は、やや増加で2年連続増加。方式別では、〈共テ前期・C方式〉(115)は前年度減少の反動で大幅増加。
- 人間(106)**は、前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加。方式別では、〈共テ併用・F方式〉(110)は前年度大幅減少の反動で増加。〈共テ後期・C方式〉(89)は4人の減少だが、6年連続減少。
- 理工(107)**は、前年度の旧(情報工)を除いた比較でやや増加。学科別では、10学科中7学科で増加。特に、(材料機能工)(133)、(交通機械工)(125)、(社会基盤デザイン工)(122)、(応用化)(121)は大幅増加。減少の3学科は、(電気電子工)(85)は大幅減少、(数)(92)、(環境創造工)(92)は減少。方式別では、〈共テ前期・C方式〉(126)は、〈5教科6科目型〉の新設もあり、大幅増加。共通テスト受験後の出願の〈共テ後期・C方式〉(115)は2年連続大幅増加で、共通テストの平均点ダウンを加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。〈共テ併用・F方式〉(100)は前年度並。
- 情報工(113)**は、旧理工(情報工)の改組で新設された学部だが、旧理工(情報工)との比較で2年連続増加。方式別では、〈共テ前期・C方式〉(123)は大幅増加。〈共テ後期・C方式〉(124)も大幅増加で、共通テストの平均点ダウンを加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。〈共テ併用・F方式〉(109)は増加。
- 薬(109)**は、増加。方式別では、〈共テ後期・C方式〉(186)は激増で3年連続増加。共通テストの平均点ダウンを加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。〈共テ併用・F方式〉(109)は3年連続増加、〈共テ前期・C方式〉(102)は前年度大幅減少の反動は小さく、微増。
- 農(106)**は、2年連続減少の反動は小さく、やや増加。学科別では、(生物資源)(109)は2年連続減少の反動で増加、(応用生物化)(108)は2年連続増加。一方で、(生物環境科学)(99)は微減だが、前年度の大幅減少に引き続き、2年連続減少。

大阪工業大：大学全体では3年連続減少、共テ利用は2年連続大幅減少 一般：+691人 共テ：-1,433人



主な入試変更点

選抜方法：全学部〈一般・独自方式知的財産学部併願方式〉〈一般・独自方式データサイエンス学科併願方式〉…廃止
 〈一般・前期A日程〉〈一般・前期B日程〉〈一般・後期D日程〉…併願制度プラスワン理系を新規導入
 ※理系学部・学科を1学科併願可
 ※同一試験日でのプラスワン理系とプラスワン文理の併願不可
 〈一般・前期A日程〉〈一般・前期B日程〉〈一般・後期D日程〉…併願制度プラスワン文理を新規導入
 ※情報科学部データサイエンス学科〈文理型〉〈文系型〉
 または知的財産学部を併願可
 ※同一試験日でのプラスワン理系とプラスワン文理の併願不可
 情報科学〈一般・前期C日程〉〈一般・後期(C日程を除く)〉〈共テ併用〉…第3志望学科まで選択可→第5志望学科まで選択可
 入試科目：知的財産、情報科学、工(応用化、環境工、生命工)、ロボティクス&デザイン工(空間デザイン)
 〈一般・前期A日程〉〈一般・前期B日程〉〈一般・後期D日程(高得点2教科方式)〉
 …〈数I・II・A・B〉→〈数I・II・III・A・B〉or〈数I・II・A・B〉 ※数が2パターンから選択可に
 〈共テ併用・前期AC日程〉〈共テ併用・前期BC日程〉〈共テ併用・後期DC日程〉
 …〈個〉数：数I・II・A・B→〈個〉数：〈数I・II・III・A・B〉or〈数I・II・A・B〉
 ※個別の数が2パターンから選択可に

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、742人(95)のやや減少で3年連続減少。志願者数は6年ぶりに14,000人を下回った。学部別では、知的財産(51)はほぼ半減、工(92)は減少。一方で、ロボティクス&デザイン工(107)はやや増加、情報科学(102)は微増。方式別では、一般方式は691人(109)の増加、前年度大幅減少の反動で3年ぶりに増加。共通テスト利用方式は1,433人(79)の2年連続大幅減少。共通テスト受験前に出願締め切りとなる〈共テ・前期C日程〉〈共テ併用・前期AC日程〉の合計は(77)と2年連続大幅減少で、共通テスト利用方式への敬遠傾向が見られる。一方で、共通テスト受験後に出願可能な〈共テ・後期C日程〉〈共テ併用・前期BC日程〉〈共テ併用・後期DC日程〉の合計は(103)とやや増加、共通テストの平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。

＜一般方式＞

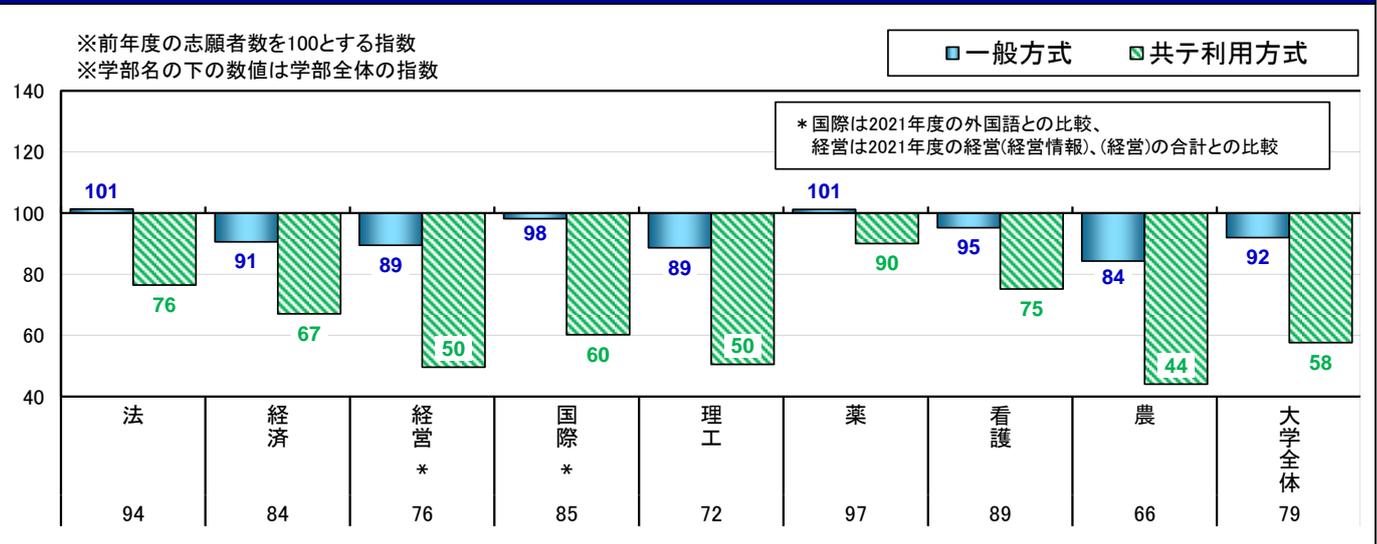
- 知的財産(43)は、60%近い大幅減少で3年連続大幅減少。志願者数は200人を下回った。
- 情報科学(112)は、2年連続減少の反動で増加。学科別では5学科中4学科が増加。(ネットワークデザイン)(131)、(情報システム)(116)はいずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。新設2年目の(データサイエンス)(117)も大幅増加。(情報知能)(108)は前年度40%以上の大幅減少の反動で増加だが、志願者数は2年連続で300人を下回った。一方で、(情報メディア)(96)は2年連続大幅減少に引き続きやや減少。
- 工(108)は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では8学科中6学科が増加。特に、(都市デザイン工)(158)、(電気電子システム工)(119)はいずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。(電子情報システム工)(114)は2019年度の学科名称変更後、初の増加。一方で、(応用化)(93)は前年度大幅減少に引き続きやや減少。
- ロボティクス&デザイン工(133)は、2017年度の新設後4年連続減少の反動で大幅増加で、初の増加。学科別では、3学科全て大幅増加。(システムデザイン工)(144)、(ロボット工)(132)は、いずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。(空間デザイン)(125)は、2年連続減少の反動で大幅増加。

＜共通テスト利用方式＞

- 知的財産(78)は、前年度減少率60%の激減に引き続き大幅減少で、3年連続減少。志願者数は100人を下回った。
- 情報科学(90)は、3年連続減少。学科別では5学科中4学科で減少。(情報システム)(103)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。一方で、(ネットワークデザイン)(99)は微減、他の3学科はいずれも大幅減少。
- 工(74)は、2年連続大幅減少。学科別では、前年度に引き続き8学科全て減少。特に、(環境工)(44)、(生命工)(48)はいずれも前年度大幅減少に引き続き半減以下。
- ロボティクス&デザイン工(82)は、2年連続大幅減少で3年連続減少。学科別では、(システムデザイン工)(76)、(空間デザイン)(82)はいずれも大幅減少で3年連続減少。(ロボット工)(87)は2年連続減少。

摂南大：大学全体では3年連続減少、8学部全て減少

一般:-1,293人 共テ:-3,924人



<p>主な入試変更点</p>	<p>試験会場：全学部＜一般・前期2科目型(2日目)＞…金沢、名古屋、姫路、広島、米子、松江、福岡廃止 法、経済、経営、国際、理工(住環境デザイン)、農(食農ビジネス)＜一般・前期2科目(1日目)＞…岡山廃止 入学検定料：＜共テ・前期＞＜共テ・中期＞＜共テ・中期＞で、併願時に2出願目以降出願数に限らず同額としていた免除制度を廃止し、出願ごとに加算 学部改組：外国語(外国語)→国際(国際) 学科改組：経営…(経営情報、経営)→(経営) 選抜方法：全学部＜一般・前期2科目型指定科目重視方式＞…高得点科目重視方式→指定科目重視方式 ※指定科目の配点を200点満点に換算 入試科目：看護(看護)＜一般・前期2科目＞…外+(国 or 数 or 理) ※理：化 or 生→外+(国 or 数 or 理) ※理：生 ＜一般・前期3科目＞…国+外+(数 or 理) ※理：化 or 生→国+外+(数 or 理) ※理：生 ＜共テ併用・2プラスC＞…＜個＞外+(国 or 数 or 理) ※理：化 or 生→＜個＞外+(国 or 数 or 理) ※理：生 ＜共テ併用・3プラスC＞…＜個＞国+外+(数 or 理) ※理：化 or 生→＜個＞国+外+(数 or 理) ※理：生</p>
----------------	---

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、5,217人(79)の大幅減少で3年連続減少。学部別では国際の旧外国語との比較を含めて、8学部全て減少。特に、農(66)、理工(72)、経営(76)、経済(84)は大幅減少。方式別では、一般方式は1,293人(92)の減少で3年連続減少。志願者数は15,000人を下回った。共通テスト利用方式は、上記の「入試変更点」に示したように「入学検定料」の免除制度を廃止したことで、3,924人(58)の大幅減少で3年連続減少。

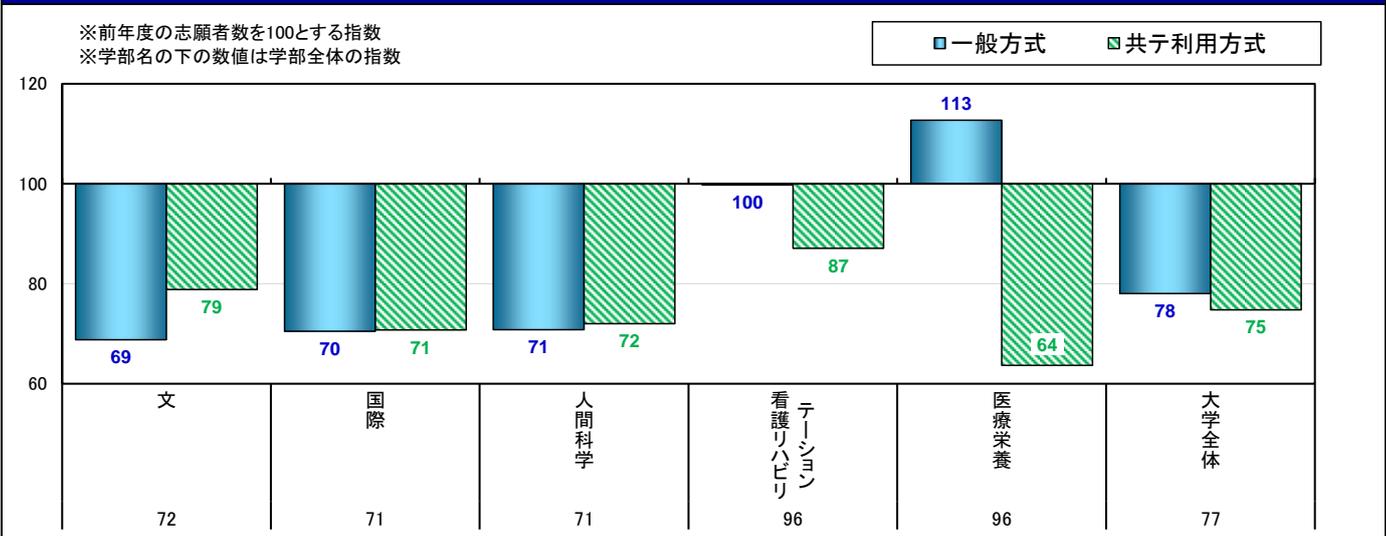
＜一般方式＞

- 法(101)は、微増だが2年連続増加。
- 経済(91)は、2年ぶりの減少。志願者数は7年ぶりに2,500人を下回った。
- 経営(89)は、学科改組で2学科を1学科としたが減少。方式別では、＜前期3科目＞(124)は大幅増加、一方で、＜前期2科目＞(63)は大幅減少と対照的。
- 国際(98)は、旧外国語の改組で新設された学部だが、旧外国語との比較では微減で旧外国語から3年連続減少。
- 理工(89)は、減少で3年連続減少。学科別では、6学科中5学科が減少。特に、(住環境デザイン)(74)、(都市環境工)(75)、

(生命科学) (85)は大幅減少。唯一増加した(建築) (111)は3年連続減少の反動で増加。
 ○薬(101)は、微増で5年ぶりに増加に転じたが、2017年度との比較では半減以下。
 ○看護(95)は、前年度やや増加の反動でやや減少。志願者数は3年連続で900人を下回った。
 ○農(84)は、新設3年目だが2年連続大幅減少。学科別では4学科全て減少。特に、(食農ビジネス) (80)、(応用生物科学) (81)は2年連続大幅減少。

＜共通テスト利用方式＞
 ○法(76)は、大幅減少で3年連続減少。「入学検定料」の免除制度廃止が影響。
 ○経済(67)は、大幅減少。「入学検定料」の免除制度廃止が影響し、志願者数は5年ぶりに700人を下回った。
 ○経営(50)は、学科改組で2学科を1学科としたが、「入学検定料」の免除制度廃止が影響し、前年度との比較では半減。
 ○国際(60)は、旧外国語の改組で新設されたが、改組前の旧外国語との比較では「入学検定料」の免除制度廃止が影響し、大幅減少で旧外国語から3年連続減少。
 ○理工(50)は、半減。「入学検定料」の免除制度廃止が影響し、志願者数は、1,500人台となった。学科別では、6学科全てが大幅減少。特に、(住環境デザイン) (31)、(都市環境工) (32)はいずれも前年度の3分の1以下。
 ○薬(90)は、減少で4年連続減少。
 ○看護(75)は、大幅減少。最近の志願者数のピークだった2019年度の半減以下。
 ○農(44)は、新設3年目だが2年連続大幅減少。「入学検定料」の免除制度廃止が影響。

甲南女子大：大学全体では3年連続減少、全学部減少、特に共テへの敬遠傾向 一般：-735人 共テ：-457人



主な入試変更点 入試科目：医療栄養

＜一般・I 日程、II 日程(2教科型)＞…理+(国 or 外)→{国 or 外 or (数 or 理)}→2
 ＜一般・I 日程、II 日程(3教科型)＞…国+理+外→国+外+(数 or 理)
 ＜一般・III 日程、IV 日程＞
 …(国 or 理・理基2 or 外)→2 ※理は共テの得点を利用 ※理：化 or 生、※理または外のいずれかが必須で、得点を2倍にして判定、
 両方受験した場合は、高得点の方を2倍にして判定
 →(国 or 歴公 or 数 or 理・理基2 or 外)→2 ※歴公、数、理は共テの得点を利用、※理：物 or 化 or 生 or 地学
 ＜共テ・I 日程、II 日程(3教科型)＞
 …理・理基2+(国 or 数 or 外)→2 ※数：数① or 数②、※理：化 or 生
 →(国 or 歴公 or 数 or 理・理基2 or 外)→3 ※数：数 I or 数① or 数②、※理：物 or 化 or 生 or 地学
 ＜共テ・I 日程 4教科型＞
 …理・理基2+(国 or 歴公 or 数 or 外)→3 ※数：数① or 数②、※理：化 or 生
 →(国 or 歴公 or 数 or 理・理基2 or 外)→4 ※数：数 I or 数① or 数②、※理：物 or 化 or 生 or 地学

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、女子大全体への人気低下もあって、1,192人(77)の大幅減少で3年連続減少。学部別では、5学部全てが減少で、特に、国際(71)、人間科学(71)、文(72)はいずれも大幅減少。方式別では、一般方式(78)は2年連続大幅減少。共通テスト利用方式(77)は4年連続大幅減少。ほとんどの募集単位が大幅減少で、共通テスト利用方式への敬遠傾向が顕著。

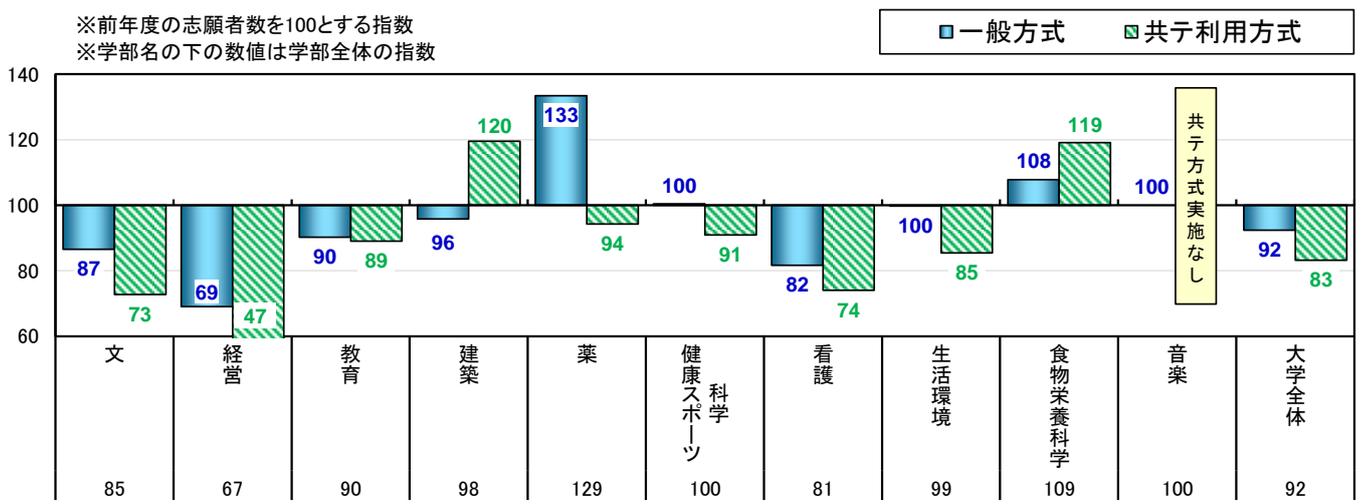
＜一般方式＞
 ○文(69)は、学科改組で2学科となって3年目だが、改組後2年連続大幅減少。学科別でも、(日本語日本文化) (63)、(メディア表現) (74)はいずれも改組後2年連続大幅減少。
 ○国際(70)は、文の2学科を改組して新設3年目だが、前年度半減以下に引き続き大幅減少。コロナ禍による系統への人気低下が影響。学科別でも、(多文化コミュニケーション) (67)、(国際英語) (75)はいずれも前年度半減以下に引き続き大幅減少。
 ○人間科学(71)は、2年連続大幅減少。志願者数は1,000人を下回った。学科別でも、4学科全てが2年連続大幅減少。(心理) (67)、(生活環境) (68)、(総合子ども) (70)は減少率30%以上。
 ○看護リハビリテーション(100)は、前年度大幅減少の反動はなく2人減少の微減。学科別では、(看護) (105)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。(理学療法) (82)は2年連続大幅減少。

○医療栄養(113)は、前年度大幅減少の反動と入試科目の選択肢の増加で志願者数増加。2020 年度以降前年度の反動による増減が継続。

<共通テスト利用方式>

- 文(79)は、大幅減少。(メディア表現)と(日本語日本文化)の合計では、改組前から4年連続大幅減少。学科別では、(日本語日本文化)(78)は前年度半減以下に引き続き大幅減少、(メディア表現)(79)も大幅減少で、いずれも4年連続大幅減少。
- 国際(71)は、コロナ禍による系統への人気低下の影響で、前年度の半減に引き続き大幅減少。文の2学科を改組して新設3年目だが、改組前から4年連続減少。学科別でも、(多文化コミュニケーション)(66)、(国際英語)(76)はいずれも大幅減少で、いずれも改組前から4年連続減少。
- 人間科学(72)は、3年連続大幅減少で4年連続減少。志願者数は600人を下回った。学科別でも、4学科全てが2年連続大幅減少。
- 看護リハビリテーション(87)は、前年度大幅減少に引き続き減少。学科別では、(理学療法)(79)は2年連続大幅減少。(看護)(89)は2年連続減少。
- 医療栄養(64)は、前年度減少の反動はなく引き続き大幅減少。志願者数は50人を下回った。

武庫川女子大：大学全体では2年連続減少、薬、食物栄養科学のみ増加 一般：-744人 共テ：-143人



主な入試変更点

選抜方法：薬(薬)…<一般・前期A2科目型>を新規実施
 (健康生命薬科学)…<一般・前期A2科目型>を新規実施、<一般・前期A3科目型>を廃止
 音楽(演奏)…<一般・中期B2科目型>を新規実施、<一般・前期A3科目型><一般・中期B3科目型>を廃止
 (応用音楽)…<一般・中期B3科目型>を新規実施、<一般・前期A2科目型><一般・中期B2科目型>を廃止

入試科目：薬(薬)<一般・前期A3科目型>…数+理+外 ※理：化→理+外+(国 or 数) ※理：化 or 生
 <一般・中期B3科目型>…数+理+外 ※理：化→理+外+(国 or 数) ※理：化 or 生
 <一般・中期B2科目型>…理+外 ※理：化→理+(国 or 数 or 外) ※理：化 or 生
 <一般・後期C>…理+外 ※理：化→理+(国 or 数 or 外) ※理：化 or 生 ※化と生での受験も可
 <共テ・5科目型>…数2+理2+外 ※理(必須)：化、※理(選択)：物 or 生→数2+理2+外 ※理：物 or 化 or 生
 <共テ・3科目型>…理+外+(数① or 数② or 理) ※理(必須)：化、(選択)：物 or 生
 →理+外+(数① or 数② or 理) ※理(必須)：化 or 生、(選択)：物

(健康生命薬科学)<一般・中期B2科目型>…理+(数 or 外) ※理：化 or 生→理+(国 or 数 or 外) ※理：化 or 生
 <一般・後期C>…理+(数 or 外) ※理：化 or 生 ※化と生での受験も可
 →理+(国 or 数 or 外) ※理：化 or 生 ※化と生での受験も可
 <共テ・3科目型>…理+外+(数① or 数②) ※理：物 or 化 or 生
 →理+(数① or 数② or 理 or 外) ※理(必須)：化 or 生 ※理(選択)：物

食物栄養科学(食創造科学)
 <一般・前期A3科目型><一般・中期B3科目型>…理+外+(国 or 数) ※理：化 or 生
 →外+(数 or 理)+(国 or 歴) ※理：化 or 生 ※数と化、数と生での受験可
 <一般・前期A2科目型><一般・中期B2科目型>…理+(国 or 数 or 外) ※理：化 or 生
 →(数 or 理)+(国 or 歴 or 外) ※理：化 or 生 ※数と化、数と生での受験可
 <一般・後期C>…理+(国 or 数 or 外) ※理：化 or 生
 →(数 or 理)+(国 or 外) ※理：化 or 生 ※選択必須の数、理の2科目での受験も可

音楽(演奏)<一般・後期C>…実+面+(国 or 数 or 外)→実+口頭試験+(国 or 数 or 外)
 (演奏/ピアノ)<一般・前期A2科目型>…実+音 ※音：音楽通論 or 聴音
 →実+(国 or 歴 or 数 or 外 or 音) ※数：数I・A ※音：音楽通論 or 聴音
 (演奏/ピアノ除く)<一般・前期A2科目型>…実+音 ※音：音楽通論 or 聴音 or 実
 →実+(国 or 歴 or 数 or 外 or 音) ※数：数I・A、※音：音楽通論 or 聴音 or 実
 (応用音楽)<一般・前期A3科目型>…実+(国 or 外 or 音 or 数)→2 ※数：数I・A or (数I・A+数II・B)
 ※音：音楽通論
 →実+(国 or 歴 or 数 or 外 or 音)→2 ※数：数I・A ※音：楽典 or 聴音

〈一般・後期C〉…実+面+(国 or 数 or 外)→実+口頭試問+(国 or 数 or 外)

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、全国的な女子大の人気低下の動向から 887 人(92)減少で 2 年連続減少。学部別では、10 学部中 7 学部が減少、2 学部のみが増加、1 学部は前年度と同数。方式別では、一般方式(92)は前年度大幅減少に引続き減少。系統への人気の高い薬(133)は大幅増加したが、経営(69)、看護(82)は大幅減少。共通テスト利用方式(83)は 2 年連続大幅減少。理系の建築(120)、食物栄養科学(119)は大幅増加したが、他の 7 学部は減少。

〈一般方式〉

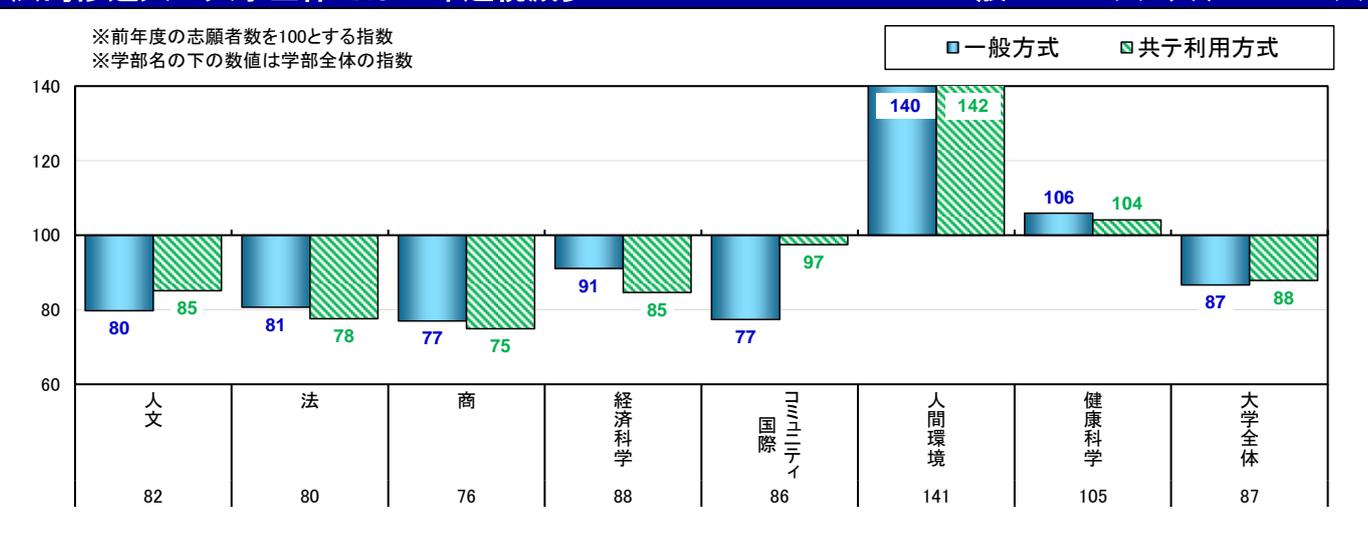
- 文(87)は、前年度大幅減少に引続き減少。学科別では、(心理・社会福祉)(83)は大幅減少で 2 年連続減少。(英語文化)(88)、(日本語日本文)(92)はいずれも前年度大幅減少に引続き減少。
- 経営(69)は、新設 3 年目だが 2 年連続大幅減少で、志願者数は 1,000 人を下回った。
- 教育(90)は、新設 4 年目だが 3 年連続減少で、志願者数は 1,400 人を下回った。
- 建築(96)は、新設 3 年目だが前年度大幅減少に引続きやや減少。学科別では、(景観建築)(102)は前年度大幅減少の反動はなく 2 人のみの微増。(建築)(93)は前年度大幅減少に引続きやや減少。
- 薬(133)は、前年度半減近かった反動と、系統への人気の高まりから大幅増加。学科別では、女子の資格取得志向から薬剤師養成課程の(薬)(145)は前年度半減以下の反動もあって大幅増加。(健康生命薬科学)(79)は 2 年連続大幅減少。
- 健康スポーツ科学(100)は、前年度大幅減少の反動はなく前年度並で、志願者数は 2 年連続で 500 人を下回った。
- 看護(82)は、大幅減少で 2 年連続減少。志願者数は 5 年ぶりに 600 人を下回った。
- 生活環境(100)は、4 人のみ減少で前年度並だが、系統への人気低下もあって 2019 年度との比較では半減以下。学科別では、(情報メディア)(121)は 3 年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(生活環境)(85)は前年度増加の反動で大幅減少。
- 食物栄養科学(108)は、新設 3 年目だが前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、(食物栄養)(108)は前年度大幅減少の反動で増加だが、志願者数は 800 人に達しなかった。(食創造科学)(106)は前年度減少の反動でやや増加だが、新設初年度の志願者数には及ばなかった。
- 音楽(100)は、2 年連続大幅減少の反動はなく前年度並。学科別では、(応用音楽)(144)は大幅増加、(演奏)(59)は大幅減少と対照的。

〈共通テスト利用方式〉

- 文(73)は、2 年連続大幅減少で、志願者数は 200 人を下回った。学科別では 3 学科全てが大幅減少。(英語文化)(57)は 2 年連続大幅減少で 3 年連続減少。(日本語日本文)(70)も 2 年連続大幅減少。(心理社会福祉)(84)は前年度 6 年ぶりに増加したが、反動で大幅減少。
- 経営(47)は、半減以下。新設 3 年目だが 2 年連続減少。
- 教育(89)は、減少。新設 4 年目だが、2020 年度以降は隔年での増減が継続。
- 建築(120)は、大幅増加。新設 3 年目だが前年度半減近かった反動が見られた。学科別でも、(景観建築)(123)、(建築)(118)といずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 薬(94)は、やや減少で 3 年連続減少。学科別では、女子の資格取得志向から薬剤師養成課程の(薬)(117)は 2 年連続減大幅減少の反動もあって大幅増加。一方で、(健康生命薬科学)(50)は 5 年連続増加の反動で半減、志願者数は 3 年ぶりに 20 人を下回った。
- 健康スポーツ科学(91)は、減少で 4 年連続減少。
- 看護(74)は、2 年連続大幅減少。2016 年度に当時のセンター利用方式を導入後、最も少ない志願者数となった。
- 食物栄養科学(119)は、新設 3 年目だが前年度のやや減少の反動で大幅増加。学科別では、食物栄養(139)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(食創造科学)(68)は前年度激増の反動で大幅減少。

広島修道大：大学全体では 3 年連続減少

一般：-808 人 共テ：-497 人



主な入試変更点 選抜方法：健康科学(心理)〈共テ・後期〉…国+数 2+外+(歴公 or 理・理基 2) ※国または選択のうち高得点 1 科目採用
→数 2+外+(国 or 歴公 or 理・理基 2)
募集人員：健康科学(健康栄養)〈一般・前期〉…30 人→16 人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数
<p>大学全体では、1,305人(87)の減少で3年連続減少。学部別では、7学部中5学部が減少。特に、商(76)、法(80)、人文(82)はいずれも大幅減少。一方で、人間環境(141)は大幅増加。方式別では、一般方式(87)は減少で3年連続減少。共通テスト利用方式(88)は減少。なお、志願者数は大学全体、一般方式、共通テスト利用方式のいずれも2018年度に7学部体制になって以降では最少。</p>
<p><一般方式></p> <ul style="list-style-type: none"> ○人文(80)は、大幅減少。3学科体制になった2017年度以降では最少で、2017年度対比で36%減。学科別では、3学科いずれも3学科体制になった2017年度以降では最少。(英語英文)(67)は大幅減少で、志願者数は320人を下回った。(人間関係)(80)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。(教育)(91)は減少で3年連続減少。 ○法(81)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2019年度より前年度の反動による増減が継続。 ○商(77)は、大幅減少で3年連続減少。学科別では、(商)(73)は前年度増加の反動で大幅減少。2018年度から前年度の反動による増減が継続。(経営)(81)は2年連続大幅減少。 ○経済科学(91)は、減少で3年ぶりに減少。学科別では、(現代経済)(88)は2年連続増加の反動で減少。(経済情報)(95)はやや減少で3年連続減少。 ○国際コミュニティ(77)は、大幅減少で3年連続減少、志願者数は4年ぶりに500人を下回った。なお、志願者数は学部合計も学科ごととも2018年度の学部新設時と同数だった。学科別では、(国際政治)(73)は大幅減少で2年連続減少。(地域行政)(82)は大幅減少。 ○人間環境(140)は、前年度減少率45%の大幅減少の反動で大幅増加。 ○健康科学(106)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。学科別では、(健康栄養)(111)は<一般・前期>(105)の募集人員14人(47%)減少の影響はなく増加。(心理)(103)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。
<p><共通テスト利用方式></p> <ul style="list-style-type: none"> ○人文(85)は、前年度増加の反動で大幅減少。3学科体制になった2017年度以降では最少で、2017年度対比で25%減。学科別では、(人間関係)(82)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。(教育)(86)は前年度増加の反動で減少。(英語英文)(87)は減少で5年連続減少。 ○法(78)は、前年度増加の反動で大幅減少。(法)のみの1学科体制になった2018年度以降、前年度の反動による増減が継続。 ○商(75)は、3年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、(商)(67)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。(経営)(84)は大幅減少で2年連続減少。 ○経済科学(85)は、2年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、(現代経済)(80)は2年連続増加の反動で大幅減少。志願者数は3年ぶりに400人を下回った。(経済情報)(91)は前年度大幅増加の反動で減少。 ○国際コミュニティ(97)は、やや減少。学科別では、(地域行政)(97)はやや減少。(国際政治)(98)は微減だが3年連続減少。 ○人間環境(142)は、前年度ほぼ半減の反動で大幅増加。 ○健康科学(104)は、やや増加。学科別では、(健康栄養)(106)はやや増加で4年ぶりに増加。(心理)(103)はやや増加で2年連続増加。

西南学院大：大学全体では微増だが3年ぶりの増加 一般：+216人 共テ：-14人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

学部	一般方式	共テ利用方式
神	113	-
外国語	101	93
法	101	96
経済	107	103
商	97	93
国際文化	115	110
人間科学	97	104
大学全体	102	100

主な入試変更点 選抜方法：商、人間科学(児童教育)(社会福祉)<一般・英語4技能利用型>新規実施
 …利用方法：得点加算、対象試験：ケンブリッジ英検、英検、GTEC、IELTS、TEAP CBT、TOEFL iBT、TOEIC LR&SW
 全学部<一般・英語4技能利用型>英語外部試験のスコア変更
 …対象試験：英検 各技能450点→対象試験：英検 各技能470点
 入試科目：商<共テ・前期>…国+歴公+数+理+外→国+歴公+数+外
 国際文化、人間科学(社会福祉)<共テ・前期>…国+歴公+数+理+外→国+歴公+外+(数①or数②or理・理基2)
 人間科学(心理)<共テ・前期>…国+歴公+数+理+外→国+外+{(歴公or数①or数②or理・理基2)→2} ※選択は高得点2科目採用

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数
<p>大学全体では、202人(101)の微増だが3年ぶりの増加。学部別では、7学部中3学部が増加。神(113)、国際文化(113)は増加、経済(105)はやや増加。一方で、商(96)、外国語(97)はやや減少。他の2学部は前年度並。方式別では、一般方式は216人</p>

(102)の微増で、志願倍率は11.4倍→11.7倍にアップ。なお、〈一般・英語4技能利用型〉(102)と前年度並だが、出願要件を厳しくしたことで、新規導入の学部・学科を除くと(68)の大幅減少。共通テスト利用方式は14人(100)の微減だが3年連続減少。

〈一般方式〉

- 外国語(101)は、学部改組3年目だが前年度大幅減少の反動はなく6人(101)の微増で、志願者数は2年連続で900人を下回った。
- 法(101)は、前年度大幅減少の反動はなく前年度並。志願者数は2年連続で2,100人を下回った。学科別では、(法律)(105)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。一方で、(国際関係法)(88)は前年度減少率35%の大幅減少に引き続き減少で、志願者数は7年ぶりに450人を下回った。志願倍率も、19.7倍→12.8倍→11.3倍にダウン。
- 経済(107)は、前年度減少率25%以上の大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。学科別では、(経済)(110)は前年度大幅減少の反動で増加。(国際経済)(100)は前年度減少率30%以上の大幅減少の反動はなく、志願者数は前年度と同数。
- 商(97)は、やや減少だが4年連続減少。志願者数は2,400人を下回った。学科別では、(経営)(91)は3年連続減少。(商)(102)は前年度並で、志願者数は4年連続1,300人台。
- 国際文化(115)は、大幅増加で2年連続増加。志願倍率は、11.6倍→13.4倍へアップし、6年ぶりに13倍を上回った。
- 人間科学(97)は、やや減少だが2年連続減少。学科別では、(心理)(81)は2年連続大幅減少。一方で、(児童教育)(109)は4年ぶりに増加。(社会福祉)(107)はやや増加、2019年度以降前年度の反動による増減が継続。

〈共通テスト利用方式〉

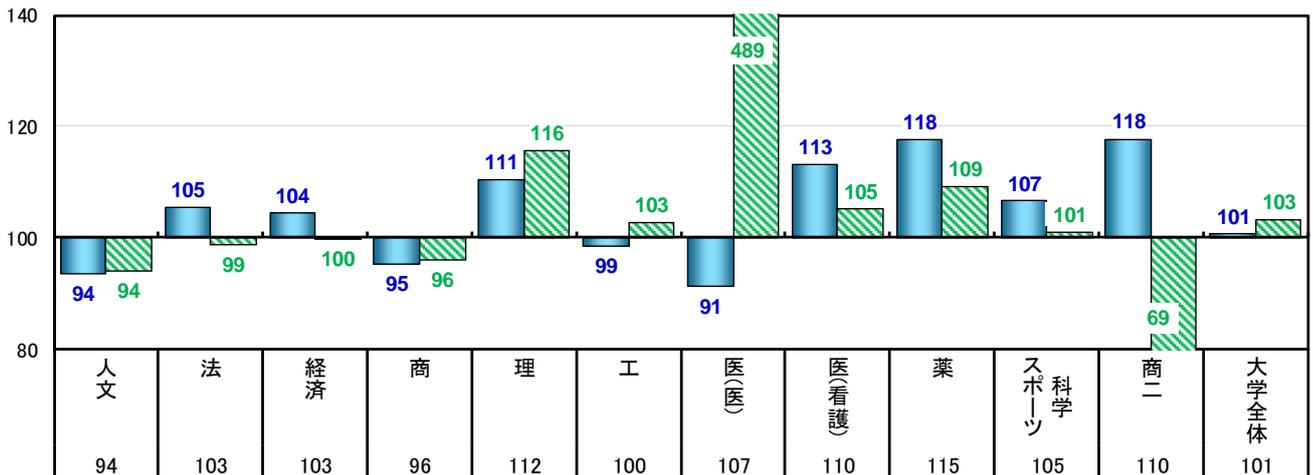
- 外国語(93)は、学部改組3年目だが前年度大幅減少に引き続きやや減少。志願者数は700人を下回った。方式別では、共通テスト受験後に出題可能な〈共テ・後期〉(123)は大幅増加で、共通テスト平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。一方で、〈共テ・前期〉(91)、〈共テ・併用型〉(92)は2年連続減少。
- 法(96)は、やや減少で3年連続減少。学科別では、(法律)(93)は前年度大幅減少に引き続きやや減少で3年連続減少。(国際関係法)(106)は前年度減少率35%以上の大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。
- 経済(103)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。学科別では、(国際経済)(109)は前年度大幅減少の反動で増加だが増加率は小さく、志願者数は2年連続で500人を下回った。(経済)(100)は3人の微減だが3年連続減少。
- 商(93)は、やや減少で3年連続減少。学科別では、(経営)(85)は大幅減少で3年連続減少。(商)(101)は3年連続減少の反動はなく7人増加の前年度並。方式別では、共通テスト受験後に出願可能な〈共テ・後期〉(171)は激増、共通テスト平均点ダウンを加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。
- 国際文化(110)は、2年連続減少の反動で増加。方式別では、〈共テ・前期〉(121)は前年度大幅減少の反動と数学、理科の必須から選択になり、共通テストの平均点大幅ダウンの影響が緩和されたことで大幅増加。
- 人間科学(104)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。学科別では、3学科全てやや増加(104)で、いずれも2年連続減少の反動は小さくやや増加。方式別では、(心理)〈共テ・前期〉(122)は前年度大幅減少と、受験科目で歴公、数学、理科が必須から選択になり、共通テストの平均点大幅ダウンの影響が緩和されたことで大幅増加。

福岡大：大学全体では微増だが2年ぶりに増加

一般：+189人 共テ：+458人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■共テ利用方式



主な入試変更点

選抜方法：医(医)〈共テ・III期〉→医(医)〈共テ・I期〉 ※コロナ禍対策による実施日程変更を2020年度以前に戻した。
入試科目：薬〈共テ併用・前期〉…〈共テ〉理+(国 or 外)、〈個〉数+外→〈共テ〉数+理+(国 or 外)、〈個〉数+(理 or 外) 共テ・II期…数2+理+外→数2+理+(国 or 外)
募集人員：薬…〈一般・前期〉120人→112人、〈一般・後期〉…10人→8人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、647人(101)の微増、前年度の大幅減少の反動はなく、商二を除いても(101)の微増。商二を除く学部(医は学科)別では、10学部(医は学科)中8学部(医は学科)が増加したが、志願者数は2年連続で45,000人を下回った。方式別では、一般方式は、189人(101)の微増で前年度減少の反動はなかった。共通テスト利用方式は、458人(103)のやや増加で前年度大幅減少の反動は小さかった。共通テスト受験前に入締締切となる〈共テ・I期〉(116)は大幅増加、〈共テ併用・前期〉(103)は増加。共通テスト受験後に出願可能な〈II期〉(90)は共通テストの平均点ダウンの影響から減少。

＜一般方式＞

- 人文(94)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、8学科中5学科が減少。特に、(フランス語)(58)、(東アジア地域言語)(72)、(英語)(83)は大幅減少。一方で、(ドイツ語)(133)、(日本語日本語)(115)は大幅増加。
- 法(105)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。学科別では、(経営法)(117)は前年度大幅減少の反動で大幅増加だが、志願者数は1,100人には届かなかった。(法律)(101)は前年度大幅減少の反動はなく微増に留まった。
- 経済(104)は、やや増加で3年ぶりに増加。学科別では、(産業経済)(117)は前年度減少の反動で大幅増加。(経済)(100)は15人の微減だが4年連続減少。
- 商(95)は、やや減少で2年連続減少。志願者数は3年ぶりに5,000人を下回った。学科・プログラム別では、4募集単位中3募集単位が増加。特に、(経営/会計専門職プログラム)(125)の大幅増加で3年連続増加が目立った。一方で、(経営)(80)は2年連続増加の反動で大幅減少。
- 理(111)は、前年度減少の反動で増加。学科・インスティテュート別では、7募集単位中6募集単位が増加。特に(地球圏科学)(121)、化(119)がいずれも大幅増加。一方で、(物理科学)(98)が唯一減少だがわずか7人の微減。
- 工(99)は、微減だが2年連続減少。学科別では、増減が各3学科ずつに分かれた。(社会デザイン工)(114)は前年度大幅減少の反動で増加。一方で、(電子情報工)(92)は前年度増加の反動で減少。(建築)(93)はやや減少で2年連続減少。
- 医(医)(91)は、減少で3年連続減少。志願倍率も、36.0倍→32.8倍にダウン。
- 医(看護)(113)は、3年連続減少の反動で増加だが、志願者数は700人台に留まった。
- 薬(118)は、系統への人気もあり大幅増加で9年ぶりに増加に転じた。募集人員が10人(7%)減少したこともあり、志願倍率は、8.7倍→11.0倍にアップ。
- スポーツ科学(107)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。学科別では、(健康運動科学)(135)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(スポーツ科学)(94)はやや減少で2年連続減少。

＜共通テスト利用方式＞

- 人文(94)は、前年度大幅減少に引き続きやや減少。学科別では、8学科中6学科が減少。特に、(東アジア地域言語)(62)、(フランス語)(63)は大幅減少。一方で、(ドイツ語)(135)、(日本語日本語)(124)は大幅増加
- 法(99)は、前年度大幅減少に引き続き、微減だが2年連続減少。学科別では、前年度は2学科のいずれも大幅減少だった反動はなく、(法律)(98)は微減、(経営法)(101)は微増に留まった。
- 経済(100)は、3人の微減だが3年連続減少。学科別では、(産業経済)(123)は2年連続減少の反動で大幅増加。(経済)(93)はやや減少で3年連続減少。志願者数は5年ぶりに1,500人を下回った。
- 商(96)は、前年度大幅減少に引き続きやや減少。学科・プログラム別では、(経営)(80)は3年連続増加の反動で大幅減少、(経営/会計専門職プログラム)(156)は50%以上の大幅増加が目立った。
- 理(116)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科・インスティテュート別では7募集単位中6募集単位が増加。特に(ナノサイエンス/物理科学)(133)、(社会数理・情報インスティテュート)(129)、(化)(128)、(ナノサイエンス/化学)(121)はいずれも大幅増加。一方で、減少した(物理科学)(96)は8人のやや減少。
- 工(103)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。学科別では、6学科中4学科が増加。特に、(社会デザイン工)(117)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。(電気工)(107)、(機械工)(103)はいずれも前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。一方で、(化学システム工)(95)は前年度大幅減少に引き続きやや減少。
- 医(医)(489)は、前年度コロナ禍対策で入試日程をIII期(出願期間2/15~2/24)実施とした影響で激減したが、入試日程をI期(出願期間1/1~1/13)実施に戻したこともあり5倍近い激増。ただし、2020年度との比較では、44%の大幅減少。
- 医(看護)(105)は、2年連続減少の反動は小さくやや増加。
- 薬(109)は、2年連続大幅減少の反動に加えて、系統への人気が高まったことから増加。

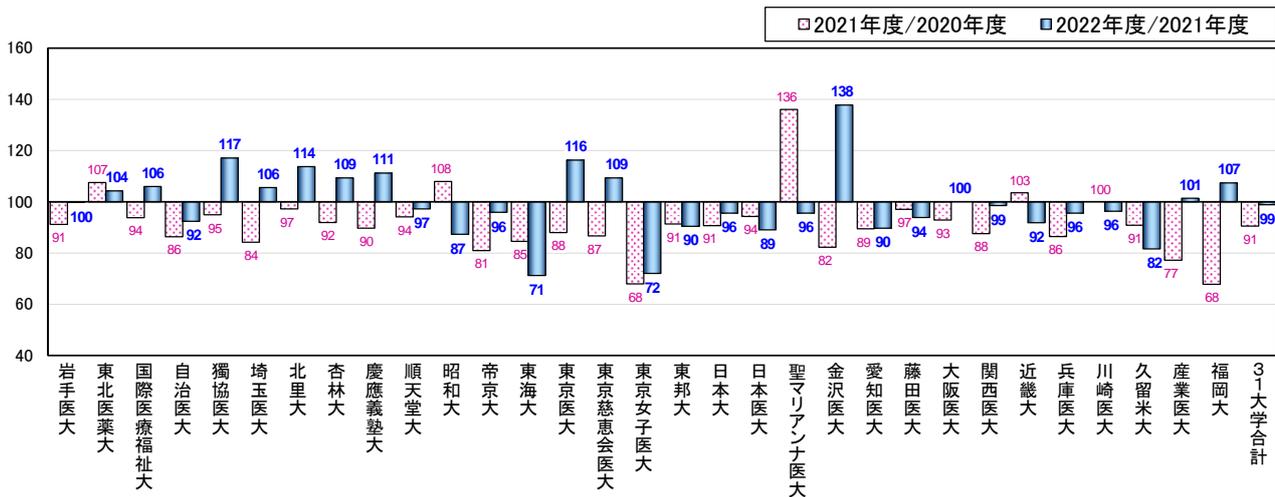
⑩医学部医学科志願状況

□微減だが4年連続減少

〔志願者数推移〕

	2022年度	増減数	指数	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度	2014年度
募集人員	2,839	-32	99	2,871	2,927	2,969	3,037	3,024	2,904	2,791	2,770
志願者数	90,005	-1,069	99	91,074	100,580	102,907	109,170	108,181	105,855	104,558	104,140
志願倍率	31.70			31.72	34.36	34.66	35.95	35.77	36.45	37.46	37.60

〔大学別志願状況〕



※前年度を100とする指数

私立大医学部医学科31大学合計の志願者数は、90,005人(99)の微減で4年連続減少となりました。ただし、私立大全体指数は(100)ですから、医(99)もほぼ前年度並であることには変わりありません。

大学別では、志願者数が増加した大学は31大学中12大学でした。最も増加した大学は金沢医科大(138)で、志願者数は1,436人増加で、前年度大幅減少の反動もあり大幅増加となりました。今年度から前期の1次試験日を2日間にし、試験日自由選択制を導入したことの影響から志願者数は5,240人となりました。獨協医科大(117)は2年連続減少の反動で大幅増加。東京医科大(116)も学費の改定(1年次7,578,800万円→4,978,800万円、6年間総額は変わらず)の影響で大幅増加でした。

一方で、志願者が減少した大学は31大学中18大学で、前年度大阪薬科大と統合した大阪医科薬科大は前年度と同数(100)でした。東海大(71)は、試験日が自由選択制を導入した金沢医科大とバッティングしたこともあり大幅減少で、3年連続大幅減少となりました。昭和大(87)は、〈共テ併用・B方式地域別〉の募集停止の影響で減少。久留米大(82)は〈前期〉の試験日が日本大〈N1期〉とバッティングしており、さらに日本大の募集人員が10人→90人になった影響で大幅減少でした。

その他の大学では、前年度6年間の学費総額を1,200万円アップした東京女子医大(72)は、3年連続大幅減少となり、志願倍率も12.6倍→10.2倍にダウンしました。

〔大学別分析〕

※表内の略語・記号は以下を表しています。

「共」…共通テスト利用方式、「論」…小論文、「面」…面接、「調」…調査書
「□」…方式合計の数値

大学	日程・方式	志願者数増減		2022年度		2021年度		2022コメント	
		増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数		
岩手医科大	大学合計	-6	100	78	2,201	83	2,207	<変更点><一般>募集人員:78人→73人 大学合計では、6人(100)の微減だが、5年連続減少。方式別では、<一般>(99)は微減だが5年連続減少、志願者数も2年連続2,100人台となった。<地域枠C>(137)は2年連続大幅増加。志願倍率は10.4倍→14.2倍にアップ。	
	一般	-24	99	73	2,128	78	2,152		
	地域枠C	+19	137	5	71	5	52		
	追試験	-1	67		2		3		
東北医科薬科大	大学合計	+75	104	100	1,840	100	1,765	<変更点><一般>募集人員:45人→40人 選抜方法:<共テ>新規実施 大学合計では、75人(104)のやや増加で、2年連続増加。新規実施の<共テ>は49人出願し、志願倍率は9.8倍。	
	一般枠	+26	101	40	1,791	45	1,765		
	修学A			35		35			
	修学B			20		20			
	共			5	49				
国際医療福祉大	大学合計	+217	106	120	3,838	120	3,621	大学合計では、217人(106)のやや増加で、3年ぶりに増加。方式別では、<一般>(104)はやや増加、<共テ>(112)は2年連続減少の反動で増加。	
		+128	104	105	3,009	105	2,881		
	共	+89	112	15	829	15	740		
自治医科大		-178	92	123	2,179	123	2,357	大学合計では、178人(92)の減少で2年連続減少。志願倍率も19.2倍→17.7倍にダウン。	
獨協医科大	大学合計	+578	117	72	3,954	78	3,376	<変更点>学費改定:1年次:10,300,000円(委託徴収金含む)、 2年次以降6年次まで:27,000,000円 6年間総額:37,300,000円 →1年次:9,300,000円(委託徴収金含む) 2年次以降6年次まで:28,000,000円 6年間総額:37,300,000円 募集人員:<一般>63人→57人 選抜方法:<栃木県枠>一般の受験者から選考 →一般と共テの受験者から選考 試験日程:<一般・2次>2/9、2/10(出願時に選択)、 <共テ・2次>2/22 →一般と共テの2次試験を同一の日程で実施 大学合計では、2年連続減少の反動で578人(117)の大幅増加。方式別では、<一般>(125)は2年連続大幅増加。一方で、<共テ>(85)は大幅減少で4年連続減少と対照的。<栃木県枠>(119)は選抜方法の変更もあり大幅増加。	
		+618	125	57	3,125	63	2,507		
	共	-90	85	10	511	10	601		
	栃木県枠	+50	119	5	318	5	268		
	共								
埼玉医科大	大学合計	+238	106	90	4,516	90	4,278	<変更点>募集人員:<一般・前期>65人→60人 <共テ>5人→10人 大学合計では、238人(106)のやや増加。方式別では、<前期>(113)は増加で、3年連続増加。<後期>(93)はやや減少で、7年連続減少。<共テ>(116)は募集人員が倍増したことと前年度大幅減少の反動で大幅増加。	
	前期	+291	113	60	2,544	65	2,253		
	後期	-110	93	20	1,566	20	1,676		
	共	+57	116	10	406	5	349		
北里大	大学合計	+263	114	74	2,178	74	1,915	大学合計では、263人(114)の増加で、2年ぶりに増加。志願者数は4年ぶりに2,000人を上回った。	
		+263	114	72	2,178	72	1,915		
	相模原枠			2		2			
杏林大	大学合計	+288	109	115	3,380	113	3,092	<変更点>選抜方法:<新潟県枠>新規実施 大学合計では、288人(109)の増加で3年ぶりに増加。<一般>(116)は大幅増加。<共テ併用・前期>(91)は減少で、4年連続減少。<共テ併用・後期>(74)は、共通テスト平均点ダウンの影響で大幅減少。	
		+369	116	88	2,649	88	2,280		
	東京都枠			10		10			
	新潟県枠			2					
	前期	共	-65	91	10	685	10		750
	後期	共	-16	74	5	46	5		62
慶應義塾大		+140	111	66	1,388	66	1,248	大学合計では、140人(111)の増加で、3年ぶりに増加だが、志願者数は3年連続1,400人を下回った。	

大学	日程・方式	志願者数増減		2022年度		2021年度		2022コメント	
		増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数		
順天堂大	大学合計	-104	97	127	3,703	128	3,807	<p><変更点>選抜方法:<茨城県枠>新規実施 <東京都枠>、<新潟県枠>、<千葉県枠>、 <埼玉県枠>、<静岡県枠> 共テの成績を1次試験へ追加 <1次>数+理2+外+論 <2次>面 →<1次><共テ>国+歴公+数2+理2+外 <個>数+理2+外+論 <2次>面 募集人員:<共テ併用>15人→12人 大学合計では、104人(97)のやや減少で、5年連続減少。方式別では、 <A方式>(95)はやや減少で2年連続減少。<B方式>(112)はやや増加で3 年ぶりに増加。<地域枠>は一般方式から共テ併用方式に変更となったこ とで負担増となり、志願者数184人で前年度一般方式の志願者数253人 に対して、(73)の大幅減少だった。</p>	
	A方式	-91	95	64	1,893	64	1,984		
	B方式	+25	112	5	239	5	214		
	東京都枠					10	253		
	新潟県枠					2			
	千葉県枠					5			
	埼玉県枠					7			
	静岡県枠					5			
	前期	共	-7	99	10	628	10		635
	併用	共	-20	96	12	475	15		495
	東京都枠	共			10	184			
	新潟県枠	共			2				
	千葉県枠	共			5				
	埼玉県枠	共			7				
	静岡県枠	共			5				
茨城県枠	共			2					
後期	共	+58	126	5	284	5	226		
昭和大	大学合計	-604	87	121	4,167	114	4,771	<p><変更点>選抜方法:<茨城県枠>新規実施 <共テ併用・B方式地域別>募集停止 募集人員:<一般・I期>75人→82人 大学合計では、604人(87)の減少。方式別では、<I期>(90)は募集人員が 7人(9%)増加したが減少で、志願倍率は36.8倍→30.2倍にダウン。 <II期>(91)は前年度4年ぶりに増加したが減少に戻った。<新潟県枠> (202)は募集人員3.5倍で大幅増加、<静岡県枠>(106)はやや増加だが、 新設の<茨城県枠>と合わせても、募集停止の<共テ併用・B方式地域 別>、<新潟県枠>、<静岡県枠>を合わせた志願者数より179人(58)減少の 大幅減少。</p>	
	I期	-286	90	82	2,475	75	2,761		
	新潟県枠	+48	202	7	95	2	47		
	静岡県枠	+6	106	8	113	5	107		
	茨城県枠			4	42				
	II期	-139	91	20	1,442	20	1,581		
B地域別	共					12	275		
帝京大	大学合計	-309	96	106	7,230	106	7,539	<p>大学合計では、309人(96)のやや減少で2年連続減少。方式別では、<一 般>(96)はやや減少で2年連続7,000人を下回った。<共テ併用>(90)は減 少で、4年連続減少となり、600人を下回った。<地域枠>では、<福島県 枠>(169)は2年連続大幅増加。一方で、<千葉県枠>(70)は大幅減少、 <茨城県枠>(89)、<静岡県枠>(91)はいずれも減少と対照的だった。</p>	
		-250	96	89	6,390	89	6,640		
	福島県枠	+45	169	2	110	2	65		
	千葉県枠	-30	70	2	71	2	101		
	静岡県枠	-6	91	2	61	2	67		
	茨城県枠	-2	89	1	17	1	19		
	前期	共	-66	90	10	581	10		647
東海大	大学合計	-1,175	71	78	2,915	78	4,090	<p>大学合計では、1,175人(71)の大幅減少で、3年連続大幅減少。志願者数 は3,000人を下回った。方式別でも、全ての方式で大幅減少。</p>	
		-953	71	60	2,333	60	3,286		
		-170	72	10	445	10	615		
	神奈川県枠	-35	68	5	74	5	109		
	静岡県枠	-22	73	3	58	3	80		
	追試験					5			
東京医科大	大学合計	+374	116	89	2,676	89	2,302	<p><変更点>学費改定:1年次:7,578,800円 2年次以降6年次まで:4,451,000円 6年間総額:29,833,800円※諸経費含む →1年次:4,978,800円 2年次以降6年次まで:4,971,000円 6年間総額:29,833,800円※諸経費含む 大学合計では、学費改定もあり374人(116)の大幅増加。方式別では、<一 般>(123)は大幅増加で、志願倍率は22.3倍→27.5倍とアップした。一方 で、<共テ併用>(94)は前年度大幅減少の反動はなくやや減少で2年連続 減少。</p>	
		+408	123	79	2,173	79	1,765		
	共	-34	94	10	503	10	537		
東京慈恵会 医科大	大学合計	+158	109	105	1,860	110	1,702	<p><変更点>選抜方法:<東京都枠>募集停止 大学合計では、<東京都枠>を募集停止したが、158人(109)の増加で、9 年ぶりに増加。志願者数は1,800人を上回った。</p>	
	東京都枠	+235	114	105	1,860	105	1,625		
東京女子医科大		-264	72	67	681	75	945	<p><変更点>募集人員:75人→67人 大学合計では、264人(72)の大幅減少で、3年連続大幅減少。志願者数 は700人を下回った。コロナ禍の経済状況悪化の中で、前年度からの学 費値上げが引き続き影響した。</p>	
東邦大	大学合計	-243	90	77	2,304	75	2,547	<p><変更点>選抜方法:<新潟県枠>新規実施 大学合計では、243人(90)の減少で、2年連続減少。方式別では、<一般> (90)は2年連続減少。<千葉県枠>(66)は前年度大幅増加の反動で大幅減 少で、志願倍率は26.4倍→17.4倍にダウン。新規の<新潟県枠>は志願者 数48人で、志願倍率は24.0倍だった。</p>	
	一般	-246	90	70	2,169	70	2,415		
	千葉県枠	-45	66	5	87	5	132		
	新潟県枠			2	48				

大学	日程・方式	志願者数増減		2022年度		2021年度		2022コメント	
		増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数		
日本大	大学合計	-148	96	105	3,191	107	3,339	<変更点>選抜方法:<N2期>新規実施 <A方式>募集停止 募集人員:<N1期>10人→90人 入試科目:<N1期><1次>数+理2+外 <2次>論+面+適正検査 →<1次>数+理2+外 <2次>数+外+面 大学合計では、148人(96)のやや減少で、4年連続減少。方式別では、<N1期>(341)は<A方式>募集停止で募集人員が9倍となったことにより激増だが、前年の<A方式>と<N1期>合計との比較では、4割近い大幅減少。新規の<N2期>は志願者1,137人で志願倍率は75.8倍だった。	
	A方式					97	2,737		
	N1期	+1,452	341	90	2,054	10	602		
	N2期			15	1,137				
日本医科大	大学合計	-423	89	117	3,458	124	3,881	<変更点>選抜方法:<前期・東京都枠>新規実施 <後期・福島県枠>募集停止 募集人員:<前期>81人→75人、<後期>17人→14人 <前期・埼玉県枠>3人→1人 大学合計では、423人(89)の減少で、3年連続減少。方式別では、<共テ併用・後期>(107)のみやや増加で、他の方式はいずれも減少。募集人員が2人(50%)減少した<埼玉県枠>(47)はほぼ半減、<千葉県枠>(60)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、<静岡県枠>(86)は減少。新規の<前期・東京都枠>は志願者数が116人で、志願倍率は23.2倍だった。	
	前期	-41	98	75	1,845	81	1,886		
	後期	-216	80	14	870	17	1,086		
	前期・埼玉県枠	-108	47	1	95	3	203		
	後期・埼玉県枠			1		1			
	前期・千葉県枠	-100	60	4	151	4	251		
	後期・千葉県枠			3		3			
	前期・静岡県枠	-22	86	3	134	3	156		
	後期・静岡県枠			1		1			
	前期・東京都枠			5	116				
	後期・福島県枠					1	68		
後期併用	共	+16	107	10	247	10	231		
聖マリアンナ医科大	大学合計	-140	96	80	3,064	80	3,204	大学合計では、2年連続大幅増加の反動で140人(96)のやや減少。方式別では、<前期>、<後期>いずれも減少で、<前期>はやや減少、新設2年目の<後期>(99)は微減。	
	前期	-125	94	70	1,867	70	1,992		
	後期	-15	99	10	1,197	10	1,212		
金沢医科大	大学合計	+1,436	138	75	5,240	75	3,804	<変更点>試験日程:<1次>1日間 →<1次>2日間※試験日自由選択制 ※(いずれか1日または両日受験可) 大学合計では、1,436人(138)の大幅増加。方式別では、<前期>(158)は1次試験の試験日を増やし、試験日自由選択制にしたことと前年度大幅減少の反動で大幅増加、<後期>(100)は前年度並。	
	前期	+1,433	158	65	3,914	65	2,481		
	後期	+3	100	10	1,326	10	1,323		
愛知医科大	大学合計	-314	90	90	2,741	90	3,055	大学合計では、314人(90)の減少で、3年連続減少。方式別では、<共テ併用・特別枠B>(117)のみ大幅増加で2年連続増加だが、他の方式はいずれも減少。特に、<共テ併用・前期>(85)は2年連続大幅減少で、志願者数は600人をわずかに上回る程度に留まった。	
		-204	91	65	2,040	65	2,244		
	前期	共	-110	85	15	603	15		713
	後期	共	-6	90	5	57	5		63
	特別枠B	共	+6	117	5	41	5		35
藤田医科大	大学合計	-191	94	108	2,918	105	3,109	<変更点>配点変更:<一般><共テ・前期> 面+提出書類50点→面40点※面:5段階評価 ※提出書類は面の評価に含む <共テ・後期> <2次>総合問題300点+面+提出書類50点 →総合問題300点+面40点 ※面:5段階評価 ※提出書類は面の評価に含む 募集人員:<前期>72人、<後期>8人 →<前期>73人、<後期>10人 ※<後期>は現役枠3人を含まない 大学合計では、191人(94)のやや減少。方式別では、<共テ併用・後期>(134)のみ大幅増加で2年連続増加。その他の方式はいずれも減少。	
	前期	-95	95	73	1,746	72	1,841		
	前期愛知県枠			5		5			
	後期	-66	90	10	605	8	671		
	後期愛知県枠			5		5			
	前期	共	-47	91	10	500	10		547
後期	共	+17	134	5	67	5	50		
大阪医科薬科大	大学合計	±0	100	104	2,868	109	2,868	<変更点>募集人員:<前期>82人→<前期>77人 大学合計では、前年度と同数(100)。方式別では、<共テ>(109)は増加、<前期>(101)は前年度大幅減少の反動は少なく微増。一方で、<後期>(94)はやや減少。	
	前期	+16	101	77	1,609	82	1,593		
	地域枠			2		2			
	後期	-55	94	15	798	15	853		
		共	+39	109	10	461	10		422
関西医科大	大学合計	-49	99	85	3,393	85	3,442	<変更点>募集人員:<共テ・前期>10人→12人 <一般後期・共テ後期>10人→5人 <共テ併用>10人→13人 大学合計では、49人(99)の微減だが、3年連続減少。方式別では、<後期>(83)は2年連続大幅減少。<前期>(99)は微減だが3年連続減少。一方で、<共テ・後期>(131)は、2年連続大幅増加。<共テ・前期>(105)は3年連続減少の反動は小さくやや増加に留まった。<共テ併用>(103)は募集人員が3人(30%)の増加だが、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。	
	前期	-9	99	55	1,755	55	1,764		
	後期	-103	83	5	486	10	589		
	前期	共	+29	105	12	590	10		561
	後期	共	+18	131	5	77	10		59
	併用	共	+16	103	13	485	10		469

2022年度入試状況分析【私立大】

大学	日程・方式	志願者数増減		2022年度		2021年度		2022コメント	
		増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数		
近畿大	大学合計	-248	92	70	2,777	70	3,025	大学合計では、248人(92)の減少で3年ぶりに減少。方式別では、〈後期〉(74)は大幅減少で2年連続減少。〈前期A〉(92)は前年度大幅増加の反動で減少。〈共テ・後期〉(92)も減少。一方で、〈共テ・中期〉(113)は前年度大幅減少の反動で増加。〈共テ・前期〉(112)も前年度大幅減少の反動で増加。	
	前期A	-122	92	55	1,496	55	1,618		
	後期	-188	74	5	534	5	722		
	前期	共	+47	112	5	451	5		404
	中期	共	+23	113	3	201	3		178
	後期	共	-8	92	2	95	2	103	
兵庫医科大	大学合計	-78	96	91	1,710	95	1,788	〈統合〉兵庫医療大と統合、兵庫医科大(2022年4月より)大学合計では、78人(96)の減少。方式別では、全ての方式で減少で、〈B〉(94)は、2年連続減少、〈A〉(96)は3年連続減少。	
	A一般枠	-62	96	78	1,478	80	1,540		
	A兵庫県推薦枠			3		5			
	B	-16	94	10	232	10	248		
川崎医科大	大学合計	-58	96	76	1,530	74	1,588	〈変更点〉募集人員:〈長崎県枠〉4人→6人 大学合計では、58人(96)のやや減少。方式別では、〈一般〉は76人(95)のやや減少で3年ぶりに減少。地域枠は、募集人員が2人(50%)増加の〈長崎県枠〉(120)は大幅増加で3年連続増加、〈岡山県枠〉(114)は前年度大幅減少の反動で増加。〈静岡県枠〉(104)はやや増加。	
		-76	95	50	1,351	50	1,427		
	静岡県枠	+3	104	10	70	10	67		
	岡山県枠	+9	114	10	73	10	64		
	長崎県枠	+6	120	6	36	4	30		
久留米大	大学合計	-501	82	80	2,221	80	2,722	大学合計では、501人(82)の大幅減少で、2年連続減少。方式別では、全ての方式で減少で、〈前期〉(77)は大幅減少。〈後期〉(94)はやや減少で、志願者数は2年連続700人を下回った。	
	前期	-463	77	75	1,571	75	2,034		
	後期	-38	94	5	650	5	688		
産業医科大		共	+17	101	80	1,265	85	1,248	〈変更点〉募集人員:85人→80人 大学合計では、17人(101)の微増で4年ぶりに増加。志願者数は2年連続で1,300人を下回った。
福岡大	大学合計	+180	107	70	2,619	70	2,439	〈変更点〉選抜方法:〈共テ・Ⅲ期〉廃止 ※コロナ禍対策として入試日程を変更 〈共テ・Ⅰ期〉実施(2020年度の日程に戻す) 大学合計では、180人(107)のやや増加で3年ぶりに増加。方式別では、〈一般・系統別〉(91)は減少で3年連続減少。〈共テ・Ⅰ期〉は484人の志願者数で、前年度コロナ禍対策で日程を遅らせた〈共テ・Ⅲ期〉と比較すると5倍近く集めたが、2020年度比較すると(56)の大幅減少。	
	系統別	-205	91	65	2,135	65	2,340		
	Ⅰ期	共			5	484			
	Ⅲ期	共					5		99